

茨城県教育財団文化財調査報告第289集

土 塔 貝 塚
瀬 沼 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成20年3月

国土交通省 北首都国道事務所
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第289集

ど とう かい づか
土 塔 貝 塚
せ ぬま
瀬 沼 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 20 年 3 月

国土交通省 北首都国道事務所
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めております。

首都圏中央連絡自動車道の建設は、首都高中央環状線などと一体となって、首都圏の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、東京都心部への交通の適切な分散導入を図り、首都圏全体の道路交通の円滑化、首都圏の機能の再編成を図る上で極めて重要な役割を果たすものです。

この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である土塔貝塚及び瀬沼遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成17年10月から平成18年2月、同年10月から平成19年3月までこれを実施しました。

本書は、土塔貝塚及び瀬沼遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、五霞町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成20年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人見 實 徳

例 言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成17年度及び平成18年度に発掘調査を実施した、茨城県猿島郡五霞町大字江川3694番地の2のほか^にに所在する土塔貝塚、同大字幸主435番地ほか^にに所在する瀬沼遺跡^のの発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査	土塔貝塚	平成17年10月1日～平成18年2月28日
		平成18年10月1日～平成19年3月31日
	瀬沼遺跡	平成19年1月1日～平成19年3月31日
整 理		平成19年4月1日～平成20年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

土塔貝塚

平成17年度

首席調査員兼班長	吉原 作平	
主任調査員	青木 亨	平成18年1月1日～2月28日
主任調査員	高野 裕聖	
副主任調査員	駒澤 悦郎	
調査員	鹿島 直樹	平成18年1月1日～2月28日

平成18年度

首席調査員兼班長	川村 満博
首席調査員	成島 一也
主任調査員	須藤 正美
主任調査員	田月 淳一

瀬沼遺跡

首席調査員兼班長	川村 満博
首席調査員	成島 一也
主任調査員	須藤 正美
主任調査員	田月 淳一

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと主任調査員須藤正美が担当した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標を準拠し、土塔貝塚は $X = +11,320\text{m}$ 、 $Y = -6,960\text{m}$ 、瀬沼遺跡は $X = +9,920\text{m}$ 、 $Y = -6,720\text{m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」「B 2 b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SI - 住居跡 SK - 土坑 SD - 溝跡 PG - ビット群 SX - 不明遺構 P - 柱穴

遺物 P - 土器 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品

土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。


(1) 遺構全体図は400分の1、遺構実測図は60分の1に縮尺して掲載することを基本とした。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び遺物実測図中の表示は次のとおりである。

 焼土・赤彩

 灰・火床面 (赤変)・繊維土器断面

 電部材・粘土範囲・貝層

 煤

● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 ----- 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は $\text{m} \cdot \text{cm}$ 、 $\text{kg} \cdot \text{g}$ である。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ記載の土器片、土製品、石器・石製品ごとに通し番号とし、本文・挿図・写真図版に記した番号も同一である。

- 6 「主軸」は、竈(炉)を持つ竪穴住居跡については竈(炉)を通る軸線を主軸とし、その他の遺構については長軸・長径を主軸とみなした。主軸方向は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 $N - 10^\circ - E$)。

抄 録

ふりがな	どとうかいづか せぬまいせき							
書名	土塔貝塚 瀬沼遺跡							
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第289集							
著者名	須藤 正美							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL. 029-225-6587							
発行年月日	2008(平成20)年3月24日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
土塔貝塚	茨城県筑前郡五霞町 大字江川 3694番地の2ほか	08542 — 007	36度 5分 38秒	139度 46分 26秒	9.8m ～ 10.0m	20051001 ～ 20060228 20061001 ～ 20070331	3,452㎡ 9,311㎡	一般国道468号首都 圏中央連絡自動車道 建設事業に伴う埋蔵 文化財調査の記録保 存のための発掘調査
瀬沼遺跡	茨城県筑前郡五霞町 大字幸主 435番地ほか	08542 — 068	36度 5分 16秒	139度 45分 29秒	10.5m ～ 10.8m	20060101 ～ 20070331	2,644㎡	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
土塔貝塚	包蔵地	旧石器	石器集中地点 1か所		石器(ナイフ形石器・彫器・石 核・剥片)			
	集落跡	縄文	竪穴住居跡	49軒	縄文土器(深鉢・鉢・注口土 器)、土製品(土偶・土器円盤・			
			跡跡	2基	耳椀・珠状耳飾)、石器・石製品			
			陥し穴	1基	(尖頭器・石匙・石鏃・石錐・打 製石斧・磨製石斧・石皿・凹石・			
			土坑	4基	珠状耳飾)、貝			
			ビット	14基				
			地点貝塚	2か所				
			遺物包含層	3か所				
	平安		竪穴住居跡	1軒	土師器(甕)			
	その他	時期不明	土坑	534基	縄文土器(深鉢)			
			溝跡	4条				
			ビット群	16か所				
瀬沼遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡	1軒	縄文土器(深鉢)、石器(石鏃、 磨製石斧)			
			土坑	2基				
	ビット	1基						
	古墳		竪穴住居跡	1軒	土師器(坏・高坏・壺・甕・瓶)			
	その他	時期不明	土坑	112基	縄文土器(深鉢)、石器(石鏃)、 土師器(坏・甕)			
			溝跡	17条				
			ビット群	1か所				
			不明遺構	1基				
要約	土塔貝塚では縄文時代の住居跡49軒と平安時代の住居跡が1軒確認されている。縄文時代前期の 第4号住居跡には貝が廃棄されており、鹹水種であることから海進期における周辺の環境が想定さ れる。瀬沼遺跡では縄文時代中期と古墳時代後期の住居跡が確認されている。							

目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 土塔貝塚	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 旧石器時代の遺物	8
(1) 調査の概要と方法	8
(2) 石器集中地点	8
(3) 石器集中地点外出土遺物	12
2 縄文時代の遺構と遺物	14
(1) 竪穴住居跡	15
(2) 炉跡	80
(3) 陥し穴	81
(4) 土坑	82
(5) ビット	87
(6) 地点貝塚	96
(7) 遺物包含層	100
3 平安時代の遺構と遺物	115
竪穴住居跡	115
4 その他の遺構と遺物	117
(1) 土坑	117
(2) 溝跡	173
(3) ビット群	176
(4) 遺構外出土遺物	191
第4節 まとめ	199
第4章 瀬沼遺跡	207
第1節 遺跡の概要	207
第2節 基本層序	207
第3節 遺構と遺物	209
1 縄文時代の遺構と遺物	209
(1) 竪穴住居跡	209
(2) 土坑	210
(3) ビット	212
2 古墳時代の遺構と遺物	212
竪穴住居跡	212
3 その他の遺構と遺物	217
(1) 土坑	217
(2) 溝跡	227
(3) ビット群	237
(4) 不明遺構	238
(5) 遺構外出土遺物	240
第4節 まとめ	241
写真図版	
付図	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所は、五霞町において一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業を進めている。

平成16年8月20日、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設地内における埋蔵文化財の所在の有無及び、その取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成16年9月14日及び平成18年1月11日に現地踏査を実施した。平成16年10月12～15日・26～28日、11月24・25日、平成17年3月9～11日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成16年12月9日及び平成17年3月23日に、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに、事業地内に土塔貝塚が所在する旨及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成17年10月11～14日及び11月22日、茨城県教育委員会は試掘調査を実施した。平成17年12月12日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに、事業地内に瀬沼遺跡が所在する旨及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成17年1月6日に土塔貝塚について、平成17年12月26日に瀬沼遺跡について、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づき土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成17年1月19日に土塔貝塚について、平成18年1月10日に瀬沼遺跡について、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成17年1月31日及び平成18年2月20日、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成17年2月8日に土塔貝塚について、平成18年2月21日に瀬沼遺跡について、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

平成18年12月5日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる平成18年度埋蔵文化財発掘調査計画の変更（瀬沼遺跡の追加）について協議書を提出した。平成18年12月6日、財団法人茨城県教育財団理事長は茨城県教育委員会教育長あてに、発掘調査計画の変更について同意する旨を回答した。平成18年12月19日、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに、発掘調査計画の変更について同意する旨を回答した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、土塔貝塚は平成17年10月1日から平成18年2月28日、平成18年10月1日から平成19年3月31日まで、瀬沼遺跡は平成19年1月1日から平成19年3月31日まで発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

土塔貝塚、瀬沼遺跡は、平成17年10月1日から平成18年2月28日、平成18年10月1日から平成19年3月31日まで実施した。以下、その概要を表で記載する。

土塔貝塚工程表

工程 \ 期間	17年度					18年度					
	10月	11月	12月	1月	2月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除 遺構確認	■					■					
遺構調査		■	■	■	■	■	■	■	■	■	
遺物洗浄 写真 整理		■	■	■	■		■	■	■	■	
補足調査 撤収					■						■

瀬沼遺跡工程表

工程 \ 期間	18年度		
	1月	2月	3月
調査準備 表土除 遺構確認	■		
遺構調査		■	
遺物洗浄 写真 整理		■	
補足調査 撤収			■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

土塔貝塚は、茨城県猿島郡五霞町大字江川3694番地の2ほか、瀬沼遺跡は、同町大字幸主435番地ほかそれぞれ所在している。

五霞町は、茨城県の中でも利根川以南に位置している唯一の町で、北を利根川、東を江戸川、西から南にかけて権現堂川によって区画されている。

遺跡周辺の地勢は、利根川の旧河道である権現堂川の氾濫平原に開けた起伏のない平坦地で、町内の最高標高は17.5m、最低標高は9.0mで、平均標高は約12mである。この利根川流域に広がる低台地は、地質的には新生代第四紀沖積統と呼ばれる低地が中心で、約1万年前からの新しい時代の堆積物で形成されている。また、この沖積統の下には、第四紀洪積世（奥東京湾時代）後期に形成された洪積統が堆積しており、下層から龍ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層（武蔵野ローム、立川ローム層など）に分層される。

土塔貝塚は、利根川と中川、江戸川などの支流群に囲まれた標高10mほどに位置している。遺跡周辺の土地利用状況は、主として水田・畑地であり、遺跡の現況は水田である。

瀬沼遺跡は、土塔貝塚より1kmほど南、標高11mほどの低位段丘上に位置している。遺跡周辺の土地利用状況は、主として水田・畑地であり、遺跡の現況は水田である。

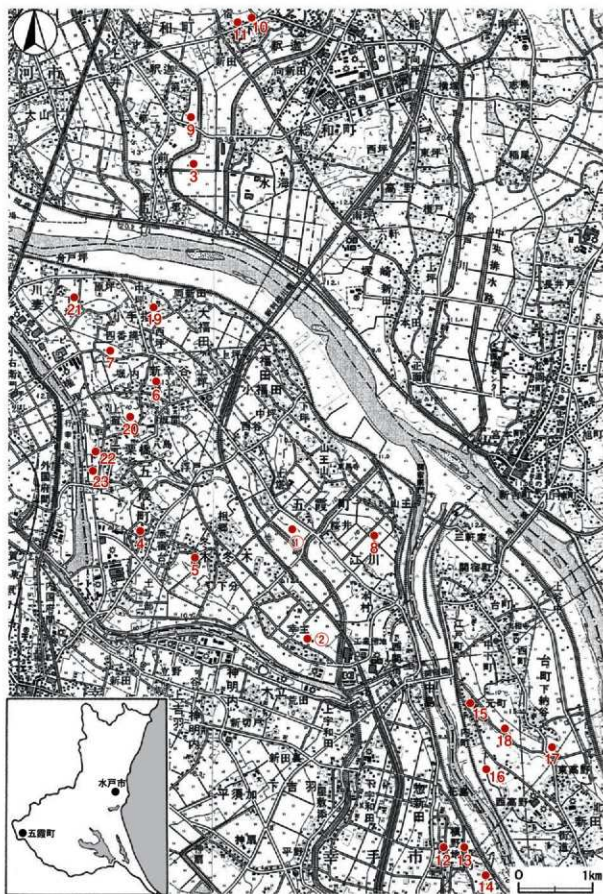
第2節 歴史的環境

土塔貝塚及び瀬沼遺跡が所在する利根川流域には、沖積統の低地と洪積統の台地が広がっている。利根川の北側（茨城県側）では、利根川の支流によって開析された谷津が広がり、谷津から洪積統の台地にかけて、多くの遺跡が存在している。また、利根川の南側（五霞町、埼玉県、千葉県）では、広大な沖積統が広がり、奥東京湾に面した標高10～13mほどの低地に遺跡が確認されている。特に、縄文時代の集落跡や貝塚などが数多く分布し、古代から人々の生活の場であったことを示している¹⁾。

旧石器時代の遺跡は、隣接する旧総和町の権現久保遺跡や香取西遺跡、羽黒遺跡²⁾（3）などで確認されている³⁾が、五霞町域では未検出である。

町域の縄文時代の遺跡は、冬木A貝塚（4）で後期の住居跡29軒や人骨18体、冬木B貝塚（5）でも後期から晩期にかけての住居跡10軒が調査されている⁴⁾。石畑遺跡（6）では、昭和51年から52年にかけての調査で前期と後期の竪穴住居跡21軒やママトシジミを主とする地点貝塚が確認されている⁵⁾。さらに、平成12年・13年に行われた調査においても、竪穴住居跡9軒、土坑17基が確認されている⁶⁾。また、小手指貝塚（7）や山王浦B遺跡（8）など、多くの貝塚が確認されている⁷⁾。

周辺の遺跡では、旧総和町の目下部遺跡（9）、大橋B遺跡（10）、駒羽根遺跡において、前期の住居跡が確認されている。また、釈迦才伝遺跡（11）では、中期の住居跡や後期から晩期にかけての集落跡が確認され、土製飯面1点、耳飾り44点など特徴的な遺物が出土している⁸⁾。下総台地の西端部にあたる埼玉県幸手市でも、その台地縁辺部に沿って縄文時代の遺跡が5か所確認されている⁹⁾。前期の土器が多量に出土した槇野地西遺跡（12）や槇野地北遺跡（13）、貝塚が確認された槇野地原遺跡（14）など、前期の遺跡が多い¹⁰⁾。千葉県の



第1図 土塔貝塚・瀬沼遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院5万分の1「水海道・鴻巣」）

表1 土塔貝塚・瀬沼遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平	中世
①	土塔貝塚	○	○	○	○			13	槇野地北遺跡	○						
②	瀬沼遺跡		○	○				14	槇野地原遺跡	○						
3	羽黒遺跡	○	○		○	○		15	雲国寺内貝塚	○						
4	冬木A貝塚		○					16	内町貝塚	○						
5	冬木B貝塚		○					17	下納谷遺跡	○						
6	石畑遺跡		○		○	○	○	18	元町遺跡	○						
7	小手指貝塚		○			○	○	19	伊勢塚古墳				○			
8	山王浦B遺跡		○					20	痕泉塚古墳				○			
9	日下部遺跡	○	○	○	○	○	○	21	穴薬師古墳				○			
10	大橋B遺跡		○		○	○	○	22	城山遺跡					○		
11	釈迦才仏遺跡	○	○				○	23	仲町遺跡				○	○		
12	槇野地西遺跡		○		○	○										

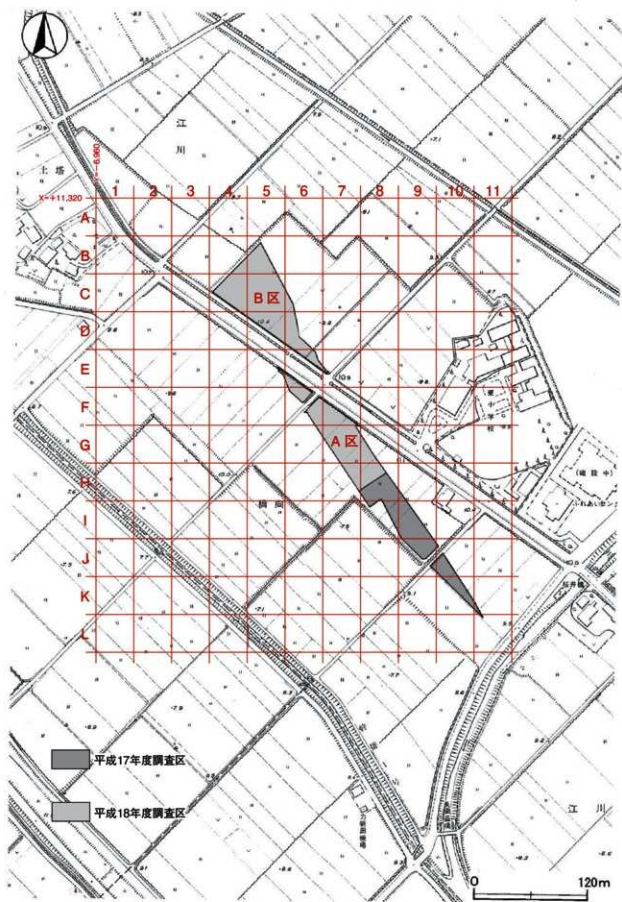
野田市では、幸手市槇野地对岸の江戸川沿岸うすてしちのくわいに雲国寺内貝塚うすてしち(15)、内町貝塚(16)などが集中している。また、黒浜式土器が出土している下納谷遺跡(17)や元町遺跡(18)などの包蔵地も確認されており、江戸川を挟んだこれらの地域に集中的な分布が確認されている。

古墳時代では、伊勢塚古墳(19)や痕泉塚古墳(20)、県指定史跡穴薬師古墳(21)などが所在し、奈良・平安時代では、城山遺跡(22)、仲町遺跡(23)など元栗橋地域に遺跡の集中が見られる¹¹⁾。

※文中の〈 〉内の番号は、表1及び第1図の該当番号と同じである。

注

- 1) 茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)」茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 胸澤悦郎「羽黒遺跡 一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第202集 2003年3月
- 3) a「総和町史 通史編(原始・古代・中世)」総和町 2005年7月
b「茨城県総和町埋蔵文化財分布調査概報」4 総和町教育委員会 2001年3月
- 4) 高村勇 根本康弘「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書-冬木A貝塚・冬木B貝塚」『茨城県教育財団調査報告』Ⅸ 1981年3月
- 5) 瓦吹 堅「石畑遺跡」猿島郡五霞村教育委員会 1977年3月
- 6) 成島一也「石畑遺跡 12県単道改12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第192集 2002年3月
- 7) 「山王浦B遺跡 -町道55号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査-」五霞町教育委員会 2003年
- 8) 川津法伸「主要地方道つくば古河朝緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 大橋B遺跡・釈迦才仏遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第131集 1998年3月
- 9) 「幸手市史 考古学資料編」幸手市教育委員会 平成2002年3月
- 10) 前掲文献9)に同じ
- 11) 前掲文献9)に同じ



第2図 土塔貝塚調査区設定図

第3章 土塔貝塚

第1節 遺跡の概要

土塔貝塚は、猿島郡五霞町に位置している。調査前の現況は水田で、平成17・18年度の調査面積は12,763㎡である。

今回の調査によって、石器集中地点1か所（旧石器時代）、堅穴住居跡50軒（縄文時代49、平安時代1）、炉跡2基（縄文時代）、陥し穴1基（縄文時代）、土坑538基（縄文時代4、不明534）、ピット14基、地点貝塚2か所、遺物包含層3か所、溝跡4条（不明）、ピット群16か所（不明）が検出されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で99箱出土している。主な遺物は、旧石器時代は石器（ナイフ形石器・彫器・石核・剥片）、縄文時代は縄文土器片（深鉢・鉢・注口）、土製品（土偶・土器円盤・耳栓・块状耳飾）、石器・石製品（尖頭器・石匙・石鎌・石錐・打製石斧・磨製石斧・块状耳飾）、貝、古墳時代は土師器（甕）、平安時代は須恵器（甕）などである。

第2節 基本層序

調査区のA区北部（F6d0区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った（第3図）。

1層は暗褐色を呈する現耕作土で、ローム小ブロックを少量、ローム粒子を中量含んでいる。粘性・しまりともに弱く、層厚は7～12cmほどである。

2層はにぶい黄褐色のソフトローム層で粘性はやや弱く、しまりは普通である。層厚は5～15cmである。

3層はにぶい黄褐色で、下層にATを含んでいる。粘性しまりともにやや強く、層厚は6～23cmである。武蔵野台地のVI層に対応する。

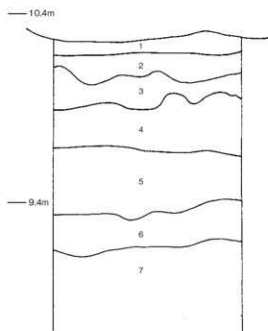
4層は暗褐色のハードローム層で、第二黒色帯（BBⅡ）である。粘性・しまりが強く、層厚は20～31cmである。武蔵野台地のⅦ～Ⅷに対応する。

5層は黄褐色のハードローム層で、赤色スコリアが少量含まれている。立川ローム層（TL）の最下層と考えられる。粘性・しまりともに強く、層厚は23～38cmである。

6層は黄褐色のハードローム層で、強い粘性をもち、しまりも強い。層厚は、14～22cmである。この層以下が武蔵野ローム層（ML）と比定される。

7層は明黄褐色のハードローム層で、粘性・しまりともに強い。層厚は、40cm以上である。

住居等の遺構は第2層から確認されている。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺構と遺物

(1) 調査の概要と方法

遺構確認調査及び縄文時代の包含層の調査を進めていく中で、いくつかの旧石器時代の遺物を確認した。包含層の調査終了後、旧石器時代の文化層が確認できると想定される地点に調査区を設定し、ロームの掘り下げを行った。調査区は調査区域の北部で、面積は約240㎡である。

調査の過程で出土した石器などは原位置を柱状に残したまま保持し、旧石器時代の遺構などにも注意して掘り下げ、出土状況の写真撮影及び位置と標高の計測を行った。土層観察は、調査区に土層観察用ベルトを設定して行い、基本層序と出土層位を同定した。

その結果、ナイフ形石器・石核・剥片など45点が出土し、第1号石器集中地点とした。

以下、石器集中地点について記載する。また、縄文時代の遺物包含層及び表土から出土した旧石器時代の遺物は、石器集中地点外の出土遺物として図示した遺物と出土遺物観察表を記載した。

(2) 石器集中地点

第1号石器集中地点（第4～7図）

位置 平成17年度調査区北部のH 9 j2～H 9 j3、I 9 a2～I 9 a4、I 9 b3～I 9 b4、I 9 c4・I 9 c5、I 9 d5区で確認された。

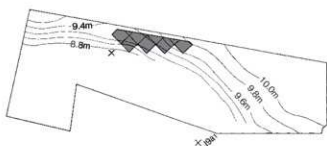
調査土層 縄文時代の遺構調査面下の土層で、基本層序の第3層に相当する。

土層解説

1 に近い黄褐色 ロームブロック中量（A Tを含む）

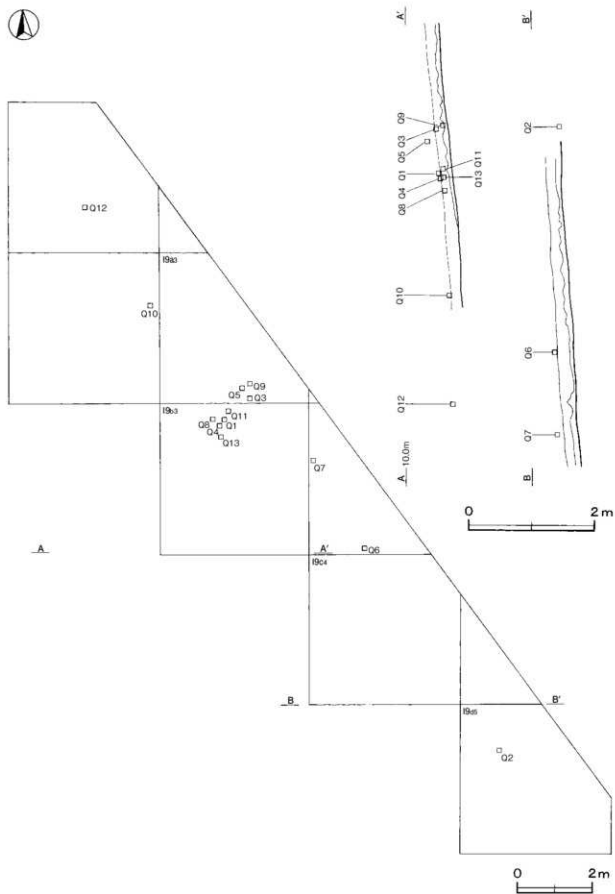
遺物出土状況 ナイフ形石器3点（瑪瑙2、玉髓1）、石核8点（黒曜石1、瑪瑙1、玉髓2、頁岩1、安山岩2、チャート1）、剥片35点（黒曜石1、瑪瑙18、玉髓2、安山岩8、砂岩5、珪質頁岩1）が出土している。

所見 当集中地点の石器群は、石材は多種にわたっているが、構成器種は石核と剥片が大半を占めている。多数の石核と剥片が出土していることから、石器製作跡の可能性が考えられるが、チップ類が検出されておらず、詳細は不明である。

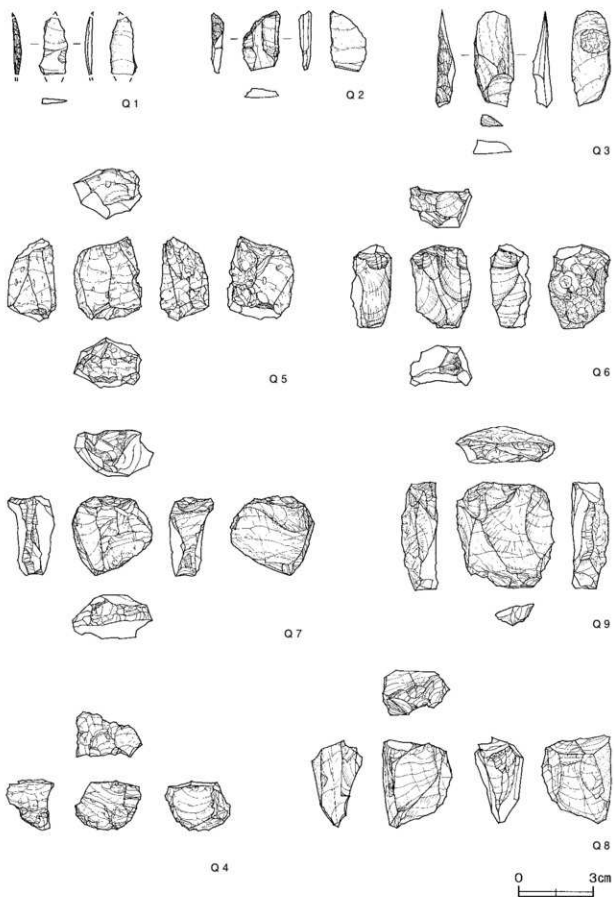


0 24m

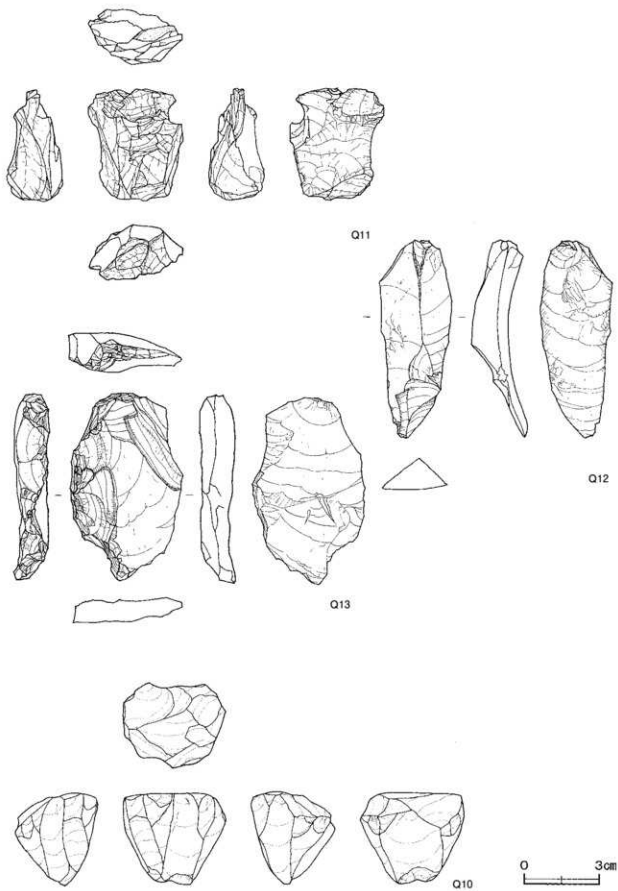
第4図 旧石器時代調査区設定図



第5图 第1号石器集中地点实测图

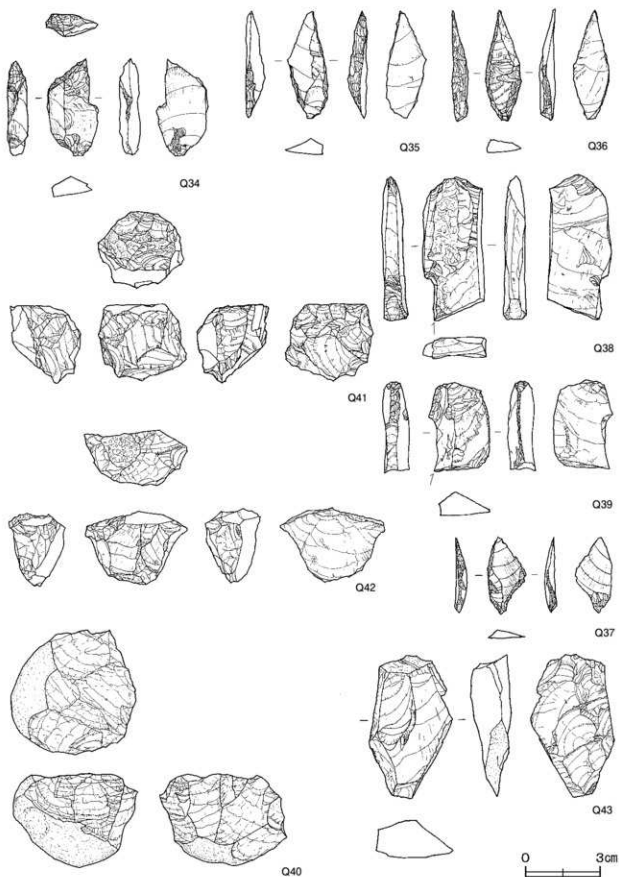


第6图 第1号石器集中地点出土遗物实测图(1)

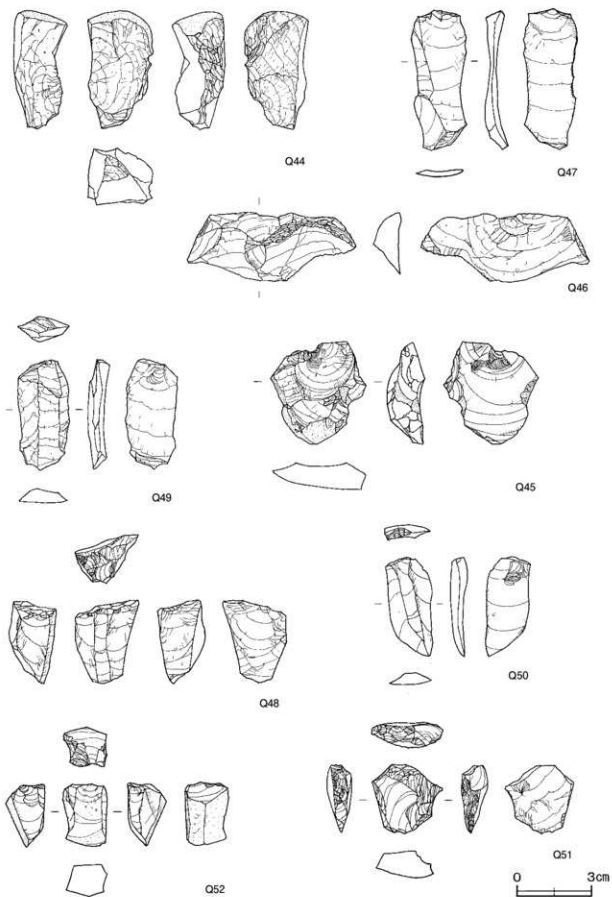


第7图 第1号石器集中地点出土物实测图(2)

(3) 石器集中地点外出土遺物 (第8・9圖)



第8圖 石器集中地点外出土遺物実測図(1)



第9図 石器集中地点外出土遺物実測図2)

第1号石器集中地点出土土遺物観察表(第6・7図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	ナゲ形石器	(2.3)	1.1	0.3	(0.6)	瑪瑙	一側縁加工 先端部欠損	第3層	PL41
Q2	ナゲ形石器	2.4	1.4	0.5	1.4	瑪瑙	一側縁刃部作出	第3層	PL41
Q3	ナゲ形石器	3.8	1.5	0.8	3.4	玉髄	一側縁刃部作出	第3層	PL41
Q4	石核	2.0	2.6	1.8	6.1	玉髄	後剥離面打面から不整形な剥片を剥離している 裏面は横長剥片を剥離している	第3層	PL41
Q5	石核	3.3	2.7	2.0	16.7	玉髄	全てで縦長剥片を剥離し、六角柱状を呈している 打面は後剥離打面	第3層	PL41
Q6	石核	3.3	2.5	1.6	12.1	黒曜石	後剥離面打面から縦長剥片を剥離している	第3層	PL41
Q7	石核	3.1	3.2	1.8	16.9	チャート	後剥離面打面から縦長剥片を剥離している 主要打面周辺に小規模な打面を設けている	第3層	PL41
Q8	石核	3.5	2.8	2.0	17.0	チャート	後剥離面打面から幅広い縦長剥片を剥離し、側面は縦長剥片を剥離している	第3層	PL41
Q9	石核	4.2	3.9	1.5	28.5	瑪瑙	背面には稜面を大きく残す 後剥離面打面から幅広い縦長剥片を剥離している	第3層	PL41
Q10	石核	3.6	4.1	3.3	47.6	安山岩 (トロトロ石)	全てで剥離が行われ、円錐形状を呈する 打面は後剥離打面	第3層	PL41
Q11	石核	4.4	3.7	2.2	34.2	安山岩	縦長剥片を剥離している 稜面あり	第3層	PL41
Q12	剥片	7.9	2.9	2.2	22.8	珪質頁岩	側縁に微細剥離痕を有する縦長剥片	第3層	PL42
Q13	剥片	7.4	4.5	1.4	45.7	瑪瑙	打面内生剥片 打面は周辺部からの平坦な剥離により後剥離面を構成、一側縁にその打面から剥離された連続する剥離面を有する	第3層	PL42

石器集中地点外出土土遺物観察表(第8・9図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	ナゲ形石器	3.8	2.1	0.8	5.0	黒曜石	縦長剥片を素材とし、後面から急角度の剥離を施し、鋭い先端部を作出	第2層	PL41
Q35	ナゲ形石器	4.3	1.6	0.7	3.6	瑪瑙	後面から急角度の二側縁加工を施す	第2層	PL41
Q36	ナゲ形石器	4.4	1.4	0.7	3.2	瑪瑙	後面から急角度の二側縁加工を施す	表土	PL41
Q37	ナゲ形石器	3.0	1.5	0.5	1.3	黒曜石	後面から急角度の二側縁加工を施す	表土	PL41
Q38	彫器	5.7	2.5	1.0	17.2	瑪瑙	縦長剥片の下部部行交を切断して打面とし、一側縁に楕状の彫り面を作出	第2層	PL41
Q39	彫器	3.6	2.3	1.1	10.2	瑪瑙	縦長剥片の下部部行交を切断して打面とし、一側縁に楕状の彫り面を作出	表土	PL41
Q40	石核	3.7	4.9	5.0	99.1	安山岩	後剥離面打面から縦長剥片、横長剥片を剥離している 稜面を大きく残す	第2層	PL42
Q41	石核	3.0	3.5	2.8	27.2	瑪瑙	後剥離面打面から不整形な剥片を剥離し、主要打面以外の箇所からも縦長剥片を剥離している	第2層	PL42
Q42	石核	2.9	4.1	2.2	22.5	玉髄	後剥離面打面から縦長剥片を剥離し、円錐形状を呈している 打面に稜面を残す	第2層	PL42
Q43	剥片	5.6	3.3	1.7	26.1	チャート	縦長剥片 背面に同一方向からの剥離痕あり 側面の一部に稜面を残す	第2層	PL42
Q44	石核	4.7	2.5	2.1	26.7	安山岩	稜面打面から縦長剥片を剥離	第2層	PL42
Q45	剥片	4.1	3.8	1.5	15.2	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面 背面に多方向からの剥離痕 側面に稜面を残す	第2層	PL42
Q46	剥片	2.7	6.7	1.0	13.7	瑪瑙	打面内生剥片 打面は周辺部からの平坦な剥離により後剥離面を構成	第2層	PL42
Q47	剥片	5.5	2.1	0.9	5.9	瑪瑙	縦長剥片 打面は単剥離面	第2層	PL42
Q48	石核	3.3	2.6	1.9	12.0	チャート	後剥離面打面から縦長剥片を剥離している	第2層	PL42
Q49	剥片	4.4	2.1	0.8	7.2	安山岩	縦長剥片 打面は単剥離面 背面に同一方向からの剥離痕	第2層	PL42
Q50	剥片	3.9	1.9	0.7	3.7	珪質頁岩	縦長剥片 打面は単剥離面 背面に同一方向からの剥離痕	第2層	PL42
Q51	彫器	2.7	2.9	1.1	7.2	瑪瑙	打面は後剥離面 背面に多方向からの剥離痕	第2層	PL41
Q52	石核	2.5	1.7	1.5	7.6	チャート	後剥離面打面 全てで縦長剥片を剥離している	第2層	PL42

2 縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡49軒、炉跡2基、陥し穴1基、土坑4基、ピット14基、地点貝塚2か所、遺物包含層3か所が確認されている。以下、確認された遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡(第10図)

位置 調査A区のE 613区、標高10.5mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2・3号住居跡、第36・37号土坑と重複している。覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 径4.3mほどの円形と推定される。

ピット 11か所。壁際に配置され、深さ15～43cmで、柱穴と考えられる。

炉 中央部からやや南東よりに位置している。長径48cm、短径40cmの楕円形で、10cmほど掘りくぼめた地床が

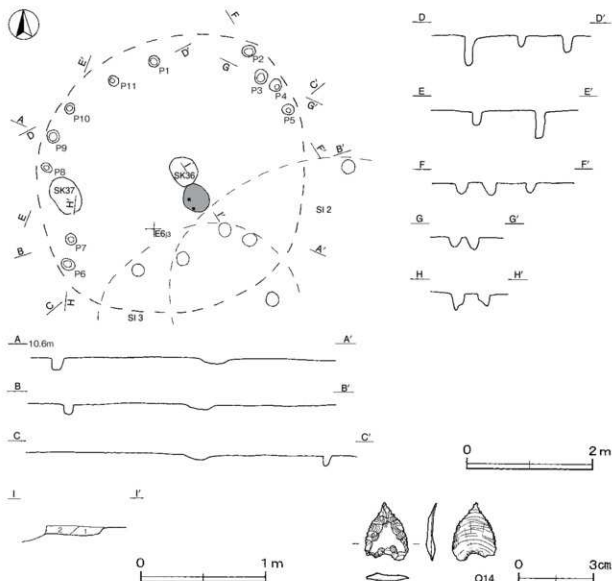
炉土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量

である。焼土ブロックや粒子はあるが、硬化した部分は確認できない。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)、石器1点(石鏃)、剥片1点、鏢2点がピット覆土中から出土しているが、細片のため図示できない。Q14はP2の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器が細片のため不鮮明であるが、前期の可能性が考えられる。



第10図 第1号住居跡・出土遺物実測図

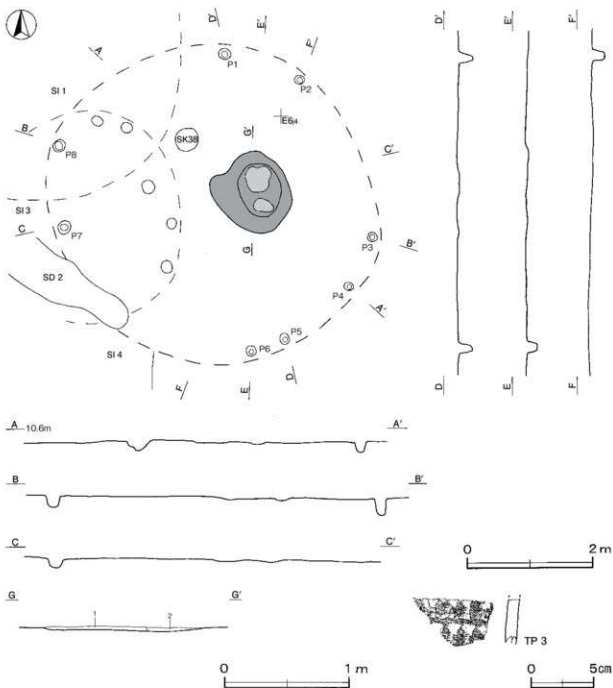
第1号住居跡出土遺物観察表 (第10図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	石皿	23	1.7	0.4	0.9	チャート	両面押圧痕跡調整	ピット覆土中	PL43

第2号住居跡 (第11図)

位置 調査A区北部のE6j3区、標高105mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第1・3・4号住居跡、第38号土坑、第2号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



第11図 第2号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 ビットの配置から、径5.2mほどの円形と推定される。

ビット 8か所。壁際に配置され、深さ14～27cmで、柱穴と考えられる。

炉 中央部からやや東寄りに位置している。長軸130cm、短軸120cmの不定形で、4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床の一部が赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 筒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物少量 2 筒 灰色 ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）がビット覆土中から出土している。TP3はP1の覆土中から出土している。

所見 時期は、遺物が少ないため判定するのは困難であるが、前期と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP3	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	三角文	ビット覆土中	

第3号住居跡（第12・13図）

位置 調査A区北部のE6j3区、標高10.5mの台地上の平坦部に位置している。

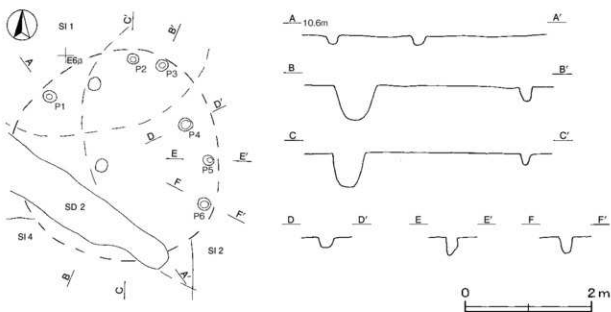
重複関係 第1・2・4号住居跡、第2号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、径3.4mほどの円形と推定される。

ビット 6か所。壁際に配置され、深さ14～30cmで、柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。TP5はP4の覆土中、TP4は確認面から出土している。

所見 時期は、覆土がなく遺物も少ないため特定するのは困難であるが、前期と考えられる。



第12図 第3号住居跡実測図



第13図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表 (第13図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	半截竹管による平行波線文	伊覆土中	
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	半截竹管による縦位の波線	ビッド覆土中	

第4号住居跡 (第14・15図)

位置 調査A区のF 6a3区、標高10.5mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2号溝跡に北壁及び床面の一部が掘り込まれている。第2・3号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。本跡廃絶後、第1号地点貝塚が形成されている。

規模と形状 長軸5.06m、短軸4.00mの長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は20～35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、炉の周辺から主柱穴の内側にかけて踏み固められている。

ビッド 22か所。P1～P7は、深さ32～74cmで主柱穴と考えられる。P8・P9は配置から棟持の可能性が考えられるが、詳細は不明である。その他の性格は不明である。

炉 4か所確認されている。いずれも中央部より北東側に集中している。炉1は、長径78cm、短径55cmの楕円形で、10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は、長径68cm、短径50cmのほぼ楕円形で、10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床の一部が火を受けて赤変硬化しているが、その周囲は焼土粒子がわずかに見られるだけである。炉3は径31cmの円形、炉4は長径72cm、短径51cmの不定形で、いずれも覆土はなく焼土が確認されただけである。

炉1土層解説

1 明赤褐色	焼土ブロック多量	4 褐色	ローム粒子少量・炭化材微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	5 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量・焼土ブロック微量		

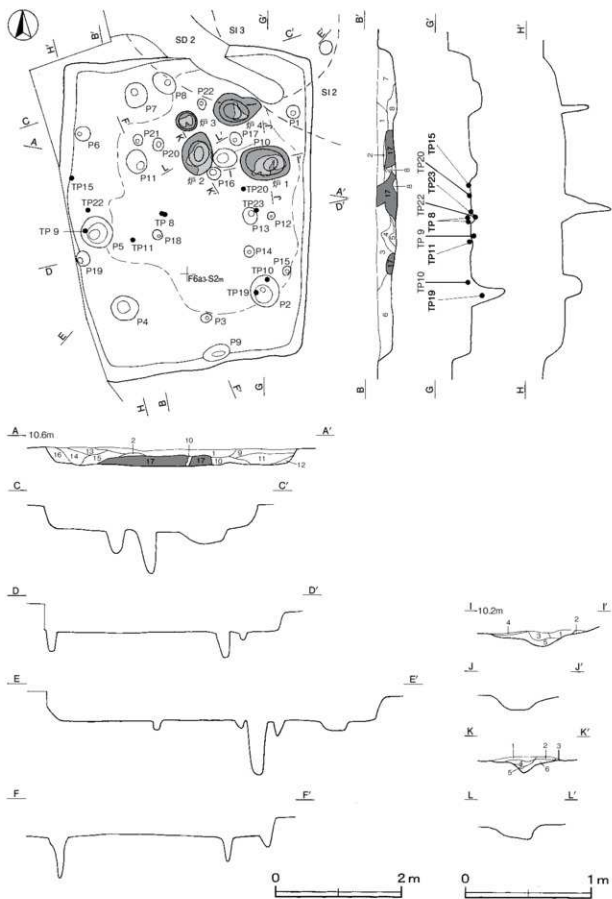
炉2土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂微量	4 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
2 明赤褐色	焼土ブロック多量	5 褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子微量	6 暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量

覆土 17層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積である。覆土下層に貝層が確認された。

土層解説

1 灰褐色	ロームブロック中量	6 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ローム粒子多量	8 暗褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ローム粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子少量



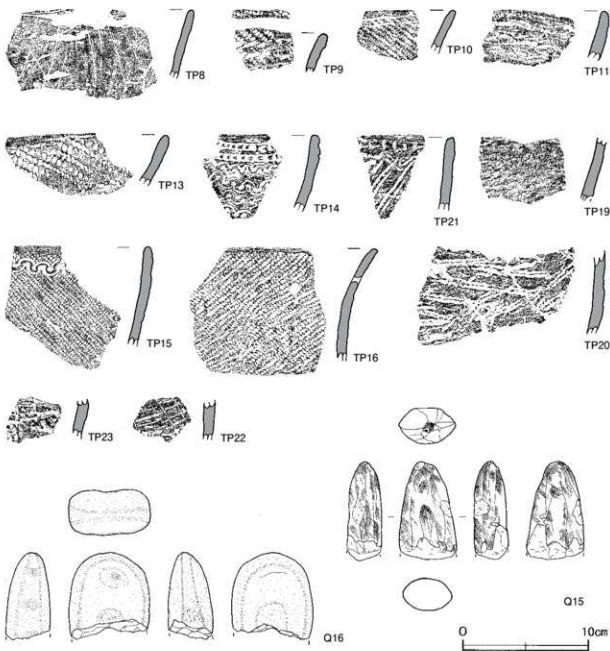
第14图 第4号住居跡実測图

- 11 暗褐色 ローム粒子中量、貝少量
 12 褐色 ロームブロック中量
 13 灰褐色 ロームブロック少量
 14 褐色 ロームブロック少量

- 15 暗褐色 ロームブロック少量
 16 褐色 ロームブロック多量
 17 混土貝層、貝多量(第1号地点貝塚)

遺物出土状況 縄文土器片320点(深鉢)、石器2点(磨製石斧、磨石)、剥片1点、礫10点が覆土上層から床面にかけて出土している。TP9～TP11・TP15・TP22・TP23は床面、TP19はP2の覆土中、TP8・TP20は覆土下層、TP13・TP14・TP16、Q15・Q16は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第15図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土物観察表(第15図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子・織維	赤褐色	普通	棒状工具による格子状沈線	覆土下層	
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子・織維	にぶい褐色	普通	単節縄文LR、輪積み痕	床面	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	にぶい褐色	普通	口辺部に横位平截竹管文 地文は単節縄文LR	床面	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	にぶい褐色	普通	結節を有する無節縄文 ϵ	床面	
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・織維	灰褐色	普通	単節縄文LR	床面	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	灰褐色	普通	口辺部平截竹管による押引文 直下にコンパス文	床面	PL37
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・織維	にぶい褐色	普通	口辺部にコンパス文 地文は単節縄文LR	床面	PL38
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・織維	灰褐色	普通	単節縄文LR	床面	PL38
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・織維	灰褐色	普通	無節縄文 ϵ	ピット覆土中	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	にぶい褐色	普通	2条1組の摺赤文	覆土下層	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	にぶい褐色	普通	口辺部に押引文 平截竹管による斜行沈線	覆土下層	
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	灰褐色	普通	格子文様	床面	
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	明赤褐色	普通	無節縄文 ϵ	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	磨製石斧	(7.7)	(4.5)	2.7	(148.4)	凝灰岩	刃部欠損後再加工の痕跡 表面の一部剥離	覆土中	
Q16	磨石	(6.9)	6.5	3.5	(224.0)	安山岩	側面の一部を使用	覆土中	

第5号住居跡(第16図)

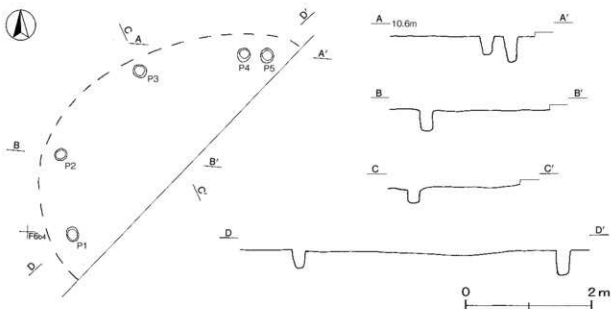
位置 調査A区のF6a4区、標高105mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 南東部が調査区域外に延びている。覆土がなくピットだけが確認された。

規模と形状 ピットの配置から径5.1mほどの円形と推定される。

ピット 5か所。実際に配置され、深さ25~41cmで、柱穴と考えられる。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第16図 第5号住居跡実測図

第7号住居跡 (第17図)

位置 調査A区のF 6c7区、標高105mの台地上の平坦部に位置している。

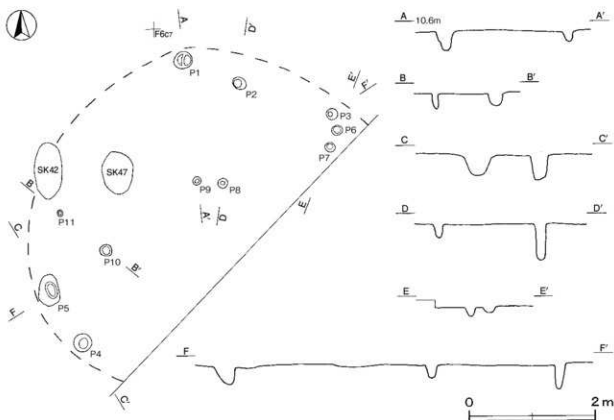
重複関係 第42・47号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びている。ピットの配置から、径5.8mほどの円形と推定される。

ピット 11か所。P1～P5は深さ30～55cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。その他の性格は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)、石器1点(磨石)、礫4点が出土しているが、土器片は細片である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第17図 第7号住居跡実測図

第8号住居跡 (第18・19図)

位置 調査A区のG 7d8区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

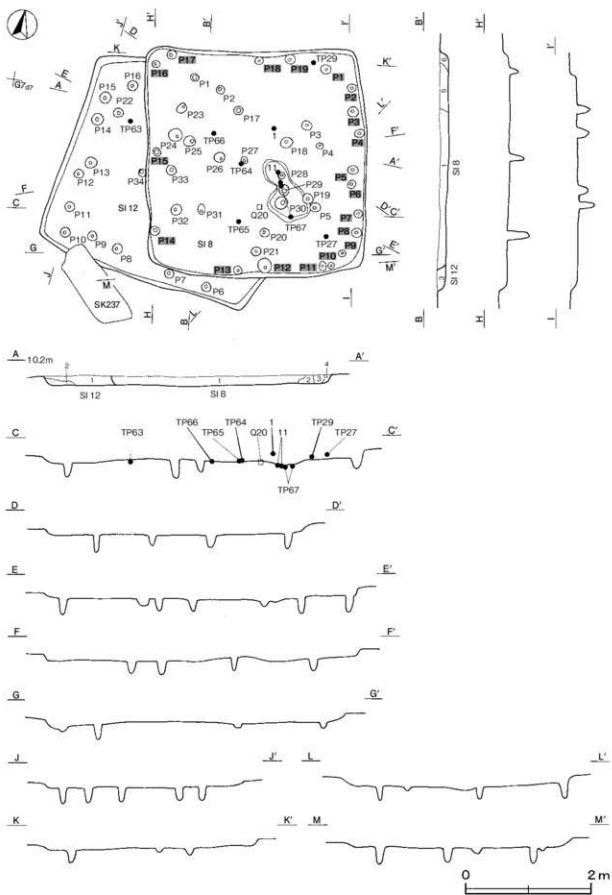
重複関係 第12号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.58m、短軸3.46mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は12～14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認されなかった。

ピット 19か所。壁際に配置され、深さ6～34cmで、柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。



第18图 第8・12号住居跡実測図

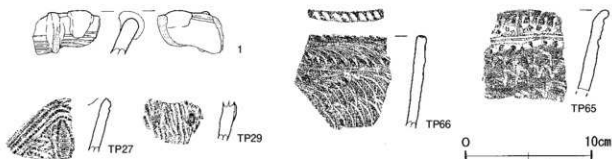
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ローム粒子多量
3 黒褐色 ローム粒子少量

- 4 暗褐色 ロームブロック微量
5 暗褐色 ロームブロック少量
6 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片107点(深鉢),石器1点(磨石),剥片3点,鏝5点が出土している。1は覆土上層, TP27は覆土中層から出土している。

所見 時期は,出土土器から前期後半と考えられる。



第19図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表(第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口辺部に突起貼付 条線文	覆土中層	
番号	種別	器種	胎土			色調	焼成	文様の特徴		出土位置	備考
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母			赤褐色	普通	キザミのある浮線文		覆土中層	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母			橙	普通	平織竹管による沈線上にボタン状貼付文		覆土中層	
TP65	縄文土器	深鉢	長石・雲母			暗赤褐色	普通	口唇部にキザミ目 口辺部の平行沈線上下に三角文		覆土下層	
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小石			灰黄褐色	普通	口唇部にキザミ目 貝殻線文		覆土下層	

第9号住居跡(第20図)

位置 調査A区のG7e4区,標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込み,第333~335・338・339号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.50m,短径5.36mの円形である。壁高は3~9cmで,外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

ピット 23か所。壁際に配置され,深さ6~18cmで,柱穴と考えられる。

炉 中央部よりやや東に位置している。径55cmの円形で,12cmほど掘りくぼめた地床炉である。

炉土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化粒子微量 2 にぶい赤褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量

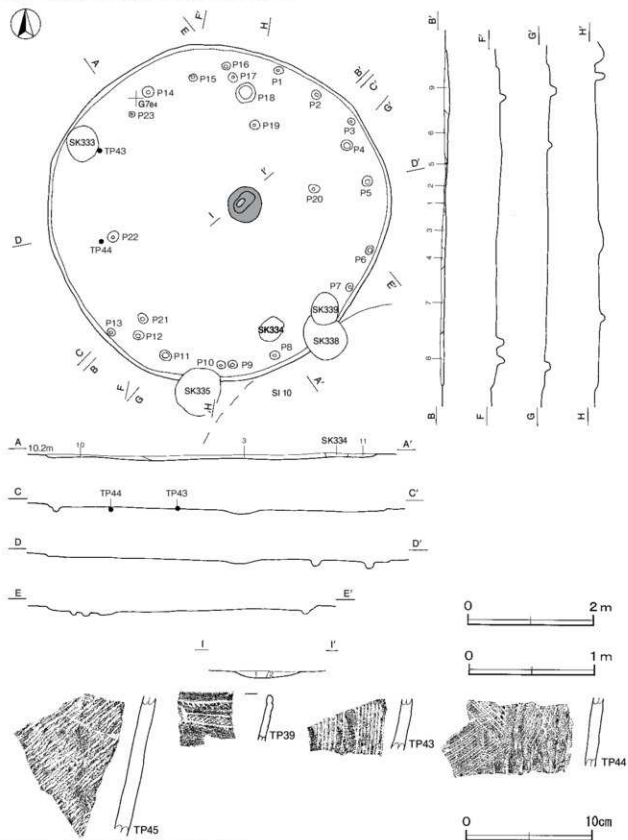
覆土 11層に分層される。ロームブロックや焼土を多く含むことから,人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 明褐色 焼土ブロック少量,ローム粒子微量 7 暗褐色 ロームブロック少量(しまり強)
2 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 8 褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック中量 9 暗褐色 ローム粒子中量
4 黒褐色 ロームブロック中量 10 暗褐色 ロームブロック少量
5 暗褐色 ローム粒子少量 11 暗褐色 ロームブロック微量
6 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 住居内から縄文土器片240点(深鉢)、石核1点、剥片3点、礫3点が出土している。TP43・TP44は床面、TP39・TP45は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第20図 第9号住居跡・出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第20回)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP09	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部直下に緋い帯帯 沈線区画内単節縄文LR光境	覆土中	
TP03	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	普通	斜行沈線文	床面	
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	斜行沈線文	床面	
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	結節を有する無節縄文?	覆土中	

第10号住居跡 (第21～23回)

位置 調査A区のG74区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第11号住居跡を掘り込み、第9号住居、第195・218・336・338・340・355号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びており、西部は削平され壁は残っていない。残存する壁から、長径6.32m、短径5.34mの楕円形と考えられ、長径方向はN-18°-Eである。壁高は8cmである。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

ピット 23か所。P1～P13は深さ8～18cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

炉 中央部より北側に4か所付設されている。炉1～炉3は土器片囲い炉である。炉1は、長径75cm、短径55cmの楕円形で、4～13cmの大きさの土器片に囲まれている。炉2は、径81cmの円形である。炉床は火を受け赤変硬化しており、周囲を6～14cmの土器片に囲まれている。炉3は、長径70cm、短径53cmの楕円形で、4～12cmの大きさの土器片に囲まれているが、炉2に南東部が掘り込まれているため全容は不明である。火を受けた痕跡のある土器片は炉1からわずかに確認されたが、その他に顕著な痕跡のあるものは見られない。炉4は、炉2に掘り込まれ、一辺が30cmほどの方形と推定される。炉1から縄文土器片24点(深鉢)、炉2から縄文土器片54点(深鉢)、炉3から縄文土器片16点(深鉢)、剥片1点が出土している。3・4・8、TP53は炉1から、5・6、TP54は炉2から、7・9、TP57は炉3からそれぞれ出土している。

炉1土層解説

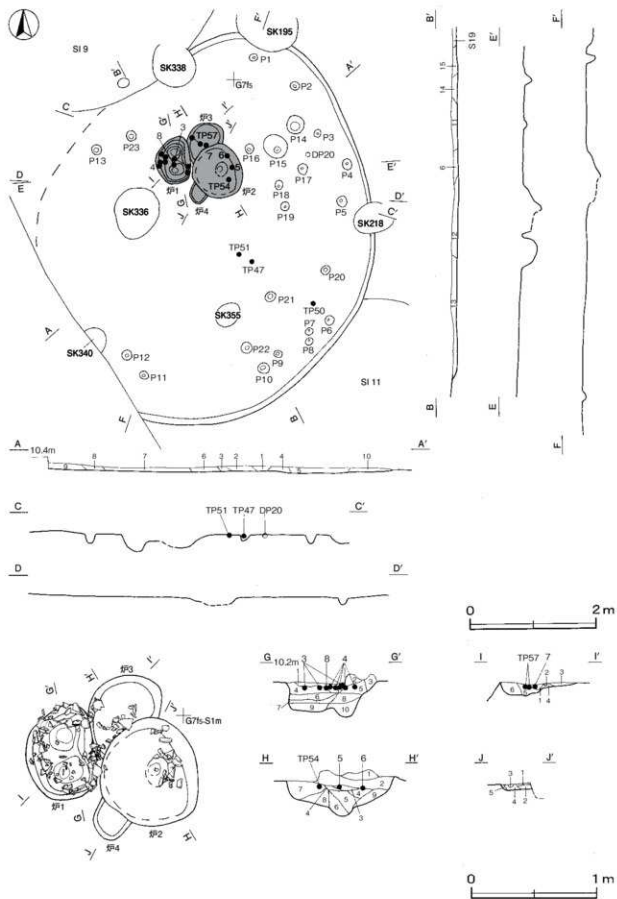
1 灰 褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	6 にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
2 にぶい褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	7 赤 褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量
3 灰 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂微量	8 灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
4 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	9 赤 褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子微量
5 灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	10 褐 灰色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

炉2土層解説

1 にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、粘土粒子・砂微量	5 にぶい赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子少量、粘土粒子・砂微量
2 にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	6 にぶい橙褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・砂微量
3 明 赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子・砂少量	7 灰 褐色	ロームブロック少量
4 にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	8 灰 褐色	ロームブロック中量
		9 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

炉3土層解説

1 にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	4 灰 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・粘土粒子微量
2 にぶい橙褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量	5 灰 褐色	ローム粒子少量
3 灰 褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	6 にぶい褐色	ロームブロック少量



第21图 第10号住居跡実測図

炉4土層解説

- 1 明赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量
 2 明赤褐色 焼土ブロック中量
 3 褐色 ロームブロック少量、砂微量

- 4 褐色 ロームブロック中量
 5 暗褐色 ロームブロック微量

覆土 15層に分層される。ロームブロックや焼土粒子を多く含むことから、人為堆積と考えられる。

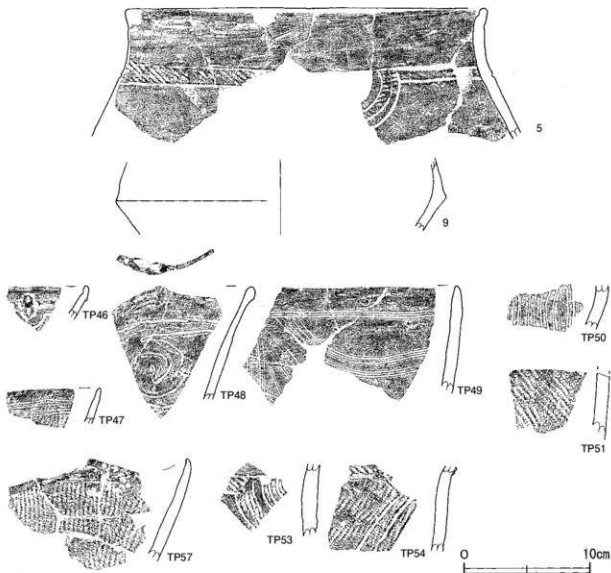
土層解説

- 1 暗褐色色 ロームブロック・焼土粒子少量
 2 暗褐色色 ロームブロック・焼土ブロック少量
 3 黒褐色色 ロームブロック・焼土粒子少量
 4 暗褐色色 ローム粒子少量
 5 暗褐色色 ロームブロック中量
 6 黒褐色色 ロームブロック少量
 7 暗褐色色 ロームブロック少量
 8 褐色 ロームブロック中量

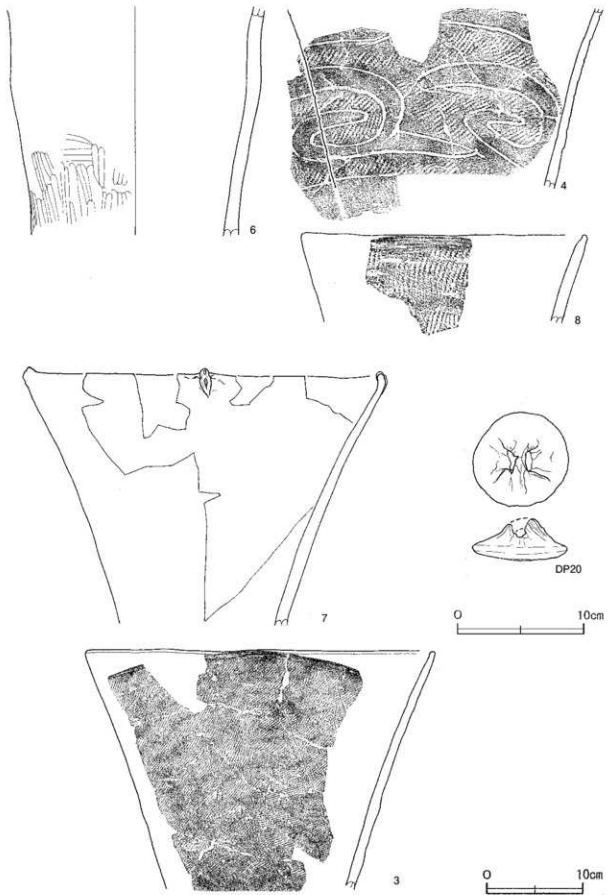
- 9 褐色色 ローム粒子少量
 10 褐色色 ロームブロック少量
 11 黒褐色色 ロームブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量
 12 暗褐色色 ローム粒子中量
 13 褐色色 ロームブロック少量（しまり強）
 14 暗褐色色 ロームブロック・焼土粒子微量
 15 黒褐色色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片344点（深鉢343、把手1）、土製品1点（蓋）、石器2点（磨石）、石核1点、剥片2点、鏃3点が出土している。TP47・TP51、DP20は床面、その他は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第22図 第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第23図 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

第10号住居跡出土遺物観察表 (第22・23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
3	縄文土器	深鉢	[37.0]	(25.5)	-	長石・石英	橙	普通	単節縄文LR	♀1	20% PL34
4	縄文土器	深鉢	-	(14.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	区画内単節縄文LR充填	♀1	30% PL34
5	縄文土器	鉢形土器	[28.4]	(10.5)	-	長石・石英・白色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内側に沈線 無節縄文r充填	♀2	10%
6	縄文土器	深鉢	-	(18.2)	-	長石・石英・赤色 粒子	明赤陶	普通	ヘラ磨り	♀2	20%
7	縄文土器	深鉢	[27.8]	(20.2)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	無文 口辺部に8字状貼付文	♀3	30%
8	縄文土器	深鉢	[22.3]	(7.1)	-	長石	橙	普通	単節縄文LR	♀1	5%
9	縄文土器	注口土器	-	(5.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	ヘラ磨き 注口部痕あり	♀3	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰陶	普通	8字状貼付文	覆土下層	
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい陶	普通	口辺部無文 ヘラ状工具による横位沈線文 地文は単節 縄文LR	床面	
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい陶	普通	口唇部に突起貼付 渦巻沈線文	覆土下層	
TP49	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	3本の沈線文	覆土下層	
TP50	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	赤陶	普通	縦位沈線文	覆土下層	
TP51	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰陶	普通	単節縄文LR	床面	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤陶	普通	半截竹管による沈線 沈線区画内に無節縄文r充填	♀1	
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	普通	沈線文 地文は単節縄文LR 頸部にキザミのある段帯貼 付	♀2	
TP57	縄文土器	深鉢	長石	赤陶	普通	単節縄文LR	♀3	

番号	器種	口径	器高	つまみ 部高	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
DP20	蓋	7.6	(3.2)	(1.5)	長石・石英・白色粒子	橙	普通	つまみ部貼付 棒状工具で調整	床面	PL40

第11号住居跡 (第24・25図)

位置 調査A区のG7g5区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第10号住居、第348・349・351・352号土坑、第8号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びている。残存する壁から径5.40mほどの円形と推定され、壁高は4～6cmである。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認されなかった。

ピット 51か所。壁際のP1～P24は、深さ7～34cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P26～P37、P39～P50は柱穴の内側をまわっており、住居の重複と考えられるが、詳細は不明である。その他は性格が不明である。

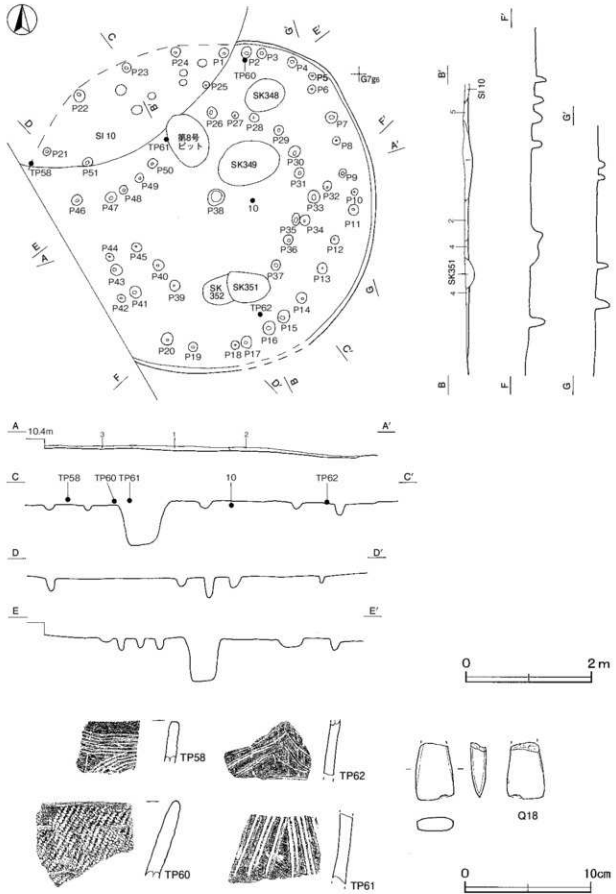
覆土 5層に分層される。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

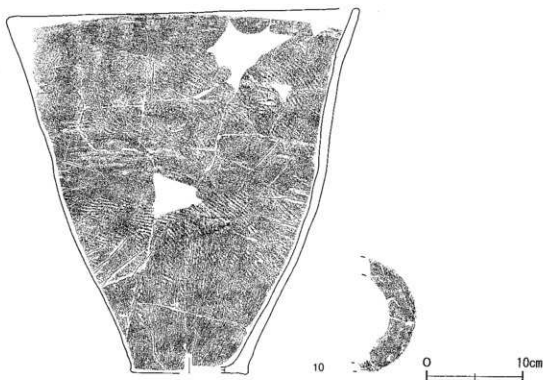
1 暗褐色	色	ロームブロック中量	4 褐色	色	ロームブロック微量
2 褐色	色	ロームブロック少量	5 暗褐色	色	ロームブロック少量
3 褐色	色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片199点(深鉢)、石器・石製品7点(磨製石斧1、石鏃1、磨石4、石皿1)、剥片3点が、覆土上層から床面にかけて出土している。10は床面、TP58・TP60～TP62は覆土中層、Q18は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第24図 第11号住居跡・出土遺物実測図



第25図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第24・25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	[36.8]	39.0	[12.4]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	単節縄文L1.施文後部分的にヘラ削り製に輪組み底 下部に縦方向削り底節焼成後穿孔の可能性	床面	70% PL33

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	多条沈線文 口唇部キザミ目	覆土中層	
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	単節縄文L1.8	覆土中層	
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	平截竹管による沈線文	覆土中層	
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	平截竹管による沈線文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	磨製石斧	(4.5)	3.0	1.2	(25.3)	重曹石ホルンフェルス	刃部一部欠損	覆土中	PL44

第12号住居跡（第18・26図）

位置 調査A区のG7d7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第8号住居に掘り込まれている。

規模と形状 遺存する壁から長軸3.68m、短軸3.34mの長方形と推定され、主軸方向はN-17°-Eである。壁高は16cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

ピット 34か所。壁際に位置するP1～P17は、深さ12～28cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他の性格は不明である。

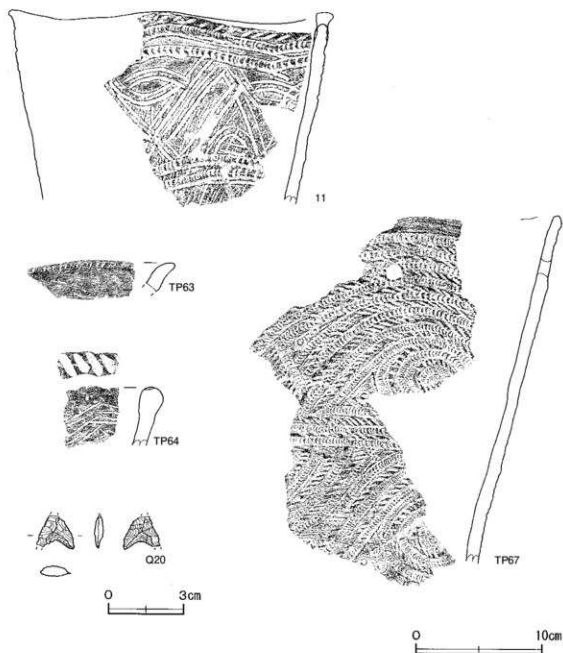
覆土 3層に分層される。大半が第8号住居に掘り込まれているため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、砂微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片812点（深鉢）、土製品3点（耳飾り）、石器4点（石鏃2、磨石2）、剥片18点、礫2点が、覆土上層から床面にかけて出土している。11、TP67、Q20は床面、TP63、TP64は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半であると考えられる。



第26図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表 (第26図)

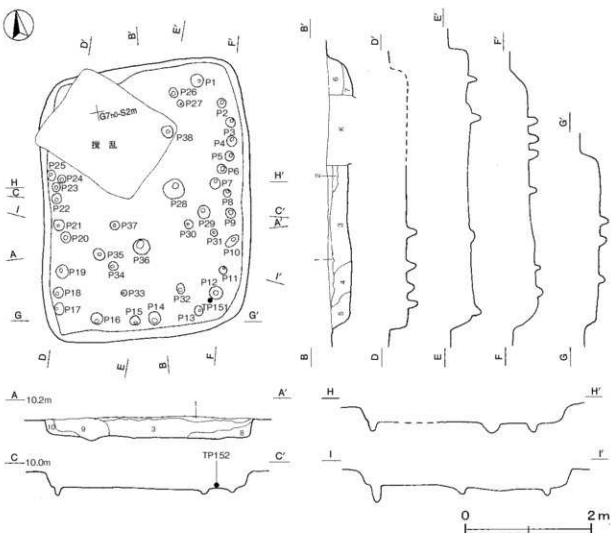
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
11	縄文土器	深鉢	[24.9]	(15.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい濃青	普通	口辺部に斜みじ 半截竹管による横位沈線区画内爪形文 横位区画間半截竹管文 地文の凹赤文	床面	10% P1.32

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP63	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色砂子	明赤褐色	普通	格子状沈線文	覆土下層	
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部太いキザミ目 斜位沈線文	覆土下層	
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	口辺部に穿孔 半截竹管による浪巻状の連続爪形文及びキザミ目 竹管刺突文	床面	P1.38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	石鏝	(3.1)	1.5	0.35	(0.5)	チャート	両面押圧潤滑 凹基無茎脚 先端部欠損	床面	PL43

第14号住居跡 (第27・28図)

位置 調査A区のG7h0区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第27図 第14号住居跡実測図

重複関係 上層に第3号遺物包含層が位置している。北西部が擾乱を受けている。

規模と形状 長軸4.36m、短軸3.30mの長方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は24～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 南東へ緩やかに傾斜している。

ピット 38か所。壁際のP1～P25は、深さ6～27cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他の性格は不明である。

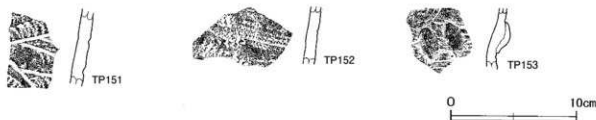
覆土 10層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・黒色土粒子少量	6 褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック微量	7 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック微量	9 灰褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片30点（深鉢）、石器3点（敲石1、凹石1、石核1）剥片2点が覆土上層から床面にかけて出土している。TP152は床面、TP151・TP153は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。



第28図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP151	縄文土器	深鉢	長石・石英	にじみ黄褐色	普通	沈殿区画内波状貝殻文	覆土中	
TP152	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	橙	普通	有筋沈殿と貝殻緑文	床面	
TP153	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にじみ黄褐色	普通	斜位の多条沈殿文 ボタン状胎付文	覆土中	

第17号住居跡（第29図）

位置 調査A区のH8d5区、標高9.5mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 覆土がなく、ピットのほか炉の形跡と思われる焼土がわずかに確認されている。

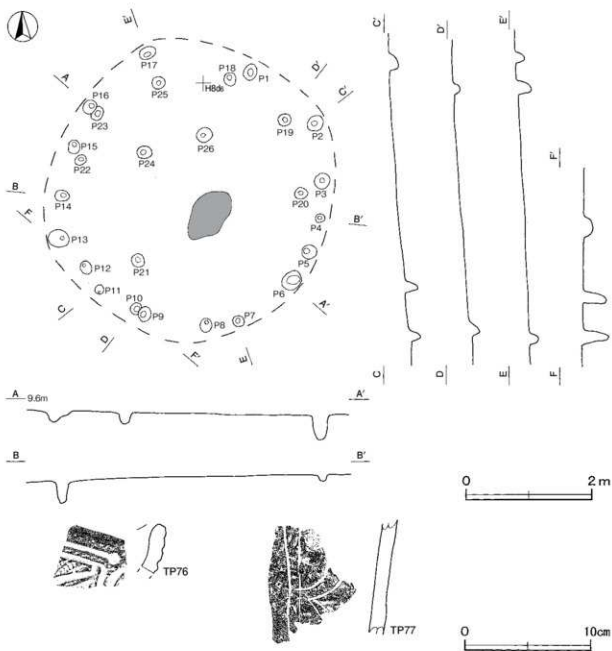
規模と形状 ピットの配置から、径4.80mほどの円形と推定される。

ピット 26か所。壁際のP1～P20は、深さ10～42cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

炉 長径94cm、短径55cmの不整楕円形であるが、焼土がわずかに残っているだけである。

遺物出土状況 縄文土器片29点（深鉢）がピットや確認面から出土している。TP76・TP77はP16の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第29図 第17号住居跡・出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP76	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にんべん赤褐色	普通	沈線文 地文は半節縄文LR	ビット覆土中	
TP77	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	明赤褐色	普通	半截竹管による平行沈線文	ビット覆土中	

第18号住居跡（第30図）

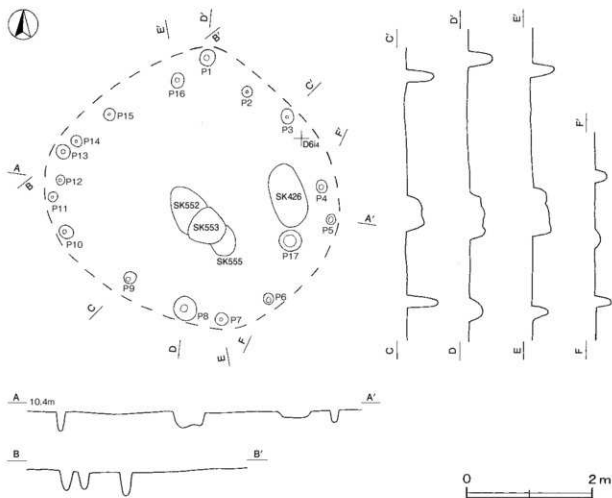
位置 調査B区のD63区で、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第426・552・553・555号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、径4.70mほどの円形と推定される。

ビット 17か所。壁際のP1～P16は、深さ8～50cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P17は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため判定するのは困難であるが、縄文時代と考えられる。



第30図 第18号住居跡実測図

第19号住居跡 (第31図)

位置 調査B区のD6h2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第20・21号住居跡、第427号土坑と重複している。覆土がないため新旧関係は不明である。中央部が東西方向に走る攪乱を受けている。

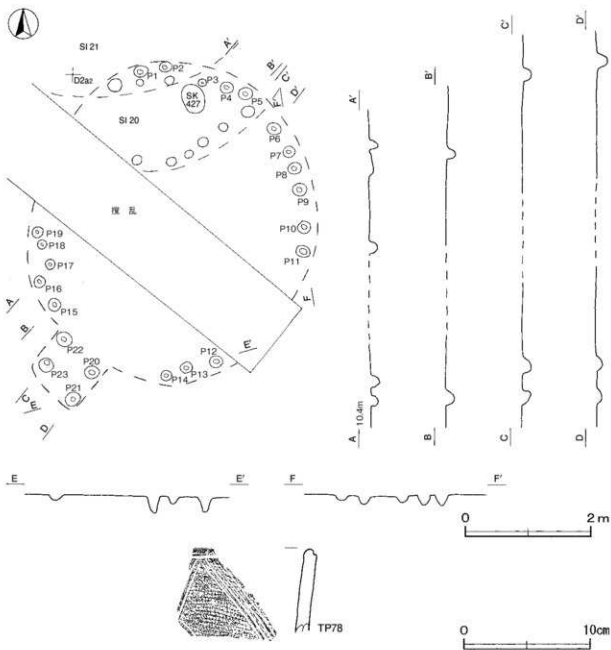
規模と形状 ビットの配置から、長径5.0m、短径4.5mで、0.9mほどの張り出し部をもつ柄杓形と推定される。主軸方向はN-44°-Eである。

ビット 23か所。壁際のP1～P19は、深さ8～28cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P20～P23は出入口部と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)、石器1点(凹石)、剥片1点がビットから出土している。TP78はP

19の覆土中から出土している。

所見 時期は、遺物が少ないため判定するのは困難であるが、後期前半の可能性が考えられる。



第31図 第19号住居跡・出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP78	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	多条沈縄文 地文は単部縄文KL	ビット覆土中	

第20号住居跡（第32図）

位置 調査B区のD 6 g2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

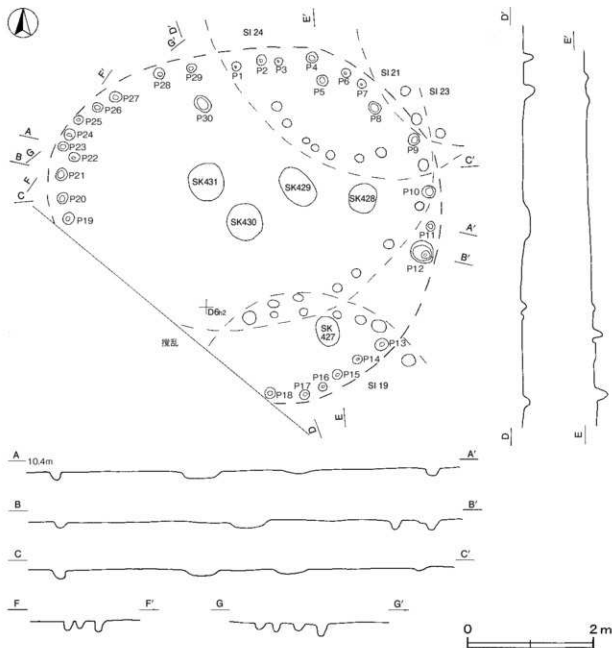
重複関係 第19・21・23・24号住居跡、第427～431号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不

明である。南西部が擾乱を受けている。

規模と形状 ビットの配置から、径6.3mほどの円形と推定される。

ビット 30か所。壁際のP1～P29は、深さ10～20cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P30は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第32図 第20号住居跡実測図

第21号住居跡 (第33図)

位置 調査B区のD6g2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

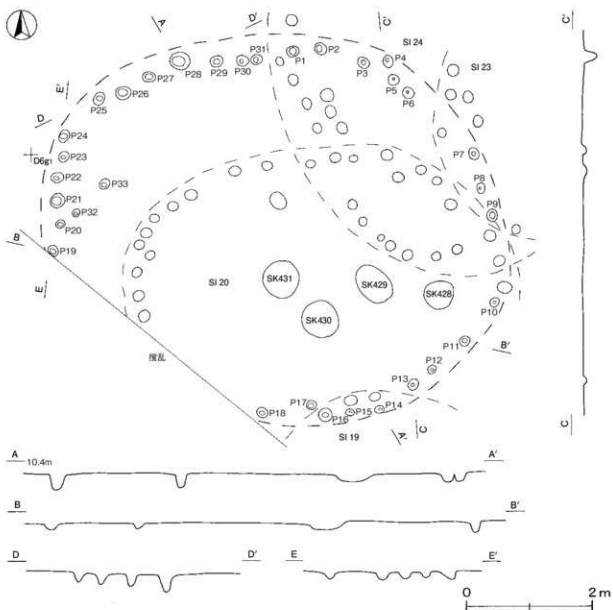
重複関係 第19・20・23・24号住居跡、第428～431号土坑と重複している。覆土がないため新旧関係は不明

である。南西部が攪乱を受けている。

規模と形状 ビットの配置から、長径7.3m、短径6.2mほどの楕円形と推定される。長径方向はN-90°-Eである。

ビット 33か所。壁際のP1～P31は、深さ6～25cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第33図 第21号住居跡実測図

第22号住居跡 (第34図)

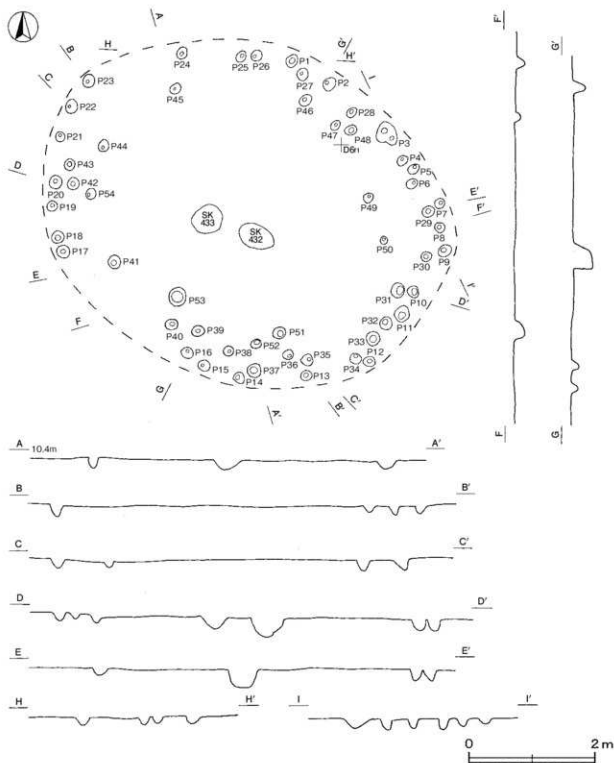
位置 調査B区のD50区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第432・433号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、長径6.6m、短径5.3mほどの楕円形と推定される。長径方向はN-55°-Wである。

ビット 54か所。壁際のP1～P26は、深さ10～20cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第34図 第22号住居跡実測図

第23号住居跡 (第35図)

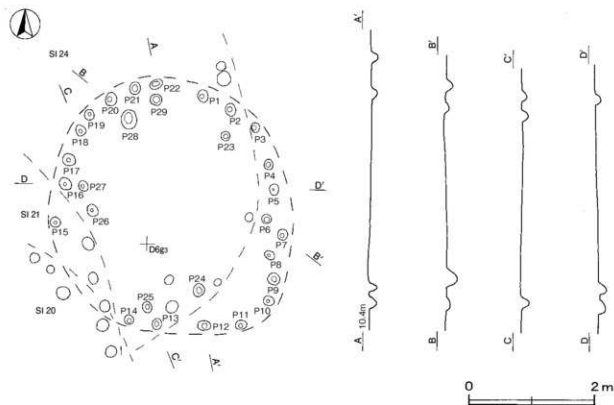
位置 調査B区のD6f3区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第20・21・24号住居跡と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、径4.0mほどの円形と推定される。

ビット 29か所。壁際のP1～P22は、深さ10～16cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第35図 第23号住居跡実測図

第24号住居跡 (第36図)

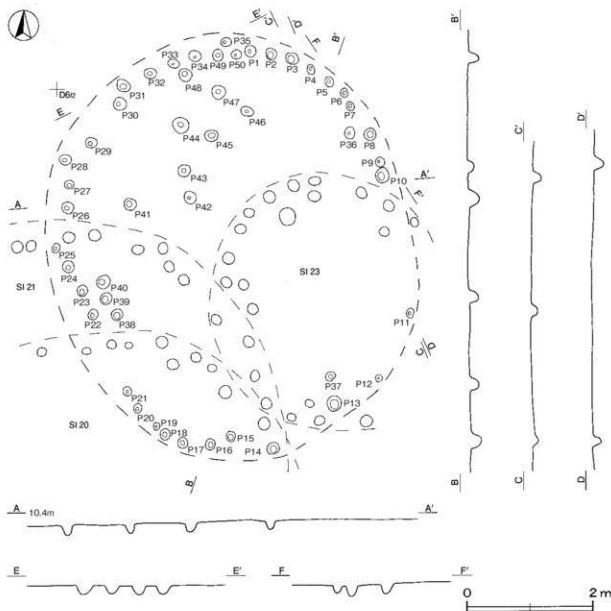
位置 調査B区のD6f2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第20・21・23号住居跡と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、長径6.8m、短径5.8mほどの楕円形と推定される。長径方向はN-0°である。

ビット 50か所。壁際のP1～P35は、深さ10～16cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

所見 時期は、覆土がなく遺物も出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第36図 第24号住居跡実測図

第25号住居跡 (第37図)

位置 調査B区のD 6 c2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

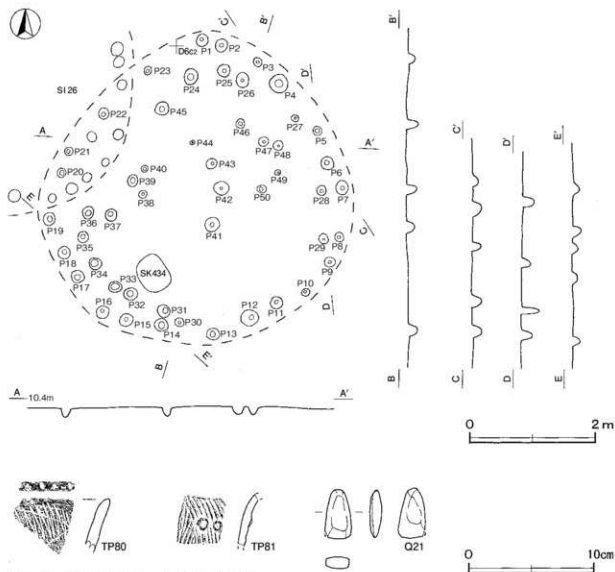
重複関係 第26号住居跡、第434号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、径4.9mほどの円形と推定される。

ビット 50か所。壁際のP 1～P 23は、深さ6～28cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 縄文土器片290点(深鉢)、石器1点(磨製石斧)、石核1点、剥片1点がビット覆土中や確認面から出土しているが、土器はほとんどが細片である。TP80・TP81、Q21は確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器は細片が多いため不鮮明であるが、前期の可能性が考えられる。



第37図 第25号住居跡・出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP80	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部にキザミ目 沈雑区画後波状貝殻文	確認面	
TP81	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	平織竹管による集合沈雑上にボタン状貼付文	確認面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	磨製石斧	3.9	2	0.9	12.7	重晶石ホルンフ ェルス	刃部一部欠損	確認面	PL44

第26号住居跡（第38図）

位置 調査B区のD6c1区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

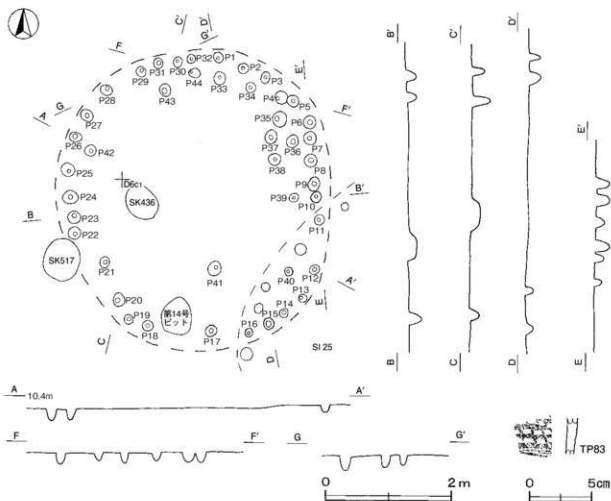
重複関係 第25号住居跡、第436・517号土坑、第14号ピットと重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ピットの配置から、長径4.8m、短径4.4mほどの円形と推定される。

ピット 44か所。壁際のP1～P32は、深さ10～22cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)、剥片2点が出土している。TP83は確認面から出土している。

所見 時期は、判定できる出土遺物が少ないが、前期の可能性が考えられる。



第38図 第26号住居跡・出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP83	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	平織竹管による刺突文	確認面	

第27号住居跡 (第39図)

位置 調査B区のD5e8区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

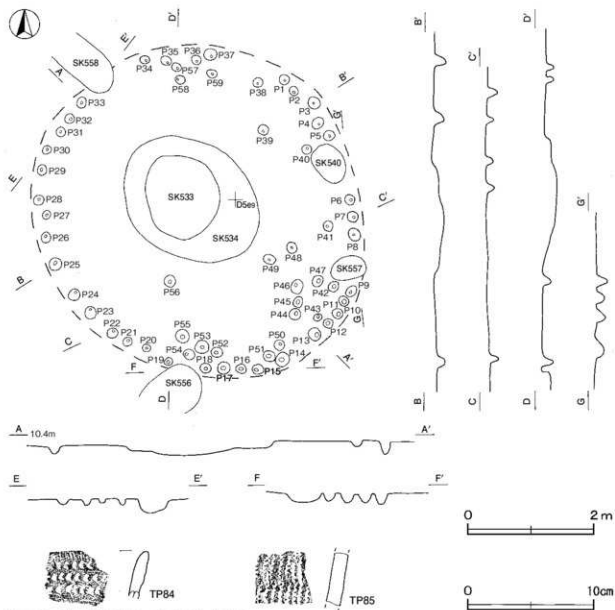
重複関係 第533・534・540・556～558号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ピットの配置から、径5.5mほどの円形と推定される。

ピット 59か所。壁際のP1～P37は、深さ8～18cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 縄文土器片33点(深鉢)、石器2点(磨石)、剥片1点が出土している。TP84・TP85は確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器は細片が多いため不鮮明であるが、前期の可能性が考えられる。



第39図 第27号住居跡・出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表(第39図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部にキザミ目 半截竹管による刺突文	確認面	
TP85	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	貝殻散緑文	確認面	

第28号住居跡(第40～43図)

位置 調査B区のD5c6区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 南西部の壁及び床面の一部が攪乱を受けている。

規模と形状 長軸3.62m, 短軸3.58mの方形で, 主軸方向はN-55°-Wである。壁高は8~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で, 壁際を除く内側が踏み固められている。

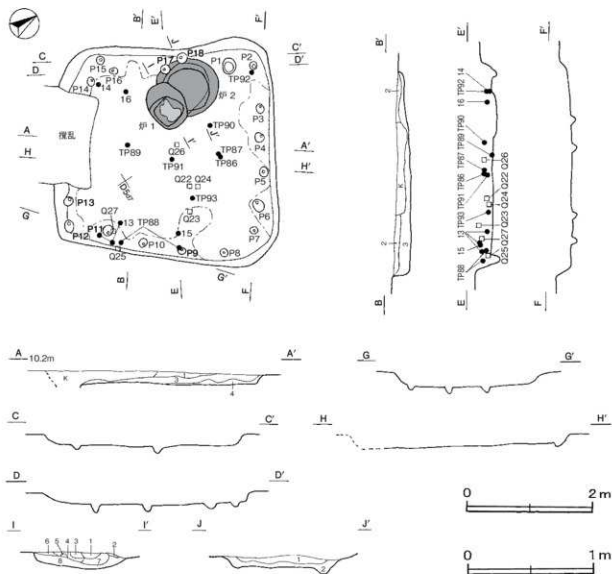
ピット 18か所。壁際に配置され, 深さ6~17cmで, 柱穴と考えられる。

炉 中央部よりやや北西側の壁際に2か所付設されている。炉1は長径73cm, 短径60cmの楕円形で, 床面を25cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受け赤変硬化している。炉2は, 炉1に掘り込まれており, 径100cmの円形と推定される。炉1の使用時には炉2は埋められており, 炉2から炉1への作り替えが想定される。

炉1土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

- 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 灰褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 7 暗褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子少量
- 8 明赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量



第40図 第28号住居跡実測図

炉2土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 焼土ブロック中量・ローム粒子少量

覆土 4層に分層される。ロームブロックを多く含む土が東方向から投げ込まれている堆積状況から、人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

3 暗褐色 ローム粒子多量

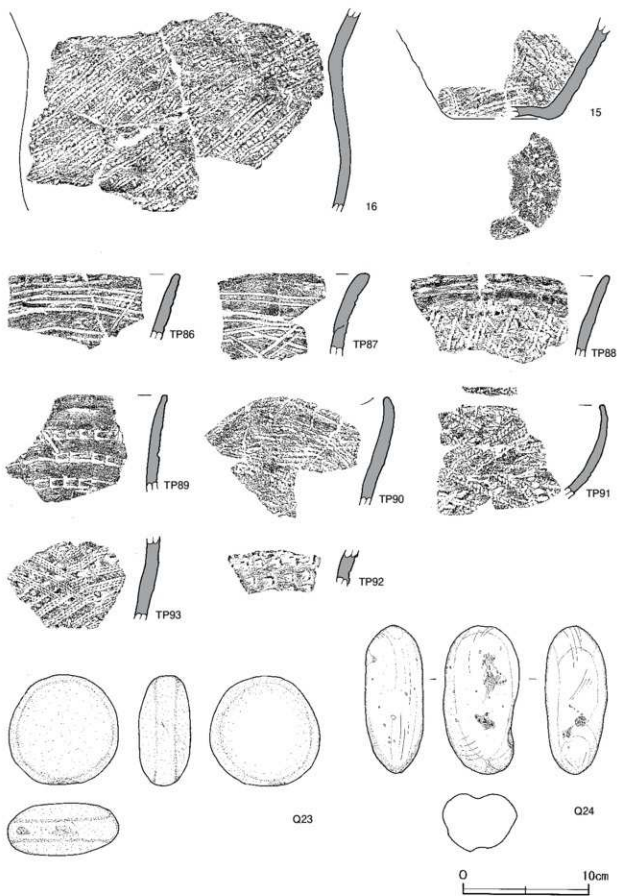
4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片575点（深鉢574、鉢1）、石器・石製品6点（磨製石斧1、磨石2、敲石1）、剥片2点、礫14点、貝殻片1点が覆土上層から床面にかけて出土している。14・16、TP86・TP87・TP89は床面、TP91・TP93、Q24・Q25は覆土下層、15、TP88・TP90・TP92、Q22・Q26・Q27は覆土中層、13、Q23は覆土上層からそれぞれ出土している。

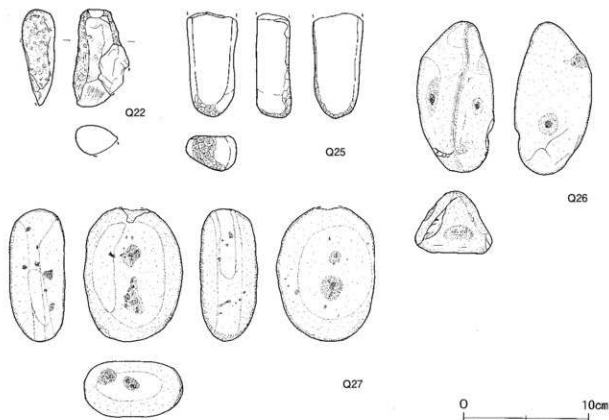
所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第41図 第28号住居跡出土遺物実測図(1)



第42図 第28号住居跡出土遺物実測図(2)



第43図 第28号住居跡出土遺物実測図(3)

第28号住居跡出土遺物観察表 (第41～43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	[290]	(17.2)	-	長石・石英・白色 粘土・繊維	にぶい・橙	普通	付加条2種(付加2条)	覆土上層	15%
14	縄文土器	深鉢	[326]	(27.2)	-	長石・石英・白色 粘土・繊維	にぶい・橙	普通	上部は燃糸文 下部は付加条2種(付加2条)	床面	40% P1.32
15	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	[95]	長石・石英・白色 粘土・赤色粘土・ 繊維	にぶい・橙	普通	付加条2種(付加2条)	覆土中層	10%
16	縄文土器	深鉢	-	(16.0)	-	長石・石英・赤色 粘土・繊維	にぶい・橙	普通	付加条2種(付加2条)	床面	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粘土・ 白色粘土・繊維	橙	普通	半截竹管による沈線文	床面	
TP87	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粘土・ 繊維	黄褐色	普通	半截竹管による沈線文	床面	
TP88	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粘土・ 繊維	にぶい・黄褐色	普通	1)道部折り返し 2)割部付加条2種	覆土中層	
TP89	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粘土・ 繊維	橙	普通	半截竹管による押引文	床面	
TP90	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粘土・ 白色粘土・繊維	にぶい・橙	普通	無彫縄文 r	覆土中層	
TP91	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粘土・ 白色粘土・繊維	にぶい・黄褐色	普通	燃糸文	覆土下層	
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粘土・ 白色粘土・繊維	橙	普通	半截竹管による刺突文	覆土中層	
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粘土・ 白色粘土・繊維	橙	普通	燃糸文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	局部磨製石斧	(7.8)	(4.4)	(2.3)	(97.6)	ホルンフェルス	敲打による整形後、研磨により両刃作出	覆土中層	
Q23	磨石	8.7	8.7	4.1	501.0	安山岩	全側面を使用	覆土上層	
Q24	凹石	11.8	6.1	4.5	440.0	安山岩	表裏にそれぞれ2か所の凹み	覆土下層	
Q25	磨石	(8.3)	4	2.8	(137.0)	砂岩	端部、側縁に敲打面 磨石に併用	覆土下層	
Q26	磨石	12	6.2	5	411.0	石英斑岩	打痕2か所 各面に凹みあり	覆土中層	
Q27	凹石	(10.6)	7.8	4.5	(561.0)	安山岩	表裏にそれぞれ2か所の凹み 敲石併用	覆土中層	

第29号住居跡 (第44図)

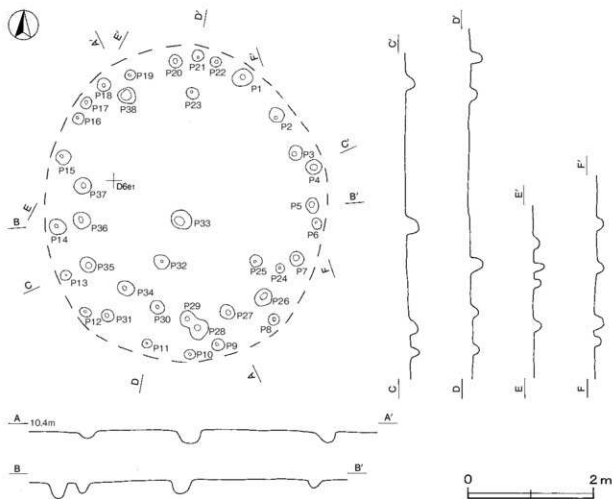
位置 調査B区のD6ell区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 覆土がなく、ビットだけが確認された。

規模と形状 ビットの配置から、長さ5.0m、短径4.5mほどの楕円形と推定される。長径方向は $N-0^\circ$ である。

ビット 38か所。壁際のP1～P22は、深さ10～26cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第44図 第29号住居跡実測図

第30号住居跡 (第45図)

位置 調査B区のD6I2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 南西部は調査区域外に延びている。

規模と形状 遺存する壁から径3.8mほどの円形と推定される。壁高は5～8cmで、外傾して立ち上がっている。

ビット 19か所。壁際のP1～P13は、深さ12～20cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

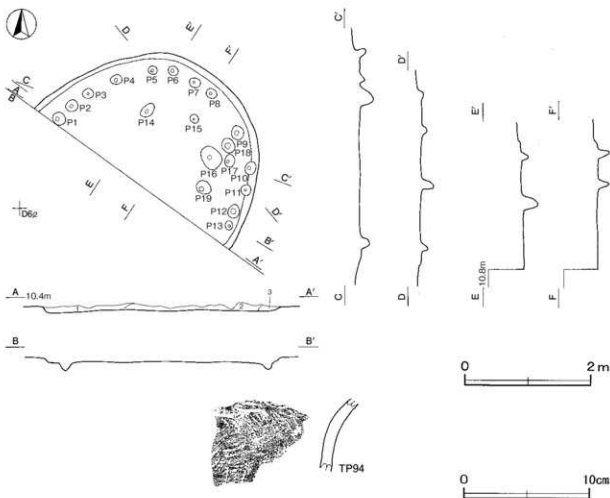
覆土 3層に分層される。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 TP94を含め、縄文土器片101点（深鉢）、石器1点（石鏃）、剥片1点、礫1点が覆土中から出土している。土器はほとんどが細片である。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。



第45図 第30号住居跡・出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP94	縄文土器	深鉢	長石・石英	濃い黄褐色	普通	目紋散線文	覆土中	

第31号住居跡（第46図）

位置 調査B区のC 6 g1区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

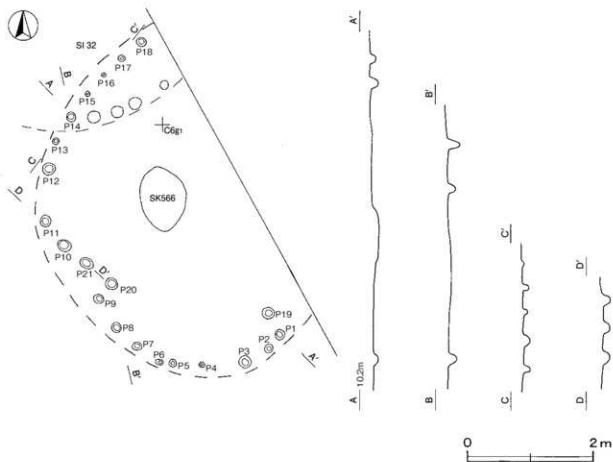
重複関係 第32号住居跡、第566号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。北東部が

調査区域外に延びている。

規模と形状 ビットの配置から、径5.2mほどの円形と推定される。

ビット 21か所。壁際のP1～P18は、深さ6～20cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第46図 第31号住居跡実測図

第32号住居跡 (第47図)

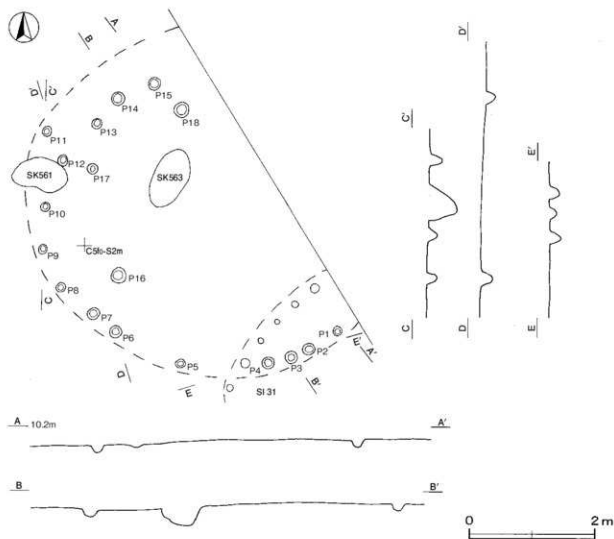
位置 調査B区のC50区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第31号住居跡、第561・563号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、径5.6mほどの円形と推定される。

ビット 18か所。壁際のP1～P15は、深さ6～19cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第47図 第32号住居跡実測図

第33号住居跡 (第48図)

位置 調査B区のC 5 d8区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

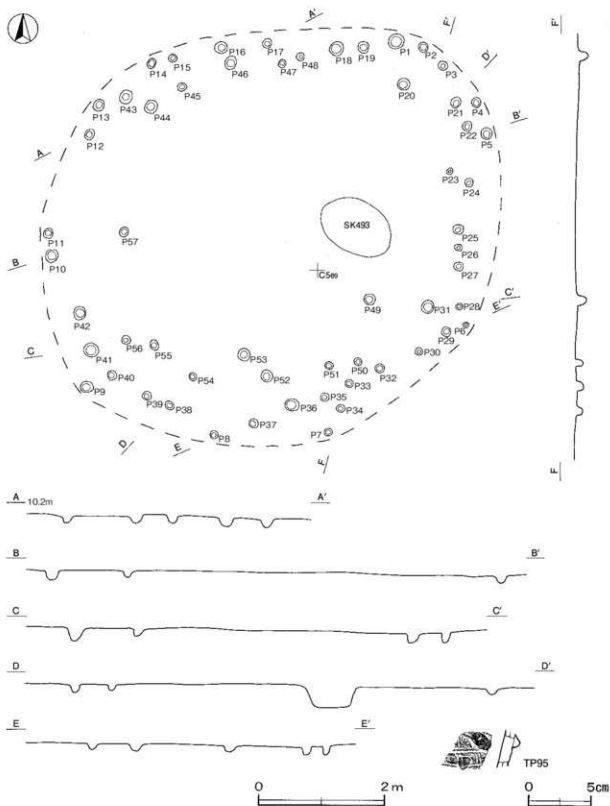
重複関係 第493号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、長径7.9m、短径6.8mほどの楕円形と推定される。長径方向は $N-46^{\circ}-E$ である。

ビット 57か所。壁際に配置のP1～P17は、深さ8～20cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)がビット覆土中及び確認面から出土しているが、細片である。TP95は、P28の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器は細片が多いため不鮮明であるが、前期の可能性が考えられる。



第48図 第33号住居跡・出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表 (第48図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP95	陶文土器	深鉢	長石・石英	にじみ赤褐	普通	平截竹管による沈線文 ボタン状貼付文	ピット覆土中	

第34号住居跡（第49図）

位置 調査B区のC 5 e7区。標高10mの台地上の平坦部に位置している。

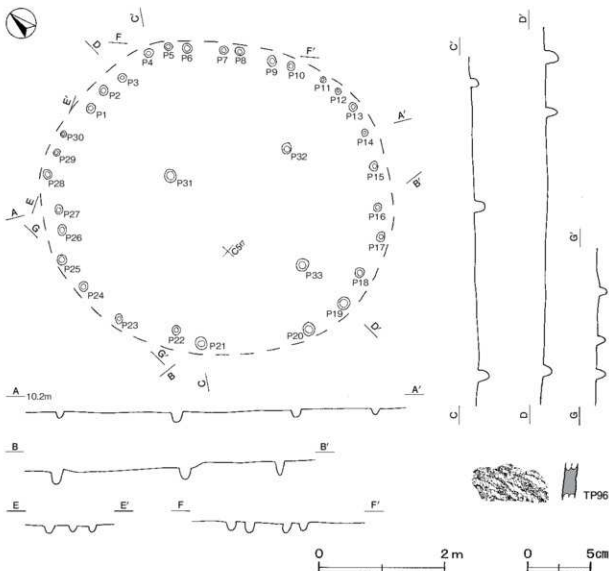
確認状況 覆土がなく、ピットだけが確認された。

規模と形状 ピットの配置から、長径5.6m、短径4.9mほどの楕円形と推定される。長径方向はN-36°-Wである。

ピット 33か所。壁際のP1～P30は、深さ8～26cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 TP96を含め、縄文土器片6点（深鉢）が確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため明確ではないが、前期と考えられる。



第49図 第34号住居跡・出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にがい粉	普通	黒線縄文 r	確認面	

第35号住居跡 (第50図)

位置 調査B区のC 5 b8区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

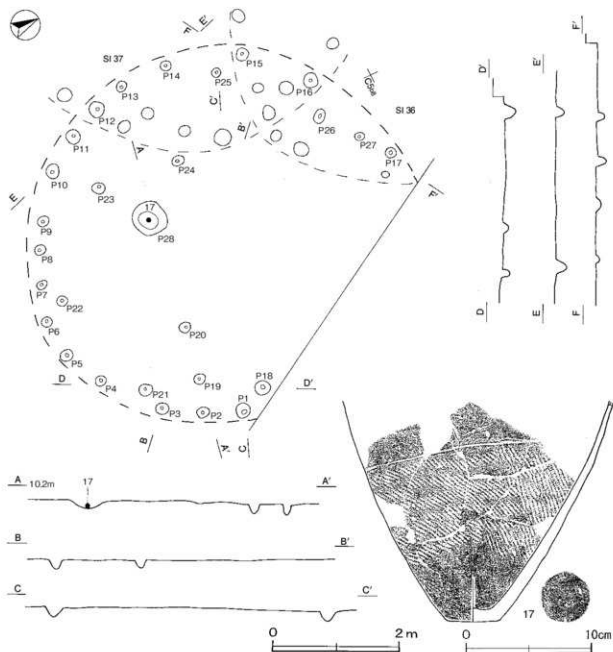
重複関係 第36・37号住居跡と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。北東部が調査区域外に延びている。

規模と形状 ビットの配置から、径6.4mほどの円形と推定される。

ビット 28か所。壁際のP1～P17は、深さ8～20cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)が確認面及びP28から出土している。17はP28から口辺部は破損していたが、胴部は直立して出土している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉～後葉と考えられる。



第50図 第35号住居跡・出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表 (第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	-	(17.5)	4.0	長石・石英・雲母・ 赤色粘土	橙	普通	胴部に沈線文、肩筋縄文R1、胴部下 部に縦方向の波状	ピット28下層	PL34

第36号住居跡 (第51図)

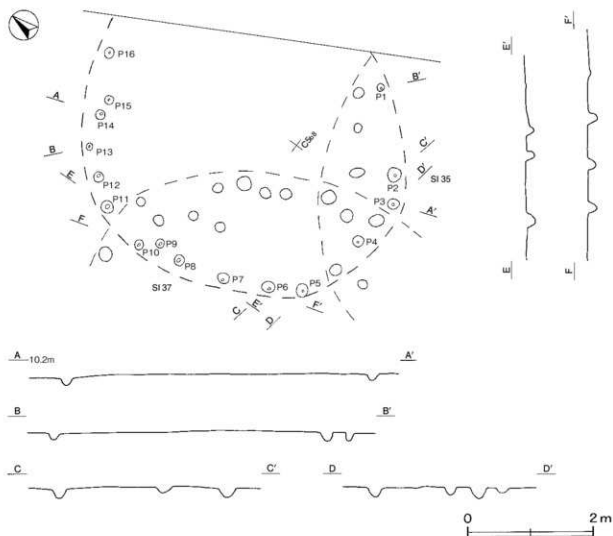
位置 調査B区のC 5 a7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第35・37号住居跡と重複している。覆土がないため新旧関係は不明である。北東部が調査区域外に延びている。

規模と形状 ピットの配置から、長径5.5m、短径4.3mほどの楕円形と推定される。長径方向はN-1°-Wである。

ピット 16か所。壁際的位置と規模から柱穴と考えられる。深さは8~16cmである。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第51図 第36号住居跡実測図

第37号住居跡 (第52図)

位置 調査B区のC5b7区で、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

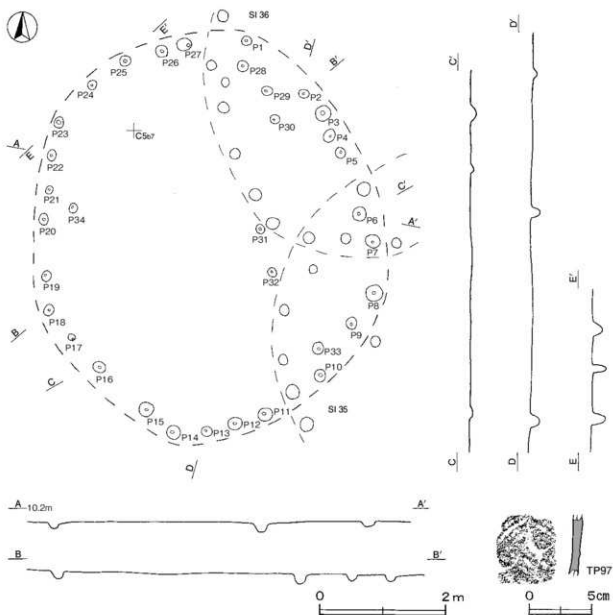
重複関係 第35・36号住居跡と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、長径6.6m、短径5.6mほどの楕円形と推定される。長径方向は $N-3^{\circ}-E$ である。

ビット 34か所。壁際のP1～P27は、深さ6～22cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 TP97を含め、縄文土器片9点(深鉢)が確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため判定するのは困難であるが、前期の可能性が考えられる。



第52図 第37号住居跡・出土遺物実測図

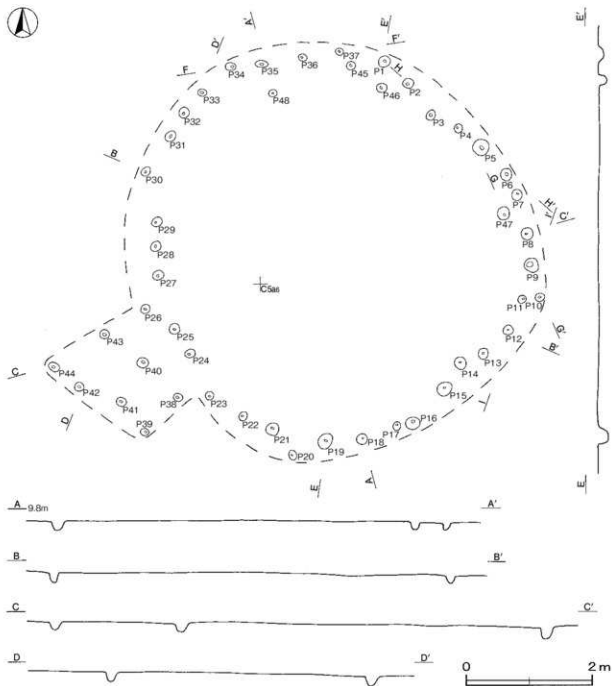
第37号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
T197	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	無彫刻状縄文	確認面	

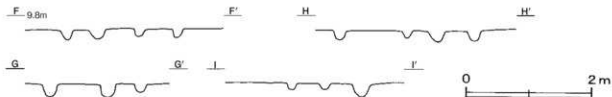
第38号住居跡 (第53・54図)

位置 調査B区のB5j6区、標高9.5mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 覆土がなく、ピットだけが確認された。



第53図 第38号住居跡実測図(1)



第54図 第38号住居跡実測図2)

規模と形状 ビットの配置から、長径6.6m、短径6.2mで、1.7mほどの張り出し部をもつ柄鏡形と推定される。主軸方向は $N-50^{\circ}-E$ である。

ビット 48か所。壁際のP1～P37は、深さ8～22cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P38～P44は出入口部と考えられる。その他は性格が不明である。

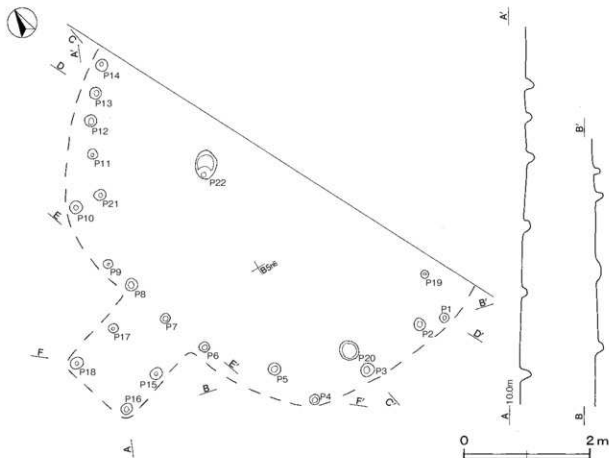
所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。

第39号住居跡 (第55・56図)

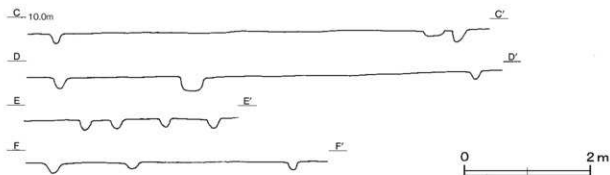
位置 調査B区のB5g5区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 北東部が調査区域外に延びている。覆土がなく、ビットだけが確認された。

規模と形状 ビットの配置から、径7.0mで、1.5mほどの張り出し部をもつ柄鏡形と推定される。主軸方向は $N-46^{\circ}-E$ である。



第55図 第39号住居跡実測図1)



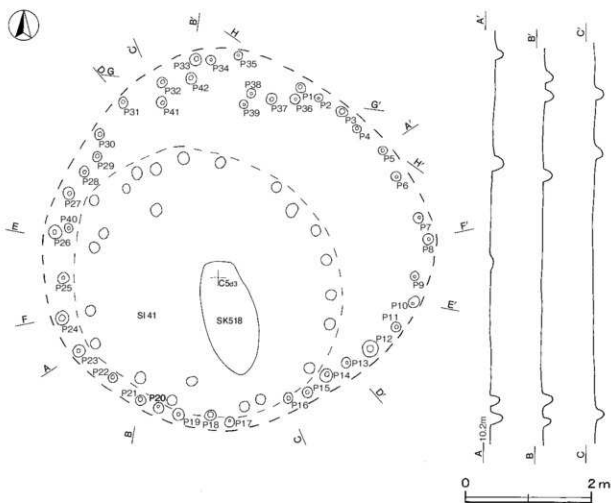
第56図 第39号住居跡実測図2)

ピット 22か所。壁際のP1～P14は、深さ8～23cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P15～P18は出入口部と考えられる。その他は性格が不明である。

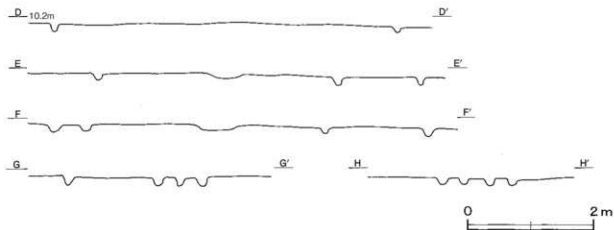
所見 時期は、遺物が出土していないため明確にできないが、縄文時代と考えられる。

第40号住居跡 (第57・58図)

位置 調査B区のC5c2区で、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第57図 第40号住居跡実測図1)



第58図 第40号住居跡実測図2)

重複関係 第41号住居跡、第518号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

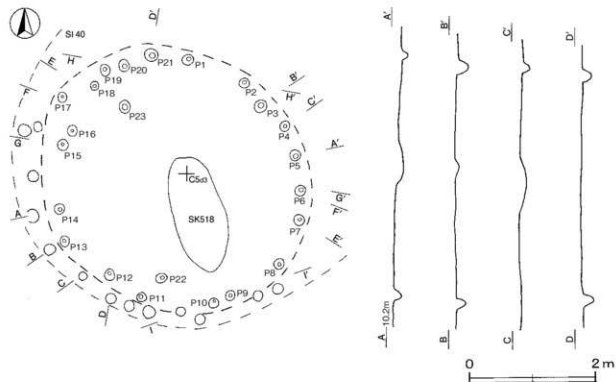
規模と形状 ビットの配置から、径6.2mほどの円形と推定される。

ビット 42か所。壁際のP1～P35は、深さ10～16cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

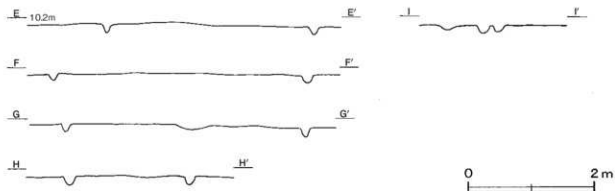
所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。

第41号住居跡 (第59・60図)

位置 調査B区のC5c2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第59図 第41号住居跡実測図1)



第60図 第41号住居跡実測図2)

重複関係 第40号住居跡、第518号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

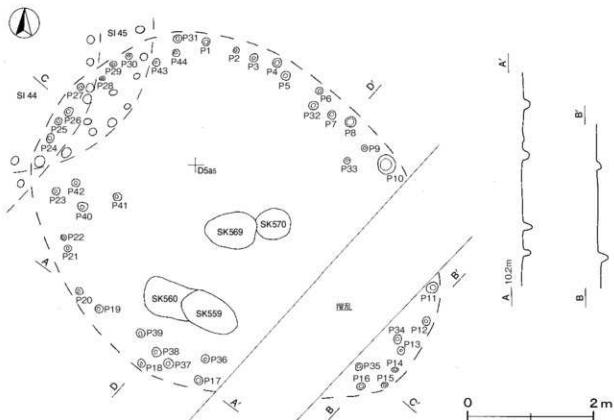
規模と形状 ビットの配置から、径4.2mほどの円形と推定される。

ビット 23か所。壁際のP1～P21は、深さ6～17cmで、位置と規模から柱穴であると考えられる。その他は性格が不明である。

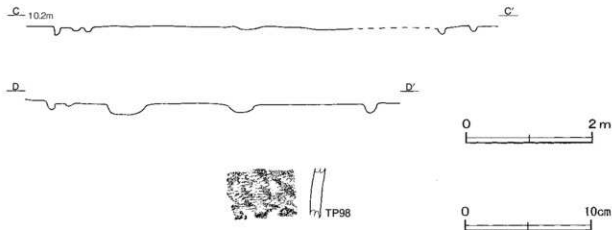
所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。

第43号住居跡 (第61・62図)

位置 調査B区のD 5 a5区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第61図 第43号住居跡実測図



第62図 第43号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第44・45号住居跡、第559・560・569・570号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。南東部が擾乱を受けている。

規模と形状 ビットの配置から、長径6.9m、短径5.4mほどの楕円形と推定される。長径方向はN-48°-Wである。

ビット 44か所。壁際のP1～P31は、深さ12～17cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 TP98を含め、縄文土器片5点（深鉢）、礫1点が確認面から出土している。

所見 時期は、出土遺物も少ないため判定するのは困難であるが、前期の可能性が考えられる。

第43号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	波状貝殻散線文	確認面	

第44号住居跡（第63図）

位置 調査B区のC5j3区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

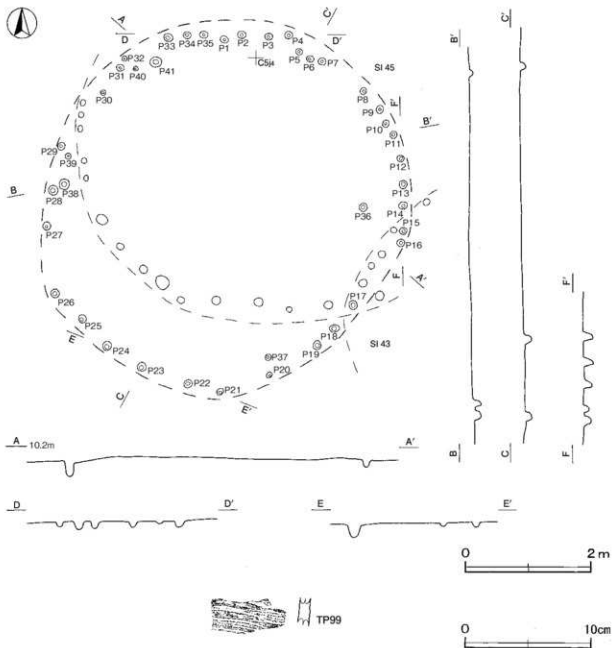
重複関係 第43・45号住居跡と重複している。覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、径6.0mほどの円形と推定される。

ビット 41か所。壁際のP1～P35は、深さ8～16cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 TP99を含め、縄文土器片22点（深鉢）が確認面から出土している。

所見 時期は、出土遺物が少ないため判定するのは困難であるが、前期の可能性が考えられる。



第63図 第44号住居跡・出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP99	縄土器	深鉢	長石・石英	にんい黄橙	普通	平截竹管による平行沈線	確認面	

第45号住居跡（第64図）

位置 調査B区のC5j4区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

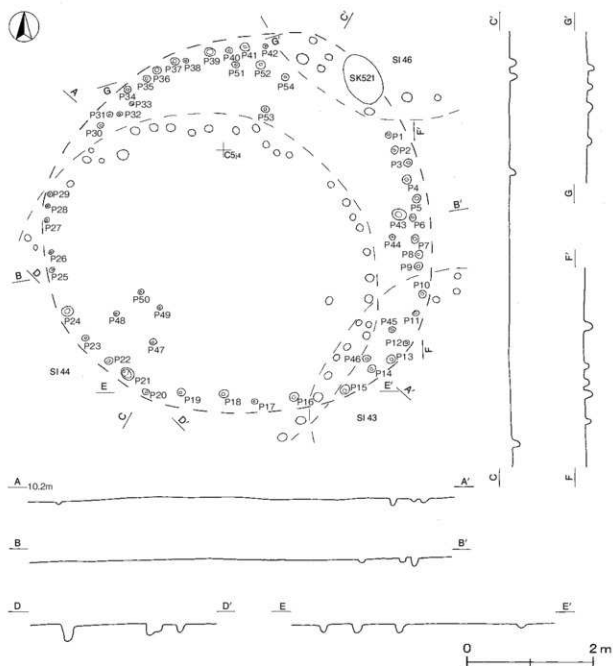
重複関係 第43・44・46号住居跡、第521号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、径6.4mほどの円形と推定される。

ビット 54か所。壁際のP1～P42は、深さ8～26cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格

が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第64図 第45号住居跡実測図

第46号住居跡 (第65・66図)

位置 調査B区のC54区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

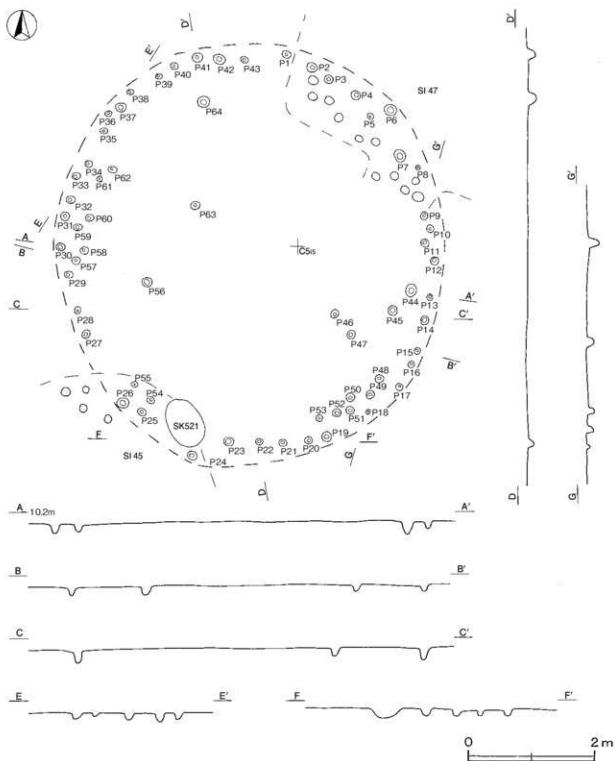
重複関係 第45・47号住居跡、第521号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 ビットの配置から、径6.8mほどの円形と推定される。

ピット 64か所。壁際のP1～P43は、深さ10～20cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 TP100・TP101を含め、縄文土器片13点（深鉢）が確認面から出土している。

所見 時期は、出土遺物が少ないため判定するのは困難であるが、前期の可能性が考えられる。



第65図 第46号住居跡実測図



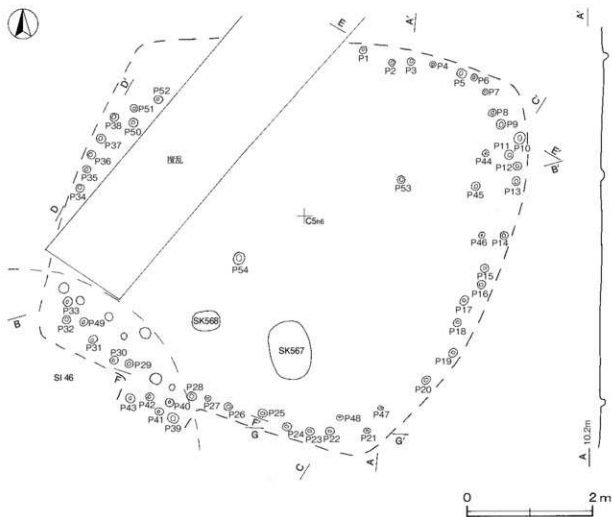
第66図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表 (第66図)

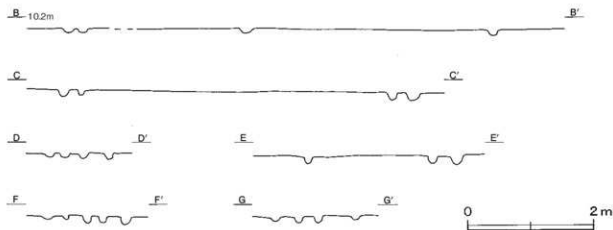
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP100	縄文土器	深鉢	長石・石英	にじみ・濃黒	普通	平織竹管による平行沈線や波状文	確認面	
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にじみ・濃黒	普通	櫛歯状工具による平行沈線文	確認面	

第47号住居跡 (第67・68図)

位置 調査B区のC5h5区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第67図 第47号住居跡実測図1)



第68図 第47号住居跡実測図2)

重複関係 第46号住居跡、第567・568号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。北西部が擾乱を受けている。

規模と形状 ビットの配置から、長軸6.9m、短軸6.6mの方形と推定される。0.5mほどの出入口と思われる張り出し部をもつ。主軸方向はN-22°-Eである。

ビット 54か所。壁際のP1～P38は、深さ6～16cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P39～P43は出入口部と考えられるが、詳細は不明である。P44～P52は柱穴の内側をまわっており、住居の重複と考えられるが、詳細は不明である。その他は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。

第48号住居跡 (第69図)

位置 調査B区のD5c4区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 南西部が調査区域外に延びている。

規模と形状 遺存する壁から、径3.7mほどの円形と推定される。壁高は5～10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

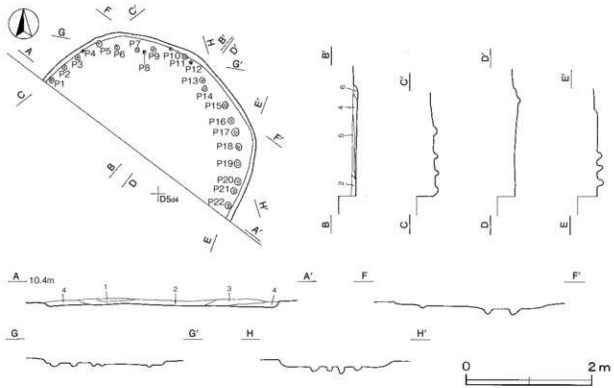
ビット 22か所。壁際に配置され、柱穴と考えられる。深さは4～11cmである。

覆土 6層に分層される。層厚が薄いため堆積状況の判断は困難であるが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子少量 | 5 灰褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |

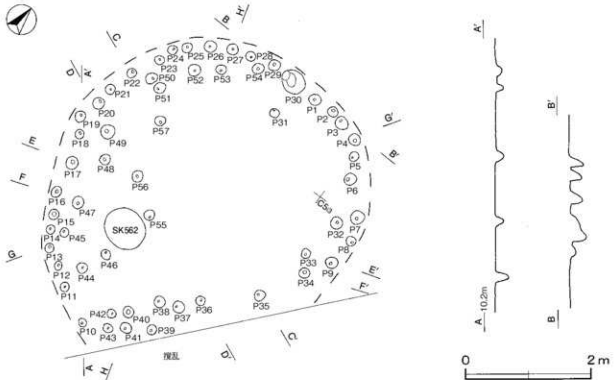
所見 時期は、遺物が出土していないため判定するのは困難であるが、前期の可能性が考えられる。



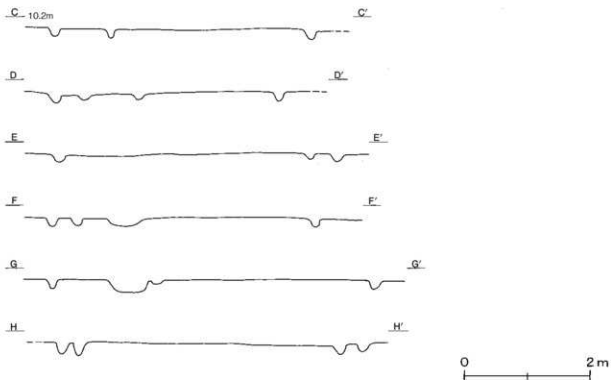
第69図 第48号住居跡実測図

第49号住居跡 (第70・71図)

位置 調査B区のC5区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第70図 第49号住居跡実測図1)



第71図 第49号住居跡実測図2)

重複関係 第562号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。南東部が擾乱を受けている。

規模と形状 ビットの配置から、径5.4mほどの円形と推定される。

ビット 57か所。壁際のP1～P30は、深さ8～24cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。

第50号住居跡 (第72図)

位置 調査B区のC5区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

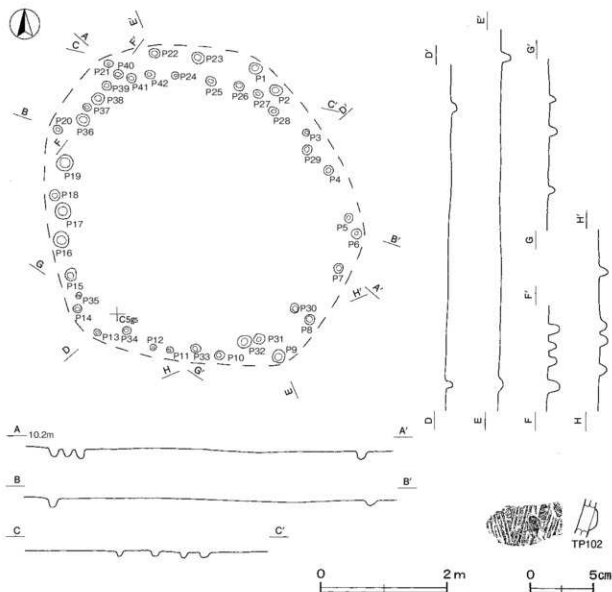
確認状況 覆土がなく、ビットだけが確認された。

規模と形状 ビットの配置から、径5.5mほどの円形と推定される。

ビット 42か所。壁際のP1～P23は、深さ8～16cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 TP102を含め、縄文土器片95点(深鉢)、剥片1点、礫1点が確認面から出土している。土器はほとんどが細片である。

所見 時期は、出土土器は細片が多いため明確でないが、前期の可能性が考えられる。



第72図 第50号住居跡・出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	集合洗線文 棒状筋付文	確認面	

第51号住居跡（第73図）

位置 調査B区のC5g2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

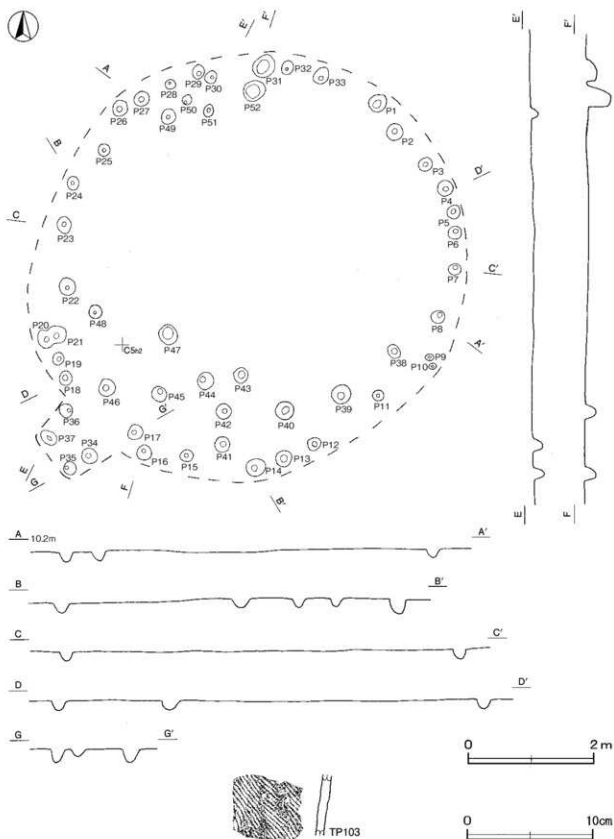
確認状況 覆土がなく、ビットだけが確認された。

規模と形状 ビットの配置から、長径7.0m、短径6.6mで、0.8mほどの張り出し部をもつ柄鏡形と推定される。主軸方向はN-42°-Eである。

ビット 52か所。壁際のP1～P33は、深さ10～38cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P34～37は出入口部と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 TP103を含め、縄文土器片12点が確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため判定するのは困難であるが、縄文時代と考えられる。



第73図 第51号住居跡・出土遺物実測図

第51号住居跡出土物観察表 (第73図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にじみ・垂れ	普通	無銘縄文 r	確認面	

第52号住居跡 (第74図)

位置 調査B区のC 5e1区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

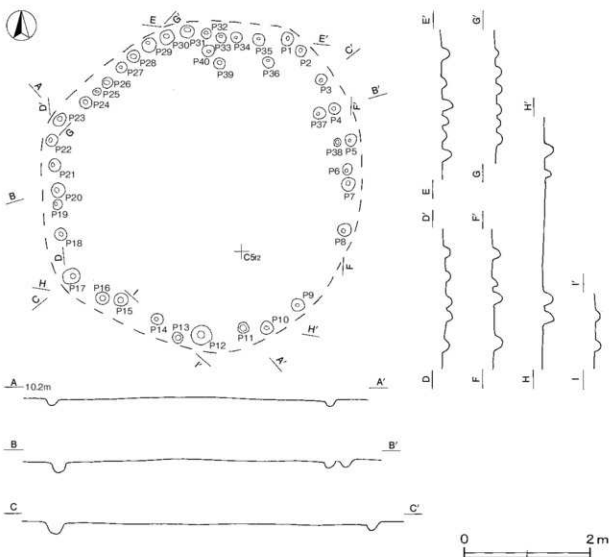
確認状況 覆土がなく、ピットだけが確認された。

規模と形状 ピットの配置から、径5.5mほどの円形と推定される。

ピット 40か所。壁際のP1～P35は、深さ6～18cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

遺物出土状況 礫1点が確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器がないため明確でないが、縄文時代と考えられる。



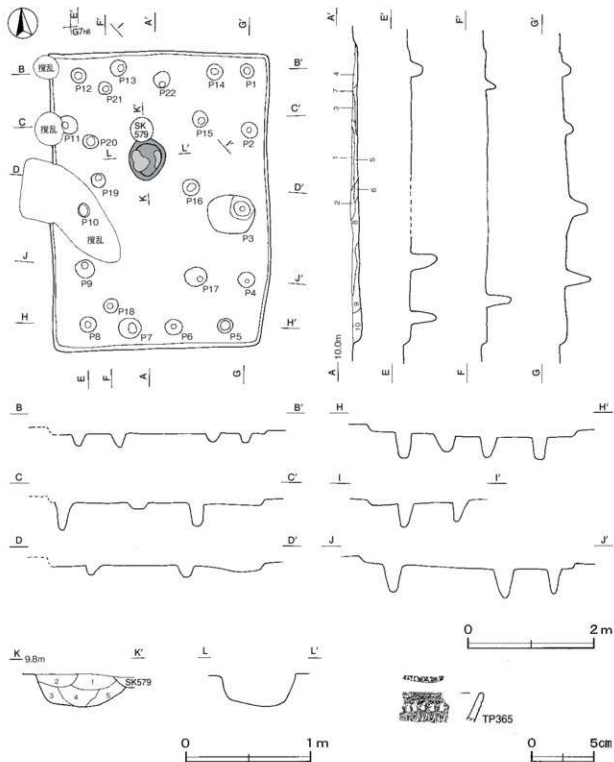
第74図 第52号住居跡実測図

第53号住居跡 (第75図)

位置 調査A区のG7h8区、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第579号土坑に掘り込まれている。西部の一部が擾乱を受けている。上層に第3号遺物包含層が位置している。

規模と形状 長軸4.78m、短軸3.49mの長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は3~15cmで外傾し



第75図 第53号住居跡・出土遺物実測図

で立ち上がっている。

床 は平坦である。

ピット 22か所。壁際のP1～P14は深さ12～44cmで、柱穴と考えられる。その他は性格が不明である。

炉 中央部よりやや北側に位置している。長径68cm、短径58cmの楕円形で、床面を25cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	にぶい赤褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量	3	赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック微量
2	赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	4	赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
			5	赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量

覆土 10層に分層される。ロームブロックや焼土ブロック等を多く含むことから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	灰褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック少量	9	褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	10	灰褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片47点（深鉢）が覆土及びピットから出土しているが、土器片は細片である。TP365は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器は細片が多いため明確でないが、前期と考えられる。

第53号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP365	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部にキザミ、口辺部に平縁竹管による爪形文及び沈線文	覆土中	

第54号住居跡（第76図）

位置 平成17年度調査区のH 8g9区で、標高9mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.50m、短径3.06mの楕円形で、長径方向はN-73°-Wである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。壁高は15cmである。

床 緩やかな凹み状になっている。中央部から南東方向にかけて硬化面が見られる。

ピット 4か所。性格は不明である。

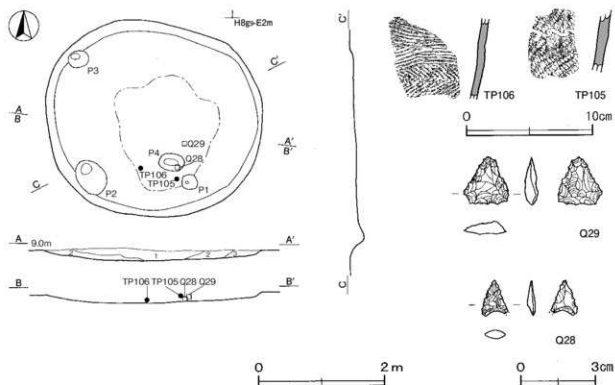
覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量			

遺物出土状況 縄文土器片41点（深鉢）、石器2点（石鏃）、剥片5点、礫1点が出土している。TP106、Q28は覆土下層、TP105、Q29は覆土中層から出土している。土器はほとんどが細片である。

所見 時期は、出土土器は細片が多いため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第76図 第54号住居跡・出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐色	普通	結節を持つ単節縄文L&R結節文	覆土中層	
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	暗褐色	普通	羽状縄文 上部鐘面状工具による横位縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	石鏃	1.4	1.0	0.32	0.4	チャート	円基無茎鏃 基部中央が浅く彎入	覆土下層	PL43
Q29	石鏃	1.9	1.8	0.5	1.7	チャート	円基無茎鏃	覆土中層	

表2 縄文時代整穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 （遺構四角部 古・新）
				長軸(併)	短軸(併)				柱穴	出入口	その他	竈・炉			
1	E 6a3	-	[円形]	[4.30]×[4.20]	-	-	-	11	-	-	炉1	-	縄文土器片・石器	SI 2・3、SK36-37	
2	E 6a3	-	[円形]	[5.20]×[5.20]	-	-	-	8	-	-	炉1	-	縄文土器片	SI 1・3・4、SK38、SD 2	
3	E 6a3	-	[円形]	[3.40]×[3.40]	-	-	-	6	-	-	-	-	縄文土器片	SI 1・2・4、SD 2	
4	F 6a3	N-7°-W	長方形	5.06×4.00	20~25	平坦	-	7	-	15	炉4	人為	縄文土器片・石器	本跡・SI2-3→第1号地点片等、SD 2	
5	F 6a4	-	[円形]	[5.10]×[1.96]	-	-	-	5	-	-	-	-			
7	F 6c7	-	[円形]	[5.80]×[3.43]	-	-	-	5	-	6	-	-	縄文土器片・石器	SK42-47	
8	G 7d8	N-11°-W	方形	3.58×3.46	12~14	平坦	-	19	-	-	-	人為	縄文土器片・石器	SI 12→本跡	
9	G 7e4	-	円形	3.50×3.36	3~9	平坦	-	23	-	-	炉1	人為	縄文土器片	SI 10→本跡→SK333~335、338~339	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)	
				長軸(往)×短軸(往)				柱穴	出入口	その他	竈・炉				
10	G 7 f4	N-18°-E	[楕円形]	6.32×5.31	8	平坦	-	13	-	10	炉4	人為	縄文土器片・土製品	SI11→E群→SI3 219-228-249-255	SK195
11	G 7 g5	-	[円形]	5.40×(4.96)	4~6	平坦	-	24	-	27	-	不明	縄文土器片・石器 土製品	本群→SI10-SK319-319- 251-332 第8号ピット	
12	G 7 d7	N-17°-E	[長方形]	3.68×3.31	16	平坦	-	17	-	17	-	不明	縄文土器片・土製品	本群→SI 8	
14	G 7 h0	N-10°-E	長方形	4.36×3.30	24~30	平坦	-	25	-	13	-	人為	縄文土器片・石器	本群→第3号遺物包 付属	
17	H 8 d5	-	[円形]	[4.80]×[4.80]	-	-	-	20	-	6	炉1	-	縄文土器片		
18	D 6 i3	-	[円形]	[4.70]×[4.70]	-	-	-	16	-	1	-	-			SK426-532-553-555
19	D 6 h2	N-44°-E	[納輪形]	[5.00]×[4.50] 張り部(0.9)	-	-	-	19	-	4	-	-	縄文土器片・石器		SI20-21, SK427
20	D 6 g2	-	[円形]	[6.30]×[5.00]	-	-	-	29	-	1	-	-			SI19-21-23-24, SK427=431
21	D 6 g2	N-90°-E	[楕円形]	[7.30]×[6.20]	-	-	-	31	-	2	-	-			SI19-20-23-24 SK片8=431
22	D 5 h9	N-55°-W	[楕円形]	[6.60]×[5.30]	-	-	-	26	-	28	-	-			SK432-433
23	D 6 i3	-	[円形]	[4.00]×[4.00]	-	-	-	22	-	7	-	-			SI20-21-24
24	D 6 f2	N-0°	[楕円形]	[6.80]×[5.80]	-	-	-	35	-	15	-	-			SI20-21-23
25	D 6 e2	-	[円形]	[4.90]×[4.90]	-	-	-	23	-	27	-	-	縄文土器片・石器		SI28, SK434
26	D 6 e1	-	[円形]	[4.80]×[4.40]	-	-	-	32	-	12	-	-	縄文土器片		SI25, SK436-517, 第14号ピット
27	D 5 e8	-	[円形]	[5.50]×[5.50]	-	-	-	37	-	22	-	-	縄文土器片・石器		SK533-534-540-556 ~558
28	D 5 e6	N-55°-W	方形	3.62×3.58	8~24	平坦	-	18	-	-	炉2	人為	縄文土器片・石器		
29	D 6 e1	N-0°	[楕円形]	[5.00]×[4.50]	-	-	-	22	-	16	-	-			
30	D 6 i2	-	[円形]	3.80×(2.08)	5~8	平坦	-	13	-	6	-	不明	縄文土器片・石器		
31	C 6 g1	-	[円形]	[5.23]×[3.35]	-	-	-	18	-	3	-	-			SI22, SK566
32	C 5 h9	-	[円形]	[5.60]×(3.88)	-	-	-	15	-	3	-	-			SI31, SK561-563
33	C 5 d8	N-46°-E	[楕円形]	[7.90]×[6.80]	-	-	-	17	-	40	-	-	縄文土器片		SK493
34	C 5 e7	N-36°-W	[楕円形]	[5.60]×[4.90]	-	-	-	30	-	3	-	-	縄文土器片		
35	C 5 h8	-	[円形]	[6.40]×(5.65)	-	-	-	17	-	11	-	-	縄文土器片		SK36-37
36	C 5 a7	N-1°-W	[楕円形]	[5.50]×(4.31)	-	-	-	16	-	-	-	-			SK35-37
37	C 5 b7	N-3°-E	[楕円形]	[6.60]×[5.60]	-	-	-	27	-	7	-	-	縄文土器片		SK35-36
38	B 5 j6	N-50°-E	[納輪形]	[6.60]×[6.20] 張り部[1.7]	-	-	-	37	7	4	-	-			
39	B 5 g5	N-46°-E	[納輪形]	[7.00]×[3.20] 張り部[1.5]	-	-	-	14	4	4	-	-			
40	C 5 e2	-	[円形]	[6.20]×[6.20]	-	-	-	35	-	7	-	-			SI41, SK518
41	C 5 e2	-	[円形]	[4.20]×[4.20]	-	-	-	21	-	2	-	-			SI40, SK518

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸(径)×短軸(径)	埋高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
								柱穴	出入口	その他	竈・炉			
43	D 5 a 5	N-18°-W	[楕円形]	[6.90]×[5.40]	-	-	-	31	-	13	-	-	縄文土器片	SI44-45, SK359-560-569-570
44	C 5 j 3	-	[円形]	[6.00]×[5.60]	-	-	-	35	-	6	-	-	縄文土器片	SI43-45
45	C 5 j 4	-	[円形]	[6.40]×[6.40]	-	-	-	42	-	12	-	-		SI43-44-46, SK321
46	C 5 j 4	-	[円形]	[6.80]×[6.20]	-	-	-	43	-	21	-	-	縄文土器片	SI45-47, SK321
47	C 5 h 5	N-22°-E	[方形]	[6.90]×[6.60] [張出部0.5]	-	-	-	38	5	11	-	-		SI46, SK367-368
48	D 5 e 4	-	[円形]	3.70×(1.78)	5~10	平坦	-	22	-	-	-	-	自然	
49	C 5 i 2	-	[円形]	[5.40]×[4.54]	-	-	-	30	-	27	-	-		SK562
50	C 5 i 5	-	[円形]	[5.50]×[5.50]	-	-	-	23	-	19	-	-	縄文土器片	
51	C 5 g 2	N-42°-E	[楕円形]	[7.00]×[6.60] [張出部0.8]	-	-	-	33	4	15	-	-	縄文土器片	
52	C 5 e 1	-	[円形]	[5.48]×[5.40]	-	-	-	35	-	5	-	-	礎	
53	G 7 h 8	N-3°-W	長方形	4.78×3.49	3~15	平坦	-	14	-	8	和1	人為	縄文土器片	本誌→SK579, 第3号遺物包含層
54	H 8 g 9	N-73°-W	楕円形	3.50×3.06	15	凹状	-	-	-	4	-	-	自然	縄文土器片・石器

(2) 炉跡

縄文時代と考えられる炉跡2基が確認されている。以下、確認された遺構及び遺物について記載する。

第1号炉跡（第77図）

位置 平成17年度調査区I 9 d5区、標高9.5mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでおり、下層に第1号石器集中地点が位置している。

規模と形状 長径0.58m、短径0.56mの円形である。底面は皿状で、確認面からの深さは17cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。



第77図 第1号炉跡実測図

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量

所見 時期は、遺物が出土していないため明確にできないが、縄文時代の炉と考えられ、住居の規模は不明である。

第2号炉跡（第78図）

位置 平成17年度調査区I 9 b3区、標高9.5mの台地上に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでおり、下層に第1号石器集中地点が位置している。

規模と形状 長径0.60m、短径0.55mの円形である。底面は皿状で、確認面からの深さは20cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

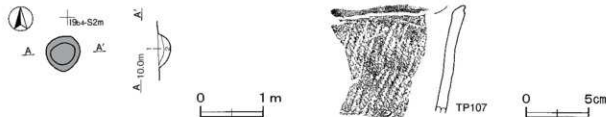
覆土 2層に分層される。ロームブロックや焼土を含むことから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物微量 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 TP107を含む、縄文土器片4点(深鉢)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第78図 第2号炉跡・出土遺物実測図

第2号炉跡出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP107	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	橙	普通	1.1辺部に横位沈線文 側部は半節縄文L	覆土中	

表3 縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	層面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)							
1	19a5	-	円形	0.58×0.56		17	緩斜	皿状	自然		第1号石器集中地点、第1号遺物包含層→本跡
2	19b3	-	円形	0.60×0.55		20	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	第1号石器集中地点、第1号遺物包含層→本跡

(3) 陥し穴

縄文時代と考えられる陥し穴1基が確認されている。ここでは確認された遺構及び遺物を記載する。

第1号陥し穴(第79図)

位置 平成17年度調査区19a2区の標高9mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層及び第1号石器集中地点を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.90m、短径0.79mの楕円形である。底面は皿状を呈し、確認面からの深さは134cmである。

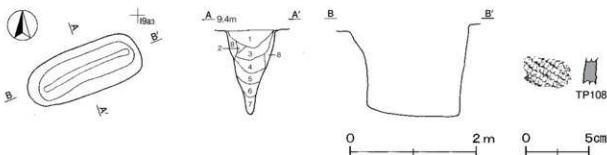
覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 6 黒褐色 ローム粒子中量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 7 褐色 ロームブロック中量
 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 8 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)、剥片1点が出土しているが、土器片はいずれも細片であり、混入した可能性が高い。TP108は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器が細片のため明確でないが、縄文時代と考えられる。



第79図 第1号陥し穴・出土遺物実測図

第1号陥し穴出土遺物観察表(第79図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP108	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	にじみ赤褐色	普通	単節縄文RL	覆土中	

表4 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)							重埋関係(古→新)
1	1 9-a2	N-73°-E	楕円形	190×079		134	外傾	皿状	自然	縄文土器片・剥片	第1号石器集中地点、第1号遺物区(古層→本跡)

(4) 土坑

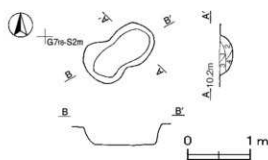
縄文時代と考えられる土坑は、4基確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記載する。

第298号土坑(第80・81図)

位置 調査A区のG78区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.19m、短径0.70mの不定形で、長径方向はN-57°-Eである。底面は平坦で、確認面からの深さは30cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。ロームブロックを含む不均質な体積状況を示す人為堆積である。



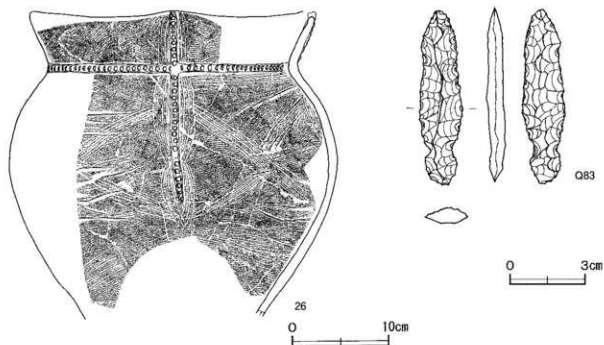
土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片39点(深鉢)、石器1点(尖頭器)、剥片1点が出土している。P26は覆土中から出土している。Q83は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。

第80図 第298号土坑実測図



第81図 第298号土坑出土遺物実測図

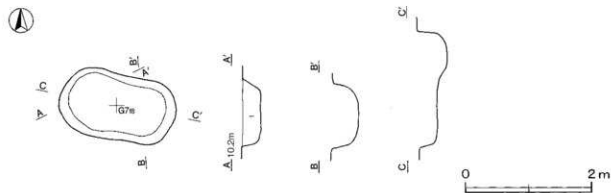
第298号土坑出土遺物観察表 (第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
26	縄文土器	深鉢	[29.6]	(32.2)	—	長石・石英・非色 粘土	にぶい陶	普通	地文は無節縄文で、 下に縄文を有する隆帯文。胴部に半 截竹管による平行沈線文。	覆土中	30% PL34
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q83	尖頭器	6.9	1.7	0.7	7.8	頁岩	縁辺部に押圧潤滑を施す	先端部は丸みを帯びる	覆土中	PL43	

第322号土坑 (第82・83図)

位置 調査A区のG7e7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.84m、短径1.08mの楕円形で、長径方向はN-70°-Wである。底面は平坦で、深さは28～48cmである。壁は外傾して立ち上がっている。



第82図 第322号土坑実測図

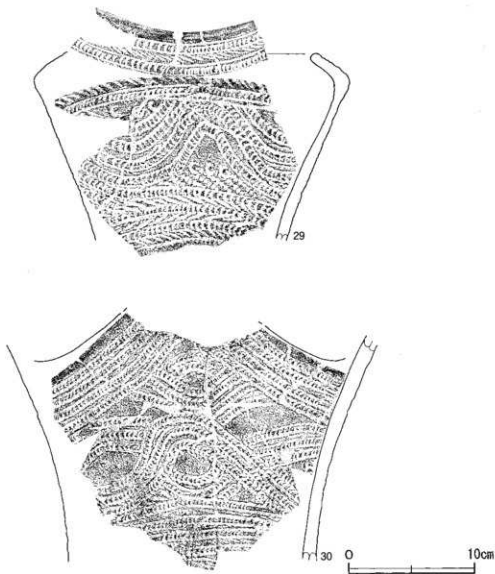
覆土 単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片190点（深鉢）、礫5点が出土している。29、30は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第83図 第322号土坑出土遺物実測図

第322号土坑出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
29	縄文土器	深鉢	[200]	(15.0)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	胴部の地文は単節縄文30、手織竹管による結節平行沈線文、口管による縦突文とギザミを充飾	覆土中	10% P132
30	縄文土器	深鉢	-	(19.7)	-	長石・石英・白色砂子・赤色砂子	明赤褐色	普通	胴部の地文は横赤文、手織竹管による結節平行沈線文	覆土中	30% P132

第332号土坑 (第84図)

位置 調査A区のG7j6区、標高10.1mほどの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.15m、短軸0.77mの不定形で、長軸方向はN-1°-Eである。深さは42cmで、底面南部に深さ14cmのピットが確認されている。壁は外傾して立ち上がっている。

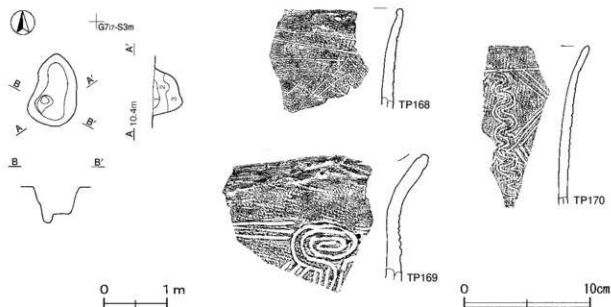
覆土 3層に分層される。焼土ブロックや炭化物をふくむ人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片173点(深鉢)、石器3点(打製石斧1、磨石2)、剥片1点が出土している。TP168～TP170は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第84図 第332号土坑・出土遺物実測図

第332号土坑出土遺物観察表 (第84図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP168	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	沈痾区両帯内単節縄文RL光墳	覆土中	
TP169	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	溝部直下に沈痾による逆巻文 1) 1) 1) 3本の平行沈痾文 地文は単節縄文RL	覆土中	PL39
TP170	縄文土器	深鉢	長石・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	普通	1) 1) 1) 3本の平行沈痾文 1) 1) 1) 3本のコンパス文と平行沈痾文 地文は単節縄文RL	覆土中	PL39

第374号土坑 (第85図)

位置 調査A区のG7j6区、標高10mほどの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 径0.40mの円形である。底面は皿状で、深さは23cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

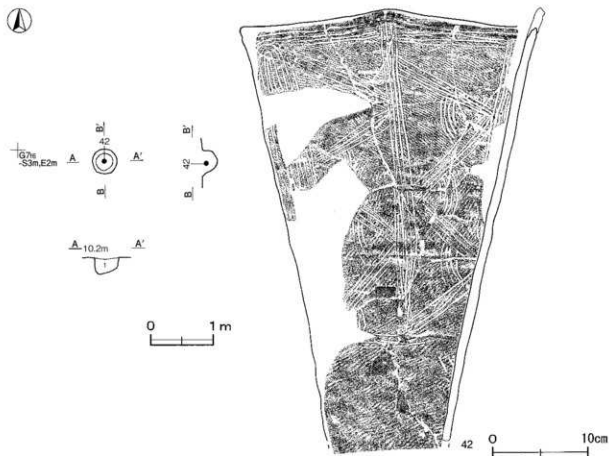
覆土 単一層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片15点(深鉢)が覆土中から出土している。42は覆土上層から横位でつぶれて出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第85図 第374号土坑・出土遺物実測図

第374号土坑出土遺物観察表(第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
42	縄文土器	深鉢	[31.6]	(45.5)	-	長石・石英・赤色 粒子	明褐色	普通	胴部上部は単節縄文RL。下部はLRを 地文とする。4本を単位とする沈線 で文様編出	覆土中	60% PL33

表5 縄文時代土坑一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規模(m)		深さ(m)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時 期	備考 重複箇所 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	幅							
298	G 7 8	N-57°-E	不定形	1.19×0.70	30	外傾	平坦	人為	縄文土器片・尖頭器	後期前半		
322	G 7 e7	N-70°-W	楕円形	1.84×1.08	28~48	外傾	平坦	不明	縄文土器片	前期後半		
332	G 7 j6	N-1°-E	不定形	1.15×0.77	42~56	外傾	平坦	人為	縄文土器片	後期前半		
374	G 7 8	-	円形	0.40×0.40	23	外傾	皿状	不明	縄文土器片	後期前半		

(5) ビット

縄文時代と考えられるビットは、14基確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記載する。

第1号ビット（第86図）

位置 調査A区のG7d2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第119号土坑を掘り込んでいる。

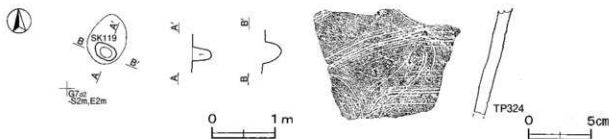
規模と形状 長径0.35m、短径0.23mの楕円形で、長径方向はN-57°-Wである。底面は皿状で、深さは27cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説
I 黒色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片7点（深鉢）が覆土中から出土している。TP324は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。



第86図 第1号ビット・出土遺物実測図

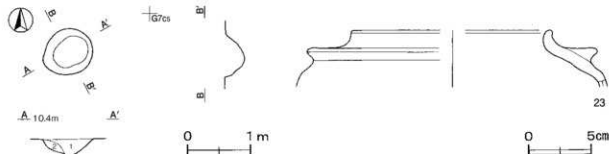
第1号ビット出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP324	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐色	普通	楕円状工具による条線文	覆土中	

第2号ビット（第87図）

位置 調査A区のG7c4区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.82m、短径0.72mの楕円形で、長径方向はN-60°-Eである。底面は皿状で、確認面からの深さは31cmである。壁は外傾して立ち上がっている。



第87図 第2号ビット・出土遺物実測図

覆土 2層に分層される。ローム粒子や粘土粒子を含み、埋め戻された人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片20点(深鉢19, 浅鉢1)が出土している。P23は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。

第2号ピット出土遺物観察表(第87図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
23	縄文土器	鉢	[156]	(45)	-	長石・石英	にぶ・黄褐色	普通	無文 研磨	覆土中	5%

第3号ピット(第88図)

位置 調査A区のG7f8区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.60m、短径0.55mの円形である。底面は皿状で、深さは42cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ローム粒子を含み、埋め戻された人為堆積と考えられる。

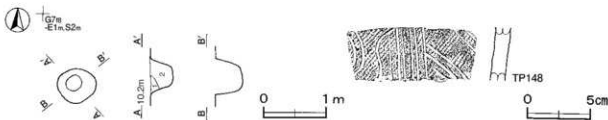
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢、剥片1点、碟1点)が出土している。TP148は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第88図 第3号ピット・出土遺物実測図

第3号ピット出土遺物観察表(第88図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP148	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	帯筋縄文LRを地文 半截竹管による沈線文	覆土中	

第4号ピット(第89図)

位置 調査A区のG7g0区、標高9.2mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.53m、短径0.41mの楕円形で、長径方向はN-63°-Eである。底面は皿状で、深さは41cmである。壁は南部がほぼ直立し、他は外傾して立ち上がっている。

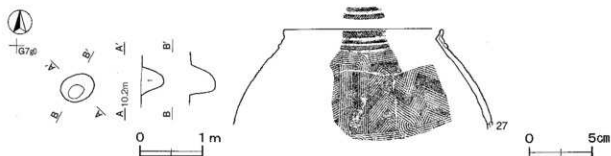
覆土 単一層である。

土層解説

1 黒色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢6, 注口1)が出土している。27は覆土中から出土している。

所見 細片が多く、時期を判定するのは困難であるが、後期と考えられる。



第89図 第4号ピット・出土遺物実測図

第4号ピット出土遺物観察表(第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
27	縄文土器	注口土器(126)	(7.9)	-	-	長石	黄褐色	普通	11特部直下にて2本の沈線文、斜り返し11返、7本1組の沈線文で文様を構成	覆土中	10% PL36

第5号ピット(第90図)

位置 調査A区のG77区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.70m、短径0.60mの楕円形で、長径方向はN-88°-Wである。底面は皿状で、深さは42cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを多く含み、埋め戻された人為堆積と考えられる。

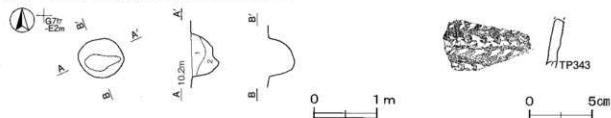
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片47点(深鉢)、剥片1点、鏝3点が出土している。TP343は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第90図 第5号ピット・出土遺物実測図

第5号ピット出土遺物観察表(第90図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP343	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	ふい・褐色	普通	半截竹管による三角文	覆土中	

第6号ピット (第91図)

位置 調査A区のG 8 g1区、標高9.9mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 径0.45mの円形である。底面は皿状で、深さは31cmである。壁はほぼ直立している。

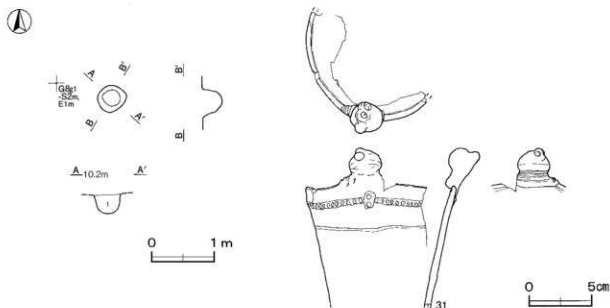
覆土 単一層である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)、剥片1点が出土している。31は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第91図 第6号ピット・出土遺物実測図

第6号ピット出土遺物観察表 (第91図)

番号	種別	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
31	縄文土器	深鉢	(11.6)	(12.7)	-	長石・石英	黄灰	普通	口唇部に突起 キヤミを有する隆帯 文型粘直下にある字状胎付文	覆土中	30% PL34

第7号ピット (第92図)

位置 調査A区のG 8 j3区、標高9.8mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.68m、短径0.51mの楕円形で、長径方向はN-53°-Wである。底面は皿状で、深さは25cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

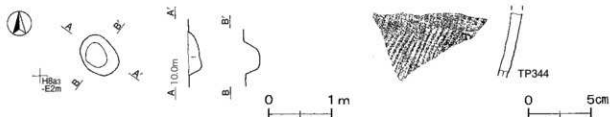
覆土 単一層である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)が出土している。TP344は覆土中から出土している。

所見 細片が多いため、時期を判定するのは困難であるが、後期の可能性が考えられる。



第92図 第7号ピット・出土遺物実測図

第7号ピット出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP344	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・褐	普通	単線縄文LR	覆土中	

第8号ピット (第93図)

位置 調査A区のG7g5区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第11号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.87m、短径0.59mの楕円形で、長径方向はN-33°-Wである。底面は皿状で、深さは68cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

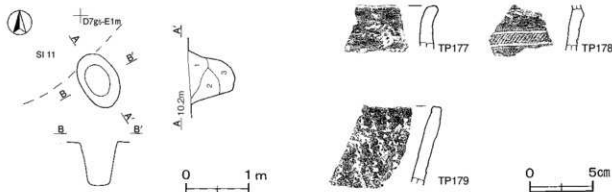
覆土 3層に分層される。ブロック状に堆積している人為堆積である。

土層解説

- 1 層 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 3 層 褐色 ロームブロック少量
 2 層 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片120点(深鉢)が出土している。TP177・TP179は混入したものである。TP178は覆土中から出土している。

所見 時期は、前期と後期の土器片が混在しているが、後期前半と考えられる。



第93図 第8号ピット・出土遺物実測図

第8号ピット出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP177	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	波状貝殻文	覆土中	
TP178	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	隆帯上にキザミ 沈瀬区両帯内単線縄文LR光景	覆土中	
TP179	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	貝殻散緑文	覆土中	

第9号ピット (第94図)

位置 調査A区のG 7f7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.65m、短径0.41mの楕円形で、長径方向はN-75°-Wである。底面は皿状で、深さは33cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

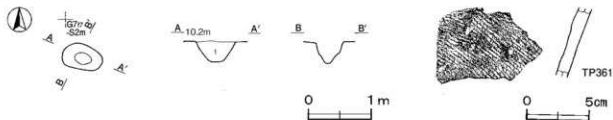
覆土 単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片18点(深鉢)が出土している。TP361は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。



第94図 第9号ピット・出土遺物実測図

第9号ピット出土遺物観察表 (第94図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP361	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	無筋縄文r	覆土中	

第10号ピット (第95図)

位置 調査A区のG 7f7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.75m、短径0.72mの円形である。底面は皿状で、深さは36cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ブロック状に堆積している人為堆積である。

土層解説

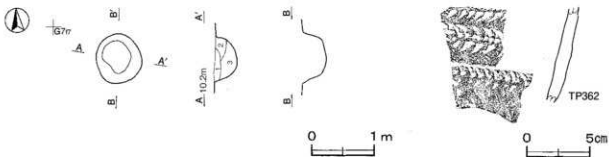
1 褐色 ロームブロック微量

3 褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片50点(深鉢)、剥片1点、礫1点が出土している。TP362は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第95図 第10号ピット・出土遺物実測図

第10号ピット出土遺物観察表 (第95図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP362	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	普通	半截竹管による三角文	覆土中	

第11号ピット (第96図)

位置 調査A区のG7f7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第379・380号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.65m、短径0.53mの楕円形で、長径方向はN-87°-Wである。底面は平坦で、深さは32cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを多く含み、ブロック状に堆積している人為堆積である。

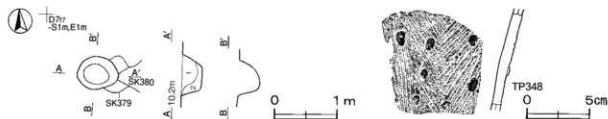
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)が出土している。TP348は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第96図 第11号ピット・出土遺物実測図

第11号ピット出土遺物観察表 (第96図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP348	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	縦方向及び斜行した集合沈線上にボタン状胎付文	覆土中	

第12号ピット (第97図)

位置 調査A区のG7e7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.42m、短径0.30mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。底面は皿状で、深さは34cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ブロック状に堆積している人為堆積である。

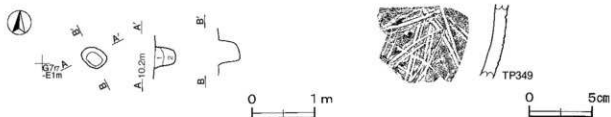
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)が出土している。TP349は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第97図 第12号ピット・出土遺物実測図

第12号ピット出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP349	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	平織竹管による平行沈織文	覆土中	

第13号ピット（第98図）

位置 調査A区のG7g7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 径0.27mの円形である。底面は皿状で、深さは37cmである。壁は直立している。

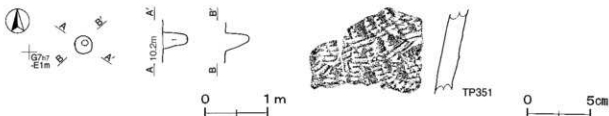
覆土 単一層である。

土層解説

1 増 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片24点（深鉢）が出土している。TP351は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第98図 第13号ピット・出土遺物実測図

第13号ピット出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP351	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐色	普通	具段段線文	覆土中	

第14号ピット（第99図）

位置 調査B区のD6c1区、標高10.3mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第26号住居跡と重複しているが、住居跡に覆土がないため、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.60m、短径0.46mの楕円形で、長径方向はN-2°-Wである。底面は平坦で、深さは17cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを含み、埋め戻された人為堆積と考えられる。

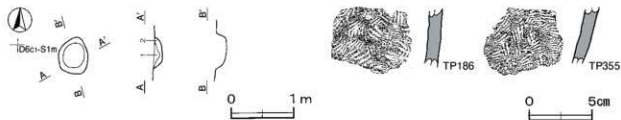
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。TP186・TP355は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第99図 第14号ピット・出土遺物実測図

第14号ピット出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	胎土	色調	地文	文様の特徴	出土位置	備考
TP186	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐色	普通	貝殻押捺文	覆土中	
TP355	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・繊維	にぶい黄褐色	普通	貝殻押捺文	覆土中	

表6 縄文時代ピット一覧表

番号	位置	形状	規模(m)		深さ(cm)	主な出土遺物	時期	備考
			長径×短径					重複関係(古→新)
1	G 7 d2	楕円形	0.35×0.23		27	縄文土器片	後期	SK119→本跡
2	G 7 c4	楕円形	0.82×0.72		31	縄文土器片	後期	
3	G 7 8	円形	0.60×0.55		42	縄文土器片	後期前半	
4	G 7 g0	楕円形	0.53×0.41		41	縄文土器片	後期	
5	G 7 f7	楕円形	0.70×0.60		42	縄文土器片	前期後半	
6	G 8 g1	円形	0.45×0.45		31	縄文土器片	後期前半	
7	G 8 j3	楕円形	0.68×0.51		25	縄文土器片	後期	
8	G 7 g5	楕円形	0.87×0.59		68	縄文土器片	後期前半	SI11→本跡
9	G 7 f7	楕円形	0.65×0.41		33	縄文土器片	前期	
10	G 7 f7	円形	0.75×0.72		36	縄文土器片	前期後半	
11	G 7 f7	楕円形	0.65×0.53		32	縄文土器片	前期後半	SK329-380→本跡
12	G 7 c7	楕円形	0.42×0.30		34	縄文土器片	後期前半	
13	G 7 g7	円形	0.27×0.27		37	縄文土器片	前期後半	
14	D 6 c1	楕円形	0.60×0.46		17	縄文土器片	前期前半	SI26

(6) 地点貝塚

縄文時代に形成されたと考えられる地点貝塚が2か所確認されている。

第1号地点貝塚（第100図、表7・8）

位置 調査A区のF6a3区、標高10.4mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 第4号住居跡の床面から確認面にかけて形成されている。貝層をA～Eのブロックに分け、1m単位の小区を単位とした。小区の呼称は南北にa～f・東西にあ～えとした。

規模と形状 南北軸3.9m、東西軸3.1mの不定形である。貝層の厚さは10～35cmである。

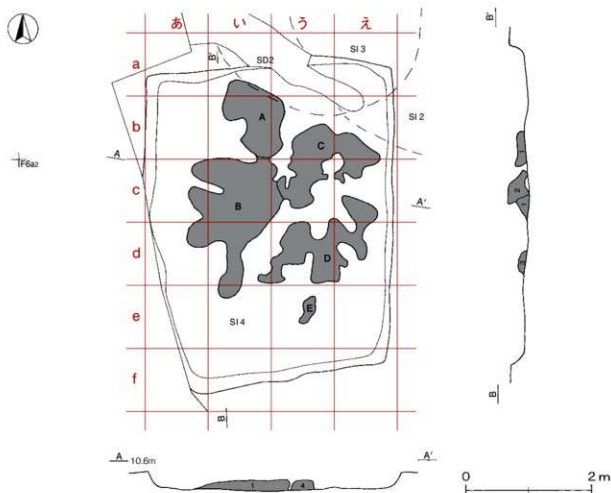
覆土 4層に分層される。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 泥土貝層、ローム粒子微量 | 3 暗褐色 泥土貝層、ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 泥土貝層、ロームブロック微量 | 4 暗褐色 泥土貝層、ロームブロック少量 |

遺物出土状況 貝層から検出された貝は、アサリ・マガキ・ナミマガシワガイ・サルボウ・ハイガイ・カガミガイ・オキシジミ・ハマグリ・バカガイ・オオノガイ・シオフキ・アカニシ・マテガイ・ヘナタリ・イボニシなど、すべて鹹水に生息する貝である。

所見 本跡の時期は、第4号住居跡の時期から縄文時代前期前半と考えられる。貝層と床面との間に覆土がほとんどないことから、住居廃絶直後に貝を投棄したものと思われる。



第100図 第1号地点貝塚実測図

表7 第1号地点貝塚出土貝種一覧表1

(単位:g)

プロック	エリア	深さ	アサリ	マガキ	ナミマガシガイ	サルボウ	ハイガイ	カガミガイ	オキシシ	ハマグリ	バカガイ	オソノガイ	シオフキ	マナガイ	アカニシ	ヘナドリ	イボニシ	その他	計		
A	a-i	0~10	389.4	-	192.9	185.3	55.4	-	12.2	-	19.4	-	219.4	-	-	-	-	991.7	2065.7		
		10~20	60.5	344.0	-	1.8	-	-	4.3	32.6	-	5.9	12.1	-	16.8	-	-	-	420.0	910.0	
	b-i	0~10	1490.0	1835.0	70.3	335.1	31.4	72.4	27.1	252.3	-	-	1306	-	-	2.9	-	-	3730.0	7977.1	
		10~20	1120.0	1220.0	34.6	330.0	8.9	91.2	31.0	230.0	-	89.7	111.6	-	25.9	-	-	-	2410.0	5702.9	
		20~30	33.8	35.0	12.5	-	8.1	-	-	3.8	-	-	6.6	1.7	-	-	-	-	51.3	152.8	
	b-y	0~10	740.0	1470.0	12.8	34.2	11.7	28.3	7.9	11.1	-	30.7	140.4	-	-	-	-	-	1800.0	4287.1	
		10~20	1070.0	50.5	16.7	30.0	3.9	76.9	20.8	48.7	-	-	167.6	-	-	0.7	-	-	1570.0	3055.8	
	B	c-a	0~10	57.0	36.0	116.0	132.0	391.0	9.0	54.0	48.0	-	36.0	34.0	-	-	-	-	-	1086.0	2516.0
			10~20	1090.0	64.0	180.0	78.0	770.0	20.0	190.0	-	-	120.0	80.0	-	-	-	-	-	970.0	3562.0
20~30			951.0	615.0	888.0	157.0	379.0	7.0	-	110.0	-	57.0	65.0	-	-	-	-	-	1366.0	4305.0	
c-i		0~10	1338.0	245.0	263.0	361.0	41.0	49.0	57.0	181.0	-	11.0	949.0	-	-	-	-	-	3210.0	6705.0	
		10~20	4750.0	380.0	310.0	850.0	1830.0	170.0	710.0	400.0	-	55.0	1280.0	16.0	33.0	3.0	4.7	4790.0	15381.7		
		20~30	1020.0	218.0	192.0	306.0	643.0	144.0	15.4	163.0	-	-	163.0	8.6	129.0	5.0	-	-	1130.0	4137.0	
c-y		0~10	625.0	92.5	46.8	68.0	38.3	3.3	1.7	-	-	1.1	152.2	-	-	-	-	-	832.0	1860.9	
		10~20	896.0	116.0	396.0	102.2	94.2	-	29.8	48.6	-	-	375.0	-	-	-	-	-	993.0	3050.8	
		20~30	381.0	66.9	132.5	21.1	18.1	9.7	18.3	58.3	-	-	98.5	4.9	-	-	-	-	408.0	1217.6	
d-a		0~10	337.9	-	38.9	83.5	-	-	25.9	-	-	-	249.1	-	-	-	-	-	696.5	1431.8	
		10~20	1674.0	146.3	441.6	824.2	35.9	-	40.4	180.5	55.1	-	859.4	-	38.2	-	-	-	3530.0	7825.6	
		20~30	1422.9	95.2	402.9	245.2	95.2	-	55.2	375.2	-	13.8	362.9	0.3	-	-	-	-	2050.0	5118.8	
d-i		0~10	860.0	360.0	190.0	40.0	270.0	180.0	270.0	180.0	-	-	310.0	0.3	-	1.0	-	-	1640.0	431.3	
		10~20	910.0	320.0	160.0	1350.0	610.0	90.0	120.0	270.0	40.0	-	220.0	9.2	130.0	3.2	-	-	1840.0	6092.4	
		20~30	184.6	90.0	290.0	360.0	48.4	24.6	14.6	95.9	60.1	-	51.0	1.7	12.8	1.1	-	-	750.0	1934.8	
e-i		0~10	106.0	34.0	322.0	115.0	65.0	-	11.0	18.0	-	2.5	35.0	-	-	-	-	-	343.0	1051.5	
		b-y	0~10	1.7	1100.0	79.4	3.2	-	-	-	7.5	-	-	-	-	-	-	-	-	769.0	1960.8
			10~20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20~30	67.9		2.9	-	4.4	-	-	-	17.6	-	-	-	-	-	-	-	-	736.0	828.8		
b-z	0~10	-	1520.0	90.0	-	-	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	-	-	130.0	1750.0		
	10~20	-	70.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	90.0	180.0		
	20~30	970.0	80.6	64.0	15.7	60.0	65.6	-	138.0	-	-	338.0	-	-	-	-	-	1050.0	2781.9		
c-z	0~10	790.0	629.0	62.0	104.0	440.0	18.0	-	87.0	-	24.0	220.0	-	-	-	-	-	1460.0	3825.0		
	d-z	0~10	85.0	126.0	12.7	225.0	-	10.0	-	13.3	-	25.1	53.9	-	-	-	-	-	610.0	1361.0	
		10~20	416.3	15.6	197.5	117.4	347.5	24.0	88.8	37.0	-	-	137.3	-	-	-	-	-	373.3	1754.7	
20~30		970.0	80.6	64.0	15.7	60.0	65.6	-	138.0	-	-	338.0	-	-	-	-	-	1050.0	2781.9		
d-y	0~10	30.0	20.0	110.0	60.0	1.0	-	-	5.7	-	70.0	1.6	-	-	-	-	-	197.0	495.3		
	10~20	11.6	49.0	105.0	272.0	42.0	11.8	33.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	257.0	781.4		
	20~30	18.9	-	7.9	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.9	37.6		
d-z	0~10	40.0	10.6	14.0	4.8	60.0	-	-	-	-	10.6	7.9	-	-	-	-	-	137.0	284.9		
	10~20	20.0	30.0	60.0	120.0	140.0	4.0	20.0	30.0	-	-	10.0	-	-	-	-	-	490.0	924.0		

プロット	エリア	深さ	アサリ	マガキ	ナマコ シオフキ	サルボウ	ハイガイ	カガミガイ	オキシジミ	ハマダリ	ハカガイ	オホノガイ	シオフキ	マテガイ	アサニシ	ヘサタリ	イボニシ	その他	計	
	d	10～20	500	300	900	1600	1100	50	240	290	-	-	130	-	-	-	-	-	4400	9510
		20～30	-	170	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70
E	e	0～10	-	-	40	150	-	-	-	-	-	-	62	-	-	-	-	-	243	495
	計		29845	13873	5871	76139	68306	11650	19380	32237	1852	6348	71833	433	5675	169	47	48560	128968	

※ 各層の貝殻は残存率が50%以上のものを集計したものである。

※ その他欄に記載されている重量は貝殻の残存率が50%未満の全ての貝殻を含んだものである。

表8 第1号地点貝塚出土貝種一覧表2

プロット	エリア	深さ	アサリ		シオフキ		ハイガイ		サルボウ		ハマダリ	
			個体数	大きさ(cm)	個体数	大きさ(cm)	個体数	大きさ(cm)	個体数	大きさ(cm)	個体数	大きさ(cm)
A	a	0～10	61	1.5～3.5	35	2.0～4.0	3	3.5～4.0	32	2.0～4.0	-	-
		10～20	3	3.0～3.5	13	2.0～3.5	-	-	3	2.0～3.0	1	4.0
		20～30	13	2.0～4.0	4	2.0～3.0	1	3.5	-	-	1	2.5
	b	0～10	215	2.5～4.0	16	3.0～4.5	5	2.5～3.5	16	2.5～5.5	39	2.5～6.0
		10～20	149	2.0～4.0	18	2.0～4.5	3	1.5～2.0	17	2.0～5.0	38	2.0～5.5
		20～30	13	2.0～4.0	4	2.0～3.0	1	3.5	-	-	1	2.5
b	0～10	128	2.5～4.0	16	3.0～4.0	2	2.5～3.5	3	2.0～4.5	5	2.0～4.0	
	10～20	178	2.0～3.5	20	2.5～4.5	1	2.5	3	2.5～4.5	6	2.0～4.5	
B	c	0～10	99	2.0～3.5	7	3.5	7	2.0	7	4.0	9	3.0～5.0
		10～20	170	2.0～4.0	10	2.5～4.5	87	2.0～4.5	7	3.0～4.5	6	2.5～6.0
		20～30	133	2.5～3.5	12	3.0～4.0	40	2.5	7	2.5～6.0	10	3.0～4.0
	c	0～10	206	2.0～4.0	145	2.5～4.0	10	2.0～2.5	15	1.5～4.5	19	2.0～6.0
		10～20	666	2.0～4.0	196	2.0～4.5	192	1.5～4.0	44	1.5～5.5	32	2.0～6.0
		20～30	157	2.0～4.0	22	2.0～4.0	73	2.0～4.5	13	2.0～5.0	21	2.0～6.0
	c	0～10	97	1.5～3.5	17	2.5～5.0	6	2.0～4.0	7	1.5～4.5	-	-
		10～20	143	2.0～4.0	48	2.5～4.0	25	1.5～2.5	6	2.5～4.5	4	3.5～5.5
		20～30	70	1.5～3.5	18	2.5～4.0	4	2.0	1	4.5	4	3.5～6.5
	d	0～10	57	2.0～3.5	25	2.5～4.5	7	2.0～3.5	-	-	-	-
		10～20	252	2.0～4.0	70	3.0～4.0	8	2.0～4.0	36	1.5～5.5	12	2.5～5.5
		20～30	253	2.0～3.5	63	2.5～4.5	6	1.5～5.0	15	2.5～5.0	16	2.0～6.0
30～40		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
d	0～10	155	1.5～3.5	37	2.0～4.5	47	1.5～3.5	4	2.5～4.5	23	2.5～5.0	
	10～20	136	2.0～4.0	24	2.0～4.0	48	2.0～6.0	69	1.5～6.0	21	2.0～5.0	
	20～30	30	2.5～4.0	7	3.0～3.5	9	2.5～3.5	17	2.0～6.0	10	2.5～7.0	
e	20～30	15	2.5～3.5	7	2.0～4.0	4	1.5～4.0	12	2.0～4.0	3	3.0～4.0	
	b	0～10	-	-	3	2.0～2.5	1	2.5	-	-	2	3.0
		10～20	376	2.0～4.0	42	2.5～4.0	16	2.0～4.5	2	2.0～5.0	30	2.0～5.0
20～30		129	2.0～3.5	18	2.5～4.0	-	-	1	3.0	3	2.5～4.0	
b	0～10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10～20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
c	0～10	17	2.5～3.5	18	2.5～4.0	2	2.5～3.0	3	2.0	14	2.5～5.0	
	10～20	102	2.0～3.5	17	3.0～4.5	5	2.0～3.0	15	3.0～4.5	7	4.0～5.0	
	20～30	172	2.0～4.0	49	2.5～4.5	11	2.0～3.5	2	2.0～4.0	14	2.5～5.5	

プロット	エリア	深さ	アサリ		シオフキ		ハイガイ		サルボウ		ハマグリ		
			個体数	大きさ(cm)	個体数	大きさ(cm)	個体数	大きさ(cm)	個体数	大きさ(cm)	個体数	大きさ(cm)	
D	cえ	0~10	123	20~40	32	2.5~4.5	34	1.5~4.0	5	20~4.5	7	2.5~5.0	
		0~10	68	20~40	5	1.5~4.0	-	-	14	20~5.0	1	4.5	
		10~20	60	20~40	30	2.0~4.5	4	2.5~4.5	52	20~4.0	3	20~5.0	
	dい	0~10	6	20~2.5	-	-	-	-	7	20~4.5	-	-	
		10~20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		20~30	27	2.5~3.5	5	3.0~4.5	10	2.0~3.5	18	20~5.5	8	2.5~7.0	
	dう	0~10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		10~20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		20~30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		30~40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	dえ	0~10	4	3.0~3.5	2	3.5	15	2.0~4.0	7	2.5~5.0	4	3.5~5.5	
		10~20	15	2.5~3.0	-	-	9	2.0~4.0	6	3.5~6.0	2	5.0	
		20~30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	E	eう	0~10	-	-	-	-	-	-	2	3.0~4.5	-	-
			10~20	151	1.5~3.5	26	2.5~4.5	33	2.0~5.5	129	1.5~6.0	10	2.0~5.0
20~30			85	2.5~5.0	14	3.0~4.0	4	3.0~4.5	33	2.0~6.0	4	3.0~6.0	
30~40			-	-	2	2.5~3.5	-	-	-	-	-	-	
計		4711		1093		732		630		389			

※ 表7の中で、特に重量及び個数の多いものを記載した。

※ 各層の貝殻の個体数を記載したものである。殻頂部の残っているもののみ記載したため、表7の重量とは直接比較できないものである。

第2号地点貝塚 (第101図)

位置 平成17年度調査区のI9d4区、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 第584号土坑内で確認され、第2号地点貝塚とした。

規模と形状 長径0.51m、短径0.28mの楕円形で、長径方向はN-22°-Eである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貝層の最も厚かったところは11cmである。

覆土 単一層である。

土層解説

1 黒褐色 混土貝層、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



11.9cm



第101図 第2号地点貝塚実測図

遺物出土状況 貝層からは、ヤマトシジミが検出された。その他は確認されなかった。

所見 土層観察状況から、土坑が廃絶され、土砂が中途まで堆積した後に貝を投棄したものと考えられる。時期は、出土土器がないため明確にできないが、縄文時代と考えられる。

No.	貝 種	個体数	重さ(g)	大きさ(cm)	備 考	No.	貝 種	個体数	重さ(g)	大きさ(cm)	備 考
1	ヤマトシジミ	182	520	17~28		2	細片	-	280	-	

表9 地点貝塚一覧表

番号	位置	形状	規模	層厚(cm)	主な出土遺物	時 期	備考
			長径(m)×短径(m)				重複関係 (古→新)
1	F 6 a3	不定形	390×310	10～35	アサリ・サルボウ・ハイガイ・ハマグリ・シオフキ	前期前半	SI 4→本跡
2	I 9 d1	楕円形	0.51×0.28	11	ヤマトシジミ	縄文時代	SK584→本跡

(7) 遺物包含層

土坑の調査を行っている際、壁面から縄文土器片が出土しているところが多く確認されたため、土坑調査終了後、遺物包含層として調査を行った。

第1号遺物包含層 (第102～105図)

位置 平成17年度調査区の北西部から南西部にかけた、標高8.8～10.0mの緩やかな斜面に位置している。

確認状況 遺構確認作業を進めていく中で、縄文土器片を中心とした遺物を広範囲で確認した。遺構調査終了後、遺物を確認した地点に調査区を設定し、遺物包含層としての調査を行った。

調査範囲 調査区域北端のH 8 d8から南端のK 10a6区内の約1220㎡の範囲である。

重複関係 第54号住居、第1号陥し穴、第1・2号炉跡、第2号地点貝塚、第582～584・587・588号土坑に掘り込まれている。本包含層の下から、旧石器時代の石器集中地点が確認されている。

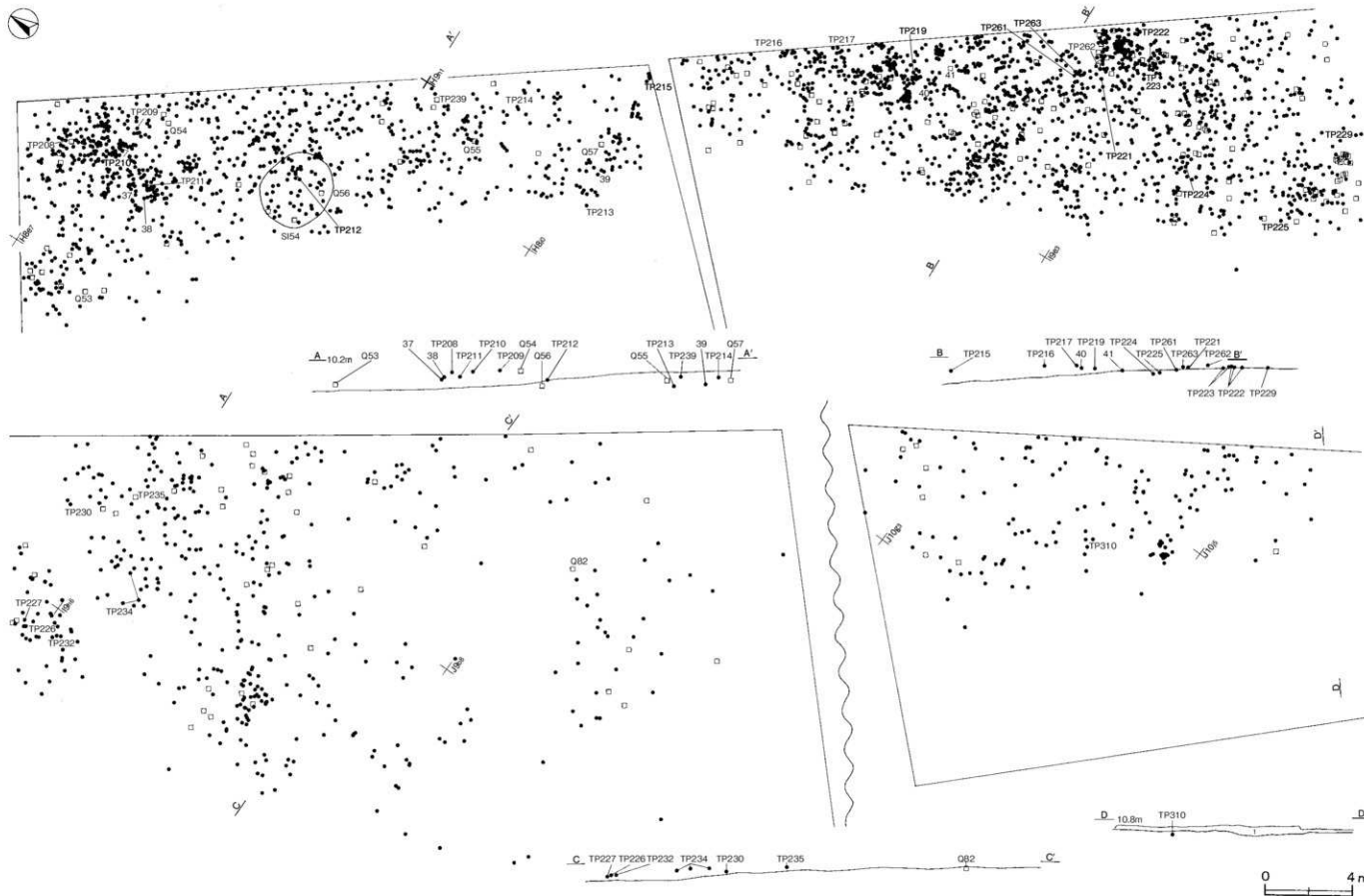
覆土 単一層である。

土層解説

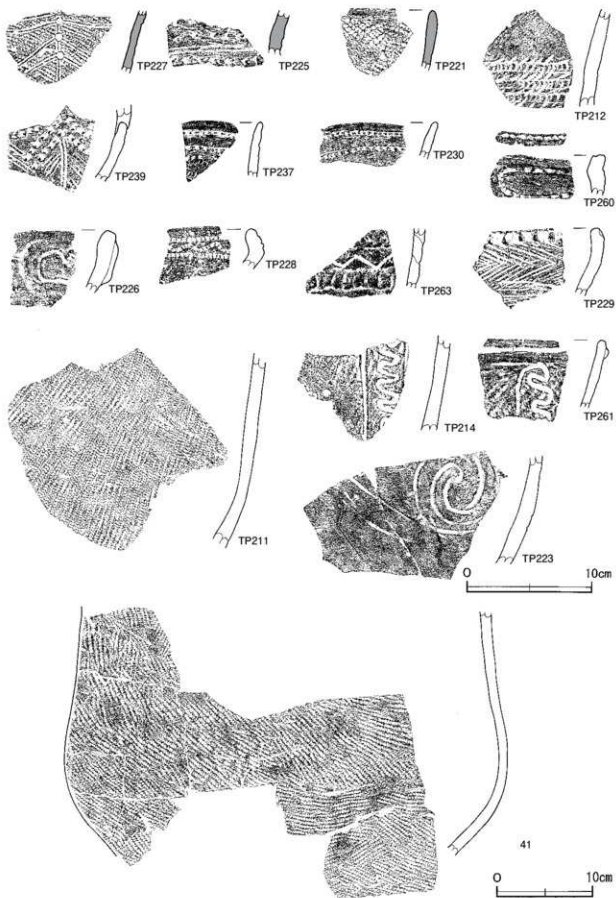
1 揚 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片2,728点、瓦質土器片2点(搦鉢、不明)、陶器片4点(碗、高台付皿、香炉、不明)、磁器片1点(碗)、石器38点(有茎尖頭器1、石鏃5、打製石斧4、磨製石斧4、磨石17、敲石2、石皿2、砥石1)、礫135点が出土している。

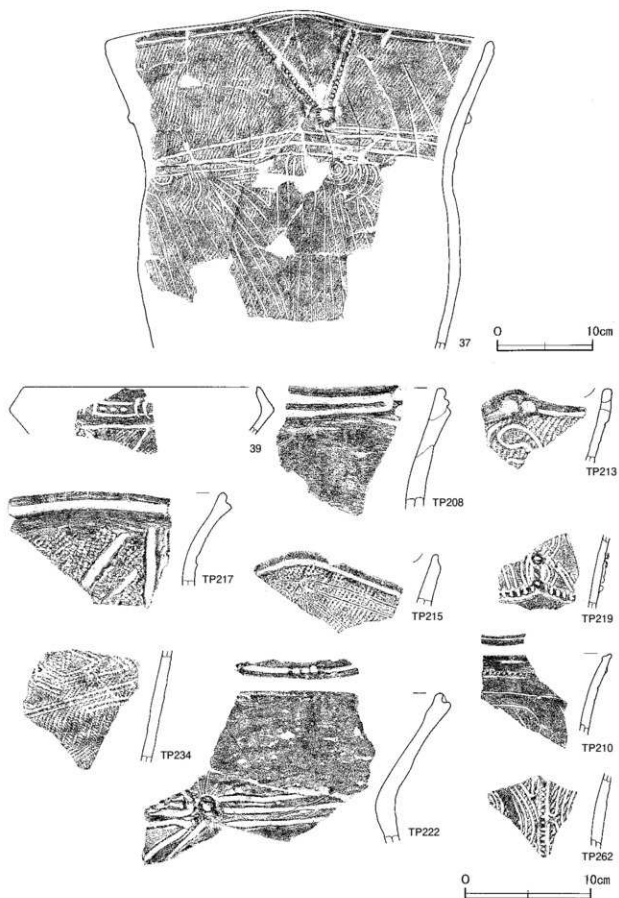
所見 出土土器の大半は前期と後期のものであるが、中期もある。出土位置を層位としてとらえることはできない。緩やかな傾斜に向かって遺物が流れ込んで堆積し、包含層が形成されたものと考えられる。



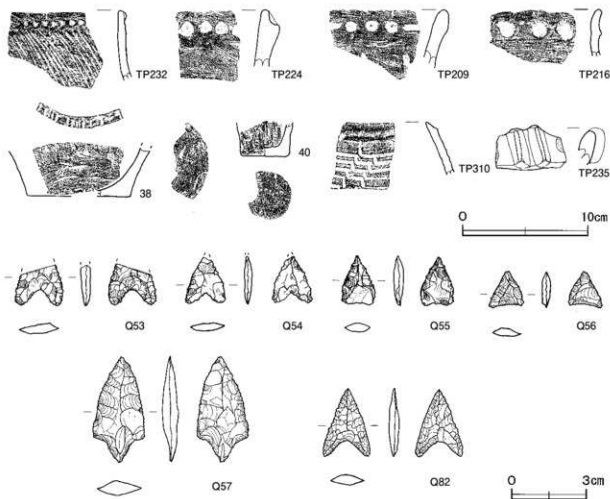
第102图 第1号遺物包含層実測図



第103図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第104图 第1号遗物包含層出土遺物実測図(2)



第105図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(3)

第1号遺物包含層出土遺物観察表 (第103～105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
37	縄文土器	深鉢	φ40.2	(32.3)	-	長石・石英・赤土・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	口野部に一条の沈線、口辺部にキザミをもつ微帯形片、胴部は沈線文、地文は単節縄文RL	上層	20% PL34
38	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	(8.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	輪軸み部に接合痕、ヘラ状工具によるナデ	上層	5%
39	縄文土器	深鉢	(18.6)	(3.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口辺部に沈線及び刺突文、胴部に沈線区画内単節縄文L及丸点	下層	5%
40	縄文土器	ミニチュア上部	-	(2.7)	3.6	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	胴部及び底部にナデ	中層	40%
41	縄文土器	深鉢	-	(25.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文RL	下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP227	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい・褐色	普通	平截竹管による平行沈線及び内形の刺突文、地文は単節縄文RL	上層	前期 PL37
TP225	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい・黄褐色	普通	平截竹管による刺突及び平行沈線	下層	前期
TP221	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい・褐色	普通	単節縄文LR・RLによる羽状構成	下層	前期
TP229	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	平截竹管による押し引き文及び沈線文	下層	前期
TP212	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	沈線区画内扇形文施文後棒状工具による短沈線	下層	前期
TP230	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	平截竹管による結節平行沈線文	上層	前期
TP217	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	平截竹管による結節平行沈線文	覆土中	前期
TP226	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・黄褐色	普通	隆帯貼付、隆帯に沿って脚を有する沈線	上層	中期
TP228	縄文土器	深鉢	長石・石英・礫	にぶい・黄褐色	普通	結節沈線文	覆土中	中期
TP200	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・褐色	普通	口野部に結節沈線文、押し引による楕円区画文	覆土中	中期

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP203	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	H字状の輪積み痕。結節沈線文	下層	中期
TP211	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	単節縄文LR	上層	後期
TP261	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	1辺部に沈線 胴部は単節縄文LRを地文とし兼手状文	下層	後期
TP214	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	沈線による懸垂文 地文は無節縄文#	下層	後期
TP223	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線による渦巻状文	下層	後期
TP208	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	1唇部直下に沈線による区画文 円形刺突文	上層	後期
TP213	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	腹下部直下に穿孔及び刺突 胴部に兼手状沈線文 地文は単節縄文LR	下層	後期
TP215	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	1辺部内外に沈線 単節縄文LR施文後半截竹管による平行沈線	上層	後期
TP217	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	1唇部に一条の沈線 胴部単節縄文LR施文後竹管による沈線	上層	後期
TP219	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	キザミを有する隆帯文 沈線文	中層	後期
TP262	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	縦位にキザミをもつ隆帯 へう状工具による沈線文 地文は単節縄文LR	中層	後期
TP222	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	1唇部一条の沈線及び2か所の凹み 胴部に8字状粘付文及び沈線文	下層	後期
TP210	縄文土器	深鉢	長石・石英	赤褐	普通	1辺部にキザミをもつ隆帯 胴部沈線文	上層	後期
TP234	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	地文は単節縄文LR 半截竹管による平行沈線文	上層	後期
TP214	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	1唇部直下に円形刺突文	下層	後期
TP209	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	1唇部直下に円形の刺突文 両側に沈線	上層	後期
TP216	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	1辺部指面圧痕	上層	後期
TP310	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	1唇部直下に微隆帯 単節縄文LRを地文とし沈線施文後擦消	中層	後期
TP229	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	1辺部に刺突文 胴部は矢羽根状沈線文	下層	後期
TP232	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	1辺部に押圧痕をもつ隆帯 胴部は斜行する多条沈線	上層	後期
TP235	土師器	壺	長石・石英	にぶい黄橙	普通	1唇部直下に棒状粘付文	中層	古墳前期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	有茎実蓋器	4.2	2.0	0.6	3.9	チャート	両面押圧剥離	下層	PL43
Q53	石鏃	(1.6)	1.9	0.4	(1.0)	チャート	両面押圧剥離 四基無茎鏃 先端部欠損 基部中央が深く穿入	上層	
Q54	石鏃	(1.9)	1.6	0.3	(0.8)	チャート	両面押圧剥離 四基無茎鏃 先端部欠損	上層	PL43
Q55	石鏃	2.0	1.3	0.4	0.8	チャート	両面押圧剥離 四基無茎鏃	下層	PL43
Q56	石鏃	1.4	1.4	0.3	0.5	チャート	両面押圧剥離 四基無茎鏃	下層	PL43
Q82	石鏃	2.7	1.9	0.4	1.4	チャート	両面押圧剥離 四基無茎鏃	中層	PL43

第2号遺物包含層 (第106・107図)

位置 調査A区の南部、標高9.3～9.8mの緩やかな斜面に位置している。

確認状況 H7b8～H7b9区にかけて黒色土が堆積しており、住居跡と考え調査を開始したが、壁の立ち上がりで確認できず、縄文土器片を中心とした遺物が含まれていたため、遺物包含層として調査を実施した。

調査範囲 H7b9を中心に、直径12m内の約160m²である。

重複関係 第22・23・281・282・284・287・288・291・571～574号土坑に掘り込まれている。

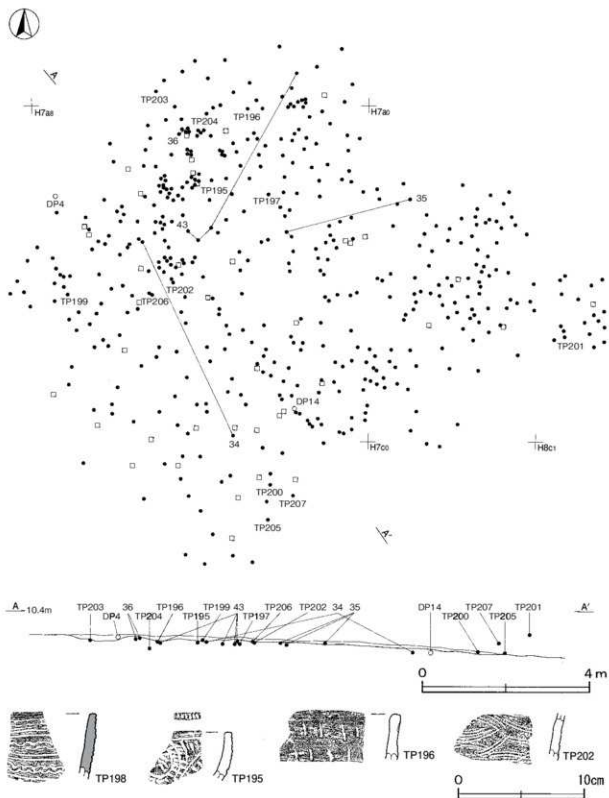
覆土 単一層である。

土層解説

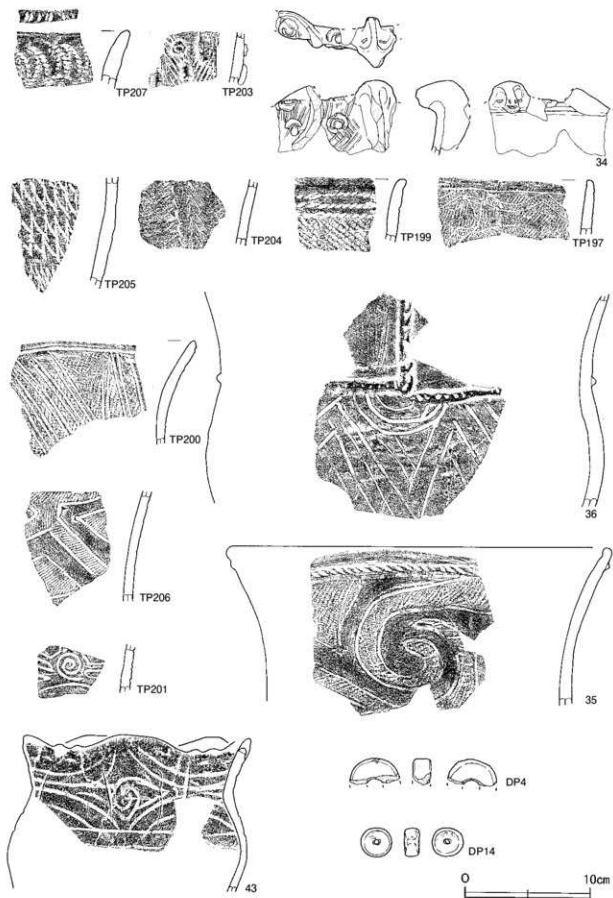
1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3,661点、土製品2点(珠状耳飾、耳栓)、石器4点(石鏃、磨石、石皿、台石)、石核2点、剥片33点、礫77点が出土している。

所見 出土土器のほとんどが前期と後期のものであるが、出土位置を層位としてとらえることはできない。第3号包含層が本包含層の北側に接しており、地形は北から南に緩やかに傾斜している。その傾斜地に向かって遺物が流れ込んで堆積し、包含層が形成されたものと考えられる。



第106図 第2号遺物包含層・出土遺物実測図



第107图 第2号遺物包含層・出土遺物実測図

第2号遺物包含層出土遺物観察表(第106・107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
34	縄文土器	深鉢 (北子)	—	(60)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部に耳たぶ状及びボタン状胎付文と獣面把手。多量沈雑を施す。	下層	5% PL32
36	縄文土器	深鉢	—	(16.9)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部にキザミを有する隆帯文。胴部に沈雑文。	下層	10%
35	縄文土器	深鉢	(29.8)	(12.6)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部直下にキザミを有する隆帯文。沈雑による区画内文に単節縄文LRを施す。	下層	10% PL35
43	縄文土器	深鉢	18.0	(12.2)	—	長石・石英・白色粒子	にぶい黄褐色	普通	沈雑文。波頭下に沈雑による人組三文文。	下層	30% PL36

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP198	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	口唇部直下に単節平行沈雑文。手載竹管による平行沈雑文。	腹土中	前期
TP195	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部にキザミ。梯子状沈雑文。	下層	前期
TP196	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	ヘラ状工具による刺突文。	下層	前期
TP202	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	手載竹管による隆帯文。	下層	前期
TP205	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	波状貝殻文。	上層	前期
TP207	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口唇部にキザミ。波状貝殻文。	上層	前期 PL37
TP203	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	施文は集合沈雑文。ボタン状胎付文。	下層	前期
TP204	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	結節を有する単節縄文LR及び無節縄文LR。	下層	中期
TP199	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部直下に単節縄文LR押印。単節縄文LR。	下層	後期
TP197	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部に一条の沈雑文。胴部は沈雑区画内にキザミ。施文は単節縄文LR。	下層	後期
TP200	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口唇部直下に一条の沈雑文。施文は単節縄文LR。手載竹管による平行沈雑文。	上層	後期
TP206	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	沈雑区画内単節縄文LR充填。	下層	後期
TP201	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	黄褐色	普通	棒状工具による沈雑文。	上層	後期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP4	球状耳飾	(2.1)	3.9	1.5	(11.9)	長石・石英	滑車形。両端部欠損。無文。	中層	PL40
DP14	耳栓	最大径2.4	孔径0.4	1.2	7.0	長石・石英	中央部に穿孔。赤彩痕。	下層	PL40

第3号遺物包含層(第108～112図)

位置 調査A区の南部、標高9.4～10.1mの緩やかな斜面に位置している。第2号包含層の北側に接している。

確認状況 調査範囲内にある土坑の調査中に、壁面に多くの土器が確認された土坑がいくつかあった。トレンチ等で調査したところ、縄文土器片を中心とした遺物の広がりや確認されたため、遺物包含層として調査を実施した。

調査範囲 G79を中心とした直径28m内の約320㎡である。

重複関係 第26・27・244・290・293～295・302・311・312・316～320・364・369・370・386・387・392～394・399・405・406・408・409・575号土坑、第13号ピット、第10-12号ピット群に掘り込まれている。本包含層の下から第14・53号住居跡、第579号土坑が確認されている。

覆土 2層に分層される。傾斜にそって水平に堆積する自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

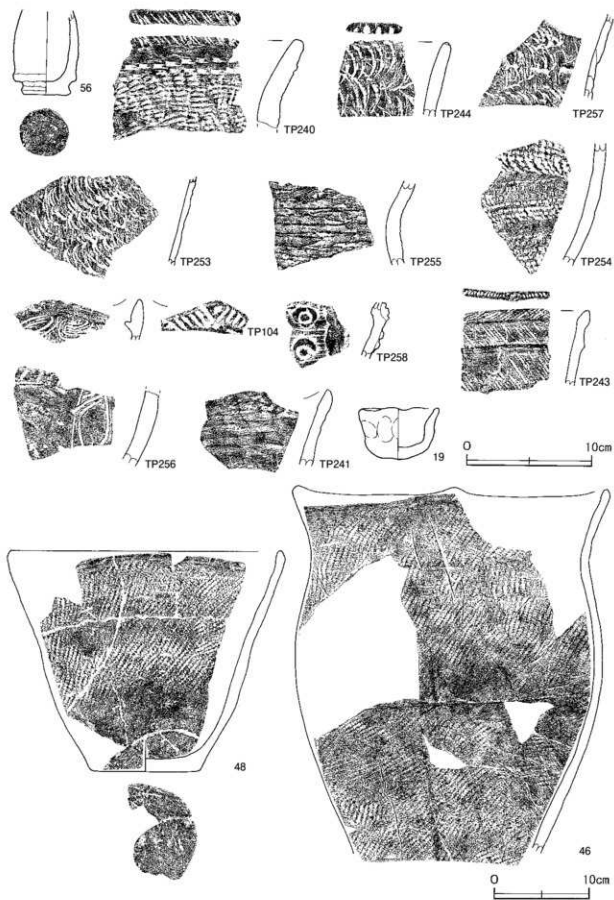
2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片9,620点、土製品1点(球状耳飾)、石器31点(打製石斧8、磨製石斧3、石鎌6、磨石5、敲石2、石皿2、凹石5)、石核7点、剥片70点、礫61点が出土している。

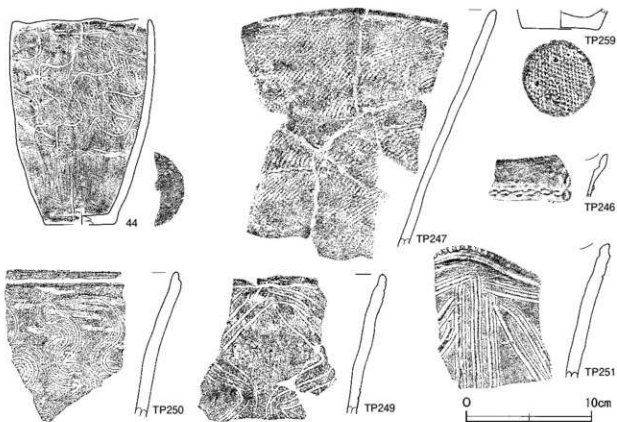
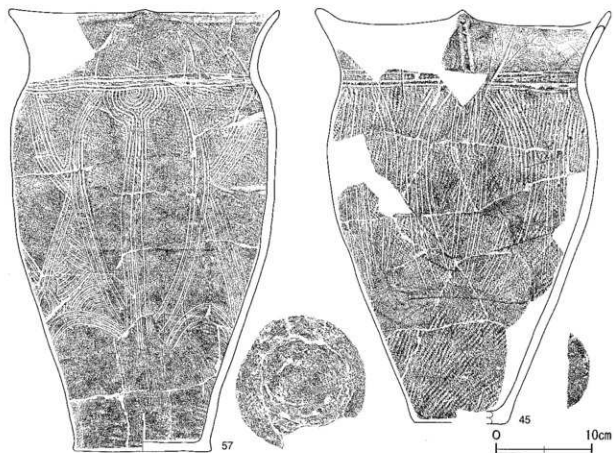
所見 出土土器は、中期のものが一部混在しているが多くは前期と後期のものである。特に後期の土器片が多く、全体の52.5%を占めている。第1号包含層へ続く北側の緩斜面部に位置しており、この付近から遺物が流れ込んで堆積し、包含層が形成されたものと考えられる。出土位置を層位としてとらえることはできない。



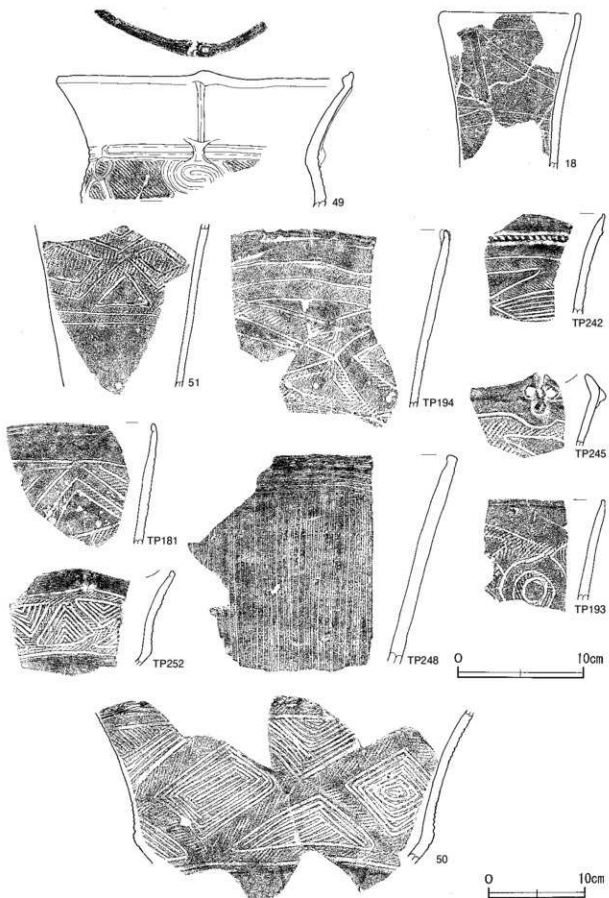
第108図 第3号遺物包含層実測図



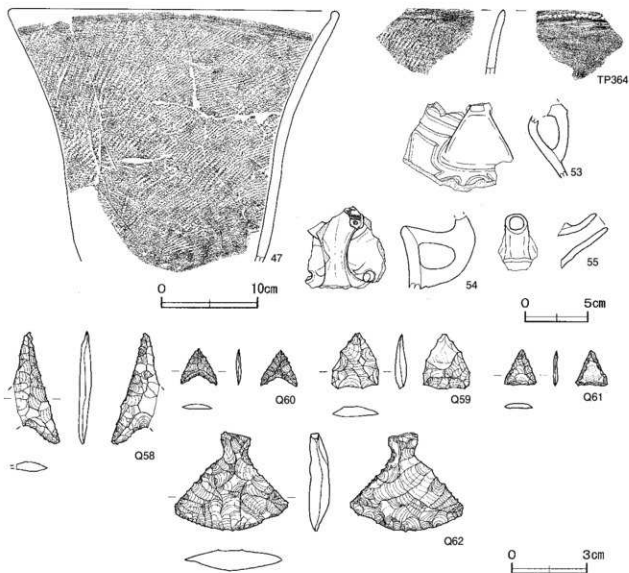
第109図 第3号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第110图 第3号遗物包含層出土遺物実測図(2)



第111图 第3号遺物包含層出土遺物実測図(3)



第112図 第3号遺物包含層出土遺物実測図(4)

第3号遺物包含層出土遺物観察表(第109～112図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
56	縄文土器	ミナチヌ ア土器	-	(6.7)	3.5	長石・石英・ 雲母	橙	普通	無文 底部に段を有する	下層	70% PL32
19	縄文土器	ミナチヌ ア土器	6.1	4.3	-	長石・石英・ 白色砂子	にぶい黄橙	普通	指頭圧痕	覆土中	100% PL35
48	縄文土器	深鉢	[28.2]	23.1	[11.6]	長石・石英・ 赤色砂子	橙	普通	単節縄文LR	上層	40%
46	縄文土器	深鉢	[32.7]	(38.5)	-	長石・石英・ 赤色砂子	にぶい橙	普通	単節縄文RL	下層	30%
45	縄文土器	深鉢	[30.7]	43.4	[9.6]	長石・石英・雲 母・赤色砂子	にぶい橙	普通	表面部からヤザシを有する管文を垂下 胴部に平截管 管による沈線文 胴下する沈線文 地文は単節縄文LR	下層	40% PL33
44	縄文土器	深鉢	10.9	16.3	[5.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線による懸垂文 地文は単節縄文LR	下層	95% PL35
49	縄文土器	深鉢	[23.3]	(10.8)	-	長石・石英・ 赤色砂子	明褐	普通	表面部から懸垂を垂下 胴部&の沈線上に胎付文 胴部は単節縄文RLを地文とし沈線区画内を管文	下層	30% PL35
57	縄文土器	深鉢	[28.2]	46.3	14.0	長石・石英・ 赤色砂子	にぶい橙	普通	胴部に平截管による沈線 胴部に沈線 による懸垂文 地文は単節縄文LR	上層	70% PL33
18	縄文土器	深鉢	[10.9]	(12.3)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	横位の沈線区画内単節縄文LR光焼	覆土中	70% PL35
47	縄文土器	深鉢	34.0	(26.5)	-	長石・石英・ 赤色砂子	にぶい褐	普通	口辺部内側に一糸の沈線 単節縄文RL	下層	60% PL35
30	縄文土器	鉢	-	(16.2)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	沈線による三角形・菱形文 単節縄文LR 光焼	下層	30% PL35
51	縄文土器	深鉢	-	(13.0)	-	長石・石英・ 赤色砂子	にぶい褐	普通	ヘラ状工具による三角形・菱形の沈線文 地文は単節縄文LR	覆土中	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
53	縄文土器	注1土器	-	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈縮による区画文	下層	5% PL36
54	縄文土器	注1土器	-	(5.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	把手上部に単節縄文LR・刺突を有する貼付文 下部両側に刺突文	下層	5%
55	縄文土器	注1土器	-	(4.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	下部に隆帯	覆土中	5% PL36

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP240	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部にキザミ 口辺部にへう状工具による押し引き文 胴部には段背面による垂珠文	下層	前期 PL38
TP244	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口唇部にキザミ 波状貝殻文	上層	前期 PL37
TP257	縄文土器	深鉢	長石・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	波状貝殻文 輪帯みね	覆土中	前期
TP253	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	波状貝殻文	中層	前期 PL38
TP254	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	波状貝殻文及び平截竹管による押し引き文	上層	前期
TP104	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	波状口縁部に平截竹管による総行した沈縮 口唇部に斜位の粗沈縮文	覆土中	前期
TP255	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	へう状工具による磨り	中層	前期
TP258	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	横位の多条沈縮文上にゴテン状貼付文	中層	前期
TP243	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部にキザミ及び無節縄文 直下胴部につけ無節縄文 7 キザミのある隆帯をのこらす	下層	前期
TP256	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈縮文	下層	前期
TP241	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に凹み 胴部に格子状沈縮	下層	後期
TP247	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	明黄褐	普通	結節を有する単節縄文LR	下層	前期
TP259	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部外面に縦代圧痕	上層	後期
TP246	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内側に一条の沈縮 口辺部表面は縦横にキザミを有する隆帯	下層	後期
TP250	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部直下に一条の沈縮 輪帯状工具による沈縮	覆土中	後期 PL39
TP249	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	褐	普通	口唇部直下に一条の沈縮 胴部沈縮文	下層	後期
TP251	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	波状部にキザミ 平截竹管による平行沈縮文	覆土中	後期 PL39
TP194	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	胴部沈縮区画内に単節縄文LR突	上層	後期 PL39
TP242	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	褐	普通	口辺部にキザミのある隆帯貼付 胴部に単節縄文LR貼付文後沈縮区画外を磨消	中層	後期
TP245	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	波状部直下に8字状貼付文その両側に穿孔を有し断面を作出 単節縄文LRを基文後沈縮区画外を磨消	上層	後期 PL39
TP181	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部内側に沈縮 胴部に沈縮による区画内単節縄文LR突	覆土中	後期
TP252	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波状部直下に貼付文 沈縮による三角形の沈縮文 単節縄文LR突	上層	後期 PL39
TP248	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口唇部内側に横位の沈縮 胴部縦方向に多条沈縮文	下層	後期
TP193	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内側に沈縮 胴部にへう状工具による沈縮縄文後区画内に単節縄文LR突	覆土中	後期
TP364	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内側に連続した刺突文 単節縄文LR	覆土中	後期 PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	石鏃	4.4	(1.8)	0.5	(2.9)	チャート	両面押圧剥離 四基無基痕 片側脚部欠損	覆土中	PL43
Q39	石鏃	2.2	1.9	0.4	1.9	頁岩	両面押圧剥離 平基無基痕	覆土中	
Q60	石鏃	1.4	1.5	0.2	0.3	黒曜石	両面押圧剥離 四基無基痕	覆土中	PL43
Q61	石鏃	1.4	1.2	0.2	0.4	チャート	両面押圧剥離 平基無基痕	覆土中	PL43
Q62	石鏃	3.9	4.5	0.8	10.1	チャート	横型 両面押圧剥離	中層	PL43

3 平安時代の遺構と遺物

竪穴住居跡1軒が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第15号住居跡（第113図）

位置 調査A区のG7d0区で、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

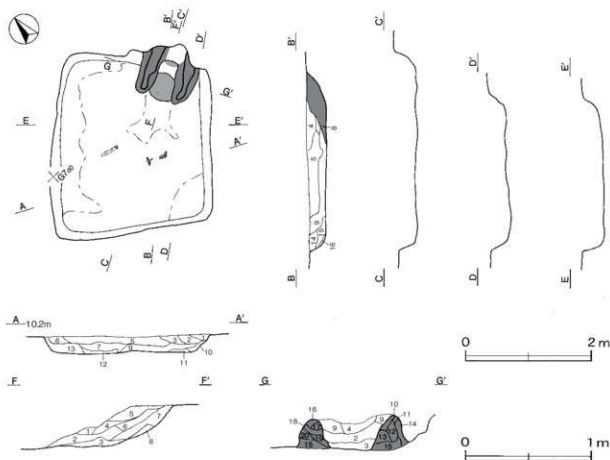
規模と形状 長軸2.94m、短軸2.58mの長方形で、主軸方向はN-45°-Eである。壁高は27～32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、北西壁際を除く範囲が踏み固められている。壁溝やピットは確認されなかった。炭化材が中央部付近に確認された。

竈 北東壁中央部や東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cm、袖部幅88cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面を基部とし、ロームブロックと砂を混ぜ込んだ粘土で構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの面を使用しており、火床面及び内壁は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に21～33cm掘り込んであり、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 にぶい棕色 | 砂粒・粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 明赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂・粘土粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック中量 |
| 3 にぶい褐色 | 焼土粒子・砂中量、ローム粒子・粘土粒子少量 | 13 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・砂少量 | 14 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂・粘土粒子少量 | 15 灰褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 にぶい褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子・砂少量 | 16 灰黄褐色 | 焼土ブロック少量・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 7 にぶい褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子中量、ローム粒子・砂少量 | 17 灰褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 8 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂・粘土粒子少量 | 18 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂・粘土粒子少量 | 19 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 10 にぶい褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 20 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |



第113図 第15号住居跡実測図

覆土 16層に分別される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	9	灰褐色	ロームブロック少量、焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量	10	褐色	ロームブロック少量
3	灰褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	11	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	12	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック中量、砂微量	13	褐色	ローム粒子多量
6	暗褐色	ローム粒子少量	14	褐色	ローム粒子中量
7	黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量	15	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
8	褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量	16	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1点(甕)、剥片6点、礫1点のほか、縄文土器片3点(深鉢)、石器1点(石鏃)も出土している。土師器片は細片のため、図示できない。

所見 時期は、判定する出土遺物が少ないため明確でないが、竈をもつことと規模が小さいことから平安時代の可能性がある。

表10 平安時代竪穴住居跡一覧表

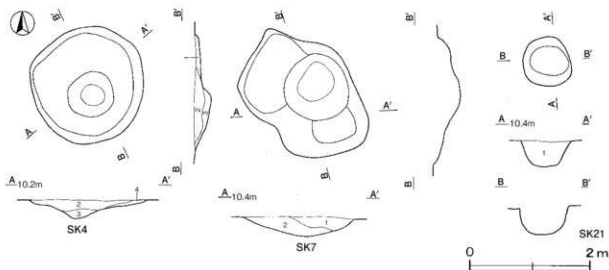
番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)		壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長軸(団)×短軸(団)	面積				柱穴	出入口	その他	竈			
15	G7.00	N-45°-E	長方形	2.94×2.58		27~32	平坦	-	-	-	-	1	人為	土師器片	

4 その他の遺構と遺物

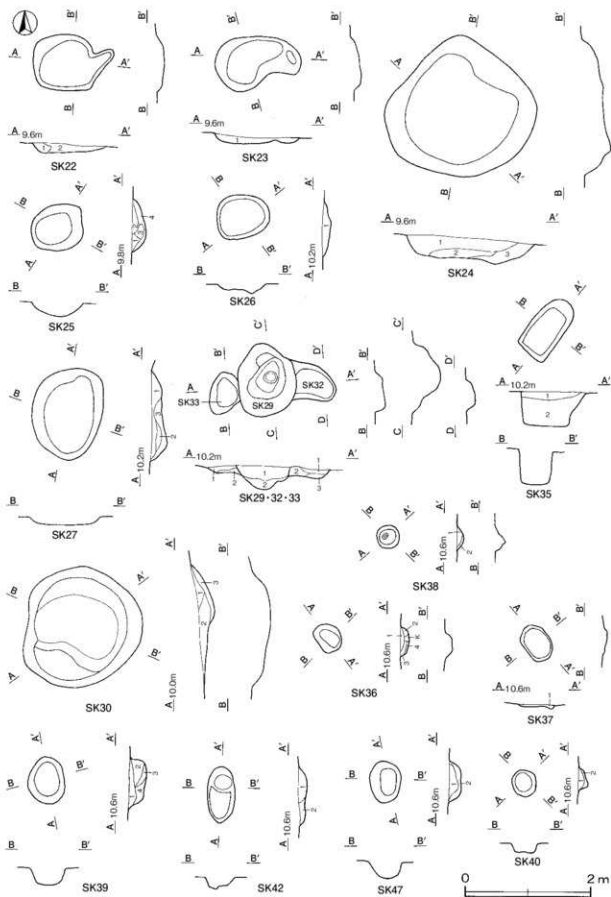
時期が明確でない土坑535基、溝跡4条、ピット群16か所が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 土坑(第114~143図)

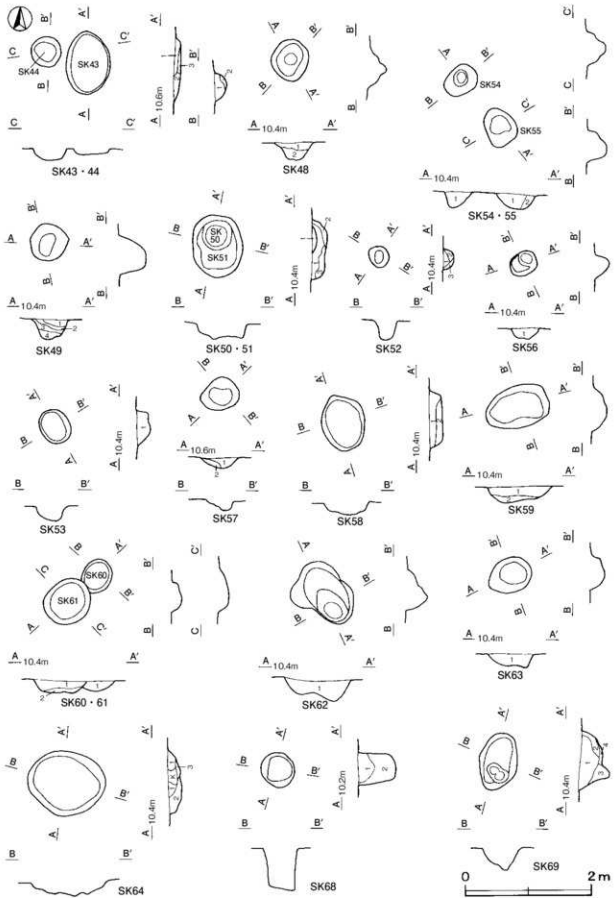
今回の調査で時期及び性格が明確でない土坑535基が確認された。以下、それらの土坑について、実測図及び一覧表、また遺物が出土している土坑については遺物実測図及び観察表を掲載する。



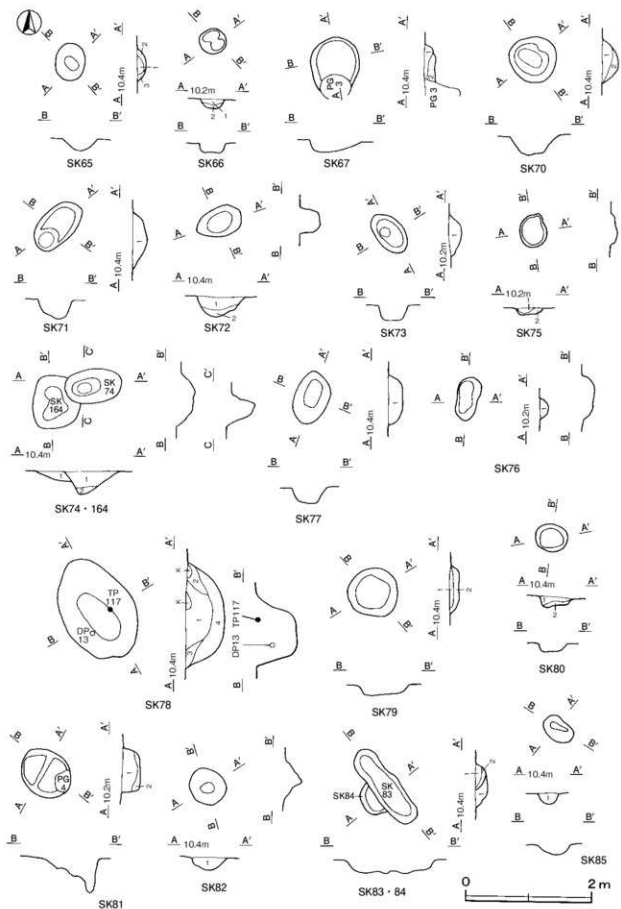
第114図 その他の土坑実測図(1)



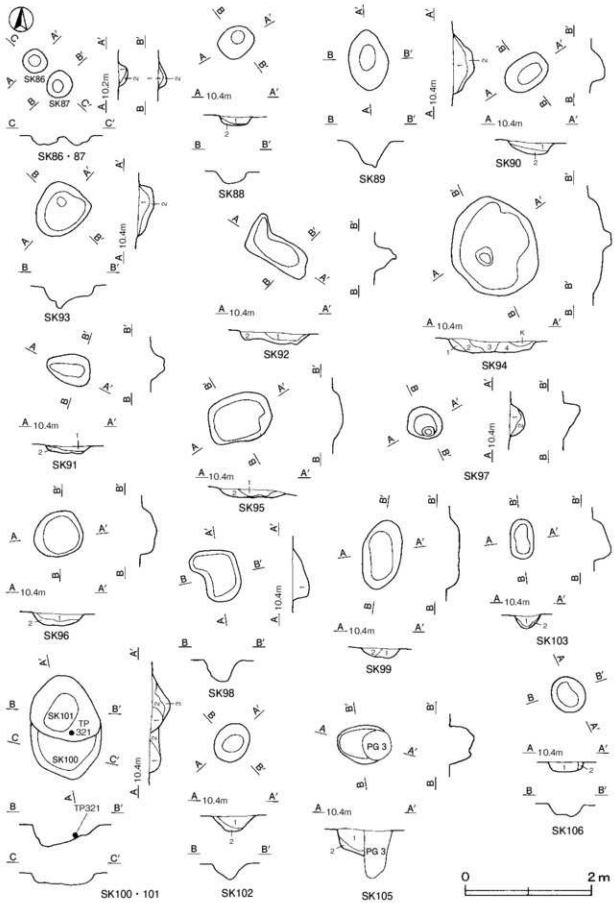
第115図 その他の土坑実測図(2)



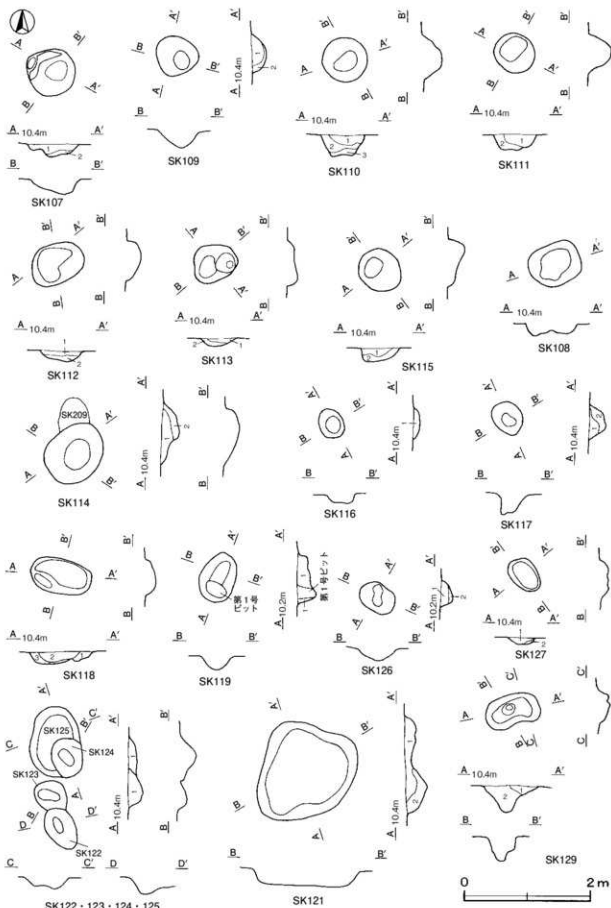
第116図 その他の土坑実測図(3)



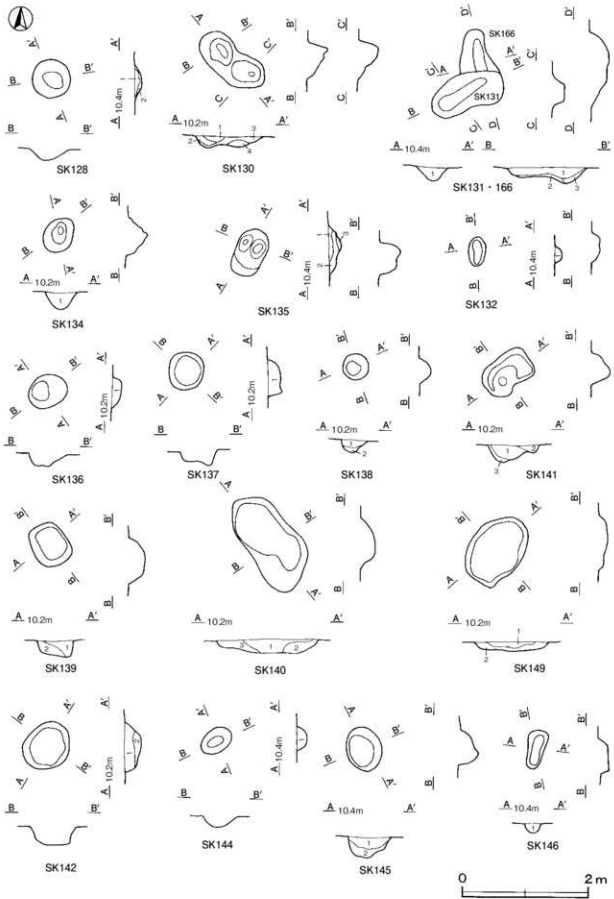
第117図 その他の土坑実測図(4)



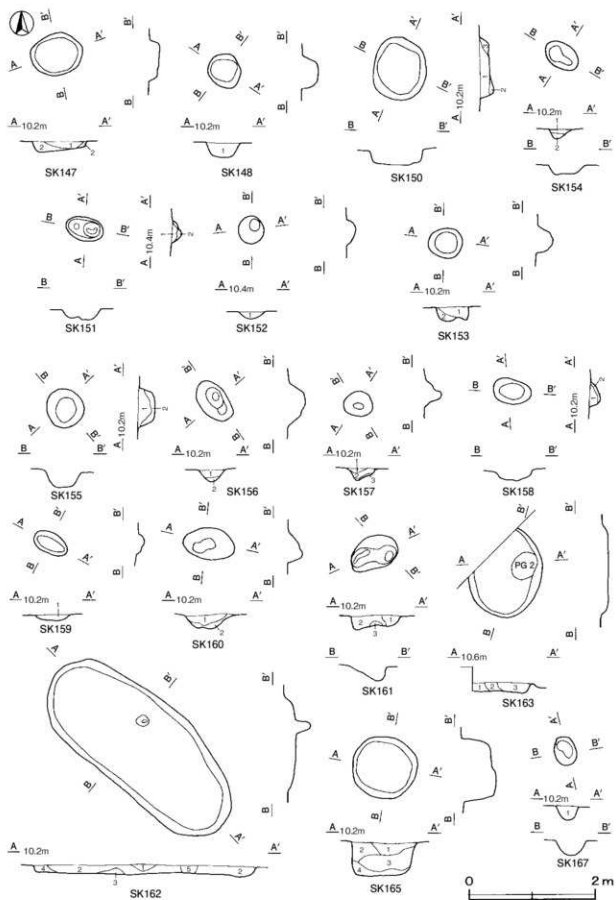
第118図 その他の土坑実測図(5)



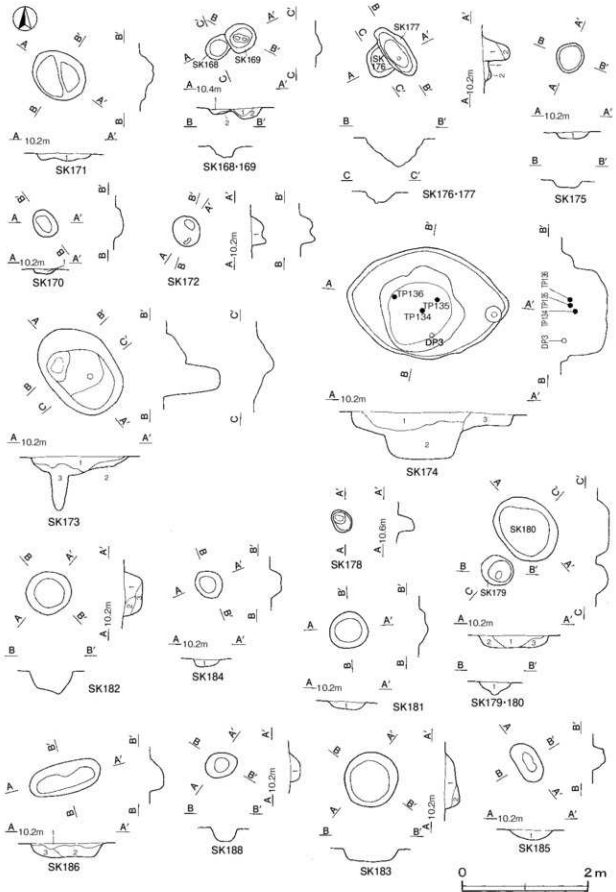
第119図 その他の土坑実測図(6)



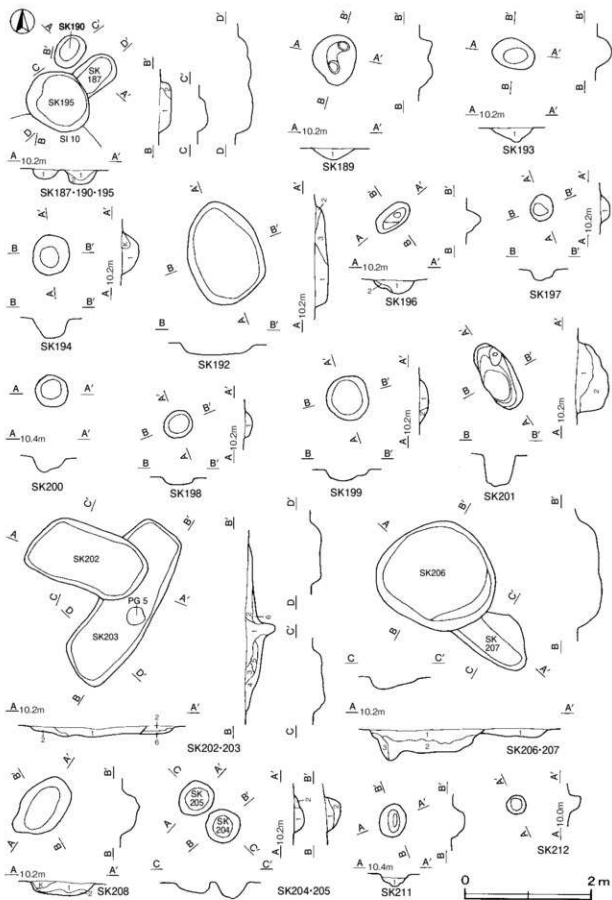
第120図 その他の土坑実測図(7)



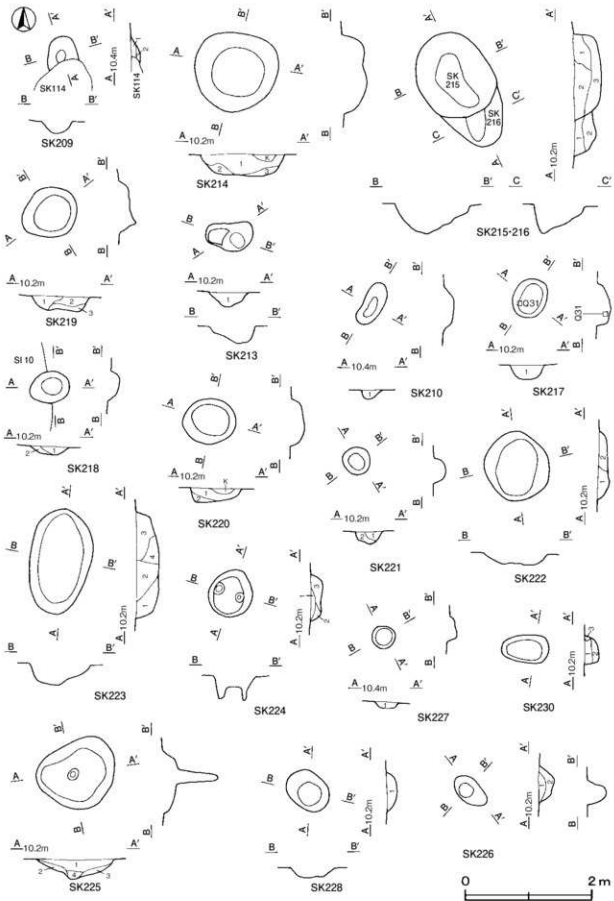
第121図 その他の土坑実測図(8)



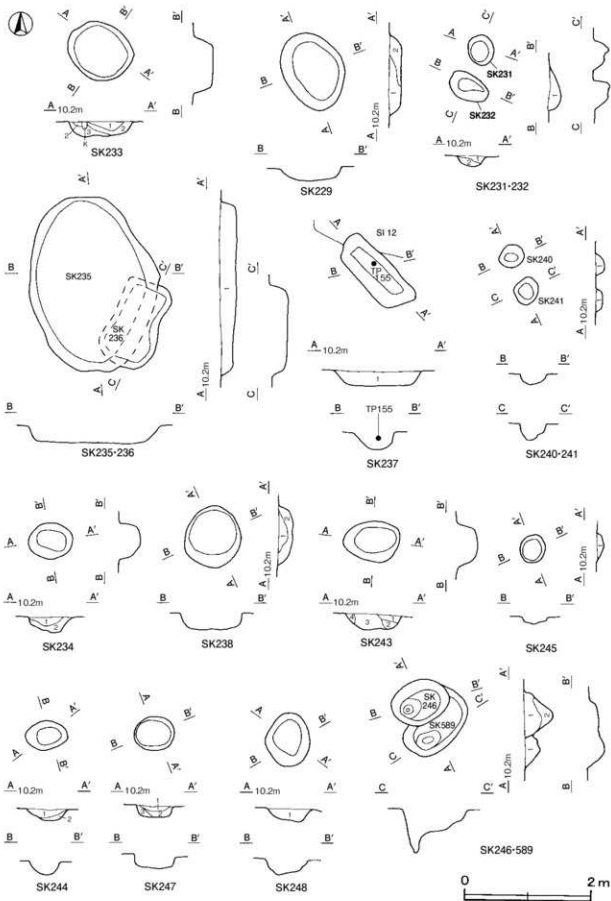
第122図 その他の土坑実測図(9)



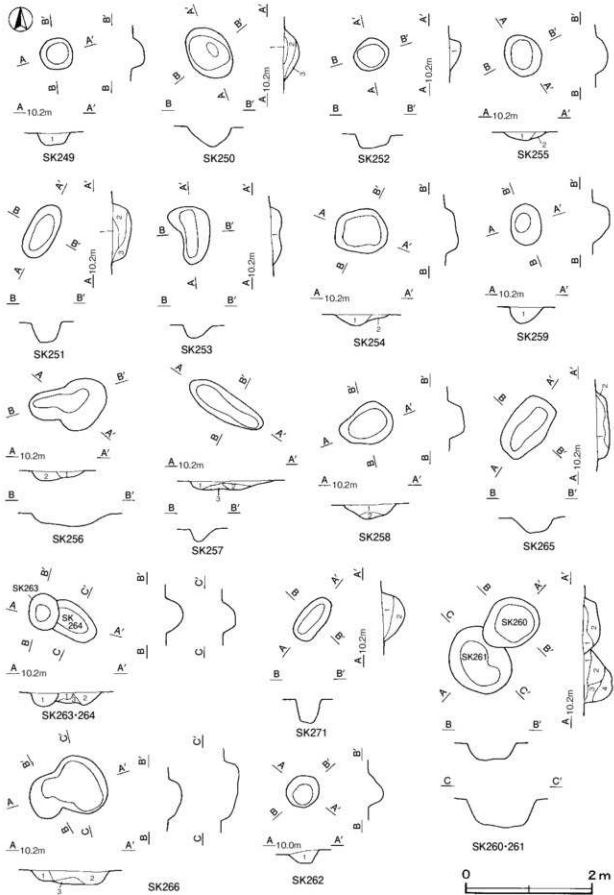
第123図 その他の土坑実測図(10)



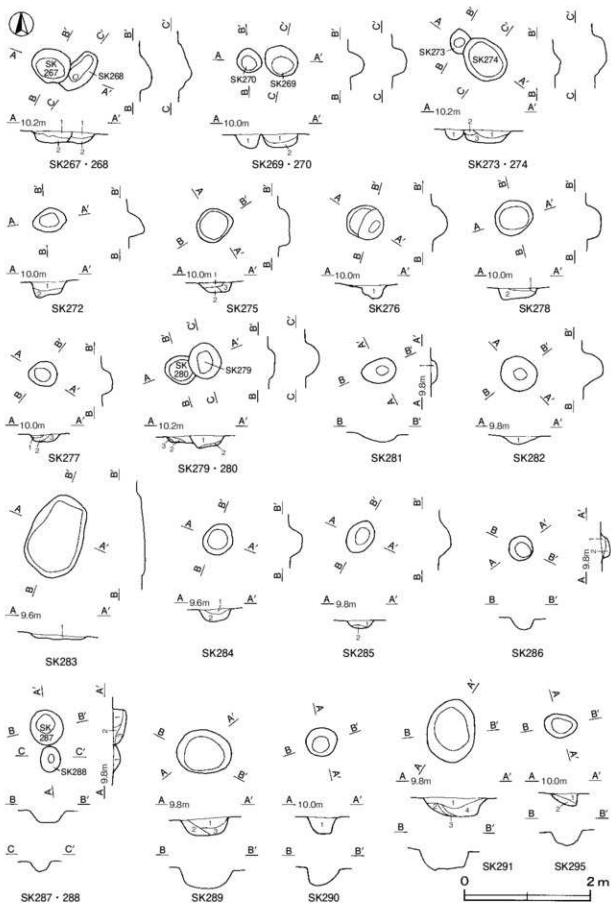
第124図 その他の土坑実測図(1)



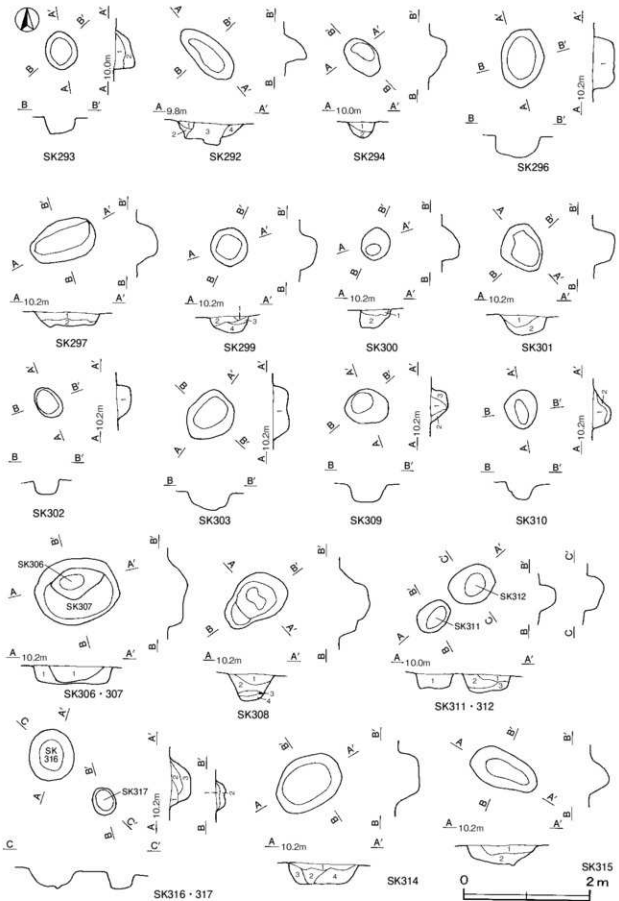
第125図 その他の土坑実測図12



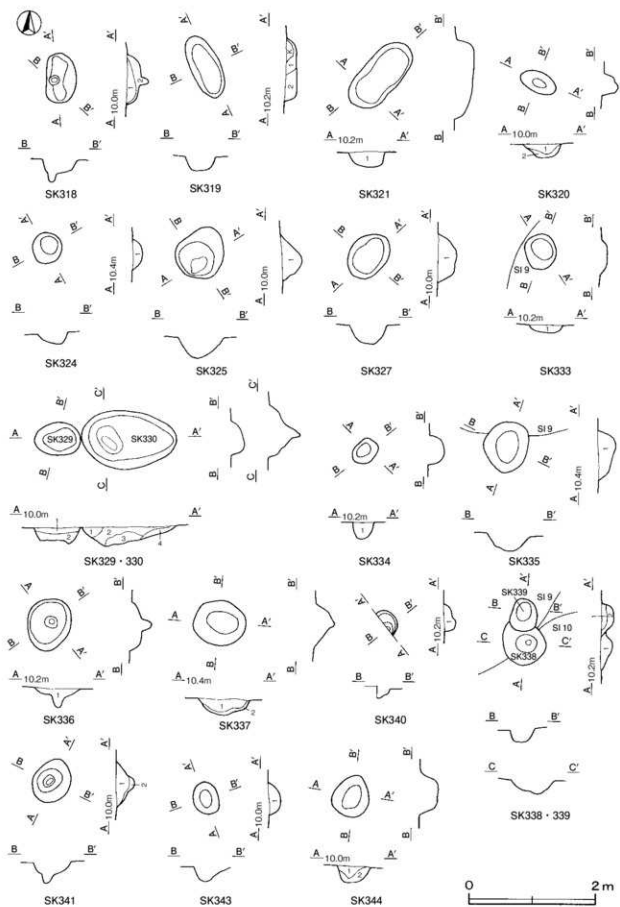
第126図 その他の土坑実測図(13)



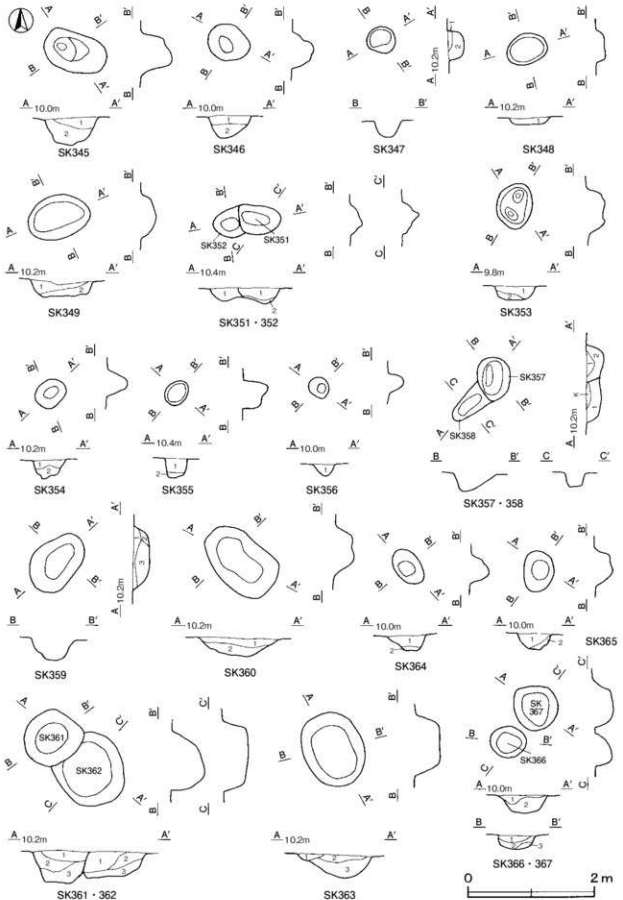
第127図 その他の土坑実測図(14)



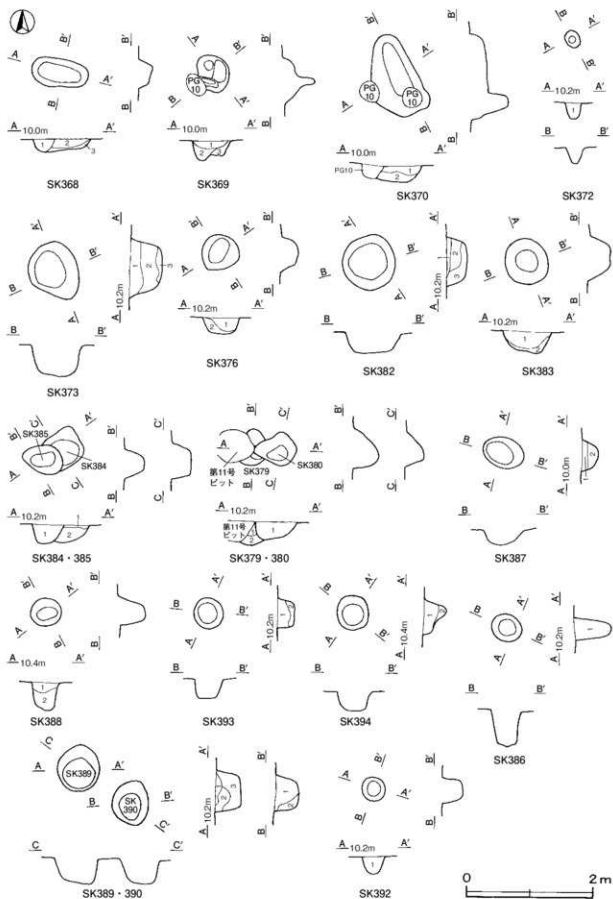
第128図 その他の土坑実測図(15)



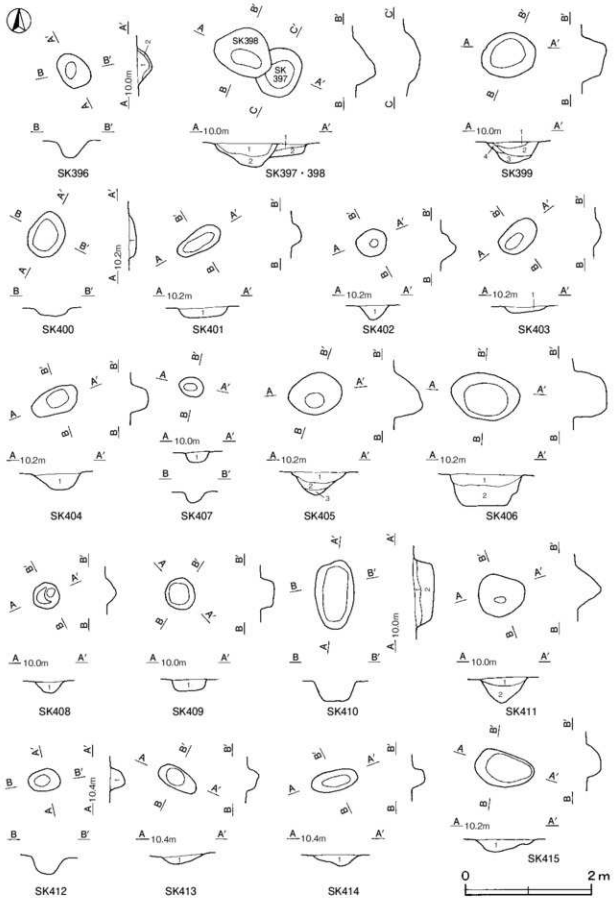
第129図 その他の土坑実測図⑬



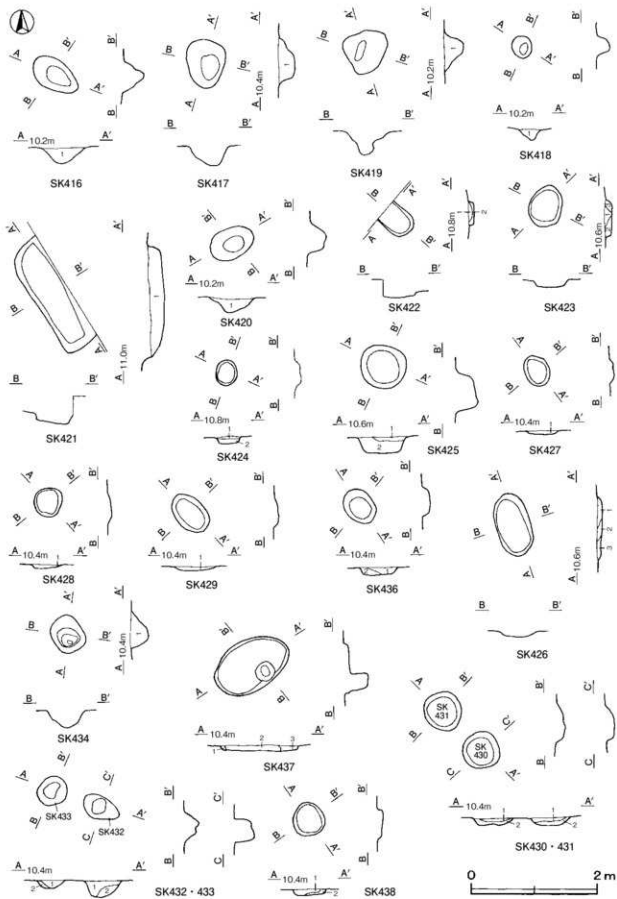
第130図 その他の土坑実測図(17)



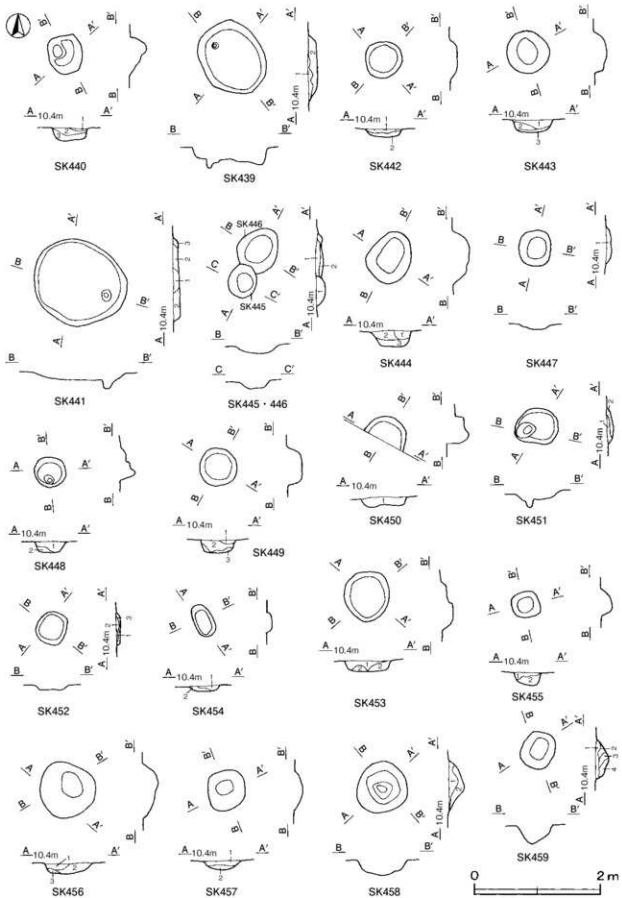
第131図 その他の土坑実測図⑧



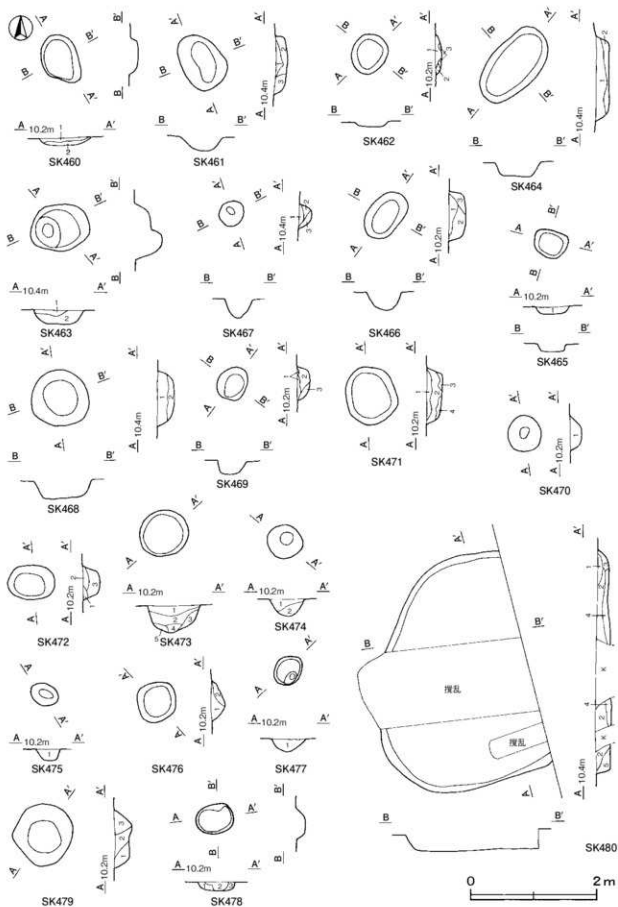
第132図 その他の土坑実測図(9)



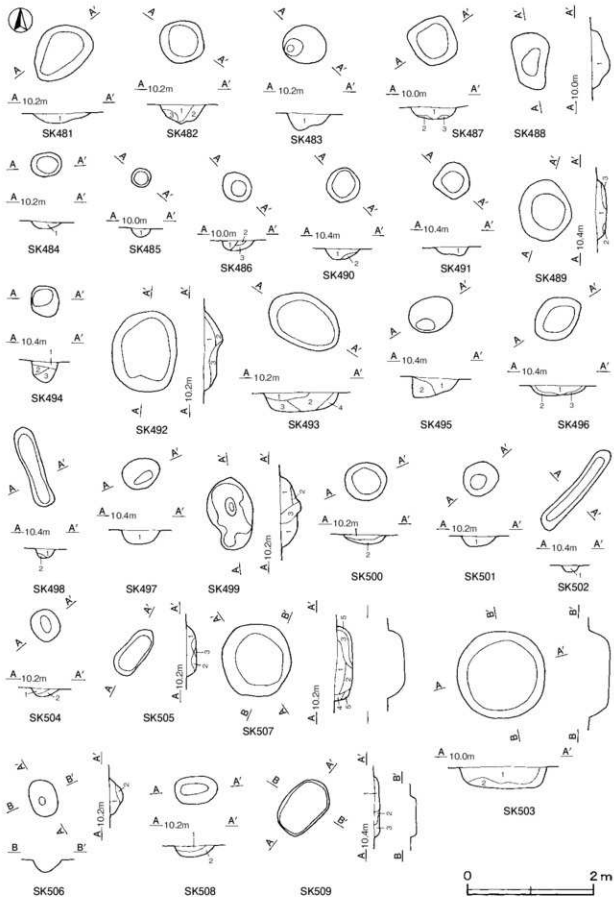
第133図 その他の土坑実測図20



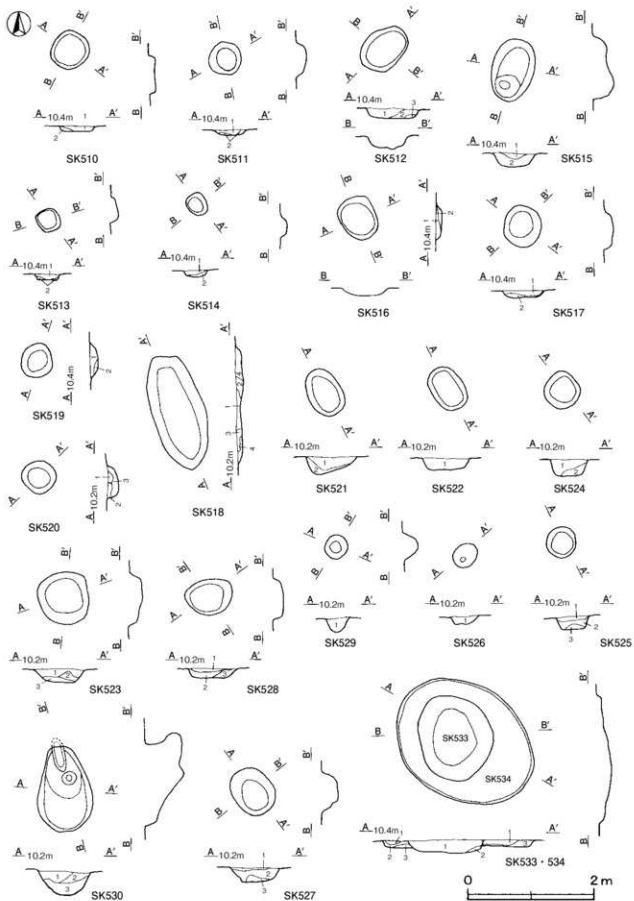
第134図 その他の土坑実測図(2)



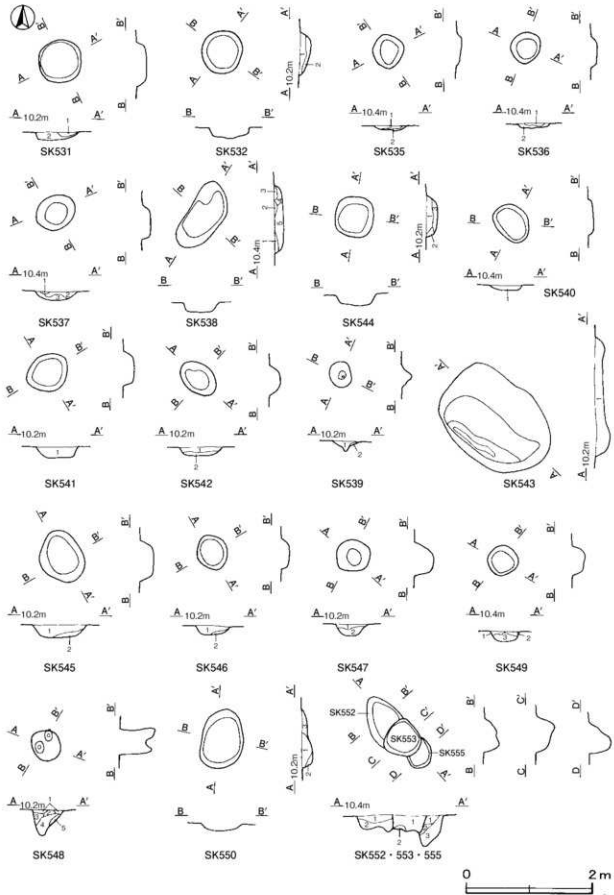
第135図 その他の土坑実測図22



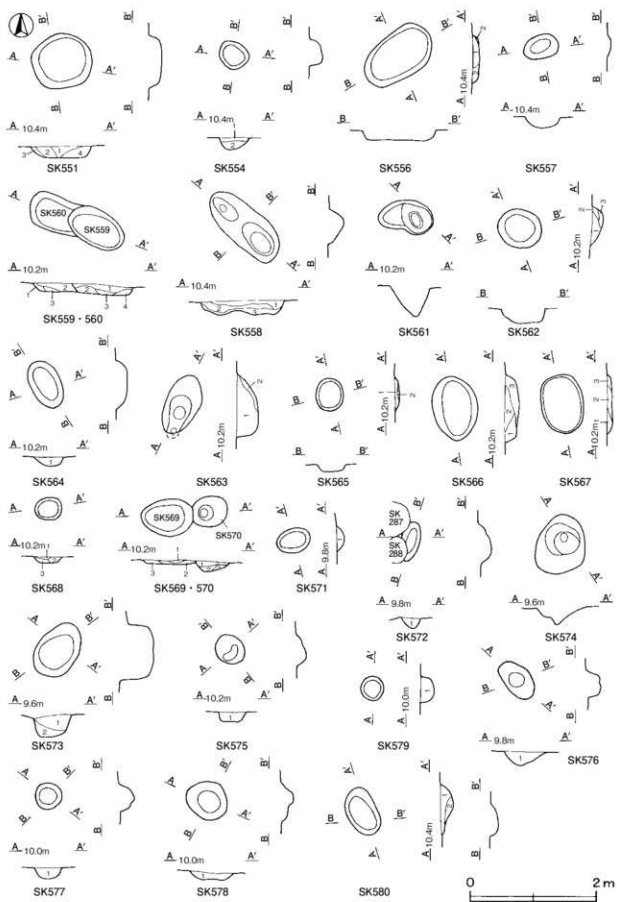
第136図 その他の土坑実測図23



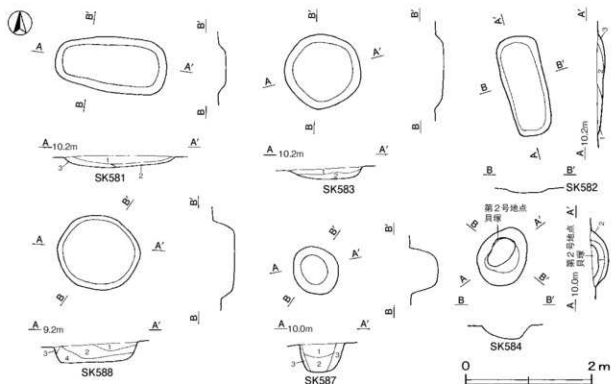
第137図 その他の土坑実測図24



第138図 その他の土坑実測図25



第139図 その他の土坑実測図②



第140図 その他の土坑実測図(27)

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量
- 2 褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第7号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量
- 2 灰褐色 粘土ブロック・ローム粒子多量

第21号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子微量

第23号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量

第24号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第25号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第26号土坑土層解説

- 1 褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量

第29号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック微量, 粘土粒子多量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子多量

第30号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量

第32号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第35号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量

第36号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量, 粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物多量, ローム粒子少量

第38号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第39号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第42号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック中量

第43号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第44号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第49号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第50号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第51号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第52号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第53号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第54号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第55号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第56号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第57号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第58号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第59号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第60号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

第61号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第62号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第63号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第64号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第65号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第66号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第67号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第68号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第69号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第70号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第71号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第72号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第73号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第74号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第75号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第76号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量

第77号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第78号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第79号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第80号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第81号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第82号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第83号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第84号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第85号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第86号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第87号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第88号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第89号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第90号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第91号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第92号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第93号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第94号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第95号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第96号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第97号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第98号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第99号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第100号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第101号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第102号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第103号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第105号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第106号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第107号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第109号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第110号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第111号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第112号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第113号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第114号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第115号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第116号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第117号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック少量

第118号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第119号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第124号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第125号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第126号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第127号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量、粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第128号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック微量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第129号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第130号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

第131号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第132号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量

第134号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・粘土粒子微量

第135号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第136号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量

第137号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第138号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第139号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第140号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第141号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第142号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第144号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第145号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第146号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第147号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第148号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第149号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第150号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第151号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第152号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量

第153号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第154号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第155号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第156号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第157号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第158号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第159号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第160号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第161号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第162号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 極暗褐色 ロームブロック微量

第163号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第164号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第165号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第166号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第167号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第168号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第169号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第170号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第171号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第172号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第173号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第174号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第175号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第176号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第177号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第179号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第180号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第181号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、粘土粒子微量

第182号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第183号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第184号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第185号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第186号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第187号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第188号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土ブロック微量

第189号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第190号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量、粘土粒子少量

第192号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第193号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

第194号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

第195号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量

第196号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第197号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第198号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第199号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

第201号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第202号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第203号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 にぶい褐色 ローム粒子中量

第204号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第205号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第206号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第207号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第208号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第209号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第210号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第211号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第213号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第214号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第215号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第216号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第217号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量

第218号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第219号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第220号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第221号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第222号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

第223号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第224号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第225号土坑土層解説

- 1 褐灰色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 2 褐灰色 ロームブロック微量、粘土粒子多量
- 3 暗褐色 炭化物・粘土粒子微量、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第226号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第227号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量

第228号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第229号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物、粘土ブロック微量

第230号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第231号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第232号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第233号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第234号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第235号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第237号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第238号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第240号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第241号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第243号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第244号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第245号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第246号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第247号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第248号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量

第249号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第250号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第251号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第252号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第253号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量

第254号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック少量

第255号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第256号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第257号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第258号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第259号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第260号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第261号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第262号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第263号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量

第264号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第265号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第266号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第267号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第268号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第269号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第270号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第271号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第272号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第273号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第274号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第275号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第276号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第277号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第278号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第279号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第280号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第281号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第282号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第283号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第284号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第285号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック微量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第286号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量

第287号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第288号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第289号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第290号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第291号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第292号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

第293号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第294号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第295号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第296号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第297号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第299号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第300号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第301号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第302号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第303号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第306号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第307号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第308号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第309号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第310号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第311号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第312号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第314号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 灰褐色 ロームブロック少量

第315号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第316号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第317号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第318号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第319号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

第320号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第321号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第324号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第325号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第327号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第329号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第330号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第333号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第334号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第335号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第336号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量、粘土粒子中量

第337号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第338号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

第339号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第340号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第341号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第343号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第344号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第345号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第346号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第347号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第348号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第349号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第351号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第352号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第353号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第354号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第355号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第356号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第357号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第358号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第359号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第360号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第361号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第362号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第363号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第364号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第365号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第366号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第367号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第368号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第369号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第370号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第372号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量

第373号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第376号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第379号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第380号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第382号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第383号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第384号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第385号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量

第386号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第387号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第388号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第389号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第390号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第392号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第393号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第394号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第396号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第397号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第398号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量

第399号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

第400号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第401号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第402号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

第403号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第404号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第405号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第406号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第407号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第408号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量

第409号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

第410号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第411号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

第412号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第413号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第414号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

第415号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

第416号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第417号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第418号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第419号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第420号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第421号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

第422号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第423号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第424号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第425号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

第426号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量

第427号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第428号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第429号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第430号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第431号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第432号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第433号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第434号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第436号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第437号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・堆土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第438号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第439号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第440号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第441号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第442号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第443号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第444号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第445号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第446号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量

第447号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第448号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ローム粒子微量

第449号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第450号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量

第451号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第452号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック微量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第453号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第454号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第455号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック微量

第456号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第457号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第458号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量

第459号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 灰褐色 ローム粒子中量
- 4 灰褐色 ロームブロック少量

第460号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第461号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第462号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第463号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第464号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第465号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第466号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第467号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量

第468号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第469号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第470号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

第471号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第472号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第473号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 明褐色 ロームブロック多量

第474号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第475号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第476号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第477号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第478号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第479号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第480号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第481号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

第482号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第483号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第484号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第485号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第486号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第487号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第488号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物微量、ローム粒子中量

第489号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第490号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第491号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量

第492号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第493号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第494号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第495号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第496号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量

第497号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第498号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第499号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第500号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第501号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量

第502号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量

第503号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 にふい褐色 ロームブロック中量

第504号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第505号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第506号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第507号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 灰褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第508号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ローム粒子中量

第509号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第510号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第511号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第512号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第513号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第514号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第515号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第516号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第517号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第518号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック微量

第519号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第520号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第521号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック微量

第522号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第523号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第524号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第525号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第526号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

第527号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第528号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第529号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量

第530号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第531号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第532号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第533号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第534号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第535号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第536号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第537号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第538号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第539号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第540号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第541号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量

第542号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第543号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

第544号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第545号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック微量

第546号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第547号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第548号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 灰褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第549号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第550号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第551号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック多量

第552号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量

第553号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第554号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量・粘土粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第555号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第556号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子微量

第558号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第559号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 灰褐色 ロームブロック微量

第560号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量

第562号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第563号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第564号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

第565号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第566号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第567号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第568号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量

第569号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 灰褐色 ロームブロック少量

第570号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第571号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第572号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第573号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第575号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第576号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第577号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量

第578号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第579号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量

第580号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

第581号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第582号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第583号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第584号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第587号土坑土層解説

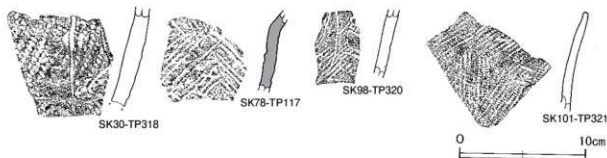
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第588号土坑土層解説

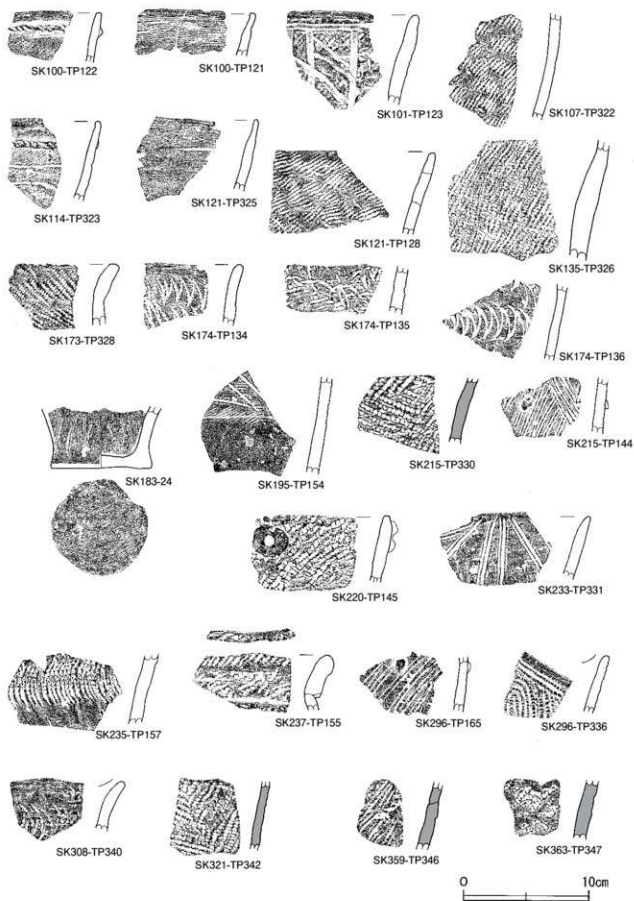
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第589号土坑土層解説

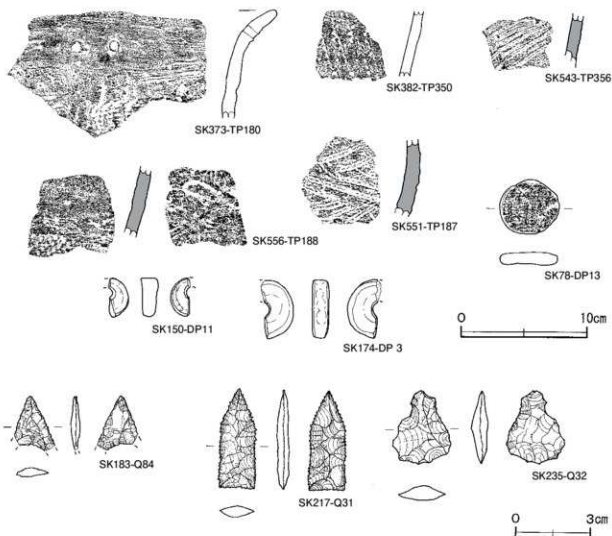
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第141図 その他の土坑出土遺物実測図(1)



第142図 その他の土坑出土遺物実測図(2)



第143図 その他の土坑出土遺物実測図(3)

その他の土坑出土遺物観察表 (第141～143図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
24	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	無文 磨き痕有り	SK183	10%
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考			
TP117	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	半級竹管による沈線文	SK78				
TP121	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部に櫛歯状工具による垂線文	SK100				
TP122	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口辺部にめくられた隆帯上にキザミ目 胴部単節縄文LR	SK100				
TP123	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文LRを地文としへう状工具による沈線文	SK101				
TP128	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内側に一条の沈線 単節縄文LR	SK121				
TP134	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	貝殻波状文	SK174				
TP135	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	結節を有する無節縄文	SK174				
TP136	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	液状貝殻文	SK174				
TP144	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	斜行した集合沈線上にギザミ目状貼付文	SK215				
TP145	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部から胴部にかけて単節縄文LR 円形の貼付文があり中心部に円形の凹み	SK220	PL37			

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP154	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線区両帯内単節縄文LR充焼	SK195	
TP155	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	11辺部に輪積み痕 単節縄文LR	SK237	PL37
TP157	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	波状具紋文	SK235	PL37
TP165	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	集合沈線文上にボタン状貼付文	SK296	
TP190	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	11辺部に内側から外側に向かってあけられた穿孔2か所 胴部に波状具紋文	SK373	PL38
TP187	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	木目状赤文	SK351	
TP188	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	無節縄文#	SK356	
TP318	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	橙	普通	単節縄文LRを地文としへう状工具による沈線 下部に輪積みを接合するためのキザミ目あり	SK30	
TP320	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	単節縄文LRを地文としへう状工具による沈線文	SK398	
TP321	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単節縄文LR	SK101	
TP322	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明赤褐	普通	単節縄文LR	SK107	
TP323	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明赤褐	普通	11辺部に隆帯 胴部には横位に沈線文 地文は単節縄文LR	SK114	
TP325	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	平截竹管による平行沈線	SK121	
TP326	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	単節縄文LR	SK135	
TP328	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	11唇部から胴部にかけて単節縄文RL	SK173	
TP330	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	羽状縄文	SK215	
TP331	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	平截竹管による沈線文	SK233	
TP336	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	キザミのある浮線文	SK296	
TP340	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	波状具紋文	SK308	
TP342	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	単節縄文LR・RLの2種類の原体を施文 内面に具紋赤灰文	SK321	
TP346	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・繊維	橙	普通	結節を有する無節縄文#	SK359	
TP347	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	普通	単節縄文LR	SK363	
TP350	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	波状具紋文	SK282	
TP356	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・繊維	橙	普通	2条一組の懸糸顔面L痕	SK543	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	塊状耳飾	4.7	(2.6)	1.3	(15.2)	長石・石英・雲母・小礫	明赤褐	浅車形 無紋 側面に指頭痕#	SK174	PL40
DP11	塊状耳飾	(3.1)	(1.6)	1.4	(5.3)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	表面及び側面に赤彩あり	SK150	PL40
DP13	土器円盤	4.3	4.7	1.0	20.8	長石・石英	暗赤褐	単節縄文LR 頸縁部は部分的に研磨	SK78	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	石鏝	3.9	1.4	0.4	2.7	チャート	基部押圧沈線 縁辺部は細かい押圧沈線により裏面を作出	SK217	PL43
Q32	石鏝#	2.9	2.3	0.6	2.8	チャート	縁辺部押圧沈線	SK235	PL43
Q84	石鏝	(2.1)	(1.6)	0.4	(0.8)	チャート	凹基無茎部 縁辺部押圧沈線 脚部の一部欠損	SK183	PL43

表11 その他の土坑一覧表

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 発掘関係 (古・新)
				長径(軸)×短径(軸) (南北軸×東西軸)	面積						
4	C 4 8	-	円形	1.86×1.78	28	緩斜	皿状	人為			
7	D 5 a5	N-45°-W	不定形	2.25×1.57	40	外傾・緩斜	皿状	人為	縄文土器片		
21	D 5 c8	-	円形	0.79×0.77	45	外傾	皿状	人為			
22	H 7 b0	N-60°-E	不定形	1.31×0.95	10~14	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡	
23	H 7 b0	N-87°-W	不定形	1.37×0.87	13	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡	
24	H 7 c9	-	不整形円形	2.42×2.26	32~30	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片		

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模 (m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長(北軸)×短(南軸)	長(北軸)×短(西軸)						
25	G 8 J1	N-42°-E	楕円形	0.90×0.75		22	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
26	G 7 g9	N-68°-E	楕円形	0.87×0.73		7~13	外傾	凹凸	人為		第3号遺物包含層→本跡
27	G 7 b9	N-13°-E	楕円形	1.45×1.10		16~25	縦斜	凹凸	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
29	G 7 44	N-11°-W	楕円形	1.15×0.90		45	外傾	崖状	人為	縄文土器片	SK32.33→本跡
30	H 8 d7	-	円形	1.92×1.80		24	縦斜	崖状	自然	縄文土器片	
32	G 7 64	N-64°-W	楕円形	(0.63)×(0.57)		15	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	本跡→SK29
33	G 7 64	N-40°-E	楕円形	0.64×(0.44)		9	外傾	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SK29
35	G 7 64	N-40°-E	長方形	1.02×0.52		56	直立	平坦	人為	縄文土器片	
36	E 6 i3	N-34°-W	楕円形	0.48×0.42		11	外傾	平坦	人為		
37	E 6 i2	N-36°-W	楕円形	0.63×0.43		7~13	外傾	平坦	自然	縄文土器片	
38	E 6 j3	-	円形	0.35×0.35		8	外傾	崖状	自然	縄文土器片	
39	F 6 a4	N-10°-W	楕円形	0.76×0.60		28	外傾	崖状	自然	縄文土器片	
40	F 6 d6	N-36°-W	楕円形	0.43×0.39		15	外傾	平坦	自然		
42	F 6 e6	N-0°	楕円形	0.90×0.45		13	外傾	平坦	自然	縄文土器片	
43	F 6 a3	N-10°-W	楕円形	0.98×0.70		10~14	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
44	F 6 a3	-	円形	0.48×0.46		20	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
47	F 6 e6	N-0°	楕円形	0.68×0.50		23	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
48	F 6 b9	-	円形	0.65×0.60		27	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
49	F 6 b9	-	円形	0.60×0.59		43	直立	崖状	人為	縄文土器片・調片	
50	F 6 b9	-	円形	0.48×0.46		7~13	縦斜	崖状	人為		SK51→本跡
51	F 6 b9	N-0°	楕円形	0.97×0.79		20	直立	平坦	自然		本跡→SK30
52	F 6 b9	-	円形	0.35×0.35		30	直立	崖状	人為		
53	F 6 g0	N-32°-W	楕円形	0.56×0.46		23	外傾	崖状	人為		
54	F 6 b9	N-51°-E	楕円形	0.55×0.43		30	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
55	F 6 b9	N-30°-W	楕円形	0.61×0.48		31	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
56	F 7 i1	N-76°-E	楕円形	0.43×0.36		22	外傾	崖状	自然	縄文土器片	
57	F 6 h8	N-65°-E	楕円形	0.60×0.52		15	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
58	F 6 g9	N-17°-W	楕円形	0.91×0.70		20	外傾	崖状	自然	縄文土器片	
59	F 6 g9	N-75°-E	楕円形	1.04×0.68		24	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
60	F 6 h0	N-43°-E	楕円形	0.55×0.46		16	直立	崖状	自然		本跡→SK61
61	F 6 h0	N-43°-E	楕円形	0.78×0.67		16	外傾	崖状	人為	縄文土器片	SK60→本跡
62	F 6 h9	N-32°-W	不定形	1.08×0.85		32	外傾	崖状	自然	縄文土器片	
63	F 6 h0	N-67°-E	楕円形	0.72×0.56		22	外傾・縦斜	凹凸	人為	縄文土器片	
64	F 6 h0	N-80°-W	楕円形	1.24×1.02		20	縦斜	凹凸	人為		
65	F 7 j1	N-20°-E	楕円形	0.58×0.46		18	縦斜	崖状	人為	縄文土器片	
66	F 7 i2	-	円形	0.42×0.40		14	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
67	F 7 b1	N-1°-W	[楕円形]	(0.60)×0.78		18	外傾	崖状	人為	縄文土器片	本跡→PG3 P13
68	F 7 b4	-	円形	0.55×0.53		63	直立	平坦	人為		
69	F 6 j0	N-18°-E	楕円形	0.93×0.62		36	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
70	G 7 a1	-	円形	0.74×0.72		27	縦斜	崖状	自然	縄文土器片	
71	F 6 j0	N-51°-E	楕円形	0.91×0.52		30	外傾・縦斜	崖状	人為	縄文土器片	
72	F 6 j0	N-70°-E	楕円形	0.74×0.44		30	外傾	崖状	人為	縄文土器片	
73	G 6 a0	N-42°-W	楕円形	0.72×0.44		24	外傾	崖状	人為		
74	F 7 j1	N-81°-E	楕円形	0.90×0.54		38	外傾	崖状	人為	縄文土器片	SK161→本跡
75	F 7 i4	N-17°-E	楕円形	0.55×0.45		11	縦斜	崖状	自然		
76	F 7 i4	N-11°-E	楕円形	0.70×0.37		18	外傾	崖状	不明	縄文土器片	

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径(約)×短径(約) (南北軸×東西軸)						
77	F 7 j2	N-20°-E	長方形	0.82×0.52	24	外傾	平坦	自然	縄文土器片・濶片	
78	F 6 e0	N-28°-W	楕円形	1.72×1.12	64	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
79	G 7 a1	-	円形	0.79×0.78	16	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
80	F 7 j1	-	円形	0.50×0.47	19	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
81	F 7 h3	N-49°-W	楕円形	0.86×0.70	30	直立・外傾	凹凸	人為	縄文土器片	本跡→PG4 P5
82	G 7 a1	-	円形	0.60×0.56	26	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
83	G 7 a2	N-52°-W	楕円形	1.38×0.36	18	外傾	皿状	自然	縄文土器片	SK84→本跡
84	G 7 a2	-	[円形]	0.52×(0.52)	20	外傾	平坦	自然	縄文土器片	本跡→SK83
85	F 7 j2	N-59°-W	楕円形	0.52×0.34	18	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
86	G 7 a3	-	円形	0.40×0.38	14	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
87	G 7 a3	N-48°-E	楕円形	0.45×0.38	14	外傾	皿状	自然		
88	F 7 j3	N-61°-E	楕円形	0.59×0.48	18	外傾	皿状	自然		
89	F 7 j2	N-2°-W	楕円形	0.96×0.63	34	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
90	G 7 a2	N-53°-E	楕円形	0.72×0.49	18	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
91	G 7 a3	N-76°-W	楕円形	0.72×0.48	22	外傾	凹凸	自然		
92	G 7 a2	N-52°-W	不定形	1.10×0.58	30	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
93	G 7 b2	N-40°-E	楕円形	0.86×0.78	22~34	外傾	皿状	自然	縄文土器片・濶片	
94	F 6 g9	N-24°-W	楕円形	1.56×1.38	21	緩斜	平坦	人為	縄文土器片	
95	F 6 g9	N-72°-E	隅丸長方形	1.00×0.76	15	外傾	平坦	人為		
96	F 7 j1	-	円形	0.78×0.74	23	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
97	F 6 j0	N-26°-W	楕円形	0.54×0.48	28	斜傾・緩斜	皿状	人為	縄文土器片・濶片	
98	G 7 a2	N-28°-W	不定形	0.90×0.56	32	外傾	皿状	不明	縄文土器片	
99	G 7 a1	N-8°-E	楕円形	1.10×0.61	18	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
100	G 7 b2	-	[円・楕円形]	[0.84]×[1.12]	16	外傾	平坦	人為	縄文土器片・濶片	本跡→SK101
101	G 7 b2	N-62°-W	不整楕円形	1.10×0.94	32	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	SK100→本跡
102	G 7 b2	N-32°-E	楕円形	0.66×0.42	24	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
103	F 6 h9	N-0°	隅丸長方形	0.61×0.38	27	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
105	F 6 j0	N-80°-W	[楕円形]	(0.40)×0.60	40	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	本跡→PG3 P14
106	G 7 a1	-	円形	0.58×0.54	24	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
107	G 7 b1	-	円形	0.80×0.76	20	斜傾・直立	凹凸	人為	縄文土器片	
108	G 7 b2	N-19°-W	楕円形	0.76×0.46	13	斜傾・緩斜	皿状	-	縄文土器片	
109	G 7 c2	N-75°-W	楕円形	0.70×0.62	27	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
110	G 7 c2	-	円形	0.72×0.70	30	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
111	G 7 a3	-	円形	0.64×0.60	36	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
112	G 7 a3	N-59°-W	楕円形	0.90×0.62	23	外傾	皿状	人為	縄文土器片・濶片	
113	G 7 a3	N-51°-E	楕円形	0.72×0.61	14	外傾	平坦	自然	縄文土器片	
114	G 7 b3	N-28°-E	楕円形	1.12×0.86	24	外傾	皿状	自然	縄文土器片	SK209→本跡
115	G 7 c2	N-45°-W	楕円形	0.70×0.61	26	外傾・緩斜	皿状	人為	縄文土器片	
116	G 7 c2	N-33°-W	楕円形	0.50×0.40	14	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
117	G 7 c2	N-35°-W	楕円形	0.56×0.48	30	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
118	G 7 c2	N-74°-W	楕円形	0.98×0.57	18	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
119	G 7 d2	N-26°-E	楕円形	0.80×0.57	22	外傾	皿状	人為	縄文土器片	本跡→第1号ビット
121	G 7 b1	N-55°-E	不定形	1.82×1.50	28	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
122	G 7 a1	N-41°-W	楕円形	0.70×0.46	21	斜傾・緩斜	皿状	-	縄文土器片	SK123→本跡
123	G 7 a1	-	[円形]	0.50×(0.48)	10	斜傾・緩斜	皿状	-	縄文土器片	本跡→SK122
124	G 7 a1	N-19°-W	楕円形	0.62×0.50	26	外傾	皿状	人為	縄文土器片	SK125→本跡

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)	深さ(cm)	断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長(北軸)×短(南軸) (南北軸×東西軸)						
125	G 7 a1	N-7°-E	楕円形	1.08×0.68	18	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	本跡→SK124
126	G 7 b3	N-58°-W	楕円形	0.60×0.44	20	緩斜	塵状	人為	縄文土器片	
127	G 7 b2	N-40°-E	楕円形	0.60×0.44	14	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
128	G 7 b2	-	円形	0.61×0.61	17	緩斜	塵状	人為	縄文土器片	
129	G 7 b4	N-68°-E	不整形楕円形	0.90×0.46	40	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
130	G 7 a4	N-45°-W	楕円形	1.14×0.58	31	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
131	G 7 c3	N-65°-E	楕円形	1.21×0.55	20~26	外傾	平坦	人為	縄文土器片・珠状耳環	SK166→本跡
132	G 7 c4	N-2°-E	楕円形	0.46×0.26	14	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
134	G 7 c3	N-36°-E	楕円形	0.60×0.46	32	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
135	G 7 c4	N-30°-E	楕円形	0.82×0.50	34	外傾-直立	凹凸	自然	縄文土器片	
136	G 7 b4	N-61°-E	楕円形	0.62×0.50	20	外傾-緩斜	塵状	人為	縄文土器片	
137	G 7 a5	N-5°-E	楕円形	0.60×0.54	20	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
138	G 7 b4	-	円形	0.40×0.40	19	外傾	塵状	人為		
139	G 7 b6	N-32°-W	長方形	0.69×0.58	26	外傾	塵状	自然	縄文土器片	
140	F 7 j8	N-40°-W	不定形	1.61×0.85	23	外傾	塵状	人為	縄文土器片・石鏃	
141	G 7 d3	N-54°-E	不整形長方形	0.81×0.55	29	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
142	G 7 a6	N-39°-E	楕円形	0.81×0.69	27	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
144	G 7 d3	N-60°-E	楕円形	0.54×0.37	18	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
145	G 7 b5	N-30°-W	楕円形	0.69×0.56	30	外傾-緩斜	塵状	人為	縄文土器片	
146	G 7 b2	N-13°-E	楕円形	0.62×0.32	18	外傾	塵状	自然	縄文土器片	
147	F 7 b5	N-72°-E	楕円形	0.83×0.65	16	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
148	F 7 b5	-	円形	0.54×0.54	25	外傾	平坦	不明		
149	F 7 i7	N-44°-E	楕円長方形	1.15×0.84	13	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
150	F 7 j7	N-24°-W	楕円形	1.00×0.84	24	直立	平坦	人為	縄文土器片・珠状耳環	
151	G 7 b4	N-79°-W	楕円形	0.60×0.36	14	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
152	G 7 b4	-	円形	0.42×0.42	14	外傾-緩斜	塵状	自然	縄文土器片	
153	F 7 j9	-	円形	0.52×0.50	24	外傾	塵状	人為		
154	F 7 j4	N-56°-W	楕円形	0.60×0.36	14	外傾	平坦	人為		
155	G 7 a5	-	円形	0.61×0.58	26	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
156	G 7 a5	N-38°-W	楕円形	0.74×0.44	28	外傾-緩斜	塵状	人為	縄文土器片	
157	G 7 a4	-	円形	0.44×0.42	28	外傾	塵状	人為		
158	G 7 a5	N-80°-W	楕円形	0.60×0.40	16	外傾	塵状	人為		
159	G 7 a5	N-65°-W	楕円形	0.60×0.34	10	外傾	塵状	自然		
160	G 7 a6	N-78°-W	楕円形	0.82×0.51	20~24	外傾	凹凸	人為	縄文土器片・珠状耳環	
161	G 7 a4	N-62°-E	楕円形	0.78×0.54	24	外傾-緩斜	塵状	人為	縄文土器片	
162	G 7 a6	N-48°-W	楕円長方形	3.54×1.50	16	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
163	F 6 b9	N-0°	[楕円形]	(1.20)×(1.06)	12	外傾	平坦	人為	縄文土器片	本跡→PG2 P14
164	F 7 j1	N-2°-E	楕円形	0.83×0.63	22	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	本跡→SK71
165	F 7 e1	-	円形	1.02×0.99	52	直立	平坦	人為	縄文土器片	
166	G 7 c3	N-10°-W	[楕円形]	0.65×(0.53)	30	外傾	塵状	自然		本跡→SK131
167	G 7 d4	N-15°-W	楕円形	0.46×0.34	22	外傾	塵状	自然	縄文土器片	
168	G 7 c4	-	円形	0.38×0.38	8	外傾	塵状	自然	縄文土器片	本跡→SK169
169	G 7 c4	-	円形	0.44×0.44	18	外傾	塵状	人為	縄文土器片	SK168→本跡
170	G 7 b4	N-38°-W	楕円形	0.45×0.36	12	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
171	G 7 b5	N-58°-W	楕円形	0.88×0.74	22	外傾-緩斜	凹凸	人為	縄文土器片	
172	G 7 a5	-	円形	0.46×0.43	12~22	外傾	凹凸	人為		

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(m)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (南北軸×東西軸)	幅						
173	G 7 a6	N-44°-W	楕円形	1.53×1.08		87	外傾・直立	凹凸	人為	縄文土器片	
174	F 7 b6	N-84°-W	楕円形	2.56×1.75		20~73	直立・外傾	平坦	人為	縄文土器片・焼耳環	
175	F 7 b5	-	円形	0.47×0.45		10	外傾	平坦	人為		
176	F 7 j5	-	[円形・楕円形]	0.50×(0.36)		16	外傾	圓状	人為	縄文土器片	本跡→SK177
177	F 7 j5	N-36°-W	楕円形	0.92×0.38		46	外傾	圓状	人為	縄文土器片	SK176→本跡
178	F 6 b7	N-39°-W	楕円形	0.39×0.30		26	直立	平坦	-		
179	G 7 d5	N-52°-W	楕円形	0.51×0.47		18	外傾	圓状	人為	縄文土器片	
180	G 7 d6	N-42°-W	楕円形	1.13×0.88		18	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
181	G 7 d6	N-65°-E	楕円形	0.62×0.58		14	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
182	G 7 b7	-	円形	0.72×0.66		30	外傾	凹凸	人為	縄文土器片・須片	
183	G 7 b7	-	円形	0.90×0.85		21	外傾	平坦	人為	縄文土器片・石炭	
184	G 7 e6	N-33°-W	楕円形	0.48×0.40		18	外傾	平坦	自然		
185	G 7 d6	N-36°-W	楕円形	0.68×0.36		19	外傾	圓状	自然	縄文土器片	
186	G 7 e6	N-74°-W	楕円長方形	1.16×0.48		20	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
187	G 7 e5	N-50°-E	[楕円形]	(0.64)×0.48		20	外傾	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SK195
188	G 7 b7	N-73°-E	楕円形	0.52×0.40		21	緩斜	圓状	自然	縄文土器片	
189	G 7 b7	N-15°-E	不定形	0.78×0.69		17~20	外傾・緩斜	凹凸	人為	縄文土器片	
190	G 7 e5	N-40°-E	楕円形	0.56×0.42		16	外傾	圓状	人為		
192	G 7 d6	N-19°-W	楕円形	1.61×1.16		20	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
193	G 7 e6	N-64°-W	楕円形	0.65×0.46		22	外傾	圓状	人為	縄文土器片	
194	G 7 e6	N-10°-W	楕円形	0.66×0.59		30	外傾	圓状	人為	縄文土器片	
195	G 7 e5	N-44°-W	楕円形	1.14×0.89		26	外傾	平坦	人為	縄文土器片	SI10, SK187→本跡
196	G 7 b7	N-50°-E	楕円形	0.65×0.46		23	緩斜	圓状	人為	縄文土器片	
197	G 7 b8	N-70°-E	楕円形	0.45×0.37		16	緩斜	圓状	人為	縄文土器片	
198	G 7 b9	-	円形	0.45×0.45		12	外傾	平坦	自然	縄文土器片	
199	G 7 a9	-	円形	0.70×0.67		17	外傾	圓状	人為	縄文土器片	
200	G 7 e3	-	円形	0.52×0.50		24	外傾	圓状	-	縄文土器片	
201	F 7 i4	N-32°-W	楕円長方形	1.13×0.53		50	直立	凹凸	人為	縄文土器片	
202	F 7 i4	N-65°-W	長方形	1.78×1.02		14	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	SK203→本跡
203	F 7 i4	N-34°-E	長方形	2.70×0.90		15	外傾	平坦	人為		本跡→SK202, PG SP9
204	F 7 b6	-	円形	0.55×0.54		24	外傾	平坦	人為		
205	F 7 b6	N-42°-E	楕円形	0.60×0.52		17	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
206	F 7 b5	N-81°-W	楕円形	1.90×1.70		37	外傾	平坦	人為	縄文土器片	SK207→本跡
207	F 7 b5	N-50°-W	[長方形]	(1.10)×0.78		18	外傾	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SK206
208	G 7 b4	N-40°-E	楕円形	1.08×0.68		26	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
209	G 7 b3	-	[円形・楕円形]	0.50×(0.38)		20	外傾	圓状	人為	縄文土器片	本跡→SK114
210	G 7 b4	N-35°-E	楕円形	0.72×0.31		16	外傾	平坦	自然	縄文土器片	
211	G 7 d4	N-0°	楕円形	0.52×0.42		21	外傾	圓状	不明		
212	F 7 d7	-	円形	0.30×0.30		16	直立	圓状	-		
213	F 7 h1	N-71°-W	不定形	0.74×0.42		27	外傾・緩斜	圓状	自然		
214	G 7 c7	-	不整形円形	1.30×1.27		38	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片	
215	G 7 e6	N-40°-W	楕円形	1.40×1.16		46	外傾	圓状	人為	縄文土器片・磨製石斧	SK216→本跡
216	G 7 d6	N-29°-W	楕円形	0.85×(0.55)		45	外傾	圓状	人為		本跡→SK215
217	G 7 e5	N-33°-E	楕円形	0.66×0.52		22	外傾	凹凸	人為	縄文土器片・石炭	
218	G 7 d5	N-78°-E	楕円形	0.64×0.48		12	緩斜	圓状	人為		SI10→本跡
219	G 7 e6	N-7°-E	楕円形	0.96×0.80		23	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模 (m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長(北軸)×短(南軸)	長(北軸)×短(西軸)						
220	G 7 e6	N-82°-E	楕円形	0.85×0.74		24	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
221	G 7 e6	N-53°-E	楕円形	0.42×0.40		18	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
222	G 7 d7	N-0°	楕円形	1.08×1.03		18	外傾-縦斜	平坦	人為	縄文土器片	
223	G 7 d9	N-7°-E	不定形	1.65×0.98		33	外傾-縦斜	塵状	人為	縄文土器片	
224	G 7 e9	N-19°-E	楕円形	0.76×0.69		18	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
225	G 7 d9	N-52°-E	楕円形	1.22×1.06		20	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
226	G 7 e8	N-44°-W	楕円形	0.61×0.36		29	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
227	F 6 h0	-	円形	0.36×0.36		13	外傾	円凸	自然	縄文土器片	
228	G 7 d8	N-72°-W	楕円形	0.73×0.54		16	外傾	塵状	自然	縄文土器片	
229	G 7 e6	N-22°-W	楕円形	1.26×0.94		19	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
230	G 7 e6	N-83°-W	楕円形	0.73×0.44		25	外傾	円凸	人為	縄文土器片	
231	G 7 e7	N-4°-E	楕円形	0.48×0.41		16~26	外傾	円凸	人為	縄文土器片	
232	G 7 e7	N-65°-W	楕円形	0.64×0.40		18	外傾	円凸	自然	縄文土器片	
233	G 7 e7	N-48°-W	楕円形	1.00×0.89		30	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
234	G 7 d8	N-80°-E	楕円形	0.70×0.58		33	直立	塵状	人為	縄文土器片	
235	G 7 b6	N-1°-W	楕円形	2.76×2.10		26	外傾	平坦	人為	縄文土器片-石器等	SK236
236	G 7 b6	N-23°-E	[不整形方形]	1.42×[0.80]		28	外傾	平坦	-	縄文土器片	SK235
237	G 7 d7	N-42°-W	長方形	1.29×0.54		26	外傾	塵状	不明	縄文土器片	SI12→本跡
238	G 7 g8	-	円形	1.00×0.92		27	直立	平坦	自然	縄文土器片	
240	G 7 g8	-	円形	0.39×0.39		18	外傾	塵状	自然		
241	G 7 g8	N-0°	楕円形	0.45×0.39		27	外傾	塵状	自然		
243	G 7 g8	N-78°-E	楕円形	0.91×0.67		33	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
244	G 7 g9	N-82°-E	楕円形	0.65×0.46		21	外傾	塵状	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
245	G 8 e1	-	円形	0.46×0.42		11	直立	円凸	自然	縄文土器片	
246	G 8 f1	N-59°-E	楕円形	0.93×0.70		35	外傾	塵状	自然	縄文土器片	SK589→本跡
247	G 8 e1	N-90°-E	楕円形	0.63×0.56		21	直立	平坦	人為	縄文土器片	
248	G 8 f1	N-0°	楕円形	0.85×0.71		24	外傾	塵状	自然	縄文土器片	
249	G 8 h2	-	円形	0.52×0.48		20	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
250	G 8 f1	N-46°-W	楕円形	0.90×0.67		25	外傾	塵状	自然	縄文土器片	
251	G 8 g1	N-29°-E	不定形	0.92×0.45		31	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
252	G 8 e1	-	円形	0.54×0.54		21	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
253	G 8 g1	N-5°-W	楕円形	0.92×0.63		20	外傾	塵状	人為		
254	G 8 e2	N-69°-W	不定形	0.84×0.71		19	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
255	G 8 g3	N-36°-W	楕円形	0.67×0.59		19	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
256	G 8 g3	N-80°-E	楕円形	1.25×0.78		22	外傾-縦斜	平坦	自然	縄文土器片	
257	G 8 g3	N-57°-W	楕円形	1.33×0.45		20	外傾	塵状	自然	縄文土器片	
258	G 8 h2	N-65°-E	楕円形	0.86×0.63		24	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
259	G 7 e0	N-0°	楕円形	0.63×0.49		27	外傾	塵状	人為	縄文土器片	
260	G 8 e1	N-52°-E	楕円形	0.93×0.78		26	外傾	平坦	人為	縄文土器片	SK261→本跡
261	G 8 e1	N-39°-W	楕円形	0.63×0.48		45	外傾	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SK260
262	G 8 e2	N-47°-E	楕円形	0.55×0.48		23	外傾	塵状	自然	縄文土器片	
263	G 8 e2	N-0°	長方形	0.57×0.47		27	外傾	塵状	自然		SK264→本跡
264	G 8 g2	N-57°-W	[楕円形]	(0.70)×0.52		20	外傾	塵状	人為	縄文土器片	本跡→SK263
265	G 8 h2	N-40°-E	楕円形	1.05×0.65		20	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
266	G 8 g1	N-55°-E	不定形	1.22×0.96		25	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
267	G 8 h2	N-74°-W	楕円形	0.63×0.55		20	外傾	塵状	人為	縄文土器片	SK268→本跡

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長(軸)×短(軸) (南北軸×東西軸)						
268	G 8 h2	N-45°-E	楕円形	0.72×0.35	20	傾斜	皿状	人為	縄文土器片	本跡→SK267
269	G 8 h2	N-63°-W	楕円形	0.56×0.47	23	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
270	G 8 h2	-	円形	0.80×0.80	25	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
271	G 8 g1	N-42°-E	楕円形	0.76×0.40	37	直立	平坦	人為	縄文土器片	
272	G 8 h3	N-74°-E	楕円形	0.54×0.39	26	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
273	G 8 h3	-	[円形]	0.39×(0.35)	15	外傾	皿状	自然	縄文土器片	本跡→SK274
274	G 8 h3	N-49°-W	楕円形	0.76×0.61	21	外傾	皿状	人為	縄文土器片	SK273→本跡
275	G 8 h3	-	円形	0.60×0.55	17	直立	凹凸	人為	縄文土器片	
276	G 8 h3	-	円形	0.58×0.55	25	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
277	G 8 h3	N-90°-E	楕円形	0.45×0.40	17	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
278	G 8 h3	N-57°-E	楕円形	0.62×0.55	25	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
279	G 8 h3	-	円形	0.58×0.53	22	外傾	皿状	人為	縄文土器片	SK280→本跡
280	G 8 h3	-	[円形]	0.47×(0.42)	11	外傾	平坦	自然		本跡→SK279
281	H 7 a9	N-66°-E	楕円形	0.54×0.40	12	外傾・傾斜	皿状	自然	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡
282	H 7 a9	-	円形	0.37×0.57	33	外傾	皿状	自然	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡
283	H 7 c9	N-23°-E	楕円形	1.28×0.87	7	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
284	H 7 b0	-	円形	0.48×0.46	21	外傾	皿状	自然	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡
285	H 8 a1	N-30°-E	楕円形	0.54×0.42	18	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
286	H 8 a1	-	円形	0.41×0.38	20	外傾	平坦	人為		
287	H 7 a9	-	円形	0.56×0.55	20	外傾	平坦	自然	縄文土器片	第2号遺物包含層、SK372→本跡
288	H 7 a9	N-3°-W	楕円形	0.41×0.32	16	外傾	皿状	自然	縄文土器片	第2号遺物包含層、SK372→本跡
289	H 8 a1	N-72°-W	楕円形	0.85×0.72	28	直立・外傾	平坦	自然	縄文土器片	
290	G 7 d0	-	円形	0.48×0.48	27	外傾	皿状	自然		第3号遺物包含層→本跡
291	H 7 a0	N-0°	楕円形	1.01×0.76	27	直立・外傾	平坦	人為	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡
292	H 8 a1	N-47°-W	楕円形	1.04×0.48	34	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器片	
293	G 7 b9	N-0°	楕円形	0.60×0.50	26	外傾	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
294	G 8 h1	N-45°-W	楕円形	0.66×0.45	27	外傾	皿状	自然	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
295	G 8 h1	N-70°-W	楕円形	0.50×0.39	22	外傾	皿状	自然	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
296	G 7 e8	N-18°-E	楕円形	0.94×0.70	32	外傾・直立	平坦	不明	縄文土器片	
297	G 7 e9	N-61°-E	楕円形	1.06×0.62	32	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
299	G 7 e8	-	円形	0.60×0.60	26	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
300	G 7 e8	N-17°-E	楕円形	0.50×0.46	26	外傾・傾斜	平坦	人為	縄文土器片	
301	G 7 g0	N-35°-W	楕円形	0.78×0.65	34	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
302	G 7 g9	N-38°-W	楕円形	0.54×0.39	21	直立	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
303	G 7 g6	N-47°-E	楕円形	0.84×0.69	26	外傾・傾斜	凹凸	人為	縄文土器片	
306	G 7 f8	N-78°-E	楕円形	0.86×0.50	30	外傾	皿状	人為	縄文土器片	SK307→本跡
307	G 7 f8	N-72°-E	楕円形	1.30×1.05	23	外傾	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SK306
308	G 7 e9	N-55°-E	不整形円形	1.10×0.74	46	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
309	G 7 c0	N-76°-W	楕円形	0.70×0.57	28	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
310	G 7 e9	N-16°-W	楕円形	0.57×0.50	26	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
311	G 7 b9	N-51°-E	楕円形	0.58×0.43	26	外傾	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
312	G 7 b9	N-51°-E	楕円形	0.75×0.60	30	外傾	皿状	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
314	G 7 g0	N-59°-E	楕円形	1.10×0.82	33	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
315	G 7 g0	N-63°-W	楕円形	1.08×0.58	31	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
316	G 7 b0	N-0°	楕円形	0.81×0.79	24	外傾	皿状	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
317	G 8 h1	N-0°	楕円形	0.45×0.36	25	直立	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重視関係 (古→新)
				長(北軸)×短径(軸)	短径(南軸)						
318	G 8h1	N-0°	楕円形	0.76×0.88	20	外傾	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡	
319	G 7h0	N-25°-W	隅丸長方形	1.03×0.47	21	外傾	底狀	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡	
320	G 7h9	N-65°-W	楕円形	0.61×0.43	25	直立	凹凸	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡	
321	G 7e8	N-48°-E	楕円形	1.25×0.58	28	外傾	底狀	人為	縄文土器片		
324	H 8b5	-	円形	0.89×0.47	18	緩斜-外傾	底狀	人為	縄文土器片		
325	H 8b6	N-24°-E	楕円形	0.86×0.75	32	緩斜	底狀	人為	縄文土器片		
327	G 8h2	N-47°-E	楕円形	0.77×0.59	30	外傾	底狀	自然	縄文土器片		
329	G 8j3	N-90°-E	不定形	0.73×0.53	22	外傾	底狀	自然	縄文土器片		
330	G 8j1	N-90°-E	楕円形	1.50×0.91	50	外傾	底狀	自然	縄文土器片		
333	G 7e3	N-33°-W	楕円形	0.55×0.48	10	緩斜	平坦	人為	縄文土器片	S19→本跡	
334	G 7e4	N-52°-E	楕円形	0.43×0.31	26	外傾-緩斜	底狀	人為	縄文土器片	S19→本跡	
335	G 7f1	N-18°-E	楕円形	0.80×0.71	16~27	外傾	底狀	人為	縄文土器片	S19→本跡	
326	G 7f1	N-13°-E	楕円形	0.84×0.71	12~32	緩斜	底狀	人為	縄文土器片	S110→本跡	
337	G 7h6	N-73°-E	楕円形	0.80×0.72	31	外傾	底狀	人為	縄文土器片		
338	G 7e4	N-43°-W	楕円形	0.75×0.64	18	緩斜	底狀	人為		S19-10→本跡→SK339	
339	G 7e4	N-2°-W	楕円形	0.51×0.43	19	外傾	平坦	人為	縄文土器片	S19, SK338→本跡	
340	G 7e4	-	[円形]	0.44×(0.22)	12	外傾-直立	底狀	人為	縄文土器片	S110→本跡	
341	H 7a7	N-29°-E	楕円形	0.72×0.58	31	外傾	凹凸	人為	縄文土器片		
343	G 7j8	N-17°-W	楕円形	0.50×0.40	20	外傾	底狀	自然	縄文土器片		
344	G 7j8	N-11°-E	楕円形	0.68×0.58	28	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
345	G 7j8	N-72°-W	楕円形	1.00×0.60	50	外傾	底狀	人為	縄文土器片		
346	G 7j8	N-63°-W	楕円形	0.68×0.58	36	外傾	底狀	人為	縄文土器片		
347	G 7i0	N-90°-E	楕円形	0.45×0.40	27	外傾	底狀	人為	縄文土器片		
348	G 7e5	N-71°-E	楕円形	0.65×0.50	12	外傾-緩斜	平坦	自然		S111→本跡	
349	G 7e5	N-76°-E	楕円形	1.02×0.69	25	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片	S111→本跡	
351	G 7e5	N-77°-W	楕円形	0.69×0.46	13~22	緩斜	凹凸	人為		S111→SK352→本跡	
352	G 7e5	N-66°-E	[楕円形]	0.421×0.46	9~16	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片	S111→本跡→SK351	
353	H 8b5	N-10°-E	楕円形	0.74×0.57	22	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
354	G 7e6	N-46°-E	楕円形	0.51×0.41	31	外傾	凹凸	人為	縄文土器片		
355	G 7f1	N-51°-E	楕円形	0.42×0.34	20~27	直立	凹凸	人為	縄文土器片	S110→本跡	
356	G 8j3	N-53°-W	楕円形	0.36×0.30	24	外傾	底狀	自然			
357	G 7i0	N-0°	楕円形	0.68×0.52	28	外傾	底狀	人為		SK358→本跡	
358	G 7i0	N-50°-E	[楕円形]	(0.65)×0.35	24	直立	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SK357	
359	G 7i0	N-45°-E	楕円形	1.04×0.68	32	外傾	底狀	人為	縄文土器片		
360	G 7i0	N-51°-W	楕円形	1.27×0.80	30	外傾	平坦	自然	縄文土器片		
361	G 7i0	-	円形	0.95×0.91	55	外傾-直立	底狀	人為	縄文土器片	SK362→本跡	
362	G 7i0	N-49°-W	[楕円形]	(0.96)×1.06	40	外傾	平坦	自然	縄文土器片	本跡→SK361	
363	G 7i0	N-28°-W	楕円形	1.20×0.94	39	外傾	底狀	人為	縄文土器片		
364	G 7h0	N-37°-W	楕円形	0.62×0.42	30	外傾	底狀	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡	
365	G 7g0	N-0°	楕円形	0.65×0.48	26	外傾	底狀	人為	縄文土器片		
366	G 8g1	N-74°-W	楕円形	0.58×0.50	27	外傾-直立	底狀	自然			
367	G 8e1	N-50°-W	不定形	0.78×0.70	30	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
368	G 8g1	N-75°-W	長方形	0.89×0.45	24	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
369	G 8h1	N-58°-E	楕円形	0.73×0.62	24~50	外傾	底狀	自然	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡 →PG107	
370	G 8h1	N-24°-W	不整楕円形	1.34×0.48	28	外傾	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡 →PG106-PS	
372	G 7i6	N-28°-W	楕円形	0.28×0.22	24	外傾	底狀	人為			

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (南北軸×東西軸)						
373	G 7 7	N-27°-W	楕円形	0.94×0.80	48	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
376	G 7 7	N-86°-W	楕円形	0.61×0.55	26	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
379	G 7 7	N-6°-E	楕円形	0.60×(0.25)	38	外傾・緩斜	皿状	人為	縄文土器片	本跡→SK380. 第11号ピット
380	G 7 7	N-88°-W	不整形円形	(0.66)×0.55	28	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	SK379→本跡→第11号ピット
382	G 7 7	-	円形	0.84×0.82	30	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
383	G 7 7	-	円形	0.73×0.68	34	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	
384	G 7 g7	N-58°-E	[楕円形]	(0.38)×0.58	31	緩斜・外傾	平坦	人為		本跡→SK385
385	G 7 g7	N-77°-W	楕円形	0.67×0.66	30	外傾	皿状	人為		SK384→本跡
386	G 7 g0	N-67°-W	楕円形	0.48×0.42	58	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
387	G 7 g9	N-74°-W	楕円形	0.67×0.69	24	外傾・緩斜	皿状	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
388	G 7 g7	-	円形	0.47×0.45	44	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
389	G 7 g7	N-8°-E	楕円形	0.74×0.67	40	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
390	G 7 g7	N-16°-E	楕円形	0.69×0.59	38	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
392	G 7 h7	-	円形	0.37×0.37	33	直立	皿状	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
393	G 7 h7	-	円形	0.50×0.47	30	直立	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
394	G 7 h6	-	円形	0.51×0.50	30	直立	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
396	G 8 h1	N-31°-W	楕円形	0.58×0.45	25	外傾	皿状	人為		
397	G 8 i2	N-39°-E	楕円形	0.83×(0.61)	24	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	本跡→SK398
398	G 8 i2	N-64°-W	楕円形	0.97×0.73	31	外傾	皿状	人為	縄文土器片	SK397→本跡
399	G 8 h1	N-58°-E	楕円形	0.85×0.69	39	外傾	平坦	自然	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
400	G 7 h6	N-32°-E	楕円形	0.70×0.56	12	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	
401	G 7 h6	N-60°-E	楕円形	0.78×0.37	14	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	
402	G 7 g6	N-59°-E	楕円形	0.89×0.44	24	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	
403	G 7 h6	N-48°-E	楕円形	0.68×0.43	10	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	
404	G 7 h6	N-61°-E	楕円形	0.79×0.46	28	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
405	G 7 g7	N-89°-E	楕円形	0.86×0.64	44	外傾・緩斜	皿状	自然	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
406	G 7 g7	N-82°-W	楕円形	1.12×0.74	53	外傾	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
407	G 7 j0	N-79°-W	楕円形	0.40×0.32	18	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
408	G 8 j1	-	円形	0.42×0.41	18	外傾	皿状	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
409	G 7 j0	-	円形	0.52×0.48	22	外傾	平坦	人為	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
410	G 8 j1	N-7°-E	楕円形	1.08×0.62	32	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
411	G 7 j0	N-86°-E	楕円形	0.72×0.63	42	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
412	F 7 h1	N-81°-E	楕円形	0.50×0.37	25	外傾	皿状	自然		
413	G 6 a0	N-60°-W	楕円形	0.64×0.32	16	外傾・緩斜	皿状	自然	縄文土器片	
414	F 7 j1	N-70°-E	楕円形	0.74×0.32	18	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
415	G 7 a7	N-77°-W	楕円形	0.92×0.56	22	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
416	F 7 j2	N-60°-W	楕円形	0.80×0.49	33	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
417	F 7 j2	N-3°-E	楕円形	0.76×0.62	30	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
418	G 7 a6	-	円形	0.34×0.32	21	外傾	皿状	自然		
419	G 7 a7	N-30°-E	不定形	0.75×0.68	31	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
420	G 7 a7	N-62°-E	楕円形	0.70×0.66	26	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
421	E 6 b8	N-32°-W	[隅丸長方形]	1.34×(0.56)	23	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
422	E 6 b8	N-48°-W	[楕円形]	(0.53)×0.40	9	外傾	平坦	人為		
423	E 6 b8	N-10°-E	楕円形	0.63×0.52	11	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
424	E 6 c8	N-0°	楕円形	0.40×0.33	9	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
425	D 6 j5	-	円形	0.71×0.68	30	外傾	平坦	人為		

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長(北軸)×短径(軸)	短径(南軸)×長(南軸)						
426	D 6 i3	N-19°-W	楕円形	1.00×0.55	8	縦斜	平坦	自然		SI18	
427	D 6 h2	N-34°-W	楕円形	0.50×0.40	5	外堀	平坦	不明		SI19-20	
428	D 6 g2	-	円形	0.46×0.44	6	外堀	平坦	不明		SI20-21	
429	D 6 g2	N-44°-W	楕円形	0.68×0.48	7	外堀	平坦	不明		SI20-21	
430	D 6 g2	-	円形	0.58×0.58	14	外堀	平坦	自然		SI20-21	
431	D 6 g2	-	円形	0.61×0.60	14	外堀	平坦	自然		SI20-21	
432	D 5 f0	N-64°-W	隅丸長方形	0.60×0.38	28	外堀	塵状	人為		SI22	
433	D 5 f0	-	円形	0.50×0.46	18	外堀	塵状	人為		SI22	
434	D 6 c1	N-32°-W	楕円形	0.60×0.50	26	外堀	塵状	不明	縄文土器片	SI25	
436	D 6 c1	N-49°-W	楕円形	0.58×0.46	12	外堀	平坦	人為		SI26	
437	D 6 h1	N-58°-E	楕円形	1.25×0.79	9~40	直立	平坦	人為	縄文土器片		
438	D 6 h1	-	円形	0.53×0.50	9	外堀	平坦	人為			
439	D 5 b0	N-38°-W	楕円形	1.16×0.97	17	外堀-直立	円凸	人為	縄文土器片		
440	D 6 a1	N-18°-W	楕円形	0.60×0.54	26	外堀	塵状	人為	縄文土器片		
441	D 5 b0	N-63°-W	楕円形	1.52×1.31	11	縦斜	平坦	人為	縄文土器片		
442	D 5 g0	-	円形	0.57×0.57	12	外堀	平坦	人為			
443	D 5 f0	-	円形	0.66×0.65	18	外堀	塵状	人為			
444	D 5 f8	N-39°-E	楕円形	0.81×0.66	26	外堀	塵状	人為			
445	D 5 f8	N-0°	楕円形	0.54×0.45	12	外堀	塵状	人為		SK446→本跡	
446	D 5 f8	N-45°-E	[楕円形]	0.681×0.655	12	外堀	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SK445	
447	D 5 f8	N-12°-E	長方形	0.58×0.50	7	縦斜	塵状	人為	縄文土器片		
448	D 5 f8	-	円形	0.49×0.48	16	外堀	円凸	人為	縄文土器片		
449	D 5 e7	-	円形	0.61×0.60	23	外堀	平坦	人為			
450	D 5 f7	-	[円形]	0.70×(0.41)	20	外堀	塵状	人為	縄文土器片		
451	D 5 f8	N-82°-W	楕円形	0.68×0.55	10~22	外堀	平坦	人為			
452	D 5 f7	N-34°-E	隅丸長方形	0.52×0.50	7	外堀	平坦	人為			
453	D 5 g0	-	円形	0.78×0.72	17	外堀	円凸	人為			
454	D 6 e3	N-32°-W	楕円形	0.54×0.31	8	縦斜	平坦	人為			
455	D 6 e3	N-15°-W	隅丸長方形	0.43×0.43	18	外堀	塵状	人為			
456	D 6 d2	-	円形	0.91×0.87	22	外堀-縦斜	塵状	人為	縄文土器片		
457	D 6 d1	N-16°-W	隅丸長方形	0.61×0.60	14	縦斜	塵状	人為	縄文土器片		
458	D 6 d1	-	円形	0.83×0.79	22	縦斜	塵状	人為	縄文土器片		
459	D 6 a1	N-24°-E	楕円形	0.58×0.51	28	外堀	塵状	人為			
460	C 5 f0	N-27°-W	楕円形	0.82×0.58	13	外堀	平坦	人為	縄文土器片		
461	D 6 b2	N-25°-W	楕円形	0.91×0.66	20	外堀	塵状	人為			
462	C 5 h8	N-37°-E	隅丸長方形	0.64×0.55	8	外堀	平坦	人為			
463	C 5 j9	N-62°-E	楕円形	0.94×0.76	24~42	外堀	円凸	人為	縄文土器片		
464	D 5 a0	N-40°-E	楕円形	1.35×0.75	22	外堀	平坦	人為			
465	C 5 g9	N-72°-W	隅丸長方形	0.52×0.44	10	直立	平坦	人為			
466	C 5 h0	N-40°-E	楕円形	0.82×0.52	28	外堀	平坦	人為			
467	C 6 j1	-	円形	0.40×0.40	29	外堀	塵状	人為			
468	C 6 i1	-	円形	0.90×0.90	28	外堀	平坦	人為			
469	C 5 h0	N-37°-E	楕円形	0.54×0.46	22	外堀	塵状	人為			
470	C 5 d4	-	円形	0.56×0.55	16	縦斜	塵状	人為			
471	C 5 g9	N-16°-W	楕円形	0.93×0.78	22	外堀	平坦	人為			
472	C 5 g9	N-80°-E	楕円形	0.74×0.54	26	外堀	塵状	人為			

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(m)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (南北軸×東西軸)	幅						
473	B 5 j4	N-49°-E	楕円形	0.80×0.74	42	外傾	皿状	人為			
474	C 5 b3	-	円形	0.57×0.54	28	外傾	皿状	人為			
475	C 5 b3	N-66°-W	楕円形	0.45×0.35	18	外傾	皿状	不明			
476	C 5 c3	N-11°-W	隅丸方形	0.68×0.63	23	外傾	皿状	人為			
477	B 5 i4	N-47°-E	楕円形	0.52×0.43	20	外傾	皿状	人為			
478	C 5 a6	N-78°-E	楕円形	0.61×0.45	14	外傾	平坦	人為			
479	C 5 b5	-	円形	1.00×0.95	28	緩斜	平坦	人為			
480	D 6 a2	N-15°-W	[不定形]	3.58×(2.68)	26	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
481	B 5 j2	N-52°-E	楕円形	1.05×0.75	14	緩斜	皿状	人為			
482	B 5 k3	-	円形	0.68×0.65	30	外傾	皿状	人為			
483	B 5 f3	N-57°-W	楕円形	0.68×0.58	28	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
484	B 5 g3	N-90°-E	楕円形	0.49×0.35	10	外傾	皿状	自然			
485	B 5 g3	-	円形	0.30×0.30	12	外傾	皿状	人為			
486	B 5 i2	N-44°-W	隅丸長方形	0.51×0.45	16	外傾	皿状	人為			
487	B 5 f4	N-30°-W	隅丸方形	0.71×0.70	19	外傾	皿状	人為			
488	B 5 f4	N-5°-W	不定形	0.88×0.58	28	外傾	皿状	人為			
489	B 5 i1	N-0°	楕円形	0.98×0.85	15	外傾	平坦	人為			
490	B 4 b0	-	円形	0.55×0.54	17	外傾	皿状	人為			
491	B 5 j1	-	円形	0.59×0.59	15	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
492	C 5 c8	N-5°-E	楕円形	1.28×1.02	20	外傾	平坦	人為			
493	C 5 d9	N-56°-W	楕円形	1.21×0.81	30	外傾	平坦	人為		SI33	
494	B 5 i1	N-0°	楕円形	0.49×0.43	31	直立	皿状	人為			
495	B 5 i1	N-59°-E	楕円形	0.73×0.56	32	外傾・直立	皿状	人為			
496	B 5 h1	N-57°-E	隅丸長方形	0.85×0.65	16	外傾	平坦	自然			
497	B 4 b0	N-65°-E	楕円形	0.60×0.48	21	外傾	皿状	自然			
498	B 5 h1	N-19°-W	楕円形	1.30×0.34	14	直立	平坦	人為			
499	B 5 g2	N-6°-W	楕円形	1.13×0.73	32	外傾	皿状	人為			
500	C 5 c8	N-66°-E	隅丸長方形	0.66×0.60	14	外傾	皿状	人為			
501	B 4 j0	-	円形	0.56×0.51	15	外傾	平坦	人為			
502	B 5 i1	N-43°-E	楕円形	1.58×0.24	8	外傾	平坦	人為			
503	B 5 g4	-	円形	1.39×1.38	34	外傾	平坦	人為			
504	C 5 a1	N-27°-W	隅丸長方形	0.51×0.43	12	外傾	皿状	自然			
505	C 5 c2	N-39°-E	楕円形	0.83×0.39	15	外傾	平坦	人為			
506	C 5 d2	N-19°-W	楕円形	0.60×0.43	20	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
507	B 5 b5	-	円形	1.20×1.12	26	外傾	平坦	人為			
508	B 5 b5	N-82°-E	楕円形	0.67×0.45	18	緩斜	皿状	人為			
509	D 6 d1	N-38°-E	楕円形	0.95×0.62	8	外傾	平坦	人為			
510	D 5 d0	-	円形	0.62×0.60	8	直立	平坦	人為			
511	D 5 c0	-	円形	0.52×0.51	17	外傾	皿状	人為			
512	D 5 c0	N-44°-E	楕円形	0.81×0.60	17	外傾	凹凸	人為	縄文土器片		
513	D 6 c1	-	円形	0.38×0.38	11	外傾	皿状	人為			
514	D 5 d0	N-39°-W	楕円形	0.38×0.32	11	外傾	皿状	自然	縄文土器片		
515	D 5 d9	N-15°-E	楕円形	0.98×0.65	21	外傾	平坦	人為			
516	D 5 e0	N-41°-W	楕円形	0.65×0.55	11	外傾	平坦	自然			
517	D 5 c0	N-0°	楕円形	0.67×0.58	15	外傾	平坦	人為		SI26	
518	C 5 d3	N-14°-W	楕円形	1.85×0.83	10	外傾	平坦	人為		SI40-01	

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(cm)	断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重視関係 (古→新)
				長(北軸)×短径(軸) (南北軸×東西軸)	幅						
519	C 5j7	-	円形	0.55×0.51	11	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
520	C 5h7	-	円形	0.53×0.50	18	緩斜	皿状	人為			
521	C 5i4	N-28°-W	楕円形	0.80×0.54	13~28	外傾	皿状	人為		SI45-46	
522	D 5a4	N-35°-W	楕円形	0.72×0.53	18	外傾	平皿	人為			
523	D 5b2	-	円形	0.85×0.82	20	外傾	平皿	人為			
524	C 5i3	-	円形	0.56×0.55	27	外傾	平皿	人為			
525	C 5i3	-	円形	0.48×0.48	21	外傾	平皿	人為			
526	C 5i2	N-45°-E	楕円形	0.42×0.34	10	外傾	皿状	人為			
527	C 5i1	N-37°-W	楕円形	0.80×0.61	25	外傾	平皿	人為			
528	C 5i1	N-55°-E	楕円形	0.73×0.60	14	外傾	平皿	人為			
529	C 4j9	-	円形	0.39×0.37	22	外傾	皿状	人為			
530	C 4i9	N-12°-W	楕円形	1.38×0.85	54	外傾	平皿	人為			
531	C 4h9	-	円形	0.69×0.66	15	外傾	平皿	人為			
532	C 4h8	-	円形	0.65×0.64	18	外傾	円凸	人為			
533	D 5e8	N-19°-W	楕円形	1.38×1.14	22	外傾	皿状	人為	縄文土器片	SK531→本跡 SI27	
534	D 5e8	N-54°-W	楕円形	2.36×1.82	10	外傾	平皿	人為		本跡→SK533 SI27	
535	D 5e9	N-10°-W	楕円形	0.55×0.50	7	外傾	平皿	人為			
536	D 5d9	-	円形	0.59×0.56	10	外傾	平皿	人為	縄文土器片		
537	C 5j8	N-63°-E	楕円形	0.67×0.52	14	外傾	平皿	人為	縄文土器片		
538	C 5j7	N-30°-E	楕丸長方形	1.14×0.52	14	外傾	平皿	人為			
539	C 5j8	N-19°-W	楕円形	0.40×0.34	16	外傾	皿状	人為			
540	D 5d9	N-37°-W	楕円形	0.64×0.49	8	外傾	平皿	人為		SI27	
541	C 5g1	N-60°-E	楕円形	0.70×0.58	17	外傾	平皿	不明			
542	C 5g1	N-46°-W	楕円形	0.65×0.47	16	外傾	皿状	人為			
543	C 4j9	N-48°-W	楕円形	1.89×1.32	14	外傾	平皿	不明			
544	C 4j9	N-80°-E	楕丸長方形	0.65×0.60	17	外傾	平皿	人為			
545	C 4g8	N-31°-W	楕円形	0.85×0.66	21	外傾	平皿	人為			
546	C 4g8	N-31°-W	楕円形	0.57×0.48	13	外傾	平皿	人為			
547	C 4g6	-	円形	0.52×0.50	31	外傾	皿状	人為			
548	C 4e6	-	円形	0.48×0.46	42~55	直立	皿状	人為			
549	C 4e6	-	円形	0.50×0.46	21	外傾	皿状	人為			
550	C 4e8	N-10°-E	楕円形	0.95×0.65	12	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
551	D 5b9	-	円形	0.98×0.90	21	外傾	平皿	人為	縄文土器片		
552	D 6i3	N-41°-W	[楕円形]	(0.56)×0.56	18~22	外傾	円凸	人為		本跡→SK553 SI18	
553	D 6i3	-	不整円形	0.56×0.54	19~30	外傾-直立	円凸	人為		SK552-555→本跡 SI18	
554	C 5j7	N-51°-W	楕円形	0.46×0.41	20	外傾-直立	皿状	人為			
555	D 6i3	N-27°-W	[楕円形]	(0.28)×0.42	30~50	外傾	円凸	人為		本跡→SK553 SI18	
556	D 5e8	N-52°-E	楕円形	1.19×0.71	18	外傾	平皿	人為	縄文土器片	SI27	
557	D 5e9	N-69°-E	楕円形	0.56×0.36	16	外傾	皿状	-		SI27	
558	D 5d8	N-45°-W	楕円形	1.40×0.58	14~26	外傾	円凸	人為	縄文土器片	SI27	
559	D 5a5	N-58°-W	不整楕円形	0.93×0.54	14~26	外傾	平皿	人為		SK560→本跡 SI43	
560	D 5a4	N-74°-W	[楕円形]	(0.61)×0.55	14~26	緩斜	平皿	人為		本跡→SK559 SI43	
561	C 5j9	N-90°-E	楕円形	0.88×0.54	50	外傾	皿状	-		SI32	
562	C 5i2	N-66°-W	楕円形	0.70×0.61	22	外傾	皿状	人為		SI49	
563	C 5j0	N-21°-E	楕円形	1.00×0.54	33	外傾-緩斜	平皿	人為		SI32	
564	C 5e3	N-32°-W	楕円形	0.77×0.48	18~22	外傾	平皿	人為			

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (南北軸×東西軸)						
565	C 5 07	N-2°-W	楕円形	0.50×0.42	11	外傾	平坦	人為		
566	C 6 g1	N-6°-W	楕円形	1.05×0.73	23	外傾	凹状	人為	SI31	
567	C 5 h5	N-10°-W	楕円形	0.92×0.68	8	外傾	平坦	人為	SI47	
568	C 5 h5	N-82°-E	楕円形	0.43×0.33	9	外傾	凹状	人為	SI47	
569	D 5 a5	N-87°-E	楕円形	0.84×0.56	6	緩斜	平坦	人為	SK370→本跡 SI43	
570	D 5 a5	N-85°-E	楕円形	(0.55)×0.48	17	緩斜	凹状	人為	縄文土器片	本跡→SK369 SI43
571	H 7 b9	N-73°-E	楕円形	0.55×0.40	13~28	外傾	凹状	自然		第2号遺物包含層→本跡
572	H 7 a9	N-17°-E	楕円形	0.65×0.28	17	外傾	凹状	自然	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡 →SK288-SK287
573	H 7 a9	N-51°-E	楕円形	0.91×0.65	42	直立	凹状	人為	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡
574	H 7 a8	N-43°-E	楕円形	0.95×0.81	26	外傾	凹状	-	縄文土器片	第2号遺物包含層→本跡
575	G 7 b6	N-42°-W	楕円形	0.89×0.42	17	外傾	凹状	自然	縄文土器片	第3号遺物包含層→本跡
576	H 8 a3	N-48°-W	楕円形	0.69×0.42	21	外傾	凹凸	自然		
577	H 8 a3	-	円形	0.42×0.42	23	外傾	凹凸	人為		
578	H 8 a4	N-66°-W	楕円形	0.68×0.61	20	外傾	凹凸	自然		
579	G 7 b8	-	円形	0.39×0.36	20	外傾	凹状	人為	SI53→本跡	
580	G 7 b2	N-70°-E	楕円形	0.82×0.64	14	外傾	凹凸	人為		
581	J 9 d9	N-83°-W	楕円長方形	1.76×0.88	17	緩斜	凹状	自然		
582	I 9 j9	N-15°-W	楕円長方形	1.61×0.66	11	緩斜	凹状	自然		第1号遺物包含層→本跡
583	I 9 g7	N-0°	楕円形	1.22×1.16	16	緩斜	凹状	自然	縄文土器片	第1号遺物包含層→本跡
584	I 9 d1	N-22°-E	楕円形	0.90×0.70	28	緩斜	凹状	人為		第1号遺物包含層→本跡 →第2号地点貝塚
587	I 9 d5	N-31°-W	楕円形	0.80×0.70	46	外傾	凹状	人為	縄文土器片	第1号遺物包含層→本跡
588	H 8 b0	-	円形	1.33×1.18	28	外傾	平坦	自然	縄文土器片・磨石	第1号遺物包含層→本跡
589	G 8 f1	N-51°-E	[楕円形]	1.16×(0.41)	28~68	外傾	凹状	人為	縄文土器片	本跡→SK246

(2) 溝跡

第1号溝跡(第144図)

位置 調査A区のG 8 f2区で、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 東部が調査区域外に延びている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-65°-Wである。確認できた長さ
は1.6mで、上幅0.31~0.44m、下幅0.17~0.31m、深さ6~9cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち
上がっている。

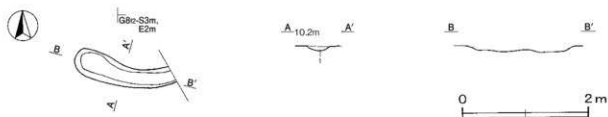
覆土 単一層である。

土層解説

1 灰 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が出土しているが、流れ込みと考えられる。いずれも細片のため図示
できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。



第144図 第1号溝跡実測図

第2号溝跡 (第145図)

位置 調査A区のE 6j2～E 6j3区で、標高10.4mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 北西部が調査区域外に延びている。

重複関係 第2～4号住居跡と重複している。第4号住居跡を掘り込んでいるが、第2・3号住居跡は覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向は $N-120^{\circ}-E$ に直線的に延びている。

確認できた長さは、3.8mで、上幅0.44～0.82m、下幅0.14～0.30m、深さ12～40cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

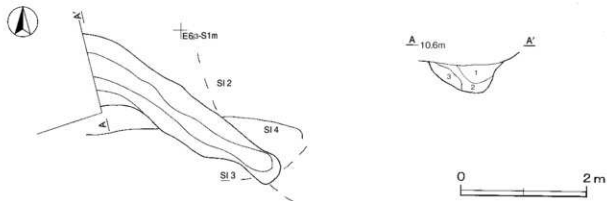
覆土 3層に分層される。ロームブロックや粘土粒子を多く含んでいることから、埋め戻しによる人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|----------------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化物微量 | 3 暗灰黄色 | 粘土粒子多量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗灰黄色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土しているが、流れ込みと考えられる。細片のため、図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。



第145図 第2号溝跡実測図

第3号溝跡 (第146図)

位置 平成17年度調査区のK10a6～K11i2区で、標高9.9～10.2mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 北東部及び南部が調査区域外に延びている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向は $N-40^{\circ}-E$ で直線的に延び、K10a6

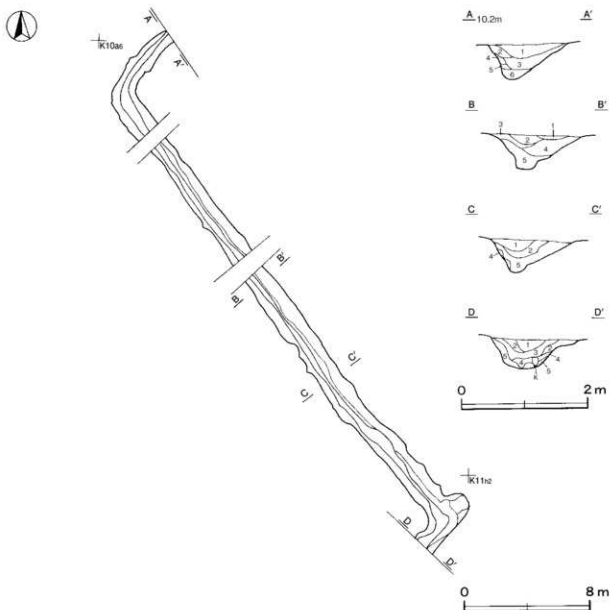
区でL字状に屈曲し、N-140°-Eに直線的に延びている。また、K11h1区でL字状に屈曲してN-150°-Wに延びている。確認できた長さは39.8mで、上幅1.28～1.76m、下幅0.24～0.72m、深さ44～80cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈しているため、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-----------------------|
| 1 明褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 2 灰褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |

所見 時期及び性格は不明である。



第146図 第3号溝跡実測図

第4号溝跡 (第147図)

位置 平成17年度調査区のJ10j6～K10b4区で、標高10.1mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 北東部及び南西部が調査区域外に延びている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-125°-Wで、直線的に延びている。確認できた長さは9.2mで、上幅1.28～2.08m、下幅0.32～0.72m、深さ32cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

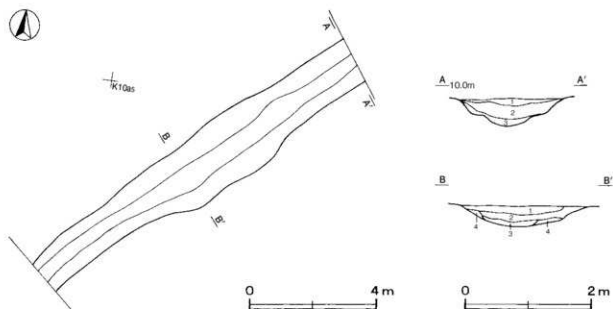
覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 4 褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)が出土しているが、流れ込みと考えられる。いずれも細片のため、図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。



第147図 第4号溝跡実測図

表12 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				覆土	底面	主な出土遺物	時期	備考 新旧関係 (古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	G 8 i2	N-65°-W	直線	(1.6)	0.31～0.44	0.17～0.31	6～9	不明	U字状	縄文土器片	不明	
2	E 6 j2～E 6 j3	N-120°-E	直線	(3.8)	0.44～0.82	0.14～0.30	12～40	人為	U字状	縄文土器片	不明	SE2-3 SH4→本跡
3	K 10a6～K 11i2	N-140°-E	L字状	(39.8)	1.28～1.76	0.24～0.72	44～80	自然	U字状		不明	
4	J 10j6～K 10b4	N-125°-W	直線	(9.2)	1.28～2.08	0.32～0.72	32	自然	U字状	縄文土器片	不明	

(3) ビット群

第1号ビット群(第148図)

位置 調査A区のF 6 a4区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

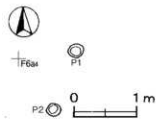
規模と形状 南北1.2m、東西0.7mほどの範囲から、ビット2か所が確認された。平面形は径23～26cmの円形

で、深さは23～25cmである。

所見 時期及び性格は不明である。

第1号ピット群計測表

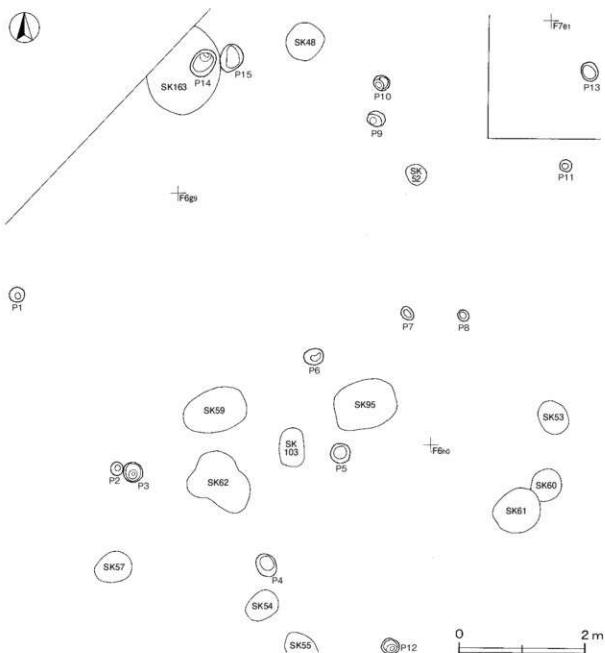
番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	26	23	25	P 2	23	21	23



第148図 第1号ピット群実測図

第2号ピット群 (第149図)

位置 調査A区のF 7 e1～F 6 h9区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第149図 第2号ピット群実測図

重複関係 P14が第163号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北14m、東西10mほどの範囲から、ピット15か所が確認された。平面形は長径18～45cmの円形または楕円形で、深さは9～38cmである。

所見 時期及び性格は不明である。

第2号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	23	23	11	P 6	30	24	15	P 11	19	19	13
P 2	22	22	17	P 7	23	18	17	P 12	27	25	14
P 3	33	32	18	P 8	18	17	17	P 13	30	28	38
P 4	36	31	15	P 9	28	28	20	P 14	45	38	16
P 5	31	30	19	P 10	25	25	14	P 15	41	37	9

第3号ピット群 (第150図)

位置 調査A区のF 6 h0～G 7 a1区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 P13が第67号土坑を、P14が第105号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北13m、東西7mほどの範囲から、ピット14か所が確認された。平面形は長径15～48cmの円形または楕円形で、深さは10～74cmである。

遺物出土状況 P12から縄文土器片4点が出土している。いずれも細片で、図示することができない。

所見 時期及び性格は不明である。

第3号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	30	28	13	P 6	22	18	20	P 11	26	24	16
P 2	36	36	10	P 7	30	26	22	P 12	36	28	22
P 3	26	24	13	P 8	16	16	14	P 13	48	40	54
P 4	24	24	18	P 9	15	14	13	P 14	44	44	74
P 5	48	32	20	P 10	28	26	12				

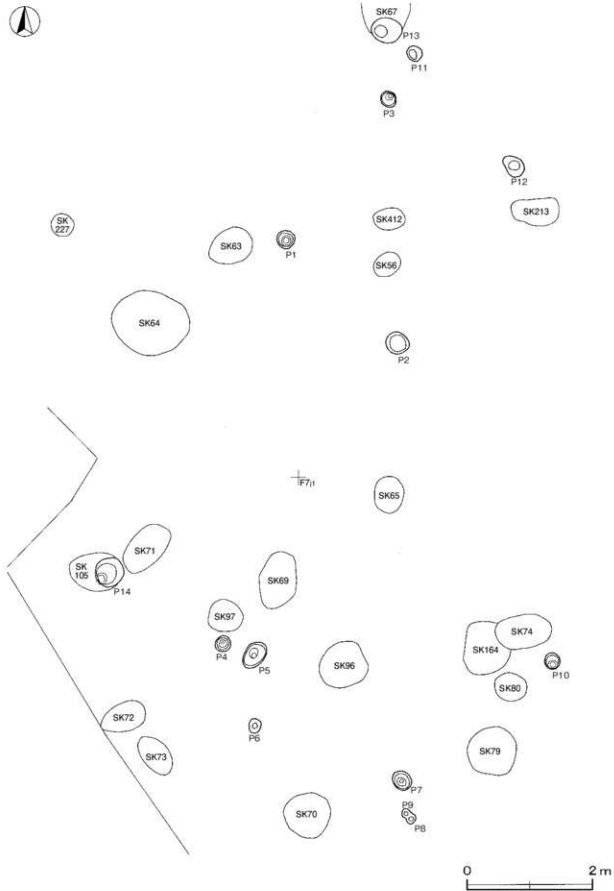
第4号ピット群 (第151図)

位置 調査A区のF 7 g1～F 7 h3区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 P5が第81号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北6m、東西10mほどの範囲から、ピット5か所が確認された。平面形は径21～32cmの円形で、深さは24～54cmである。

所見 時期及び性格は不明である。



第150図 第3号ピット群実測図



F7a2



第151図 第4号ビット群実測図

第4号ビット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	22	21	24	P 3	32	30	26	P 5	28	26	34
P 2	22	21	36	P 4	21	21	48				

第5号ビット群 (第152図)

位置 調査区A区のF7i5～G7c4区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 P9が第203号土坑を掘り込んでいる。

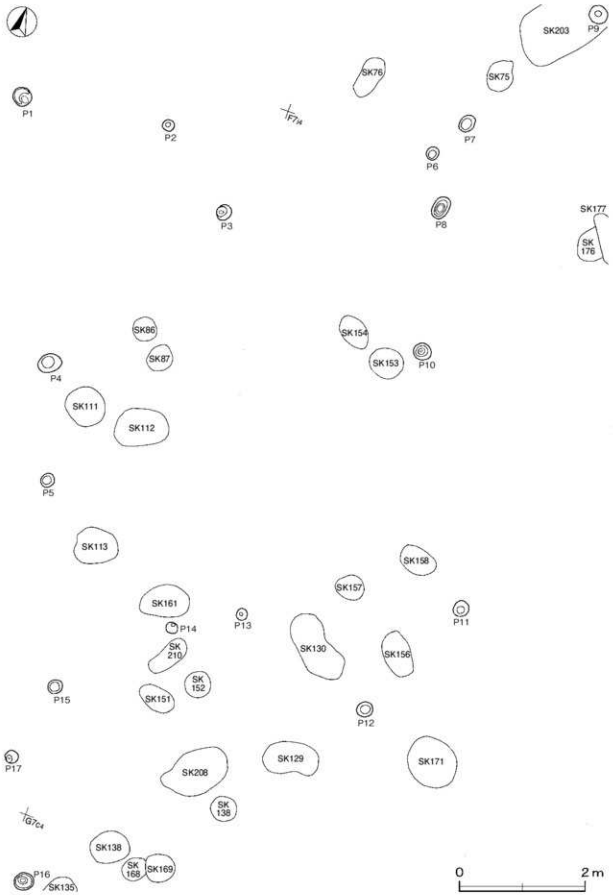
規模と形状 南北16m、東西10mほどの範囲から、ビット17か所が確認された。平面形は長径19～38cmの円形または楕円形で、深さは7～33cmである。

遺物出土状況 P3から縄文土器片1点が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期及び性格は不明である。

第5号ビット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	32	31	27	P 7	23	23	10	P 13	20	20	17
P 2	19	19	20	P 8	38	25	21	P 14	22	18	17
P 3	28	22	19	P 9	19	19	33	P 15	24	24	17
P 4	35	28	27	P 10	28	28	24	P 16	30	30	14
P 5	23	22	7	P 11	27	26	23	P 17	23	22	13
P 6	20	20	16	P 12	25	25	10				



第152図 第5号ピット群実測図

第6号ピット群 (第153図)

位置 調査区A区のG7d3～G7d5区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

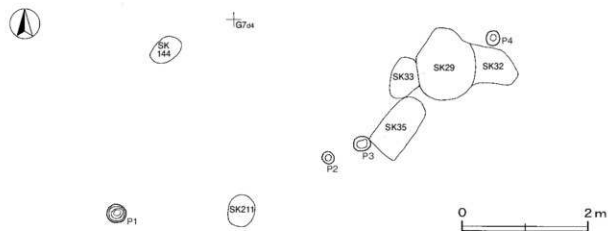
規模と形状 南北3m、東西6mほどの範囲から、ピット4か所が確認された。平面形は径20～29cmの円形で、深さは17～21cmである。

遺物出土状況 P1～P4の覆土中から縄文土器片13点が出土している。いずれも細片で、図示できない。

所見 時期及び性格は不明である。

第6号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P1	29	29	21	P3	26	26	17
P2	20	20	18	P4	25	23	17



第153図 第6号ピット群実測図

第7号ピット群 (第154図)

位置 調査区A区のG7c7～G7e0区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 南北11m、東西11mほどの範囲から、ピット18か所が確認された。平面形は長径18～37cmの円形または楕円形で、深さは10～42cmである。

遺物出土状況 P1・P2・P4・P5・P9・P12～P14・P16・P18の覆土中から縄文土器片45点が出土している。いずれも細片のため、図示できない。

所見 時期及び性格は不明である。

第7号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P1	26	24	42	P7	37	31	21	P13	29	29	12
P2	34	29	18	P8	33	26	16	P14	19	18	13
P3	25	23	15	P9	23	23	15	P15	21	21	8
P4	21	23	10	P10	19	18	10	P16	28	27	25
P5	18	17	37	P11	28	27	12	P17	26	24	20
P6	34	28	27	P12	23	23	10	P18	35	33	21



第154図 第7号ピット群実測図

第8号ピット群 (第155図)

位置 調査区A区のG7e6～G7e8区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

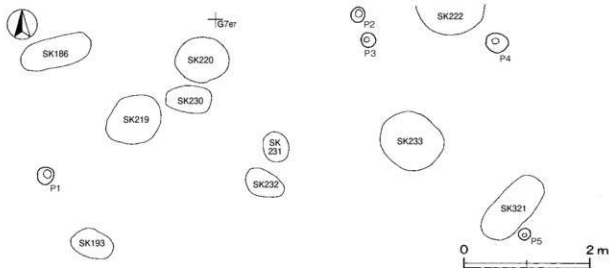
規模と形状 南北4m、東西8mほどの範囲から、ピット5か所が確認されている。平面形は長径22～37cmの円形で、深さは17～25cmである。

遺物出土状況 P1・P2・P4から縄文土器片17点が出土している。いずれも細片で、図示できない。

所見 時期及び性格は不明である。

第8号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P1	27	25	19	P3	25	25	17	P5	22	20	25
P2	27	26	21	P4	37	31	20				



第155図 第8号ピット群実測図

第9号ピット群 (第156図)

位置 調査区A区のG8g1～G8h2区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

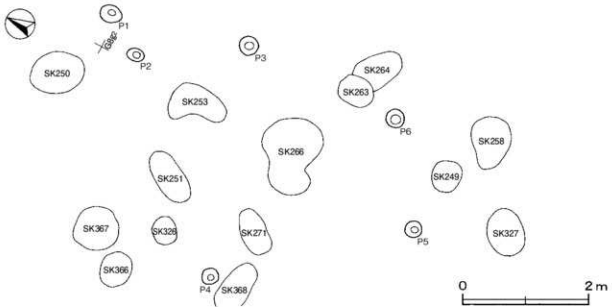
規模と形状 南北6m、東西4mほどの範囲から、ピット6か所が確認されている。平面形は長径26～30cmの円形または楕円形で、深さは17～34cmである。

遺物出土状況 P3・P6からそれぞれ縄文土器片2点が出土している。いずれも細片で、図示できない。

所見 時期及び性格は不明である。

第9号ピット群計測表

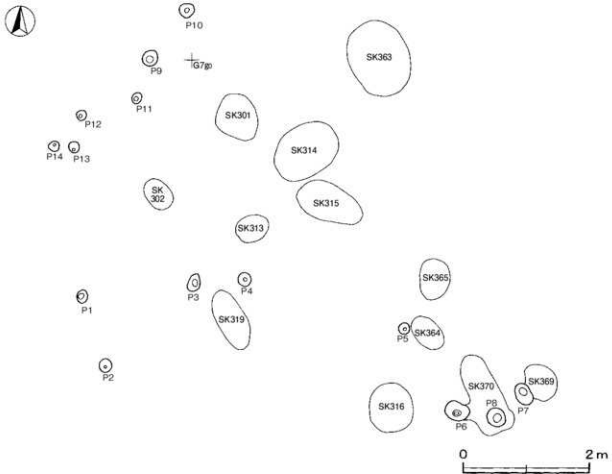
番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P1	30	27	17	P3	29	29	28	P5	26	26	32
P2	28	20	34	P4	26	26	20	P6	28	28	24



第156図 第9号ピット群実測図

第10号ピット群 (第157図)

位置 調査区A区のG7f9～G8h1区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第157図 第10号ピット群実測図

重複関係 P 6、P 8 が第370号土坑を掘り込んでいる。P 7 が第369号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南北7 m、東西8 mほどの範囲から、ピット14か所が確認されている。平面形は長径16～36 cmの円形または楕円形で、深さは14～60 cmである。

遺物出土状況 P 2～P 5・P 9・P 12・P 14の覆土中から縄文土器片16点が出土している。いずれも細片で、図示できない。

所見 時期及び性格は不明である。

第10号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	19	18	36	P 6	30	26	35	P 11	16	14	20
P 2	20	20	39	P 7	36	24	36	P 12	18	18	16
P 3	26	19	25	P 8	26	26	60	P 13	18	18	21
P 4	20	20	30	P 9	24	22	14	P 14	16	14	14
P 5	20	18	18	P 10	22	22	46				

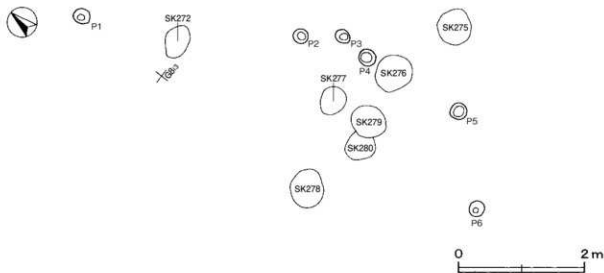
第11号ピット群 (第158図)

位置 調査区A区のG 8 h3～G 8 j3区、標高10 mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 南北7 m、東西3 mほどの範囲から、ピット6か所が確認された。平面形は長径24～28 cmの円形または楕円形で、深さは20～28 cmである。

遺物出土状況 P 2から縄文土器片1点、礫1点、P 3・P 4の覆土中からそれぞれ縄文土器片1点が出土している。土器はいずれも細片で、図示できない。

所見 時期及び性格は不明である。



第158図 第11号ピット群実測図

第11号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	26	22	20	P 3	26	22	28	P 5	28	26	22
P 2	24	24	26	P 4	28	28	24	P 6	26	23	20

第12号ピット群 (第159図)

位置 調査区A区のG 7j0～G 8j1区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

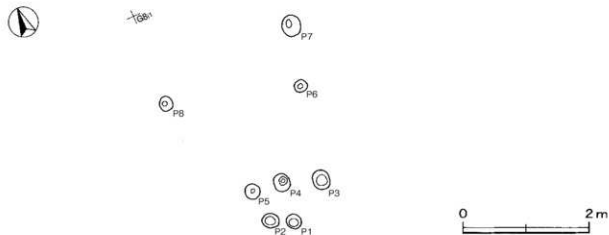
規模と形状 南北4m、東西3mほどの範囲から、ピット8か所が確認されている。平面形は長径21～34cmの円形または楕円形で、深さは21～34cmである。

遺物出土状況 P 1～P 3・P 5・P 12・P 13の覆土中から縄文土器片20点が出土している。いずれも細片で、図示できない。

所見 時期及び性格は不明である。

第12号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	26	22	31	P 4	30	28	30	P 7	34	30	21
P 2	28	23	28	P 5	24	24	22	P 8	24	21	22
P 3	30	28	34	P 6	21	20	26				



第159図 第12号ピット群実測図

第13号ピット群 (第160図)

位置 調査区B区のC 5d9～C 5e0区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 南北3m、東西2mほどの範囲から、ピット5か所が確認された。平面形は径13～18cmの円形で、深さは7～17cmである。

所見 時期及び性格は不明である。



第160図 第13号ビット群実測図

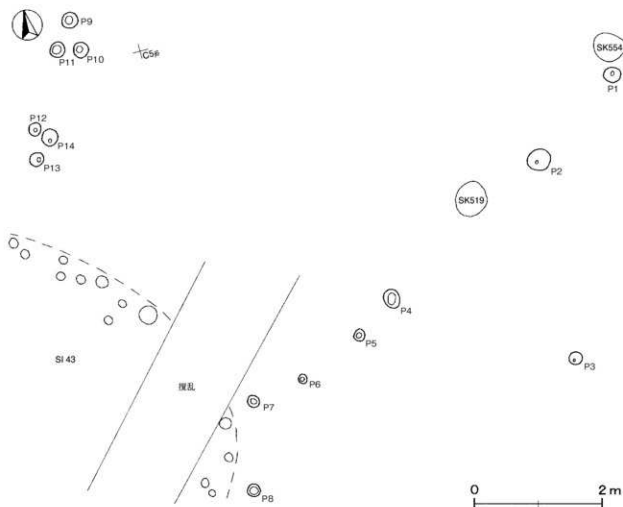
第13号ビット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	13	13	12	P 3	14	13	17	P 5	14	14	7
P 2	18	17	12	P 4	17	17	10				

第14号ビット群 (第161図)

位置 調査区B区のC 5 i5 ~ D 5 a7区, 標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 南北 8 m, 東西 9 mほどの範囲から, ビット14か所が確認された。平面形は長径16 ~ 38cmの円



第161図 第14号ビット群実測図

形または楕円形で、深さは11～18cmである。

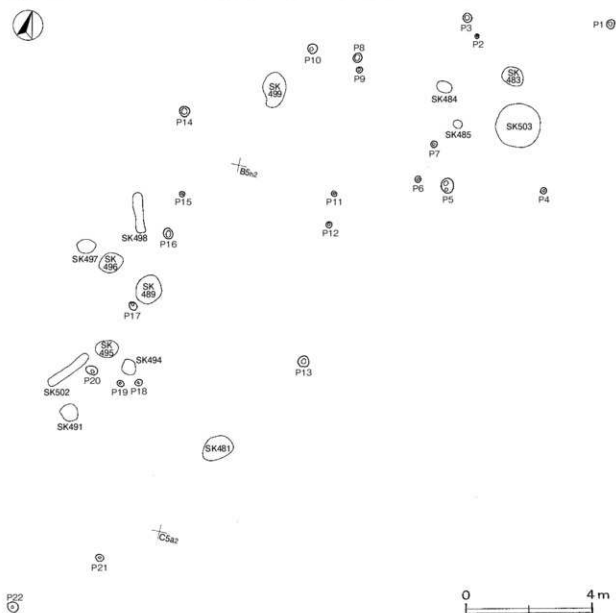
所見 時期及び性格は不明である。

第14号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	28	24	16	P 6	16	15	14	P11	24	24	14
P 2	38	32	17	P 7	19	19	16	P12	20	20	13
P 3	22	22	16	P 8	21	21	14	P13	22	18	16
P 4	31	24	14	P 9	24	24	14	P14	28	28	11
P 5	20	15	15	P10	24	23	18				

第15号ピット群 (第162図)

位置 調査区B区のB5f4～C5a1区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。



第162図 第15号ピット群実測図

規模と形状 南北12m、東西8mほどの範囲から、ビット22か所が確認された。平面形は長径15～46cmの円形または楕円形で、深さは11～32cmである。

所見 時期及び性格は不明である。

第15号ビット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	30	30	15	P 9	23	22	12	P 17	30	23	13
P 2	15	15	13	P 10	31	30	23	P 18	25	25	14
P 3	30	26	13	P 11	23	21	11	P 19	27	23	17
P 4	23	20	18	P 12	23	20	15	P 20	40	37	15
P 5	46	45	32	P 13	36	35	19	P 21	27	26	18
P 6	20	20	13	P 14	32	30	12	P 22	33	33	25
P 7	21	20	17	P 15	20	20	14				
P 8	29	28	14	P 16	38	32	15				

第16号ビット群 (第163図)

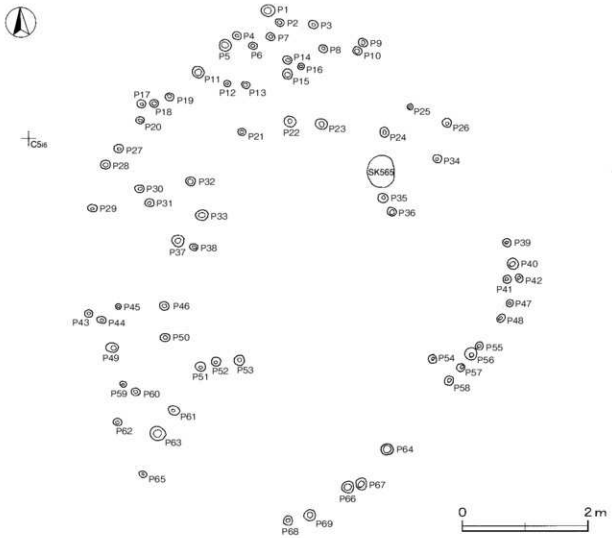
位置 調査B区のC 5 b6～C 5 j7区、標高10mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 南北8m、東西7mほどの範囲から、69か所のビットが確認された。平面形は長径10～25cmの円形または楕円形で、深さは5～17cmである。

所見 時期及び性格は不明である。

第16号ビット群計測表

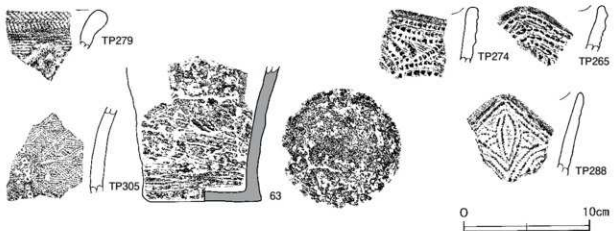
番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	22	19	11	P 24	15	14	10	P 47	12	12	8
P 2	14	13	12	P 25	10	9	10	P 48	14	11	7
P 3	15	14	11	P 26	14	14	12	P 49	20	17	15
P 4	15	14	10	P 27	15	14	9	P 50	16	13	12
P 5	21	20	10	P 28	16	15	10	P 51	18	16	12
P 6	14	13	12	P 29	14	12	6	P 52	15	13	11
P 7	15	14	11	P 30	14	14	10	P 53	17	16	12
P 8	15	13	14	P 31	16	14	11	P 54	15	14	6
P 9	14	13	10	P 32	16	16	10	P 55	14	12	10
P 10	15	14	9	P 33	20	17	10	P 56	21	21	13
P 11	19	19	7	P 34	14	13	9	P 57	15	14	14
P 12	10	9	8	P 35	15	15	10	P 58	16	15	17
P 13	14	13	11	P 36	14	14	10	P 59	12	11	9
P 14	13	12	10	P 37	20	19	11	P 60	15	13	9
P 15	15	15	11	P 38	14	13	10	P 61	19	16	15
P 16	12	12	9	P 39	16	14	6	P 62	16	14	16
P 17	14	14	12	P 40	20	19	11	P 63	25	24	11
P 18	14	14	16	P 41	15	14	6	P 64	20	18	5
P 19	14	13	12	P 42	15	14	9	P 65	14	13	15
P 20	15	14	15	P 43	15	13	13	P 66	20	19	13
P 21	15	13	12	P 44	14	11	14	P 67	21	18	9
P 22	20	17	17	P 45	15	14	10	P 68	16	16	6
P 23	20	17	14	P 46	14	14	12	P 69	20	18	9



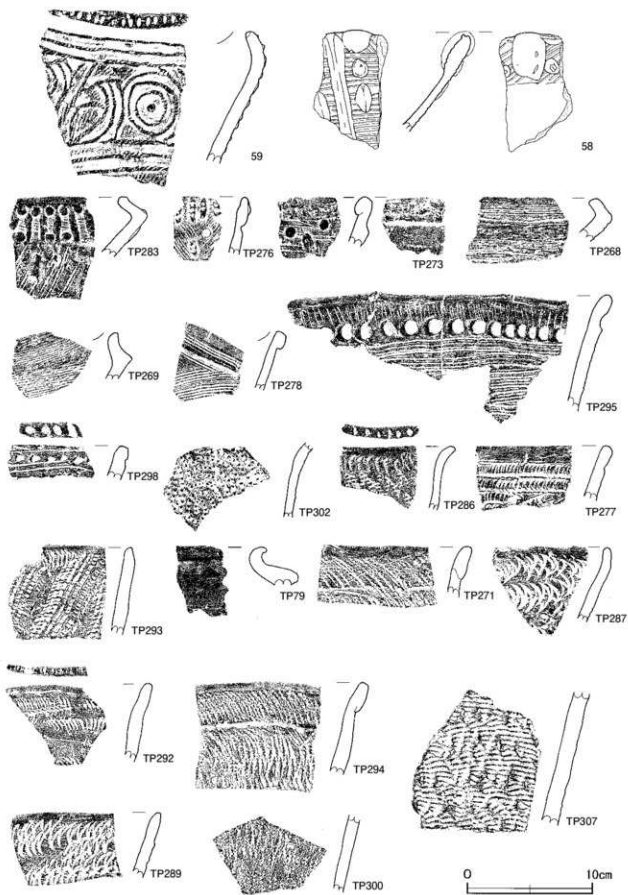
第163図 第16号ピット群実測図

(4) 遺構外出土遺物 (第164～169図)

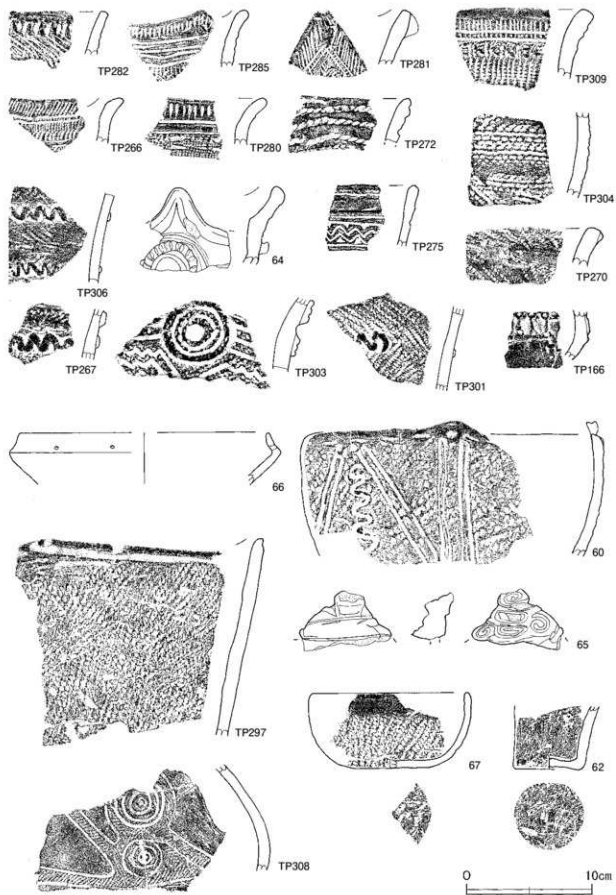
遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び観察表で掲載する。



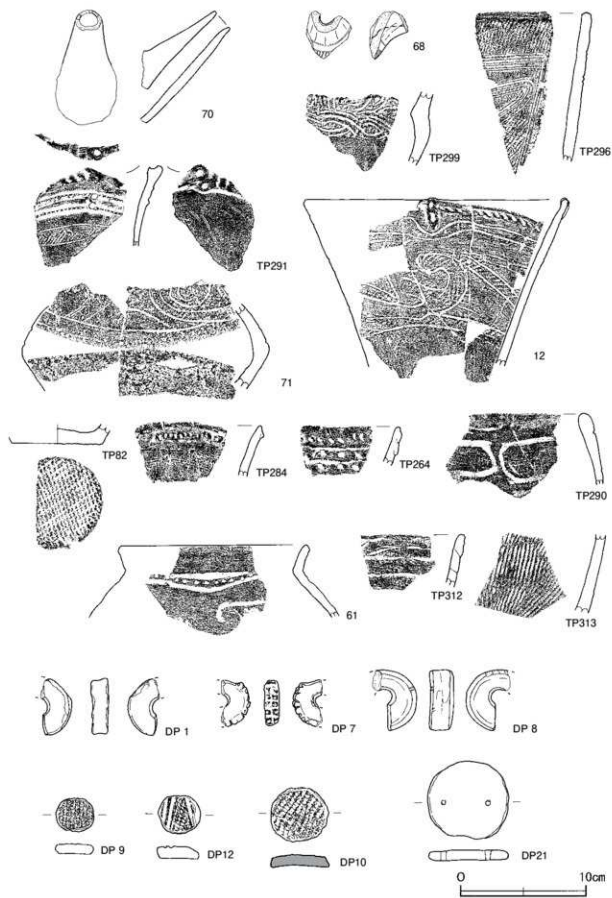
第164図 遺構外出土遺物実測図(1)



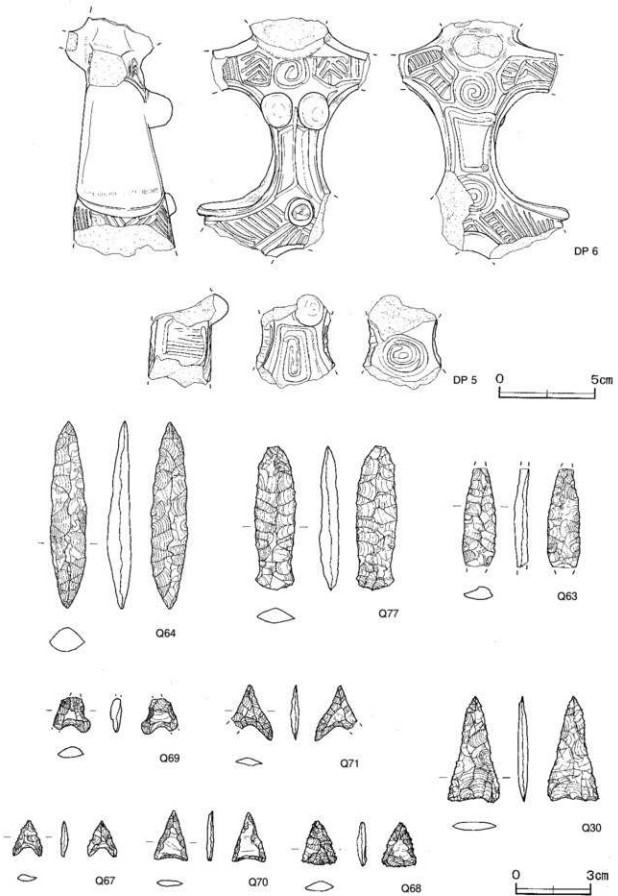
第165図 遺構外出土遺物実測図(2)



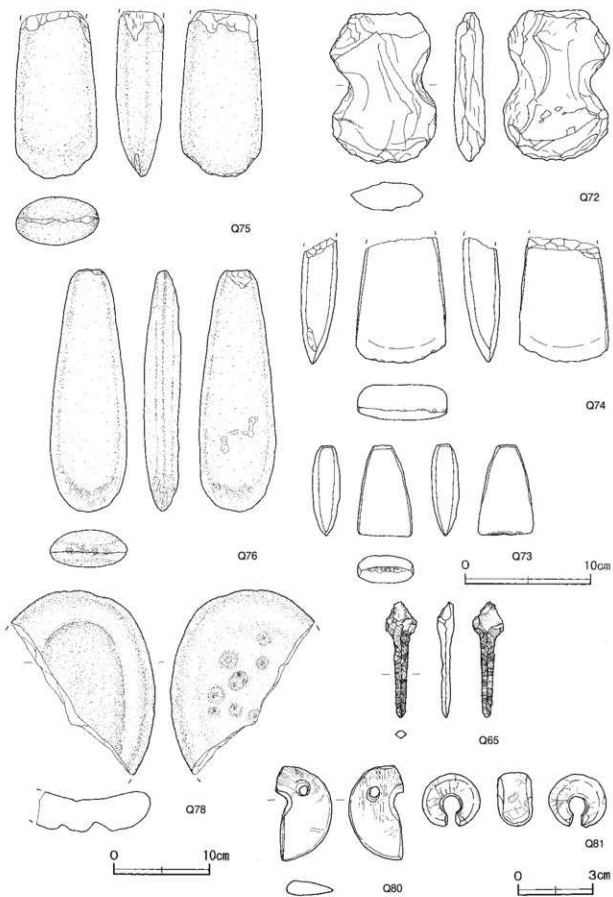
第166図 遺構外出土遺物実測図(3)



第167图 遺構外出土遺物実測図(4)



第168图 遺構外出土遺物実測(図5)



第169図 遺構外出土遺物実測図(6)

遺構外出土遺物観察表 (第164～169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
63	縄文土器	深鉢	-	(107)	8.8	長石・石英・雲母・ 霞・黒燐	橙	普通	沈線文	F 7 j1	10%
59	縄文土器	深鉢	[242]	(109)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	1) 器部にキザミ目 浮線文 単節縄文LR	表土	5% PL32
58	縄文土器	深鉢	-	(92)	-	長石・白色粒子	にぶい黄橙	普通	集合沈線を地文 隆帯を垂下 貼付文	G 7 c8	5%
64	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	キザミを有する隆帯文	D 6 b4	5%
66	縄文土器	浅鉢	[196]	(141)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	1) 器部直下に焼成前穿孔	表土	5% PL36
60	縄文土器	深鉢	[228]	(107)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	1) 器部に横長のキザミ 沈線による懸垂文 地文は単節縄文LR	I 9 b4	10% PL36
67	縄文土器	鉢	[122]	6.0	[6.0]	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL	表土	30% PL35
65	縄文土器	把手	-	(37)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	沈線による渦巻文	G 8 b2	5% PL36
62	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	5.4	長石・石英	にぶい橙	普通	無文 縦方向に磨き痕	H 8 b3	10%
12	縄文土器	深鉢	[207]	(134)	-	長石・石英・白色 粒子・赤色粒子	明赤褐	普通	1) 器部直下にキザミを有する隆帯及び 8字状貼付文 器部に沈線による区画 帯内単節縄文LR兆乳	SI14	20% PL36
71	縄文土器	注1土器	-	(6.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線による渦巻文	SK306	10%
68	縄文土器	注1部	-	(3.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	注1部直下に2本の沈線をもぐりせ 制部にかけてキザミ	H 7 a9	5%
70	縄文土器	注1部	-	(9.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	無文	G 7 e9	5% PL36
61	縄文土器	壺	[148]	(5.8)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	胴部に沈線間に列点文 胴部に沈線文	G 8 j1	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP279	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄 橙	普通	1) 器部に単節縄文RL	SI44	早期
TP305	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	4本を単位とする縦帯状及び横位の沈線文 円形刺突文 懸垂文を地文とする	G 7 d8	早期
TP295	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい褐	普通	浮線文	G 7 e9	前期
TP274	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰褐	普通	半軌竹管による平行沈線を地文 浮線文	G 7 d9	前期 PL38
TP288	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明赤褐	普通	浮線を貼り付け、浮線上に半軌竹管による押引	G 7 a5	前期
TP283	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	1) 辺部は縦方向、胴部に斜方向に沈線 1) 辺部は沈線上 にボタニ状及び棒状貼付文	表土	前期 PL38
TP276	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	1) 辺部に棒状貼付文 貼付文上に刺突文	G 7 d6	前期 PL38
TP273	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	1) 辺部は内側に折り返す 外側は横方向沈線文上にボタ ニ状貼付文	G 7 b7	前期
TP298	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	横方向の条線文	表土	前期
TP299	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	横方向の条線文	表土	前期
TP278	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	1) 辺部折り返し 器部状工具による条線文	表土	前期
TP295	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	1) 辺部へつ状工具によるキザミ目 直下指面による押引 文 胴部は横方向に半軌竹管による沈線	G 7 b7	前期 PL38
TP302	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	半軌竹管による連続した押引	G 7 c8	前期 PL37
TP298	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	1) 器部にキザミ目 直下半軌竹管による刺突文	表土	前期
TP296	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	1) 器部にキザミ目 貝殻線緑文及び流状貝殻文	G 7 c6	前期 PL37
TP277	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明褐	普通	1) 辺部直下横方向に連続した形文 2段目は流状に爪形文	G 7 e9	前期
TP293	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通	1) 辺部に流状貝殻文 半軌竹管による押引	G 7 g6	前期 PL37
TP279	縄文土器	壺	長石	にぶい橙	普通	無文	SI25	前期
TP287	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	流状貝殻文	G 7 f9	前期 PL37
TP292	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	1) 辺部にキザミ目 胴部に流状貝殻文	F 7 f3	前期
TP271	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	1) 辺部折り返し 1) 辺部から胴部にかけて貝殻線緑文	G 7 d8	前期
TP280	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	流状貝殻文	F 7 f1	前期 PL37
TP294	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	1) 辺部折り返し 折り返し部に貝殻線緑文 胴部に流状 貝殻文	表土	前期 PL38
TP307	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	貝殻線緑文及び押引文	G 7 g6	前期
TP300	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	貝殻線緑文	G 7 c8	前期
TP282	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	1) 辺部へつ状工具によるキザミ目 直下半軌竹管による斜行 沈線	D 5 a3	前期
TP285	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	1) 器部にキザミ目 直下半軌竹管による沈線 胴部に半 軌竹管による押引	表土	前期
TP281	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	1) 辺部に突起貼付隆帯位に半軌竹管による沈線文 胴部 に貝殻線緑文	表土	前期
TP309	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい褐	普通	1) 辺部にキザミ目	SK14	前期 PL38

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP266	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・黄	普通	口辺部にキザミ目 半載竹管によるキザミ直下半載竹管による平行沈線 胴部に目隠縦線文	表土	前期
TP280	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部にキザミ目 直下に半載竹管による平行沈線をめぐらせる 胴部に輪歯状の先端による斜交文横文後半載竹管による押引	G 7 g0	前期
TP304	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	棒状工具による押引文	G 7 f5	前期
TP272	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	単節縄文の原形圧痕文	表土	中期
TP306	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・濁	普通	波状の粘土細貼付 羽状縄文を地文とする	G 7 e7	中期 PL39
TP275	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗赤黒	普通	口辺部に1条の沈線 直下を有する帯状沈線 節を有する沈線文及び縦面状沈線文	G 7 c8	中期
TP270	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部貼付 単節縄文RLを口唇部から胴部にかけて施文	G 7 d6	中期
TP287	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい・濁	普通	単節縄文LRを地文とし波状の隆帯貼付	SH11	中期
TP303	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黒	普通	横方向に3条の平行沈線 直下に節を有する縦面状沈線 口唇部を施し、中央部に凹み、道例に節を有する沈線2条	G 7 e9	中期 PL39
TP301	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	単節縄文RLを横方向及び縦方向に転がし羽状構成 S字状の貼付	G 7 f6	中期
TP166	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	縦線の隆帯帯を施し、隆帯の交点部に斜交文	SK299	後期
TP297	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部に1条の沈線 単節縄文LRを横方向に施文	G 7 g7	後期
TP296	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤黒	普通	単節縄文LRを地文とし半載竹管による沈線で文様織出	G 7 b2	後期
TP299	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	半載竹管による平行沈線	G 7 b8	後期
TP291	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒	普通	口辺部に2条の隆帯及び8字状貼付 隆帯上にキザミ目 胴部を縦区画内文並置文	G 7 b4	後期 PL39
TP284	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部にめぐらせた隆帯上に斜交文 胴部は半載竹管による沈線	G 8 f2	後期
TP282	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・濁	普通	底部外面に網代圧痕	SI25	後期 PL39
TP308	縄文土器	注口土器	長石・石英・雲母	にぶい・濁	普通	沈線による区画帯内単節縄文LR充填	G 7 f4	後期 PL39
TP290	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	太沈線により文様織出	SH14	後期
TP281	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい・濁	普通	口辺部を折り返し、折り返し上に斜交文	表土	後期
TP312	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色砂子	明赤黒	普通	口辺部輪積み痕 無文	SI9	後期 PL39
TP313	須恵器	壺	長石	靑灰	普通	体部縦位・斜位の平行印き 内面磨き	H 7 b8	後期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 9	土器円盤	2.6	3.0	0.9	7.8	長石・石英・赤色砂子	胴部片を利用 頸縁の一部研ぎ	表土	前期 PL40
DP10	土器円盤	4.3	4.5	1.0	19.8	長石・石英・赤色砂子・繊維	胴部片利用 単節縄文RL	D 5 a9	前期 PL40
DP12	土器円盤	3.1	3.5	1.0	10.7	長石・石英・白色砂子・赤色砂子	胴部片利用 単節縄文RL	G 7 g8	前期 PL40
DP 1	珠状耳飾 (4.5)	(1.2)	1.4	(12.9)		長石・石英・白色砂子	滑車形 中央部と思われるところが穿孔されている 無文	SI9	前期 PL40
DP 7	珠状耳飾 (3.6)	(2.4)	1.3	(8.8)		長石・石英・赤色砂子	中央よりやや上部に穿孔 胴部に区画をもつ貼付上に斜交	G 7 e7	前期 PL40
DP 8	珠状耳飾	4.8	(3.5)	1.9	(26.3)	長石・石英	中央よりやや上部に穿孔 無文	G 7 e8	前期 PL40
DP 5	土偶 (5.0)	(4.1)	(4.2)	(63.8)		長石・石英・赤色砂子	胴部に乳孔貼付 胴部に縦長の渦文 背部に渦文	G 7 d7	後期 PL40
DP 6	土偶 (12.6)	(5.3)	(8.3)	(344.0)		長石・石英・スコリア	首下に渦文 両側に短沈線による棒状文 胴部に垂直な乳孔貼付 胴部に正中線 下部部に若干枚貼付 胴部には沈線文 横柄部下部と腰部に渦文 上下の渦文施には小区画内に短沈線光痕	G 7 e7	後期 PL40
DP21	蓋	6.2	6.4	0.9	43.3	長石・石英・雲母	無文 穿孔2か所 孔径0.6cm	G 7 f5	後期 PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q63	尖頭器	(3.9)	1.3	0.6	(2.9)	頁岩	両面押圧調整 先端部及び基部欠損	G 7 f7	PL43
Q64	尖頭器	7.4	1.5	0.9	7.2	珪質頁岩	縁部部に押圧調整を施す	G 7 a2	PL43
Q77	尖頭器	5.7	1.6	0.7	7.2	チャート	両面押圧調整 先端部は丸みをもつ	G 7 g6	PL43
Q30	石鏝	4.2	2.0	0.4	2.6	チャート	両面押圧調整 凹基無基盤	表土	PL43
Q65	石鏝	4.6	1.2	0.7	2.1	チャート	両面調整 頸部に押圧調整調整 つまみ状頭部をもち縦身棒状	G 7 g5	PL43
Q67	石鏝	1.4	1.2	0.3	0.3	チャート	両面押圧調整 凹基無基盤	G 7 e7	PL43
Q68	石鏝	1.7	1.4	0.4	0.7	チャート	両面調整 凹基無基盤	G 7 f6	PL43
Q69	石鏝 (1.4)	(1.4)	0.4	0.6		黒曜石	両面押圧調整 凹基無基盤 先端部及び片側脚部欠損	G 7 f4	
Q70	石鏝	2.0	1.3	0.2	0.5	チャート	両面押圧調整 凹基無基盤	G 7 f8	PL43
Q71	石鏝	2.2	(1.6)	0.3	0.6	チャート	両面押圧調整 凹基無基盤 片側脚部欠損	表土	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q72	打製石斧	120	84	24	300.0	チャート	両面調整	G 7 a4	PL44
Q73	磨製石斧	7.3	4.3	2.2	117.7	緑色凝灰岩	両面及び側面を研磨 刃部に使用痕有り	G 7 f4	PL44
Q74	磨製石斧	(100)	7.1	2.9	(258.0)	総絞岩	両面及び側面を丁寧に研磨 刃部の一部と基部欠損	G 7 j0	PL44
Q75	磨製石斧	(13.3)	6.5	3.8	(567.0)	緑色凝灰岩	鋭打により整形した後に研磨 刃部一部欠損	D 5 e8	PL44
Q76	磨製石斧	19.2	6.0	2.8	557.0	緑色凝灰岩	両面を丁寧に研磨	D 5 g9	PL44
Q78	石皿・凹石	(19.3)	(150)	4.3	(1000)	安山岩	片面石皿、一方が凹石として併用 欠損	G 7 e9	PL44
Q80	秩状耳飾	3.7	2.5	0.5	6.8	緑泥石	全面に研磨 両面から穿孔	表土	PL44 移動記録
Q81	秩状耳飾	裃2.2	厚さ1.8	孔径0.6	9.4	滑石	全面に研磨 中央部に凹形の孔	表土	PL44

第4節 まとめ

今回の調査で、土塔貝塚では旧石器時代から縄文時代までの遺構と遺物を主体に確認できた。旧石器時代については、ナイフ形石器、石核、剥片等の石器集中地点を1か所確認し、集中地点以外からもナイフ形石器や彫器などが出土している。縄文時代の遺構は、竪穴住居跡49軒、炉跡2基、陥し穴1基、土坑4基、ピット14基、地点貝塚2か所が検出された。また、遺物包含層が3か所確認され、縄文土器や石器等が出土している。平安時代の遺構では、住居跡1軒が検出されている。ここでは各時代についての概要を述べ、まとめとする。

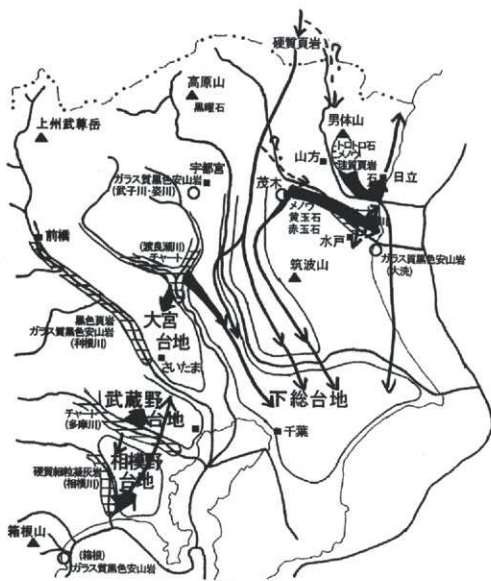
1 旧石器時代

今回の調査で当遺跡の石器集中地点から出土した旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器3点、石核8点、剥片34点である。また、石器集中地点の上層に位置する縄文時代の遺物包含層や表土からも、ナイフ形石器4点、彫器2点、削器1点、石核6点、剥片6点が出土している。

遺跡全体で出土した石器を見ると、ナイフ形石器が7点と多く出土している。橋本勝雄氏の下総編年によれば、ナイフ形石器を主体とする段階とその前段階と後続する段階の三段階に大別し、層位の出土状況、石器製作技術及び石器組成によりさらに細分している¹⁾。川口武彦氏は石器の特徴として、ナイフ形石器は一側縁調整のものを下総編年のⅡb期、二側縁調整のものをⅡc期と分類している²⁾。当遺跡から出土した一側縁調整のナイフ形石器3点は石器集中地点、二側縁調整のナイフ形石器3点は縄文時代の遺物包含層などから出土している。このことから、当遺跡の旧石器時代は、石器集中地点出土石器群が下総編年のⅡb期、遺物包含層など出土のナイフ形石器がⅡc期に相当すると考えられる。

周辺地域の旧石器時代の遺物が出土している遺跡としては、旧総和町権現久保遺跡や香取西遺跡、羽黒遺跡などが知られている。権現久保遺跡からは、切出形ナイフ形石器、ナイフ形石器、細石刃核、細石刃、尖頭器など、香取西遺跡では、ナイフ形石器、剥片が出土している³⁾。また、羽黒遺跡からは黒曜石製の細石刃核1点が表土中から出土している⁴⁾。しかし、これらはいずれも表面採集等で検出されたもので、出土層位は明確にとらえられていない。五霞町域では、これまで旧石器時代の遺跡等の調査は行われておらず、その存在が確認されていなかったが、当遺跡では旧石器時代の遺物が、基本層序の第2層及び第3層から出土している。第2層の上部は、縄文時代の遺物包含層及びローム漸移層で、下部はソフトローム層であり、第3層はA Tを含む層である。茨城県西部では今までに、石器の出土層位が明確にとらえられた事例が極めて少ないため、基準的な資料となる。

石器集中地点は、標高8.8～9.8mの緩斜面に位置している。出土遺物は南北14m、東西11mの範囲に分布し、層厚は30cm。出土遺物の平均標高は9.457mである。石材別では明確な分布の様子はとらえられないが、器種別で見ると石核は約6m四方の範囲内に集中している。また、出土した石器類の石材は、石器集中地点及びそれ以外から出土したものを含めた65点の内29点(44.6%)が瑪瑙で最も多い。関東地方で主に瑪瑙が産出する地域としては、本県の常陸大宮市(旧山方町)諸沢周辺が知られ、同市を流れる玉川でも採取でき、近県では栃木県茂木町周辺が挙げられる。推定される石材の動きとして、茂木町周辺のは鬼怒川に沿って移動していったと考えられている³⁾。茂木町周辺で産出したものを入手し、主要な石材として消費されたものと考えられる。石器集中地点では、チップ類は検出されなかったが、石核や剥片が多数確認されていることから、石器製作の場である可能性が高い。



第170図 トロトロ石、メノウ、碧玉、珪質頁岩、チャート・硬質細粒凝灰岩の移動経路推定図
(茨城県における旧石器時代研究の到達点より)

2 縄文時代

遺構は、竪穴住居跡49軒、炉跡2基、隔し穴1基、土坑4基、ピット14基、地点貝塚2か所を検出した。遺物は、縄文時代草創期から晩期にかけてのものが出土している。草創期は、尖頭器などの石器、中期と晩期は土器片がそれぞれ少量出土しているだけで、それらの時期に該当する明確な遺構は確認されなかった。時期的には前期前半から前期後半、後期前半の遺物が多く出土しており、この時期に集落が営まれたと考えられる。特に、後期前半の土器群が大量に出土しており、当遺跡の中心となる時期である。

周辺地域の前期及び後期の遺跡を概観し、今回の調査で検出された遺構・遺物から、前期前半を1期、前期後半を2期、後期前半を3期として当遺跡の概略を述べる。ここでは、覆土や壁の立ち上りの明確な遺構を主に、年代幅があるものや時期が特定できないものについては除外した。なお、縄文土器の編年については主に『日本土器辞典』に準拠した。

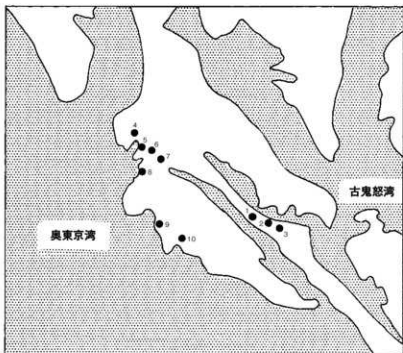
(1) 集落について

1期（前期前半）

当該期の遺構は竪穴住居跡2軒、ピット2基である。検出された位置は、調査A区の南西部から1軒（第4号住居跡）、調査B区の中央部から1軒（第28号住居跡）である。

出土土器は深鉢が主体で、わずかに鉢が出土している。

第4号住居跡は長軸5m、短軸4mほどの長方形で、柱穴7か所が確認されている。出土土器は、破片が多く全体の器形ははっきりしないが、口辺部は平縁のものがほとんどである。胎土に繊維を含み、燃余文や半截竹管を用いた沈線文、コンパス文様などが描出されており、黒浜式土器に見られる文様構成を示している。



- 1 土塔貝塚（前期前葉）
- 2 川岸貝塚（前期前葉）
- 3 桜井貝塚（前期前葉）
- 4 小手指貝塚（中期）
- 5 内肥土遺跡
（中期後葉～後期後葉）
- 6 猪塚遺跡（後期）
- 7 石畑遺跡
（早期末～晩期前葉）
- 8 坂間遺跡（前期前葉）
- 9 冬木A貝塚
（後期前葉から中葉）
- 10 冬木B貝塚
（後期後葉～晩期前葉）

第171図 五霞町内の主な縄文遺跡（金井忠夫氏の地図を修正）

第28号住居跡は長軸3.6mほどの方形で炉をもち、壁柱穴がめぐる形態である。柱穴はいずれも浅く小形である。出土土器は、口辺部から底部にかけての器形が想定できるものも出土している。その器形は口辺部が直線的に開くものや、口辺が外反して頭部ですばみ、胴部がふくらむものなどがある。口辺部は平縁のものや波状縁のものがあ、底部はやや上げ底になっている。文様は付加糸縄文や半截竹管による沈線文、刺突文などが見られ、第4号住居跡の出土土器と同様に、胎土に繊維を含む、黒浜式期のものである。

このほか、当該期のビット1基(第14号ビット)が確認されており、第28号住居跡から14mほど離れて位置している。

周辺地域の当該期の遺跡を見ると、古河市では、利根川低地沿いに貝塚や遺跡が多く確認されている。下総台地の西端部にあたる埼玉県幸手市、千葉県野田市などの遺跡は、江戸川を挟んだ地域に集中している。このように河川流域の低地沿いに前期の遺跡が多く分布するのは縄文海進に大きく関係している。この海進期は、茨城県西部においても遺跡数が最も増加する時期であり⁶⁾、五霞町域もこの時期は内湾域に面した低位な台地上に集落が形成された。当遺跡においては、集落形成は本期から始まったと考えられる。

2期(前期後半)

当該期の遺構は、調査A区から竪穴住居跡2軒(第8・12号住居跡)、土坑1基(第322号土坑)、ビット4基(第5・10・11・13号ビット)が検出されており、浮島Ⅱ～Ⅲ式期と考えられる。住居跡の位置は、調査A区のほぼ中央部に重複して検出された。住居の形態は、第12号住居跡は長軸3.7m、短軸3.3mほどの長方形、第8号住居跡は一辺が3.6mほどの方形である。これらの住居跡も壁柱構造で、柱穴の形状は浅く、小形である。出土した土器はいずれも深鉢であり、第12号住居跡では口唇部や口辺部にキザミを持つものが多く、連続した爪形文などの文様を描出している。第8号住居跡は、貝殻復縁文が施文されたものほか、貼付文や浮線文によって主文様が描出され、浮線上にキザミがあるものなど、諸磯c式土器も伴出している。

第322号土坑及び第5・10・11・13号ビットからは結節平行沈線文、半截竹管による三角文、ボタン状貼付文、貝殻復縁文土器が出土している。

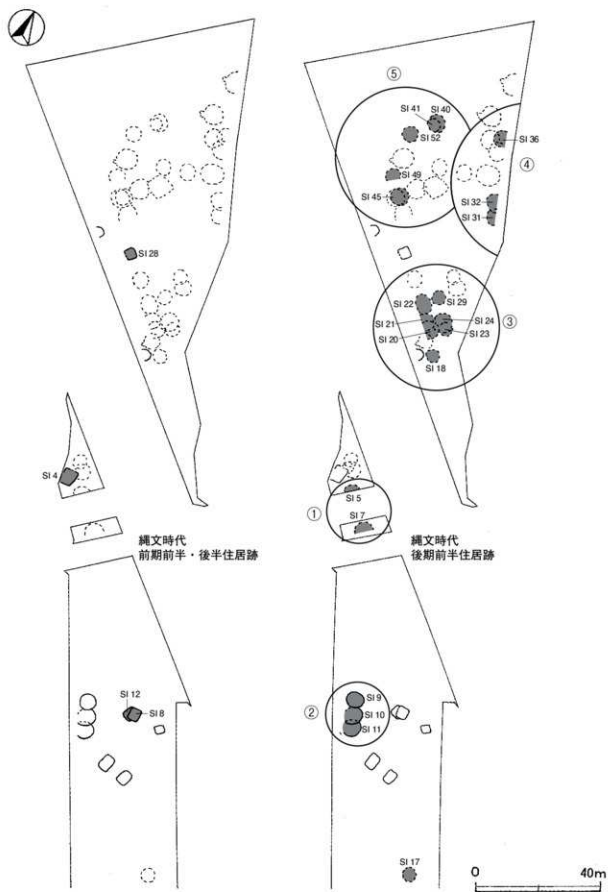
このほか、遺物包含層から諸磯c式期の獣面把手が出土している。口辺部内側に獣面が作出されたものである。これまでに、諸磯b式期における獣面把手についてはさまざまな研究が進められ、それらは口辺部外側に獣面が作出されている。しかし、本県では諸磯c式期の獣面把手は出土例が極めて少なく、しかも口辺部内側に作出されている点では稀少な資料となる。

なお、本期以降後期初頭までは遺物がわずかに確認されただけで、明確な遺構は検出されていない。前期黒浜式期に内陸まで入り込んでいた海水域は、中期に海退に転じた。海面の変化については、ボーリング調査から縄文時代中期に当地域は汽水域に変化したと指摘されている⁷⁾。それにとまない、居住域が他地域へ変動したと想定され、小手指貝塚などの中期集落が形成されたと考えられる。

3期(後期前半)

本期は堀之内1・2式期であり、竪穴住居跡4軒、土坑3基、ビット4基が検出されている。住居跡は調査A区南西部から第9～11号住居跡が重複して検出されている。

堀之内1式期の遺構は第11号住居跡、第298・332・374号土坑、第3・12号ビットである。出土土器はいずれも深鉢で、縄文だけの粗製土器や半截竹管による平行沈線文、刻みを有する隆帯文様などの土器群である。堀之内2式期は第9・10号住居跡、第6・8号ビットである。出土土器は深鉢を主体とし、他に注口土器や蓋が各1点出土している。文様は、口辺部の8字状貼付文、胴部に渦巻沈線文、充填縄文のほか、注口土器は胴部がソロバン玉状に屈曲したものである。



第172図 縄文時代住居跡変遷図

住居の形態は、長径5.5～6.2mほどの円形または楕円形である。いずれの住居も壁柱構造で、ピットは小形で浅い。また、各住居跡から炉も検出されているが、第10号住居跡では4か所重複しており、3か所は土器片囲炉である。特に炉2は径81cmで、赤変硬化した炉床や土器片などが良好な状態で検出された。

このほか、遺構外や遺物包含層から出土している土器は、1・2期に比べて、本期のものが多く出土しており、当遺跡において本期が最も隆盛した時期といえる。

この時期は、集落規模の小規模化傾向の時期である⁸⁾。しかし、竜崎市廻り地A遺跡の調査例では、堀之内式期の集落は2～5軒が8～9ブロックで集落を構成し、集落規模は拡大した状況が見られる⁹⁾。当遺跡では、時期等を明確にできなかった住居跡もあり、また第1～3号遺物包含層だけでも、出土土器の57.7%が堀之内式期のものである。このことから、集落規模が3軒あるいは4軒だけの小規模とはいえ、規模の大きな集落だった可能性が想定される。

このような想定で、遺物は出土していないが、本期のものと住居形態の類似した円形または楕円形で壁柱構造の住居跡を含めて集落の様相を考えてみると、A・B区を合わせて2～7軒を単位とした住居跡が5ブロック（①第5・7号住居跡、②第9～11号住居跡、③第18・20～24・29号住居跡、④第31・32・36号住居跡、⑤第40・41・45・49・52号住居跡）認められる。これらは、検出された住居跡全体の約45%に相当し、遺物量を合わせて考えると、前述したように本期が当遺跡における隆盛期の集落と推定することができる。

(2) 地点貝塚について

当遺跡からは、2か所の地点貝塚が検出された。

第1号地点貝塚は第4号住居跡内から検出されている。昭和37～40年にわたる金井忠夫氏の五霞町城での調査では、マテガイ・ハマグリ・マガキ等の貝が確認されている¹⁰⁾。今回出土した貝種は、アサリ・マガキ・ナミマガシワガイ・サルボウ・ハイガイ・カガミガイ・オキシジミ・ハマグリ・バカガイ・オノガイ・シオフキ・マテガイ・アカニシ・ヘナタリ・イボニシなど種類も多く、いずれの貝種も干潟や岸壁などに生息する鹹水種である。出土量の特に多かったものはアサリ（54.7%）・シオフキ（12.7%）・ハイガイ（8.4%）・サルボウ（7.3%）・ハマグリ（4.5%）であり、これらを含む貝層は、住居床面との間に間層がほとんどないことから、住居廃絶後、時間的な空白をもたないうちに廃棄されたものと考えられる。金井忠夫氏は論文の中で、貝塚の形成された過程を時間的にとらえ、層別別に貝の種類から貝の生態を中心に奥東京湾の状況を考察した。その中で黒浜式期の頃に初めて五霞地域に人間生活の黎明がおとずれた¹¹⁾と述べている。先の遺構と遺物の項で述べたように、1期が当遺跡における集落形成の発生期といえる。

五霞町城の貝塚を見ると、小手指貝塚は、勝坂式、阿玉台式、加曾利E1式に編年される土器群が出土する中期の貝塚である。純鹹貝塚であることが判明しており、シオフキ・オキシジミ・ハマグリ・アカニシ・ヘナタリなどの貝類が出土している¹²⁾。したがって、小手指貝塚付近は中期には奥東京湾沿岸地域であったことになる。また、小手指貝塚の南東2kmに冬木A貝塚が位置している。この貝塚は堀之内式期を中心とし、中期には見られなかったヤマトシジミが多く出土している。後期に入ると海進海退が繰り返され、利根川や渡良瀬川流域に三角州が形成されて、その河口地域が形成されたことになる。冬木B貝塚は冬木A貝塚の1km東に位置し、権現堂川筋の奥東京湾に面している。冬木B貝塚は、冬木A貝塚とはほぼ同時期から集落が形成されたが、後期末葉から晩期中葉にかけて隆盛期を迎えている。出土した貝は、ヤマトシジミに加え、マ

江川（土塔）貝塚の層別別土器編年と貝の種類

層序	土器編年形式(%)	貝の種類(%)
表土	黒浜式(90%)・漆織A式(10%)	シオフキ(80%)・オキシジミ(15%)・アカガイ・アサリ・アカニシ・ハマグリ
黒色混土貝層	黒浜式(88%)・漆織A式(12%)	シオフキ(80%)・オキシジミ(15%)・アカガイ・ナミマガシワガイ・ヤマトシジミ・アカニシ・ヘナタリ
純貝層	黒浜式(89%)・漆織A式(10%)	ハイガイ(50%)・マガキ(25%)・ナガガキ(10%)・イタボガキ(10%)・ハマグリ(貝刃に利用)
基部純貝層	黒浜式(100%)	マテガイ(99%)・ハマグリ(貝刃に利用)

小手指貝塚の層別別土器編年と貝の種類

層序	土器編年形式(%)	貝の種類(%)
表土	柳瓶式(81%)・加曾利E1式(14%)・阿玉台式(5%)	シオフキ(80%)・オキシジミ(15%)・アカニシ・ハマグリ
黒色混土貝層	柳瓶式(52%)・阿玉台式(28%)・加曾利E1式(20%)	シオフキ(80%)・オキシジミ(19%)・アカニシ
2号壱穴住居跡純貝層	柳瓶式(71%)・阿玉台式(29%)	シオフキ(75%)・オキシジミ(20%)・ハマグリ・ハイガイ・アカニシ・ヘナタリ
1号壱穴住居跡純貝層	阿玉台式(62%)・柳瓶式(38%)	2層 上部部・・・シオフキ(75%)・オキシジミ(20%)・ハマグリ・ハイガイ・アカニシ・ヘナタリ 下部部・・・マガキ(70%)・シオフキ(20%)・オキシジミ

冬木A貝塚の層別別土器編年と貝の種類

層序	土器編年形式(%)	貝の種類(%)
表土	堀之内1式(86%)・称名寺式(14%)	シオフキ(40%)・オキシジミ(30%)・ヤマトシジミ(30%)
黒色混土貝層	堀之内1式(82%)・称名寺式(18%)	シオフキ(40%)・オキシジミ(34%)・ヤマトシジミ(25%)・ハマグリ
純貝層	堀之内1式(81%)・称名寺式(19%)	シオフキ(43%)・オキシジミ(31%)・ヤマトシジミ(25%)・ハマグリ・ヘナタリ

冬木B貝塚の層別別土器編年と貝の種類

層序	土器編年形式(%)	貝の種類(%)	
住居跡の貝層	表土	加曾利B1式(71%)・安行1式(18%)・加曾利B式粗製土器(11%)・安行B式	ヤマトシジミ(60%)・マシジミ(40%)
	黒色混土貝層	加曾利B1式(67%)・加曾利B式粗製土器(28%)・安行1式(5%)・安行B式	ヤマトシジミ(65%)・マシジミ(35%)
	純貝層	加曾利B1式(89%)・加曾利B式粗製土器(8%)・安行1式(3%)	ヤマトシジミ(70%)・マシジミ(29%)・チリメンカワニナ・マルタニシ
鈿貝層	黒色混土貝層(鈿貝層)	加曾利B1式(92%)・安行1式(6%)・加曾利B式粗製土器・安行1式	ヤマトシジミ(65%)・マシジミ(34%)・マルタニシ(1%)
	泥炭層	後背湿地に堆積したもの・・・加曾利B1～安行1式期に堆積	

『水河性海面変化と五畿材の貝塚(金井忠夫氏)より

シジミ・マルタニシ・チリメンカワニナ等の淡水産種が出土している。このことから、冬木B貝塚付近も集落形成時には、汽水域の環境が広がり、後期後半になると砂泥が堆積する三角州が出現する地形へと変化していったものと考えられる¹³⁾。

ここで、第2号地点貝塚を見ると、出土量は多くないが、貝はすべてヤマトシジミである。汽水域に生息する貝であり、前述したように中期に当遺跡付近が汽水域化していたとすれば、集落はその前後に形成されたと考えられる。しかし、当遺跡から中期の遺構は検出されず、堀之内式期の遺構や遺物から、集落はその

時期に形成されたと推測できる。

当遺跡周辺は海進期の前期に集落が形成され、海退期の海岸線の変化に伴い、集落は他地域へ移動し、さらに後期に再びこの地域に集落が形成されたという調査結果となった。今後は、同じ時期に集落が形成された冬木A貝塚との関連や、集落の変遷等についての解明が課題である。

3 平安時代

当遺跡は縄文時代を中心とした遺跡であるが、調査A区の東部からは平安時代と考えられる竪穴住居跡1軒が検出されている。土師器細片が1点出土しているだけで、他に時期を決定できる遺物はないが、竈をもつことと住居跡の規模から時期を判断したものである。

五葎町域では元栗橋地域に遺跡が集中しているが、当遺跡周辺では調査例がない。遺構外出土遺物の中に須恵器甕片が1点出土しているが、調査区域外に本期の集落が形成されている可能性がある。

註

- 1) 橋本勝雄「茨城県における旧石器時代の編年」「茨城県における旧石器時代研究の到達点-その現状と課題-発表要旨・資料集」2002年12月 ひたちなか市教育委員会茨城県考古学協会
- 2) 山口武彦「石器群の様相-ナイフ形石器新段階-」「茨城県における旧石器時代研究の到達点-その現状と課題-発表要旨・資料集」2002年12月 ひたちなか市教育委員会 茨城県考古学協会
- 3) 能和町「能和町史通史編(原始・古代・中世)」2005年7月
- 4) 駒沢悦郎「羽黒遺跡-一般河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財報告書1」「茨城県教育財団文化財調査報告」第202集 2003年3月
- 5) 柴田 徹「茨城県内において剥片石器に使用された石材について」「茨城県における旧石器時代研究の到達点-その現状と課題-発表要旨・資料集」2002年12月 ひたちなか市教育委員会 茨城県考古学協会
- 6) 註2と同じ
- 7) 和島誠一ほか「関東平野に於ける縄文海進の最高海水準について」「資源科学研究所集報」第70号 1968年10月
- 8) 瓦吹 堅「茨城県における縄文時代集落の諸様相」「第1回研究会集基礎資料集 列島における縄文時代集落の諸様相」縄文時代文化研究会 2001年12月
- 9) 註6と同じ
- 10) 金井忠夫「水河性海面変化と五葎村の貝塚」『埼玉研究』第12号 埼玉県地域研究会 1966年
- 11) 註8と同じ
- 12) 高村 勇 根本康弘「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書-冬木A貝塚・冬木B貝塚-」「茨城県教育財団文化財報告」Ⅸ 1981年3月
- 13) 金井忠夫「利根川の歴史」日本図書刊行会 1997年2月

参考文献

- ・瓦吹 堅「石畑遺跡」五葎村教育委員会 1977年3月
- ・成島一也「石畑遺跡 12県単道改12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第192集 2002年3月
- ・荒崎克一郎「堂東遺跡 一般国道50号下船バイパス改築事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第213集 2004年3月
- ・縄紋社会研究会・早稲田大学先史考古学研究所「縄紋社会をめぐるシンポジウムⅤ 縄紋社会の変動を読み解く予稿集」2007年10月
- ・大工原 豊「中野谷松原遺跡-縄文時代遺構編-」『安中横野平工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』群馬県安中市教育委員会 1996年3月
- ・松田光太郎「獣面把手の変遷とその地域性-縄文時代前期の関東地方西部の諸遺物土器を事例として-」『縄文時代18』縄文時代文化研究会 2007年5月
- ・坂本 彰ほか「西ノ谷貝塚」『港北ニュータウン地域埋蔵文化財報告書』33 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 2003年3月
- ・小倉 均 柳田博之「太田窪貝塚発掘調査報告書」『浦和市遺跡調査報告書』第255集 浦和市遺跡調査会 1999年3月
- ・幸手市教育委員会「幸手市史 考古学資料編」2002年3月

第4章 瀬沼遺跡

第1節 遺跡の概要

瀬沼遺跡は、狼島郡五霞町に位置している。調査前の現況は水田で、調査面積は2644㎡である。

今回の調査によって、竪穴住居跡2軒（縄文時代、古墳時代）、土坑114基（縄文時代2、不明112）、ピット1基（縄文時代）、溝跡17条（不明）、ピット群1か所（不明）、不明遺構1基が検出されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で8箱出土している。主な遺物は、縄文時代は縄文土器片（深鉢）、石器（石鏃・磨製石斧）、古墳時代は土師器（坏・高坏・壺・甕・瓶）、土製品（土玉）などである。

第2節 基本層序

調査区のC区北部（E4h8区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った（第173図）。

第1層は暗褐色を呈する現耕作土で、ローム小ブロックを少量、ローム粒子・粘土粒子を中量含み、粘性・しまりともに弱い。層厚は14～20cmほどである。

第2層は灰黄褐色で粘土粒子を多量に含み、粘性・しまりともに強く、客土と思われる。層厚は80～90cmほどである。

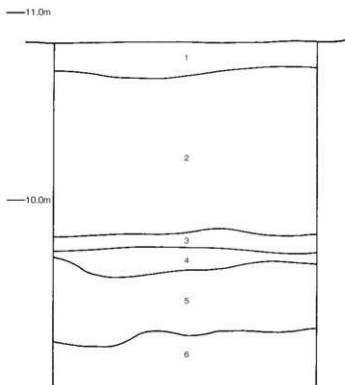
第3層は暗褐色で、ローム粒子を少量含み、粘性・しまりともに普通である。層厚は6～10cmほどである。

第4層は暗褐色で、ローム粒子を中量、ローム小ブロックを微量含んでいる。粘性・しまりともに普通である。層厚は6～16cmほどである。

5層は黄褐色のローム層で、粘性・しまりともに普通である。層厚は30～45cmほどである。

6層は暗褐色のハードローム層で、第二黒色帯（BBⅡ）である。粘性・しまりともに強く、武蔵野台地のⅦ～Ⅸに対応する。水のため、これより下層は確認できなかった。

住居等の遺構は、第5層上面で確認されている。



第173図 基本土層図



第174図 瀬沼遺跡調査区設定図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡1軒、土坑2基、ピット1基が確認されている。以下、確認された遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第175図）

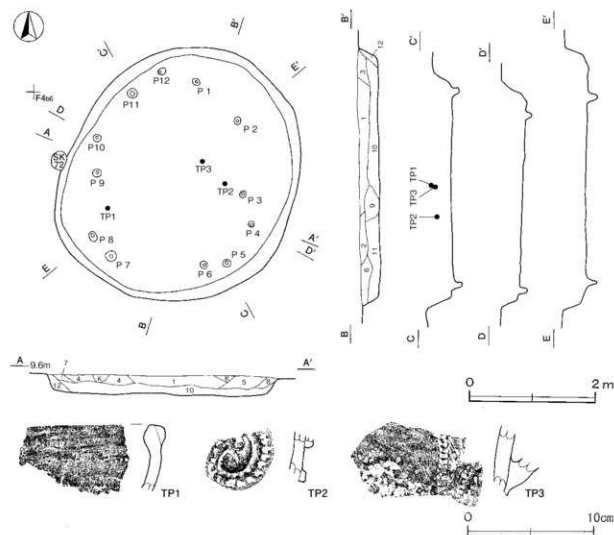
位置 調査C区のF4b6区、標高9.5mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.16m、短径3.63mの楕円形で、主軸方向はN-36°-Eである。壁高は26～40cmで外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。硬化面は確認されなかった。

ピット 12か所。配置から柱穴と考えられる。深さは10～18cmである。



第175図 第1号住居跡・出土遺物実測図

覆土 12層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	灰褐色	ロームブロック中量	8	灰褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック少量	9	褐色	ロームブロック少量
3	灰褐色	ローム粒子少量	10	灰褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ローム粒子中量
5	褐色	ローム粒子多量	12	褐色	ロームブロック中量
6	灰褐色	ロームブロック少量			
7	褐色	ローム粒子少量			

遺物出土状況 縄文土器片85点(深鉢84, 把手1), 剥片14点, 礫9点のほか, 混入した土師器片58点(坏9, 壳49)が覆土上層から床面にかけて出土している。TP1～TP3は覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から縄文時代中期と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表(第175図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部は貼付により厚みをもたせる 接合痕有り	覆土中層	
TP2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	渦巻状粘土結晶付上半截竹管による刺突文	覆土中層	PL49
TP3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	把手部に棒状工具による刺突文 胴部に半截竹管による押印	覆土中層	PL49

表13 縄文時代聚穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)		壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長軸(南)×短軸(北)	幅				柱穴	溝入	その数	形				
1	F4b6	N-36°-E	楕円形	4.16×3.63	26～40	平田	-	12	-	-	-	人為	縄文土器片	中期	本跡→SK72	

(2) 土坑

第16号土坑(第176図)

位置 調査B区のE5c3区, 標高9.6mの台地上の平坦部に位置している。

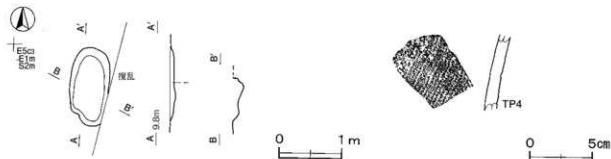
確認状況 東部が攪乱を受けている。

規模と形状 長径1.20m, 短径0.60mほどの楕円形で, 長径方向はN-22°-Eである。底面は凹凸で, 深さは10～18cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量



第176図 第16号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。TP4は覆土中層から出土している。

所見 時期は、中期と考えられる。

第16号土坑出土遺物観察表(第176図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色灰子	橙	普通	単線縄文RL	覆土中	

第41号土坑(第177図)

位置 調査B区のE5g3区、標高9.6mの台地上平坦部に位置している。

重複関係 東部を第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径1.25mほどの円形と推定される。底面は平坦で、深さは16cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

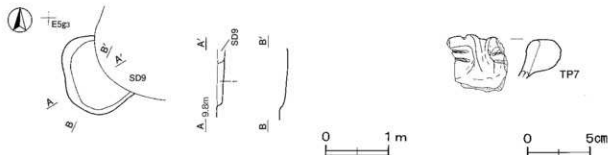
覆土 単一層である。

土層解説

I 層 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片57点(深鉢56、把手部1)、剥片1点、礫2点が出土している。TP7は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第177図 第41号土坑・出土遺物実測図

第41号土坑出土遺物観察表(第177図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	把手中央部に沈線 把手部1周に沿って2条の沈線	覆土中	

表14 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深S(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長(径(軸))	短(径(軸))						重複関係(古→新)
16	E5c3	N-22°-E	楕円形	1.20	0.60	10~18	外傾	凹凸	不明	縄文土器片	
41	E5g3	-	[円形]	1.25	[1.25]	16	外傾	平坦	不明	縄文土器片	本跡→SD9

(3) ビット

第1号ビット (第178図)

位置 調査B区のE 5el区、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.6m、短径0.5mほどの不定形で、長径方向はN-64°-Wである。底面は凹凸で、深さは55cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

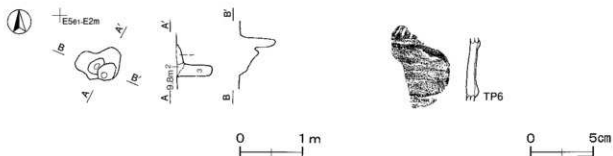
覆土 3層に分層される。周囲からの流入による自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)が出土している。TP6は覆土中層から出土したものである。

所見 時期は中期中葉と考えられる。



第178図 第1号ビット出土遺物実測図

第1号ビット出土遺物観察表 (第178図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	普通	縦長楕円形になる貼付	覆土中	

表15 縄文時代ビット一覧表

番号	位置	形状	規模(m)		深さ(cm)	主な出土遺物	時期	備考
			長径×短径					
1	E 5el	不定形	0.60×0.50		55	縄文土器片	中期中葉	

2 古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居跡1軒が確認されている。以下、確認された遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

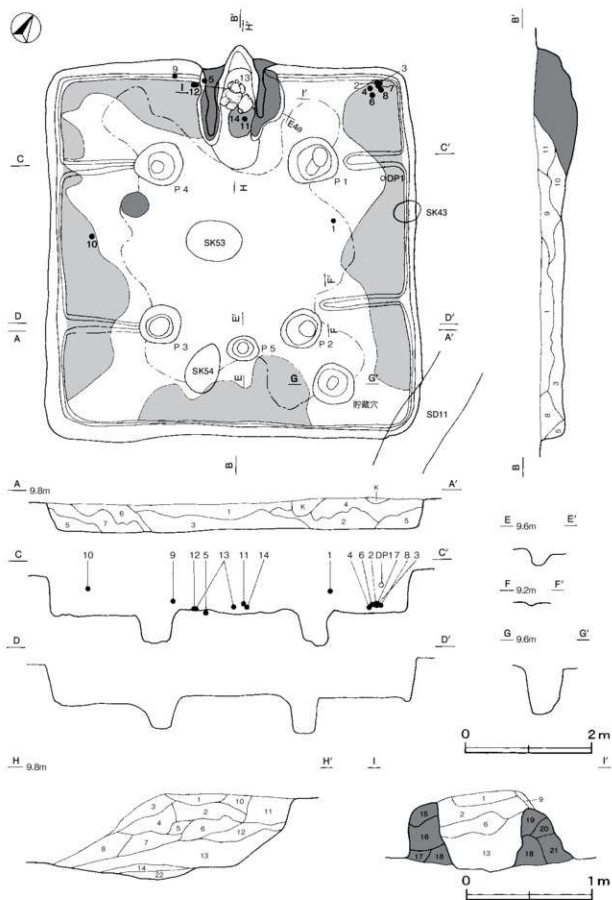
第2号住居跡 (第179～182図)

位置 調査C区のE 48区、標高9.6mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第11号溝、第43・53・54号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.00m、短軸5.90mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は50～65cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、ビットの内側が踏み固められている。壁溝が全周しており、断面形はU字状である。間仕切り溝



第179图 第2号住居跡实测图

が、東壁・西壁からそれぞれ2条が確認された。壁際を中心に焼土が広がり、P4の南側には径40cmほどの粘土塊が確認された。

ピット 5か所。P1～P4は、配置から主柱穴と考えられる。深さ48～53cmである。P5は、出入口に伴うものと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長径66cm、短径64cmの円形で、深さは70cmである。底面は皿状で、壁はほぼ直立している。湧水のため堆積状況は確認できなかった。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで196cm、袖部幅140cmであり、袖部は砂質粘土を主体とする第15～21層で構築されている。火床部は10cmほど掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	13 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子多量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物・ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量	15 暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	16 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量	18 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	19 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
8 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量	20 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	21 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
10 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、炭化物・焼土粒子微量	22 暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量
11 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量		
12 にぶい黄褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量		

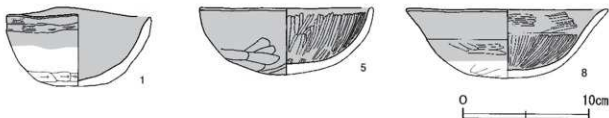
覆土 11層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況や、粘土塊が床面から確認されたことから、人為堆積と考えられる。

土層解説

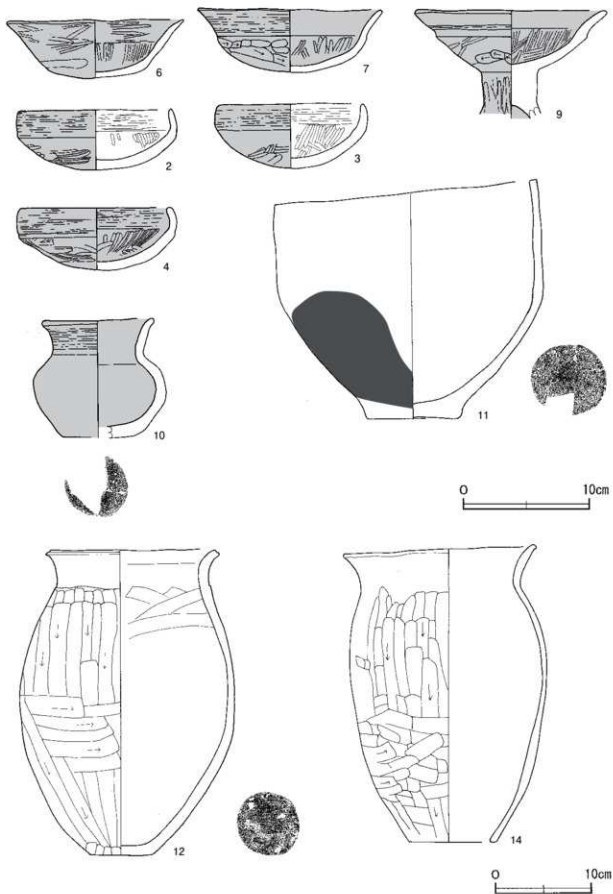
1 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量	8 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
4 褐色	ローム粒子多量、炭化物微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
5 黒褐色	ロームブロック微量		
6 褐色	ローム粒子多量		
7 褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片405点（埴83、高坏2、壺1、甕318、瓶1）、土製品1点（土玉）のほか、流れ込んだ縄文土器片203点（深鉢）、石器1点（石鏃）、石核1点、剥片18点、礫12点が覆土上層から床面及び竈から出土している。5・12は床面、2・3・4・6・7・8・9は覆土下層、1・10、DP1は覆土中層、11・14は竈火床部からそれぞれ出土している。13は床面及び竈火床部から出土した土器が接合したものである。

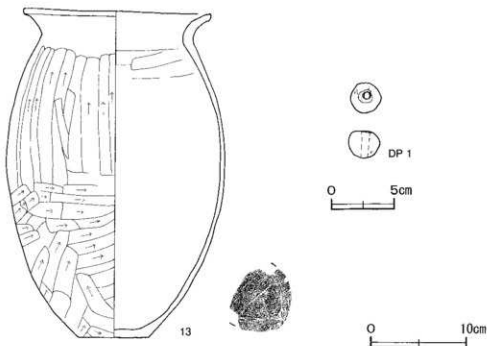
所見 時期は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。壁際の床面に焼土が確認されており、焼失家屋である。



第180図 第2号住居跡出土遺物実測図(1)



第181図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)



第182図 第2号住居跡出土遺物実測図(3)

第2号住居跡出土遺物観察表(第180~182図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.4	6.3	-	長石・石英	にぶい潰橙	普通	口縁部横ナゲ 外面赤彩	体部外面へラ削り 内	覆土中層 95% PL49
2	土師器	坏	11.9	4.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナゲ 外面赤彩	体部内外面へラ削き	覆土下層 100% PL49
3	土師器	坏	11.4	5.1	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部へラ削き	口縁部ナゲ 外面赤彩	覆土下層 100% PL49
4	土師器	坏	11.8	5.0	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナゲ 外面赤彩	体部内外面へラ削き及び削き	覆土下層 100% PL49
5	土師器	坏	13.6	5.3	-	長石・石英・赤色砂子	明赤褐	普通	体部外面へラ削り 外面赤彩	内面へラ削き 内	覆土下層 100% PL49
6	土師器	坏	14.0	4.6	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部内外面にへラ削き及び赤彩		覆土下層 100% PL49
7	土師器	坏	14.5	5.0	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ削り 外面赤彩	内面へラ削き 内	覆土下層 100% PL49
8	土師器	坏	16.0	5.5	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部内外面にへラ削き及び赤彩		覆土下層 100% PL49
9	土師器	高坏	15.2	(8.6)	-	長石・石英・赤色砂子	明赤褐	普通	体部外面へラ削り 外面赤彩	内面へラ削き 内	覆土下層 80% PL50
10	土師器	壺	8.7	9.5	[5.4]	長石・赤色砂子	赤褐	普通	口縁部横ナゲ	体部内外面赤彩	覆土中層 70% PL50
11	土師器	甕	21.0	18.9	7.2	長石・石英	橙	普通	体部外面へラ削り後ナゲ	保付者	竈火床部 80% PL50
12	土師器	甕	17.1	31.9	6.3	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	口縁部横ナゲ 内面へラナゲ	体部内外面へラ削り	床面 90% PL50
13	土師器	甕	19.4	34.4	7.2	長石・石英・赤色砂子	にぶい潰橙	普通	体部内外面にへラ削り	内面へラナゲ	床面・竈火床部 95% PL50
14	土師器	瓶	20.0	31.2	9.2	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り		竈火床部 100% PL50

番号	種別	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
DP1	土製品	土玉	2.5	2.1	0.6	9.9	長石	普通	ナゲ	覆土中層	PL50

表16 古墳時代竈穴住居跡一覧表

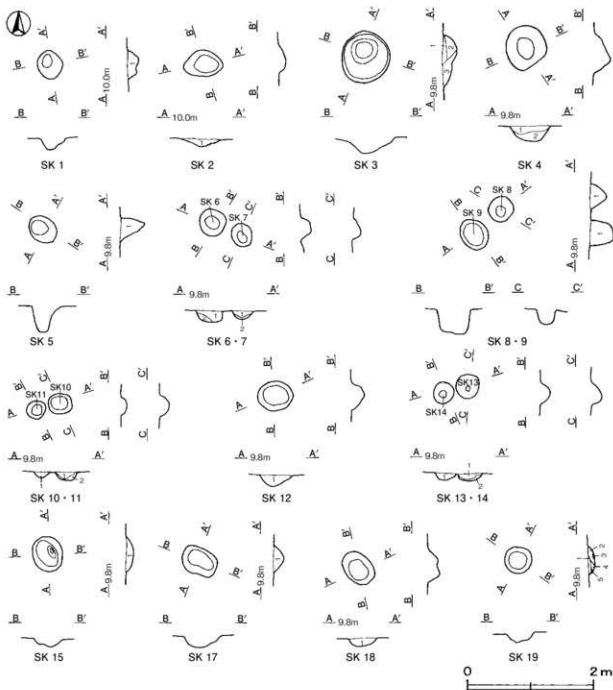
番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)		床面	階床	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 （古→新）	
				長軸(m)	短軸(m)			注根穴	排水口	竈					甕
2	E-48	N-30°-W	方形	6.00	5.90	50~65	平田	全周	4	1	1	1	人形	縄文土器片 土師器	6世紀前半 本跡→SD11, SK43-33-34

3 その他の遺構と遺物

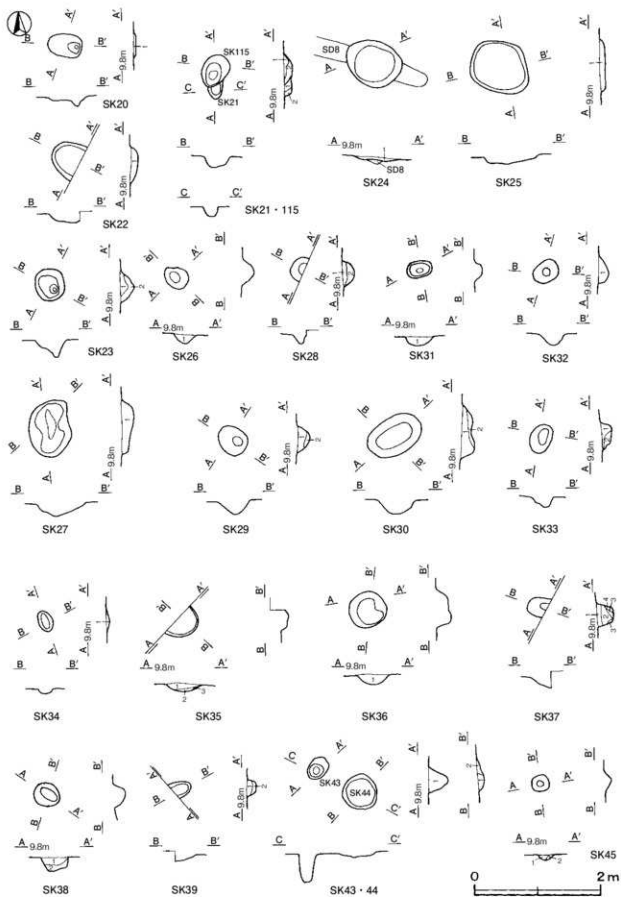
時期や性格が明確でない土坑112基、溝跡17条、ピット群1か所、不明遺構1基が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 土坑 (第183～187図)

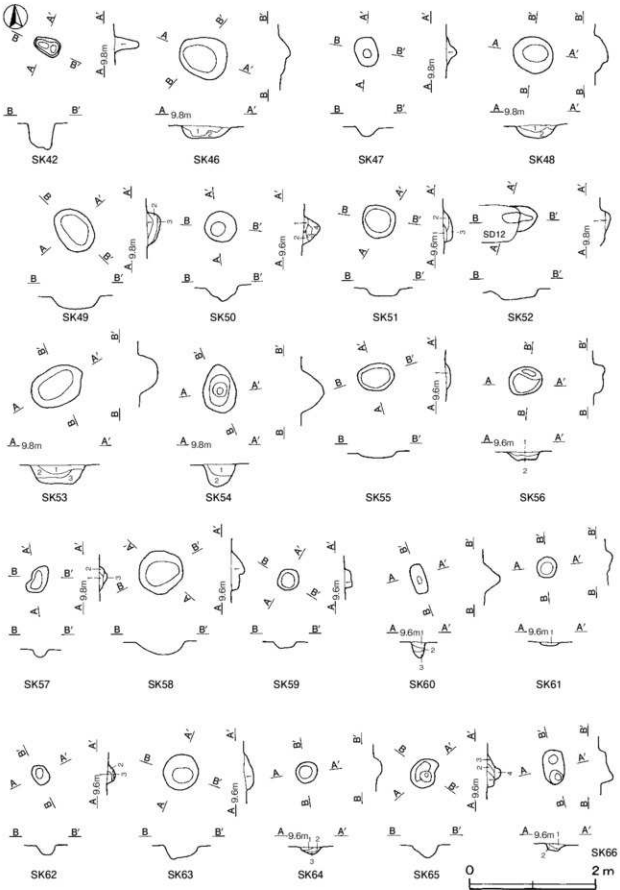
今回の調査で時期及び性格が明確でない土坑112基が確認された。以下、それらの土坑について、実測図及び一覧表を掲載する。



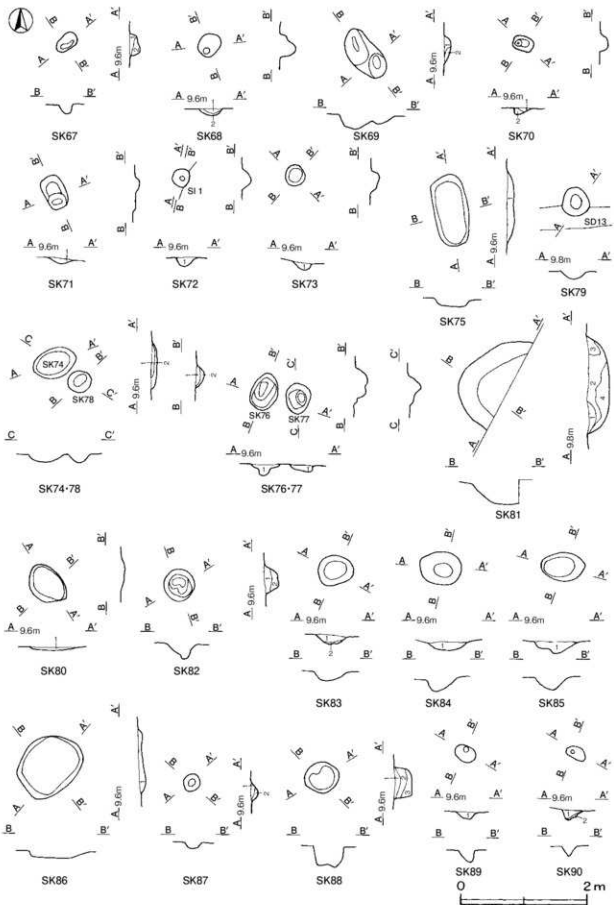
第183図 その他の土坑実測図(1)



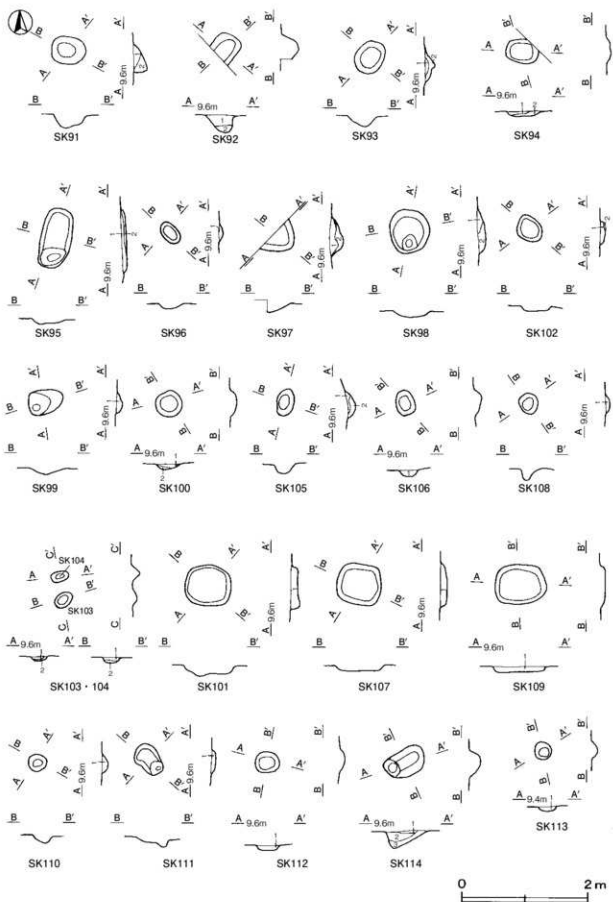
第184図 その他の土坑実測図2)



第185図 その他の土坑実測図(3)



第186図 その他の土坑実測図(4)



第187図 その他の土坑実測図(5)

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化物微量

第5号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量

第10号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第11号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

第12号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第15号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 灰褐色 ロームブロック少量

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第21号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒色 ロームブロック少量

第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量

第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第24号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第26号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量

第28号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第29号土坑土層解説

- 1 黒色 黒色土
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第30号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第31号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第34号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第35号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第36号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子微量

第38号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第39号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第42号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第43号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第44号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第45号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第46号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第49号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第50号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第51号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第52号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第53号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第54号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第55号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第56号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量

第57号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第58号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子微量

第59号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第60号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第61号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第62号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量

第63号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第64号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第65号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第66号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第67号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第68号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第69号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第70号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第71号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第72号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第73号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第74号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第75号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第76号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第77号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第78号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第80号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量

第81号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第82号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第83号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第84号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第85号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第86号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第87号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック微量

第88号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子中量
3 暗褐色 ロームブロック少量

第89号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量

第90号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第91号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック微量

第92号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第93号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック微量

第94号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第95号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第96号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第97号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第98号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量

第99号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第100号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第101号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第102号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第103号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第104号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第105号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第106号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第107号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第108号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第109号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第110号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第111号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第112号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第113号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第114号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック微量

第115号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量

表17 その他の土坑一覧表

番号	位 置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模 (m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重層関係 (古→新)
				長径(軸) (南北軸×東西軸)	短径(軸)						
1	D 5 i6	-	円形	0.44×0.44		19	外傾	皿状	不明		
2	D 5 j5	N-78°-E	楕円形	0.62×0.43		11	外傾	皿状	不明		
3	E 5 a6	-	円形	0.82×0.78		22	外傾	皿状	人為	縄文土器片・土師器片	
4	E 5 a6	-	円形	0.62×0.62		25	外傾	皿状	人為	縄文土器片	

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(m)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長(北軸)×短(南軸)	深さ(m)						
5	E 5 b4	N-54°-W	楕円形	0.50×0.40	44	外傾	皿状	不明	縄文土器片		
6	E 5 b5	-	円形	0.42×0.42	18	外傾	皿状	自然	縄文土器片		
7	E 5 b5	N-19°-W	楕円形	0.36×0.31	14	外傾	皿状	自然			
8	E 5 c5	N-39°-E	楕円形	0.40×0.36	26	外傾	皿状	不明			
9	E 5 c5	N-35°-W	楕円形	0.50×0.42	38	外傾	皿状	不明			
10	E 5 e4	N-65°-W	楕円形	0.38×0.34	13	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
11	E 5 e4	-	円形	0.28×0.28	10	外傾	皿状	不明			
12	E 5 d4	N-64°-E	楕円形	0.55×0.46	12~16	外傾	皿状	不明			
13	E 5 d4	-	円形	0.39×0.39	17	外傾	皿状	自然			
14	E 5 d4	-	円形	0.34×0.32	15	外傾	皿状	不明			
15	E 5 d4	N-10°-W	楕円形	0.56×0.46	13	外傾	皿状	不明			
17	E 5 d3	N-75°-W	楕円形	0.58×0.42	18	外傾	皿状	不明	縄文土器片		
18	E 5 e5	N-36°-W	楕円形	0.56×0.44	19	外傾	凹凸	不明			
19	E 5 e4	-	円形	0.44×0.44	13	外傾	皿状	人為			
20	E 5 e4	N-78°-W	楕円形	0.54×0.38	5	外傾	平坦	不明	縄文土器片		
21	E 5 f3	N-45°-E	[楕円形]	0.22×(0.20)	16	外傾	皿状	人為		本跡→SK115	
22	E 5 f4	N-64°-W	[楕円形]	0.59×(0.47)	13	外傾	平坦	不明			
23	E 5 f2	-	円形	0.52×0.51	30	外傾・傾斜	皿状	人為	縄文土器片		
24	E 5 d2	N-69°-W	楕円形	0.88×0.70	11	傾斜	平坦	自然	縄文土器片	SD 8→本跡	
25	E 5 e2	N-12°-E	楕円形	0.92×0.83	12	外傾	平坦	不明	縄文土器片		
26	E 5 e2	N-46°-W	楕円形	0.42×0.34	20	外傾	皿状	不明	縄文土器片		
27	E 5 f2	N-3°-E	楕円形	0.90×0.66	20	外傾・傾斜	皿状	不明	縄文土器片		
28	E 5 g3	-	[円形]	0.40×(0.20)	17	外傾	皿状	人為			
29	E 5 g3	N-52°-W	楕円形	0.50×0.42	22	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
30	E 5 g2	N-56°-E	楕円形	0.89×0.61	23	外傾	皿状	自然	縄文土器片		
31	E 5 f1	N-79°-E	楕円形	0.41×0.26	16	外傾	皿状	不明			
32	E 5 f1	N-56°-E	楕円形	0.42×0.32	16	外傾	皿状	不明			
33	E 5 e1	N-23°-E	楕円形	0.46×0.33	16	外傾	凹凸	人為			
34	E 5 e1	N-18°-W	楕円形	0.35×0.23	9	外傾	皿状	不明			
35	E 5 e1	-	[円形]	0.58×(0.30)	12	外傾	皿状	自然	縄文土器片		
36	E 5 f4	-	円形	0.60×0.60	20	外傾	平坦	不明			
37	E 5 g4	N-80°-W	[楕円形]	(0.30)×0.30	22	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
38	E 5 g3	N-56°-W	楕円形	0.48×0.38	20	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
39	E 5 f2	N-69°-E	[楕円形]	(0.28)×0.26	11	外傾	皿状	人為			
42	E 4 b8	N-67°-W	楕円形	0.43×0.28	42	外傾	皿状	不明			
43	E 4 b9	N-42°-E	楕円形	0.40×0.29	46	外傾	皿状	不明	縄文土器片	SI 2→本跡	
44	E 4 b9	-	円形	0.55×0.55	7	外傾	平坦	人為	縄文土器片・土師器片		
45	E 4 j0	-	円形	0.28×0.27	12	外傾	皿状	人為			
46	F 5 a1	N-74°-W	楕円形	0.78×0.64	20	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
47	F 5 a1	N-19°-W	楕円形	0.46×0.36	16	外傾	皿状	不明			
48	F 4 a9	N-78°-W	楕円形	0.64×0.56	20	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
49	F 4 a8	N-45°-W	楕円形	0.72×0.56	21	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
50	F 4 a8	-	円形	0.49×0.49	24	外傾	皿状	人為	縄文土器片		
51	F 4 a8	-	円形	0.56×0.51	14	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
52	E 4 j0	N-81°-W	[楕円形]	(0.28)×0.40	16	外傾	平坦	不明	縄文土器片	本跡→SD12	
53	E 4 b8	N-61°-E	楕円形	0.88×0.61	28~32	外傾	平坦	人為		SI 2→本跡	

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(cm)	断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長(北軸)×短(南軸)	長(北軸)×短(南軸)						
54	E 4β	N-8°-W	楕円形	0.78×0.54	36	外傾	崖状	人為	縄文土器片	SI 2→本跡	
55	F 4b0	N-78°-E	楕円形	0.58×0.45	8	外傾	平坦	不明			
56	F 4b9	N-79°-W	楕円形	0.51×0.46	14	外傾	凹凸	人為	縄文土器片・土師器片		
57	F 4a9	N-21°-E	不定形	0.48×0.26	12	外傾	崖状	人為	縄文土器片	SD13→本跡	
58	F 4b8	-	円形	0.72×0.66	20	外傾	崖状	人為	縄文土器片		
59	F 4b8	-	円形	0.34×0.34	10	外傾	平坦	人為			
60	F 4b8	N-20°-W	長方形	0.46×0.22	26	外傾	崖状	人為	縄文土器片		
61	F 4b7	-	円形	0.33×0.22	8	外傾	崖状	不明			
62	F 4b8	N-36°-W	楕円形	0.36×0.26	16	外傾	崖状	人為			
63	F 4b7	-	円形	0.60×0.56	21	外傾	凹凸	不明	縄文土器片		
64	F 4b7	-	円形	0.34×0.32	12	外傾	崖状	自然			
65	F 4b7	-	不定形	0.46×0.40	22	外傾	崖状	人為			
66	F 4b7	N-4°-W	楕円形	0.54×0.34	10~22	外傾	凹凸	自然			
67	F 4a5	N-49°-E	楕円形	0.36×0.24	16	外傾	崖状	自然			
68	F 4a5	N-50°-E	楕円形	0.38×0.32	24	外傾	崖状	自然			
69	F 4a5	N-41°-W	楕円形	0.88×0.45	10~22	外傾-緩斜	凹凸	人為	縄文土器片		
70	F 4a5	N-68°-W	楕円形	0.32×0.22	14	外傾	崖状	自然			
71	F 4a5	N-24°-E	楕円形	0.54×0.35	8	外傾	凹凸	自然			
72	F 4b6	-	円形	0.30×0.28	15	外傾	崖状	自然		SI 1→本跡	
73	F 4b8	-	円形	0.34×0.31	12	外傾	崖状	自然			
74	F 4c8	N-21°-W	楕円形	0.67×0.47	12	外傾	崖状	自然	縄文土器片		
75	F 4c7	N-12°-W	楕円形	1.13×0.53	11	外傾	平坦	自然	縄文土器片・銅片		
76	F 4c7	N-27°-E	楕円形	0.58×0.42	20	外傾	凹凸	自然	縄文土器片		
77	F 4c7	N-3°-E	楕円形	0.47×0.40	10~20	外傾	崖状	自然			
78	F 4c8	-	円形	0.36×0.34	14	外傾	崖状	自然			
79	F 4a0	-	円形	0.46×0.43	12	外傾	崖状	-	縄文土器片	SD13→本跡	
80	F 4c8	N-37°-E	楕円形	0.70×0.49	6	外傾	平坦	人為	縄文土器片		
81	F 5a1	-	[円形]	1.54×(0.76)	40	外傾	平坦	人為			
82	F 4c7	-	円形	0.47×0.46	22	外傾	崖状	自然			
83	F 4c0	-	円形	0.54×0.50	16	外傾	崖状	自然			
84	F 4c0	N-72°-W	楕円形	0.67×0.53	13~19	外傾-緩斜	崖状	不明			
85	F 4c0	N-86°-W	楕円形	0.69×0.44	20	外傾	崖状	人為	縄文土器片		
86	F 4c0	N-74°-E	隅丸長方形	1.05×0.88	10	外傾-緩斜	平坦	不明	縄文土器片・土師器片		
87	F 4b4	-	円形	0.28×0.26	11	外傾	崖状	自然			
88	F 4b4	-	円形	0.53×0.50	30	外傾	平坦	人為			
89	F 4b5	N-53°-W	楕円形	0.33×0.25	18	外傾	崖状	不明			
90	F 4b4	N-63°-W	楕円形	0.32×0.18	16	外傾	崖状	自然			
91	F 4c4	N-78°-W	楕円形	0.52×0.44	21	外傾	崖状	自然			
92	F 4c3	N-40°-E	[楕円形]	0.42×(0.38)	28	外傾	崖状	自然	縄文土器片		
93	F 4b3	N-37°-E	楕円形	0.54×0.43	17	外傾	崖状	自然			
94	F 4c3	N-86°-W	長方形	0.50×0.39	7	外傾	平坦	自然			
95	F 4c3	N-15°-E	楕円形	0.96×0.48	8	外傾	平坦	自然	縄文土器片・土師器片		
96	F 4c2	N-53°-W	隅丸長方形	0.38×0.26	7	外傾	崖状	自然			
97	F 4c2	-	[円形]	0.61×(0.34)	22	外傾-緩斜	崖状	自然	縄文土器片		
98	F 4d3	-	円形	0.70×0.64	10	外傾	平坦	人為	縄文土器片・土師器片		
99	F 4d3	N-71°-E	楕円形	0.58×0.40	10	外傾	凹凸	人為	縄文土器片		

番号	位置	主軸方向 (南北軸)	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (南北軸×東西軸)	短径(軸)						
100	F 4 d2	-	円形	0.42×0.42	10	外傾	皿状	自然	縄文土器片・土師器片		
101	F 4 d3	N-87°-W	隅丸長方形	0.73×0.62	12~18	外傾	平坦	自然	縄文土器片・土師器片		
102	F 4 d2	N-60°-W	楕円形	0.42×0.36	8	外傾	平坦	自然			
103	F 4 d2	N-57°-E	楕円形	0.31×0.21	8	外傾	皿状	自然			
104	F 4 d2	N-70°-E	楕円形	0.28×0.16	14	外傾	皿状	自然			
105	F 4 d2	N-10°-E	楕円形	0.42×0.28	16	外傾	皿状	人為			
106	F 4 d1	N-23°-W	楕円形	0.38×0.29	11	外傾	皿状	不明			
107	F 4 e2	N-75°-W	隅丸長方形	0.72×0.64	10	外傾	平坦	不明	縄文土器片・土師器片		
108	F 4 e2	N-29°-W	楕円形	0.33×0.29	18	外傾・傾斜	皿状	不明	縄文土器片		
109	F 4 e2	N-82°-W	楕円形	0.82×0.64	9	外傾	平坦	不明			
110	F 4 e2	-	円形	0.28×0.28	11	外傾	皿状	不明			
111	F 3 b0	N-40°-W	楕円形	0.52×0.38	6~12	外傾	凹凸	不明			
112	F 4 e1	N-56°-W	楕円形	0.40×0.36	8	外傾	皿状	不明			
113	F 4 d2	-	円形	0.28×0.28	10	外傾	皿状	不明			
114	E 4 j7	N-60°-E	楕円形	0.65×0.42	19	外傾	皿状	自然			
115	E 5 c3	N-2°-W	楕円形	0.52×0.40	18	外傾	皿状	自然		SK21→本跡	

(2) 溝跡

第1号溝跡 (第188図)

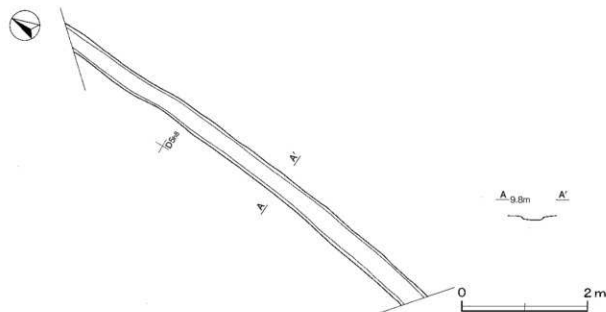
位置 調査A区のD 5 g8区～D 5 i7区で、標高9.6mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 北部が調査区域外に延びている。南部が擾乱を受けている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-8°-Eに直線的に延びている。

確認できた長さは、7.20mで、上幅0.30～0.38m、下幅0.21～0.32m、深さ7cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

所見 時期及び性格は不明である。



第188図 第1号溝跡実測図

第2号溝跡 (第189図)

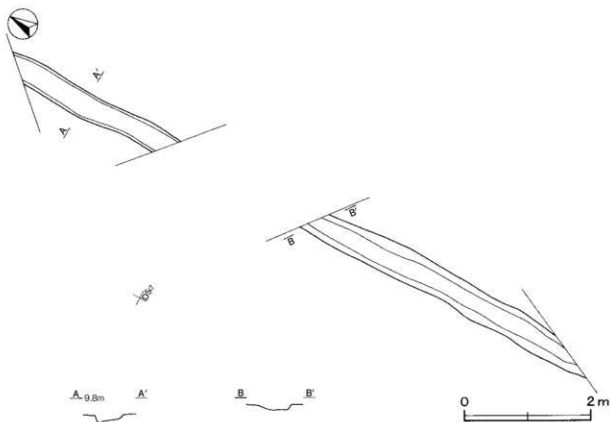
位置 調査A区及びB区のD5h7～D5j7区で、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 北部及び南部が調査区域外に伸びている。中央部が攪乱を受けている。

規模と形状 調査区域外に伸びているため、全容は不明である。方向はN-0°に直線的に伸びている。確認できた長さは、10.22mで、上幅0.38～0.51m、下幅0.23～0.26m、深さ8cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 縄文土器片40点(深鉢)が出土しているが、混入した可能性が高い。細片のため、図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。



第189図 第2号溝跡実測図

第3号溝跡 (第190図)

位置 調査B区のE5a4～E5b6区で、標高9.6mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 東部及び西部が調査区域外に伸びている。第16号溝跡に掘り込まれている。

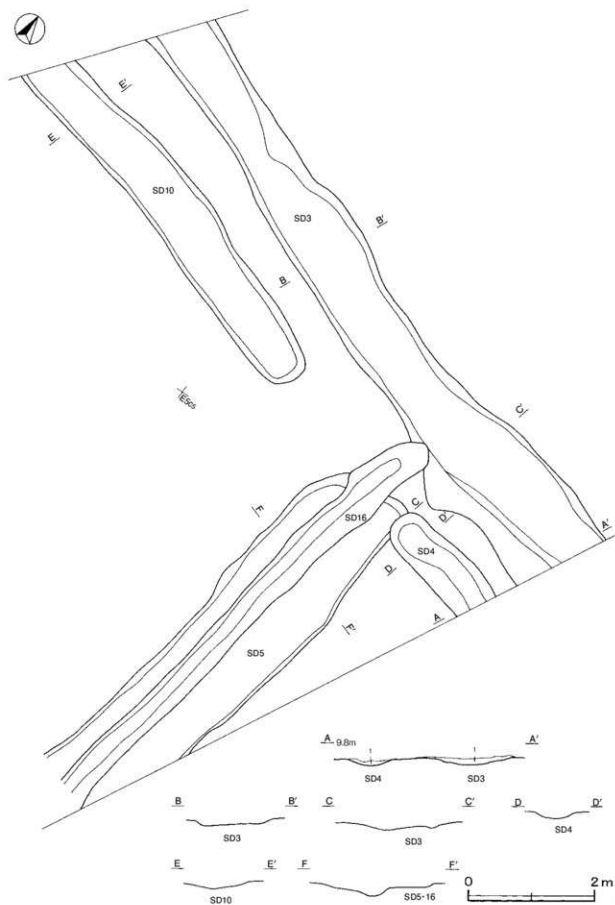
規模と形状 調査区域外に伸びているため、全容は不明である。方向はN-71°-Wで直線的に伸びている。

確認できた長さは10.24mで、上幅0.84～1.26m、下幅0.65～1.10m、深さ8cmである。断面は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子少量



第190图 第3·4·5·10·16号沟跡实测图

遺物出土状況 縄文土器片29点(深鉢)、土師器片1点(甕)が出土しているが、いずれも混入した可能性が高い。土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。

第4号溝跡 (第190図)

位置 調査B区のE5b5～E5c6区で、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 東部が調査区域外に延びている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-80°-Wで、直線的に延びている。確認できた長さは2.10mで、上幅0.64～0.76m、下幅0.28～0.40m、深さ7cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)が出土しているが、混入した可能性が高い。細片のため、図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。

第5号溝跡 (第190図)

位置 調査B区のE5b5～E5d5区で、標高9.6mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 南部が調査区域外に延びている。第4・16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-7°-Eで、直線的に延びている。確認できた長さは7.58mで、上幅1.50～1.72m、下幅1.35～1.58m、深さ7cmである。断面は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

所見 時期及び性格は不明である。

第6号溝跡 (第191図)

位置 調査B区のE5d2～E5d4区で、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第7号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

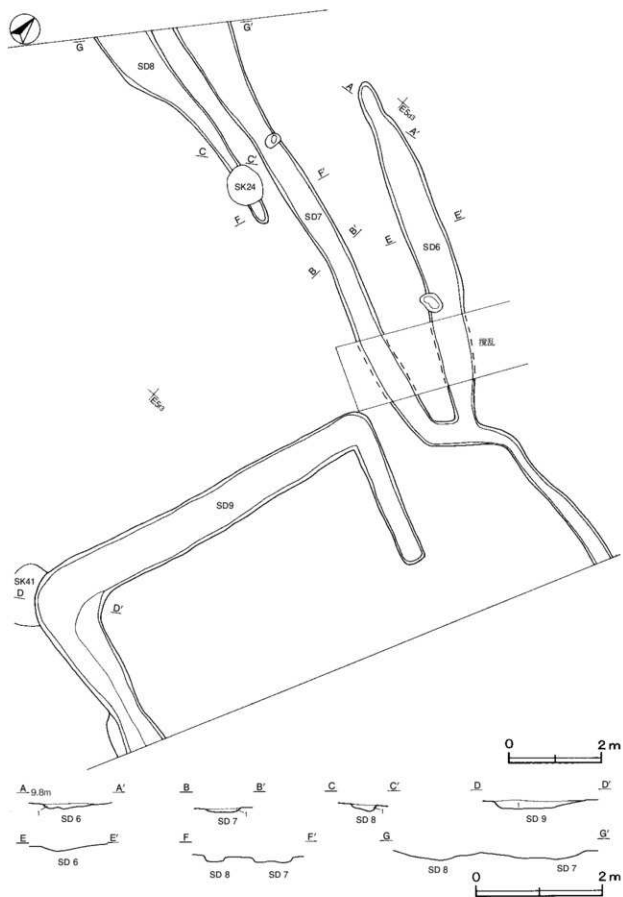
規模と形状 方向はN-51°-Eで、直線的に延びている。確認できた長さは7.40mで、上幅0.22～0.7m、下幅0.14～0.64m、深さ9cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片15点(深鉢)、土師器片1点(甕)が出土しているが、混入した可能性が高い。いずれも細片のため図示できなかった。



第191图 第6·7·8·9号沟跡实测图

所見 時期及び性格は不明である。

第7号溝跡（第191図）

位置 調査B区のE 5 d1～E 5 e5区で、標高9.6mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 東部及び西部が調査区域外に延びている。第6号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-73°-Wで直線的に延び、E 5 e4区でN-41°-Eに緩やかに屈曲し、さらにN-84°-W方向に延びたクランク状を呈している。確認できた長さは、14.82mで、上幅0.44～0.64m、下幅0.38～0.54m、深さ8cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 褐色 土 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片17点（深鉢）が出土しているが、混入した可能性が高い。いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。

第8号溝跡（第191図）

位置 調査B区のE 5 d1～E 5 d2区で、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 西部が調査区域外に延びている。第24号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-82°-Wで、直線的に延びている。確認できた長さは、5.30mで、上幅0.26～1.14m、下幅0.18～1.00m、深さ9cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 褐色 土 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）、石器1点（磨製石斧）が出土しているが、混入した可能性が高い。土器片はいずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。

第9号溝跡（第191図）

位置 調査B区のE 5 e3～E 5 g4区で、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 東部が調査区域外に延びている。第41号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-65°-Wで直線的に延び、E 5 g3区でN-20°-Wに屈曲し、E 5 e3区で再びN-65°-W方向に延びたコ字状を呈している。確認できた長さは、15.24mで、上幅0.68～1.18m、下幅0.52～1.01m、深さ12cmである。断面は逆台形状で、壁は外傾して立ち上

がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片28点(深鉢)、石器1点(磨製石斧)が出土しているが、混入した可能性が高い。土器片はいずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。

第10号溝跡 (第190図)

位置 調査B区のE 5 b3～E 5 b5区で、標高9.8mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 西部が調査区域外に延びている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-76°-Wで、直線的に延びている。確認できた長さは、6.20mで、上幅0.70～0.98m、下幅0.50～0.81m、深さ13cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

所見 時期及び性格は不明である。

第11号溝跡 (第192図)

位置 調査区C区のE 4 i0～F 4 c0区で、標高9.6mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 東部が調査区域外に延びている。西部は湧き水のため調査ができなかった。第2号住居跡及び第12号溝跡を掘り込み、第13・14号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-55°-Eで直線的に延びている。確認できた長さは、17.52mで、上幅0.64～0.94m、下幅0.42～0.58m、深さ20～28cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ブロック状に堆積している人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 灰褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片20点(深鉢)、土師器片8点(甕)が出土しているが、混入した可能性が高い。いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は出土土器が細片のため不明である。性格は不明である。

第12号溝跡 (第193図)

位置 調査C区のE 4 i0～E 4 j0区で、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第52号土坑を掘り込み、第11号溝に掘り込まれている。

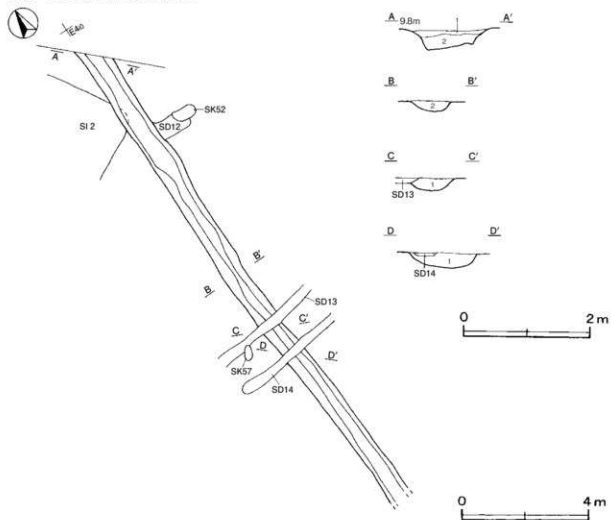
規模と形状 方向はN-89°-Eで、直線的に延びている。確認できた長さは、1.06mで、上幅0.56～0.59m、下幅0.34～0.38m、深さ7cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

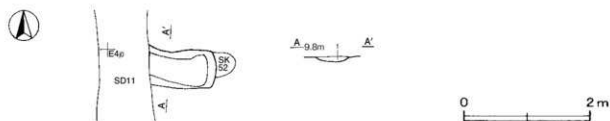
土層解説

I 黒褐色 ロームブロック微量

所見 時期及び性格は不明である。



第192図 第11号溝跡実測図



第193図 第12号溝跡実測図

第13号溝跡 (第194図)

位置 調査C区のF 4 a9～F 5 a1区で、標高9.6mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第11号溝跡を掘り込んでおり、第57・79号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 方向はN-88°-Eで直線的に伸びている。長さは、8.31mで、上幅0.21～0.33m、下幅0.10～0.22m、深さ8cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

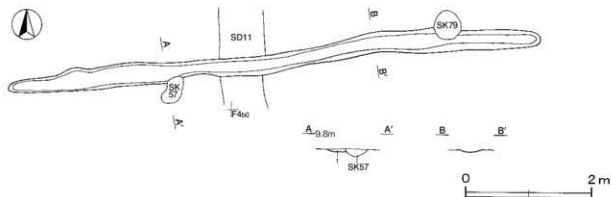
覆土 単一層である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)が出土しているが、混入した可能性が高い。細片のため図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。



第194図 第13号溝跡実測図

第14号溝跡 (第195図)

位置 調査C区のF4b9～F5a1区で、標高9.6mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第11号溝跡を掘り込んでいる。

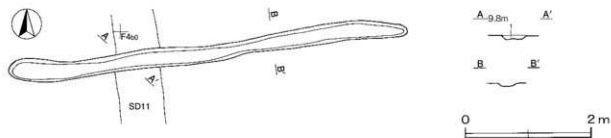
規模と形状 方向はN-89°-Eで、直線的に伸びている。長さは、6.28mで、上幅0.24～0.36m、下幅0.14～0.24m、深さ6cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック少量

所見 時期及び性格は不明である。



第195図 第14号溝跡実測図

第15号溝跡（第196図）

位置 調査C区のE 4 h8区で、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 東部が調査区域外に延びている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-76°-Wで直線的に延びている。

確認できた長さは、216mで、上幅0.21～0.23m、下幅0.10～0.12m、深さ3cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が出土しているが、混入した可能性が高い。いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期及び性格は不明である。



第196図 第15号溝跡実測図

第16号溝跡（第190図）

位置 調査B区のE 5 b5～E 5 d5区で、標高9.6mほどの台地上平坦部に位置している。

重複関係 南部が調査区域外に延びている。第3・5号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-7°-Eで、直線的に延びている。

確認できた長さは、834mで、上幅0.41～0.64m、下幅0.18～0.22m、深さ14cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

所見 時期及び性格は不明である。

第17号溝跡（第197図）

位置 調査E区のF 4 d1～F 4 e1区で、標高9.7mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 北部が調査区域外に延びている。

規模と形状 調査区域外に延びているため、全容は不明である。方向はN-5°-Wで直線的に延びている。

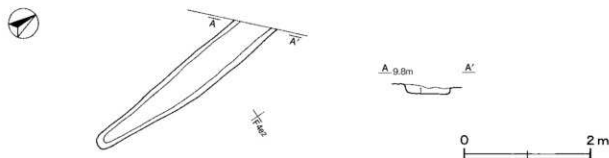
確認できた長さは、338mで、上幅0.26～0.58m、下幅0.14～0.40m、深さ12cmである。断面は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

所見 時期及び性格は不明である。



第197図 第17号溝跡実測図

表18 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				覆土	底面	主な出土遺物	時期	番号 重複関係 (古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	D 5 68 ~D 5 57	N-8°-E	直線	(7.20)	0.30~0.38	0.21~0.32	7	-	平坦		不明	
2	D 5 57 ~D 5 57	N-0°	直線	(10.22)	0.38~0.51	0.23~0.26	8	-	盛り状	縄文土器片	不明	
3	E 5 44 ~E 5 36	N-71°-W	直線	(10.24)	0.84~1.26	0.65~1.10	8	不明	平坦	縄文土器片 土層器片	不明	本跡→SD16
4	E 5 35 ~E 5 26	N-80°-W	直線	(1.88)	0.64~0.76	0.28~0.40	7	不明	盛り状	縄文土器片	不明	SD5→本跡
5	E 5 35 ~E 5 45	N-7°-E	直線	(6.96)	1.50~1.72	1.35~1.58	7	-	平坦		不明	本跡→SD4-16
6	E 5 d2 ~E 5 d4	N-51°-E	直線	(7.40)	0.22~0.78	0.14~0.64	9	不明	盛り状	縄文土器片 土層器片	不明	SD7
7	E 5 d1 ~E 5 e5	N-73°-W N-41°-E N-84°-W	L字状	(14.82)	0.44~0.64	0.38~0.54	8	不明	平坦	縄文土器片	不明	SD6
8	E 5 d1 ~E 5 d2	N-82°-W	直線	(5.30)	0.26~1.14	0.18~1.00	9	不明	平坦	縄文土器片 骨製石斧	不明	本跡→SK24
9	E 5 e3 ~E 5 e4	N-20°-E	コ字状	(15.21)	0.68~1.18	0.52~1.01	12	不明	平坦	縄文土器片 骨製石斧	不明	SK41→本跡
10	E 5 b3 ~E 5 b5	N-76°-W	直線	(6.20)	0.70~0.98	0.50~0.81	13	-	盛り状		不明	
11	E 4 8 ~E 4 e0	N-35°-E	直線	(17.52)	0.64~0.94	0.42~0.58	20~28	人為	盛り状	縄文土器片 土層器片	不明	SD2-SD12→本跡-SD13-14
12	E 4 8 ~E 4 j0	N-89°-E	直線	(1.06)	0.56~0.59	0.34~0.38	7	不明	盛り状		不明	SK52→本跡→SD11
13	F 4 29 ~F 5 a1	N-88°-E	直線	8.31	0.21~0.33	0.10~0.22	8	-	平坦	縄文土器片	不明	SD11→本跡→SK37-79
14	F 4 b9 ~F 5 a1	N-89°-E	直線	6.28	0.24~0.36	0.14~0.24	6	不明	平坦		不明	SD11→本跡
15	E 4 b8	N-76°-W	直線	(2.16)	0.21~0.23	0.10~0.12	3	不明	盛り状	縄文土器片	不明	
16	E 5 b5 ~E 5 d5	N-7°-E	直線	(8.34)	0.41~0.64	0.18~0.22	14	-	盛り状		不明	SD3-5→本跡
17	F 4 d1 ~F 4 e1	N-5°-W	直線	(3.38)	0.26~0.58	0.14~0.40	12	人為	平坦		不明	

(3) ビット群

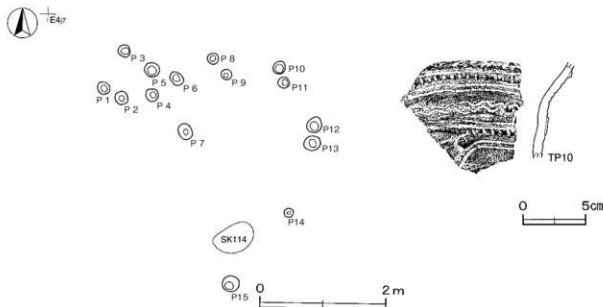
第1号ビット群 (第198図)

位置 調査C区のE 4 j7区~E 4 j8区・F 4 a7区。標高9.8mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 南北4.5m、東西3.7mほどの範囲から、ビット15か所が確認された。平面形は長径15~28cmの円形及び楕円形で、深さは8~22cmである。

遺物出土状況 縄文土器片37点(深鉢)、剥片6点、礫2点が確認面及び覆土中から出土している。TP10は確認面から出土したものである。出土した土器はいずれも混入した可能性が高い。

所見 時期及び性格は不明である。



第198図 第1号ピット群・出土遺物実測図

第1号ピット群計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	18	18	8	P 6	25	19	17	P 11	18	17	14
P 2	21	21	8	P 7	28	23	13	P 12	26	24	9
P 3	19	19	14	P 8	19	17	17	P 13	28	23	20
P 4	20	19	14	P 9	16	16	9	P 14	15	14	8
P 5	23	23	22	P 10	20	20	14	P 15	27	25	18

第1号ピット群出土遺物観察表 (第198図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口辺部及び肩部微隆帯上にキザミ平行波線文及び輪帯状の平行波線	平葎竹管による植筋	覆土中

(4) 不明遺構

第1号不明遺構 (第199図)

位置 調査C区のE 4 6区で、標高9.5mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.34m、短軸5.24mの不定形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は12~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、硬化面は確認されなかった。

覆土 6層に分層される。不規則な堆積状況をしていることから、人為堆積と考えられる。

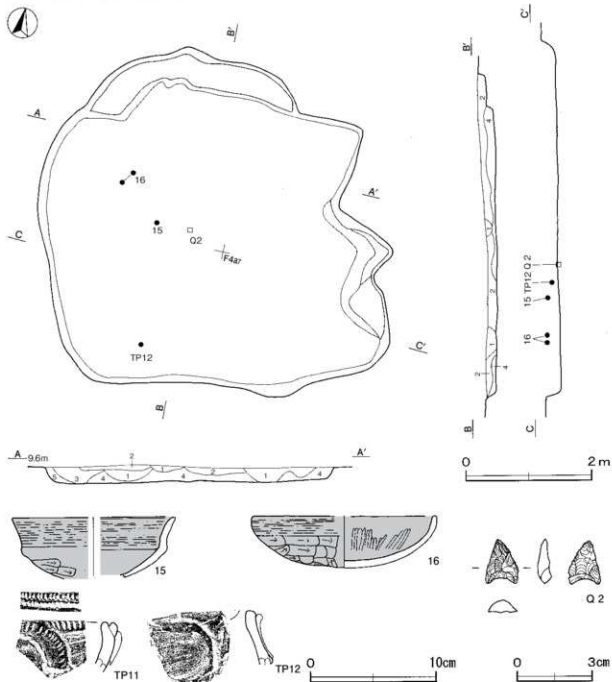
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、黒褐色土少量混入 | | |

遺物出土状況 縄文土器片63点(深鉢)、土師器片106点(坏32, 甕74)、石鎌1点、石核1点、剥片1点、礫6点が、覆土上層から底面にかけて出土している。15・16は覆土上層から、TP12は覆土中層、Q 2は底面、TP11は覆

土中から出土している。

所見 時期及び性格は不明である。



第199図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表 (第199図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
15	土師器	坏	[128]	(48)	-	長石・石英	赤	普通	口縁部横ナデ 体部へつ振り 内外面赤彩	覆土上層	15%
16	土師器	坏	[144]	41	-	長石・石英・赤色 粘土	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へつ振り 内 面へつ巻き 内外面赤彩	覆土上層	50%
番号	種別	器種	胎土			色調	焼成	文様の特徴		出土位置	備考
TP11	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母			明赤褐	普通	口唇部に結節沈線 口辺部は隆帯貼付 内外面にキマ 胴部隆帯貼付		覆土中層	
TP12	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色 粘土・白色粘土			橙	普通	口辺部に横長楕円形になる粘土細貼付		覆土中層	

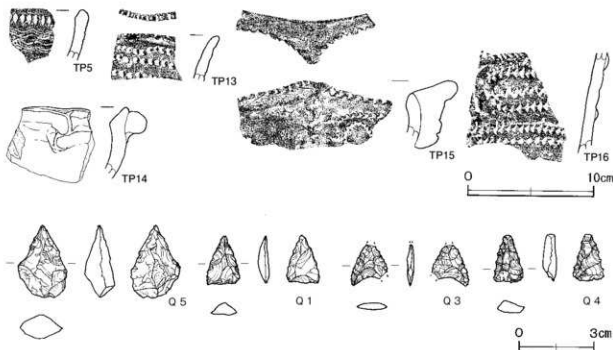
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	石皿	1.7	1.3	0.6	1.0	馬蹄	円基無茎皿 両面押圧調離	底面	

表19 不明遺構一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸(径) ×短軸(径)	壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	発見 者氏名 (古→新)
								柱穴	出入口	その他	遺物				
1	E 4/6	N-17°-W	不定形	5.31×5.24	12~26	平皿	-	-	-	-	-	人為	縄文土器片 土師器	不明	

(5) 遺構外出土遺物 (第200図)

遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び観察表で掲載する。



第200図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第200図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部にキザミ 胴部に半載竹管による波状の沈線	表土	
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・鉄片	にぶい橙	普通	口唇部にキザミ 胴部に半載竹管による刺突文	表土	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部につまみ状把手部作出	表土	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部及び唇下する口辺部隆帯上にキザミ 胴部に半載竹管による刺突文	表土	
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	粘土粒による楕円形区画の横帯 半載竹管による爪形文	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石皿	1.9	1.3	0.5	0.8	チャート	円基無茎皿 両面押圧調離	SK2覆土中	
Q3	石皿	(1.6)	(1.4)	0.3	(0.5)	チャート	円基無茎皿 両面押圧調離 先端部及び脚部の一部欠損	表土	
Q4	石皿	1.9	1.2	0.6	1.0	チャート	円基無茎皿 両面押圧調離	表土	PL50
Q5	石皿	2.9	1.9	1.2	4.1	チャート	菱形皿 両面押圧調離	表土	PL50

第4節 まとめ

瀬沼遺跡では、縄文時代及び古墳時代の遺構と遺物を主体に確認した。縄文時代の遺構は、堅穴住居跡1軒、土坑2基、ピット1基、古墳時代の遺構は堅穴住居跡1軒が検出されている。それぞれの時代の遺構と遺物についての概要を述べ、まとめとする。

1 縄文時代

第1号住居跡は、調査区C区の西部に位置している。形態は、長径4mほどの楕円形で、壁柱構造である。出土した遺物は大半が深鉢である。文様は、口辺部に貼り付けによって厚みをもたせたものや把手を有するもの、押引文などで文様構成されたものがあり、胎土にいずれも雲母を含んだ阿玉台Ⅱ式期のものである。

土坑は、第16・41号土坑、第1号ピットが調査B区から検出されている。これらの遺構から出土した土器にも胎土に雲母が含まれている。文様は横長楕円形になる隆帯貼り付けや沈線を描出した把手、隆帯上のキザミなどが見られる。また、遺構外からの出土遺物にも、隆帯による横長楕円形区画の貼り付けや隆帯上のキザミなど同様の文様が見られる。

検出された遺構が希薄なため集落の様相は明確ではないが、他の時期の遺構や遺物が検出されていないことから、当遺跡は阿玉台Ⅱ式期のみを集落が形成されたといえる。この後、古墳時代中期まで明確な遺構や遺物が検出されていない。

2 古墳時代

検出された遺構は、第2号住居跡1軒だけである。ここでは、本跡及び本跡以外から出土した土器の概要について述べる。

第2号住居跡から出土した土師器は、坏・高坏・壺・甕・瓶である。坏は8点出土しており、量は口径11.4～16.0cm、器高は4.6～6.3cm、底部はいずれも丸底である。器形の特徴ごとに分けてみると、碗形で口径が小さく深みのあるもの（1）、同じく碗形で体部の立ち上がりが緩く口径の広いもの（5）、口縁部と体部の境に稜を有し口縁部がやや外反し、須恵器坏蓋を模倣したものと考えられるもの（7・8）、口縁部がやや内増し、須恵器坏身を模倣したものと考えられるもの（2～4）、明確な稜はないが口縁部がやや外反するもの（6）が混在している。出土した坏はいずれも赤彩が施されている。高坏（9）は口縁部と体部の境に稜を有するもので、ヘラ削りやヘラ磨きの痕跡が見られる。坏部は、7・8と類似した器形である。壺（10）は小型で口径8.7cm、器高9.5cm、底部は欠損のため推定で5.4cmである。体部が算盤玉状を呈しており、底部は平底で、内外面に赤彩されている。甕（12・13）は、体部の中央部がややふくらみ胴長を呈している。瓶（14）は無底式で、器形は体部よりやや上部にふくらみをもち、甕と似た胴長の器形である。技法は甕、瓶ともにヘラ削りが施されている。

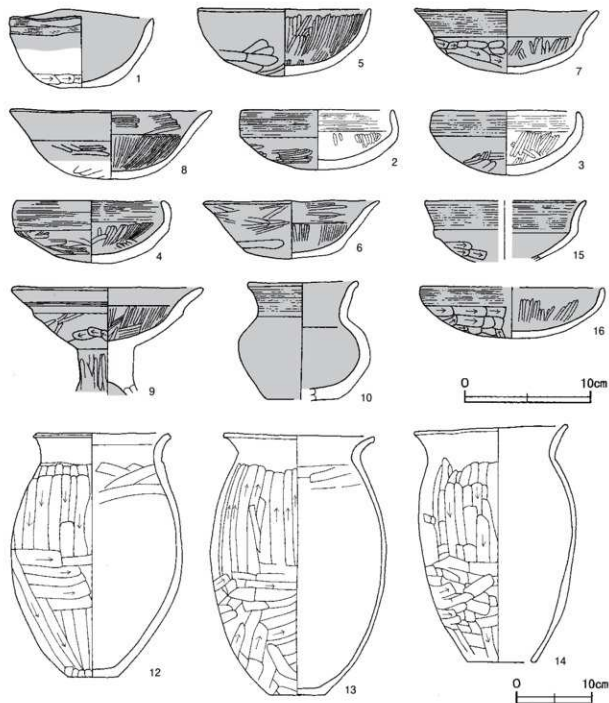
また、本跡以外でも第1号不明遺構から土師器坏（15・16）が出土している。15は口縁部と体部の境に稜を有するもので、7・8と同じ器形として分類することができる。16は浅めの碗形で5と同じ器形であり、15・16ともに赤彩されている。

第1号住居跡は、出土土器から6世紀前葉の時期ととらえられる。住居跡以外からも同時期と考えられる土師器坏が出土していることから、当遺跡における古墳時代の集落は本期に形成されたものと考えられる。

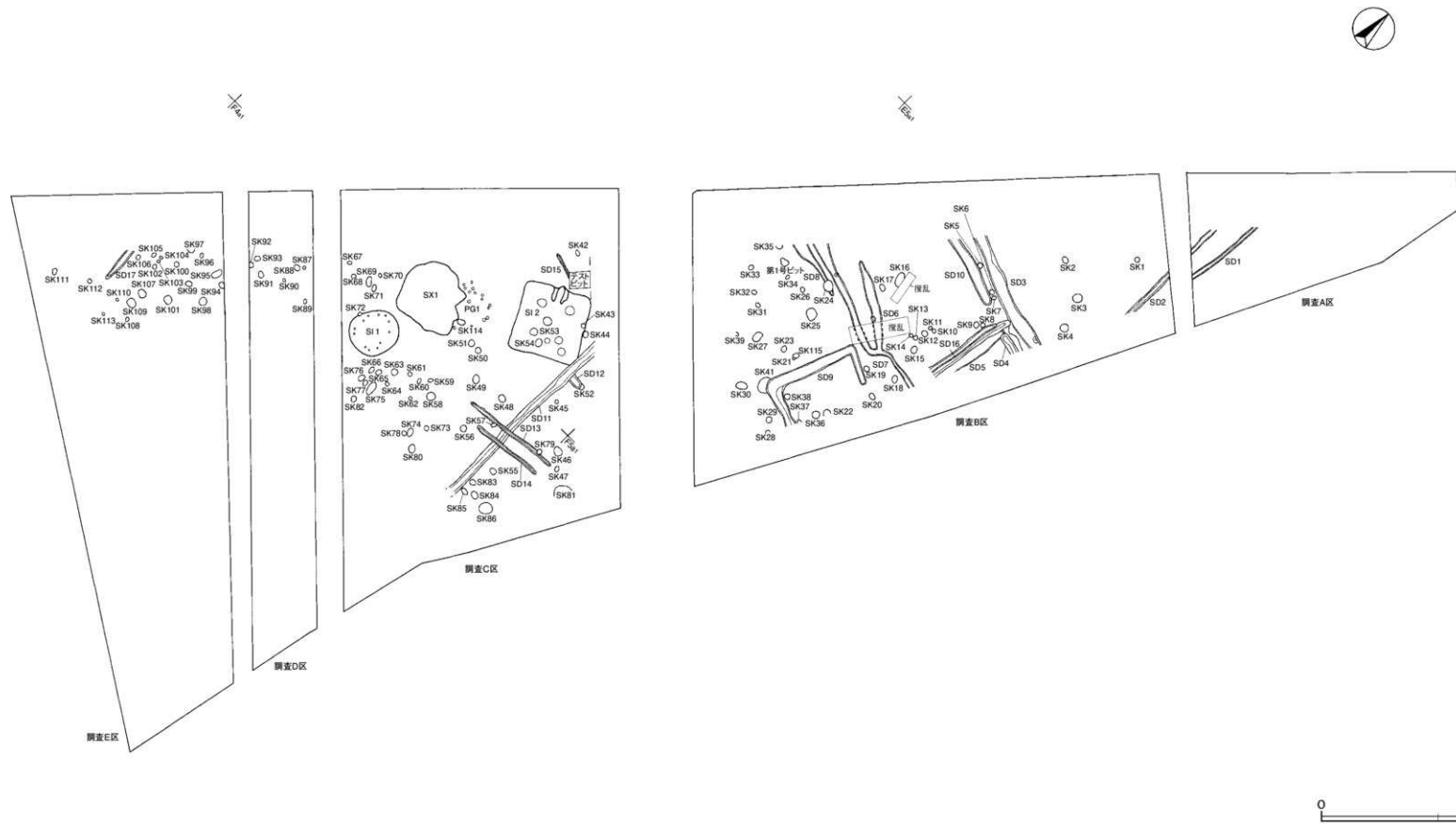
しかしながら、本跡以外に明確な遺構が検出されていないために、集落としての様相は不明である。

参考文献

- ・細田 勝「阿玉台式土器」『日本土器事典』雄山閣 1996年12月
- ・齋藤弘道「茨城の縄文土器」『茨城県立歴史館叢書9』茨城県立歴史館 2006年3月
- ・稲田義弘「熊の山道跡 鳥名・福田坪一休型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財報告』第190集 2002年3月
- ・櫻村宣行「和泉式土器編年考-茨城県を中心として-」『研究ノート』5号 1996年6月
- ・大関 武「鬼高式への移行期の土器様相(上)-花室川下流域を中心に-」『研究ノート』6号 1997年6月



第201図 第2号住居跡・第1号不明遺構出土の土器群



第202図 瀬沼遺跡遺構全体図

写 真 图 版

土 塔 貝 塚
瀬 沼 遺 跡



全景



A区全景

PL 2



第1号石器集中地点
遗物出土状况



第1号石器集中地点
遗物出土状况



第1号石器集中地点
土层断面

第 1 号住居跡
完掘狀況



第 2 号住居跡
完掘狀況



第 3 号住居跡
完掘狀況



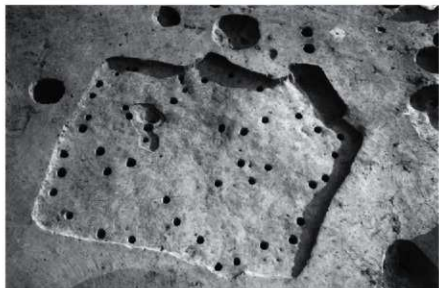
PL4



第4号住居跡
第2号溝跡
完掘狀況

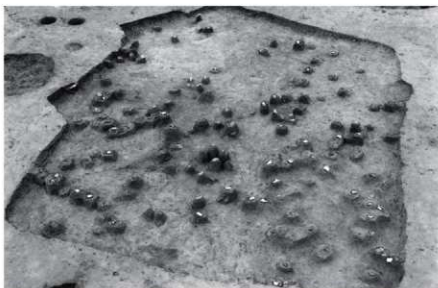


第4号住居跡
炉完掘狀況

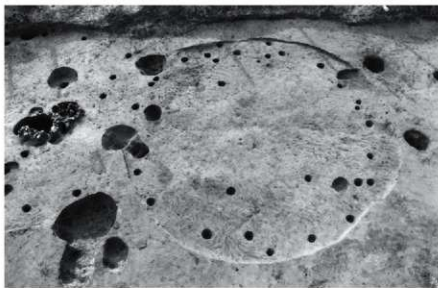


第8・12号住居跡
完掘狀況

第8・12号住居跡
遺物出土状況



第9号住居跡
完掘状況



第9号住居跡
遺物出土状況





第10号住居跡
完掘状況



第10号住居跡
炉完掘状況



第10号住居跡
炉完掘状況

第11号住居跡
遺物出土状況

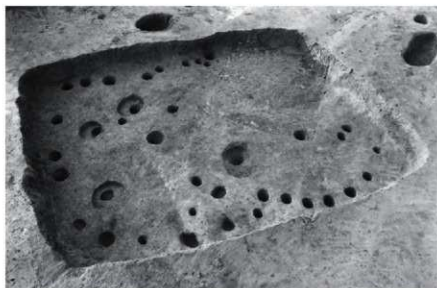


第11号住居跡
遺物出土状況



第11号住居跡
遺物出土状況

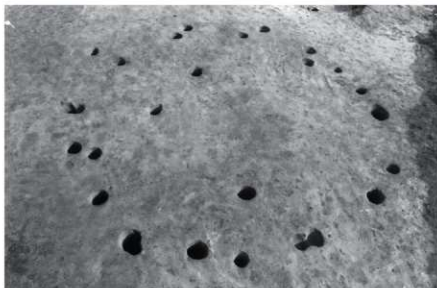




第14号住居跡
完掘状況

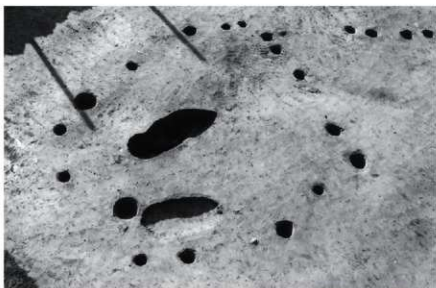


第14号住居跡
遺物出土状況



第17号住居跡
完掘状況

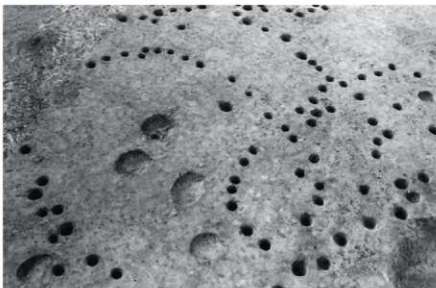
第18号住居跡
完掘狀況



第19号住居跡
完掘狀況

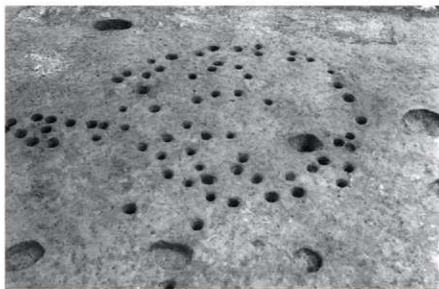


第20・21号住居跡
完掘狀況

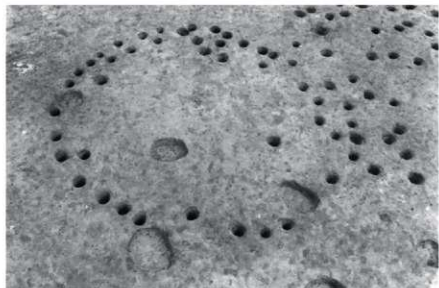




第 22 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 25 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 26 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第27号住居跡
完掘状況



第28号住居跡
完掘状況



第28号住居跡
遺物出土状況





第28号住居跡
遺物出土状況



第28号住居跡
炉完掘状況



第29号住居跡
完掘状況

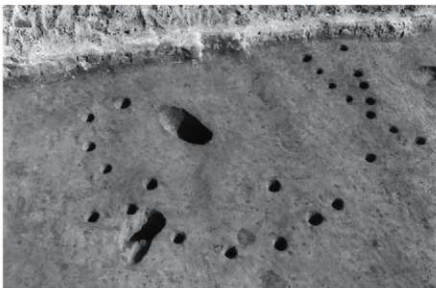
第30号住居跡
完掘状況



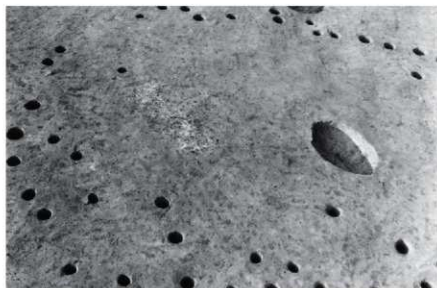
第31号住居跡
完掘状況



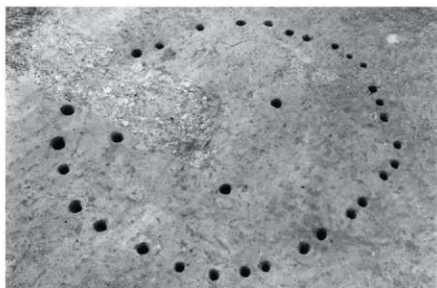
第32号住居跡
完掘状況



PL14



第 33 号 住居 跡
完 掘 状 況



第 34 号 住居 跡
完 掘 状 況

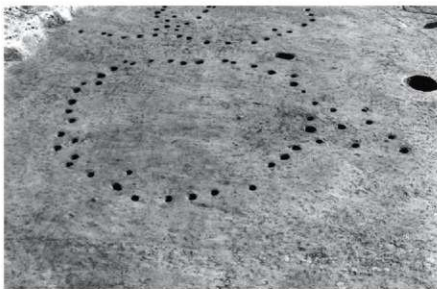


第 35 号 住居 跡ピット 28
遺 物 出 土 状 況

第36・37号住居跡
完掘状況

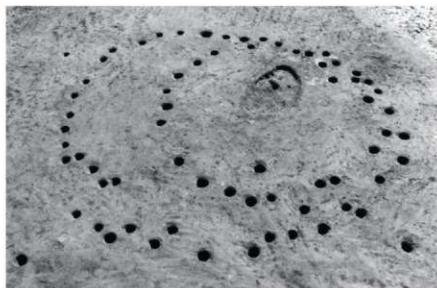


第38号住居跡
完掘状況

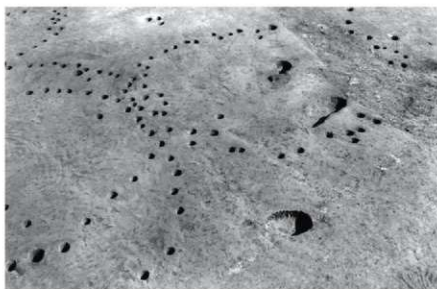


第39号住居跡
完掘状況

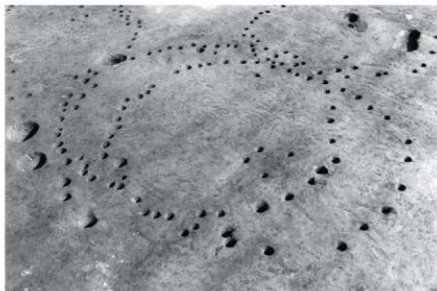




第40・41号住居跡
完掘状況

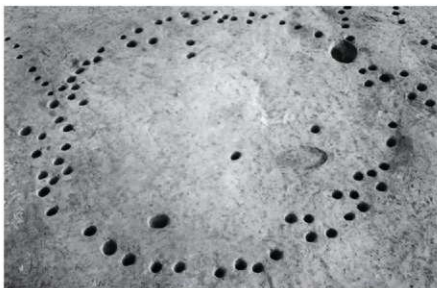


第43号住居跡
完掘状況

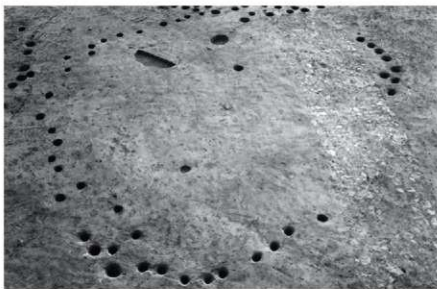


第44・45号住居跡
完掘状況

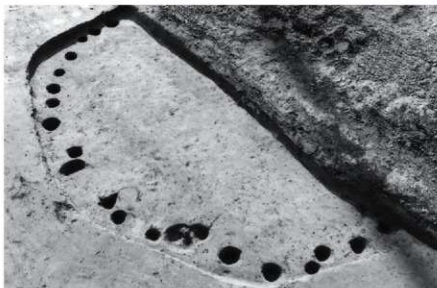
第46号住居跡
完掘状況

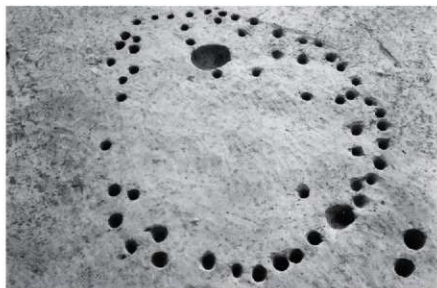


第47号住居跡
完掘状況

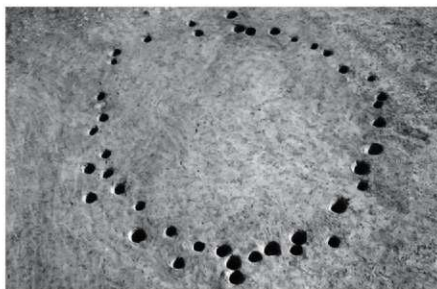


第48号住居跡
完掘状況

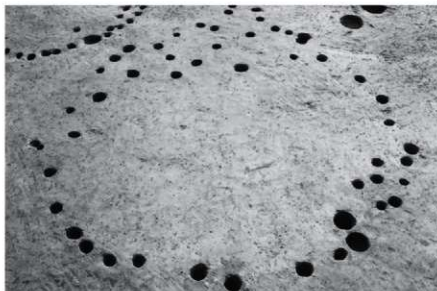




第 49 号 住 居 跡
完 掘 状 況

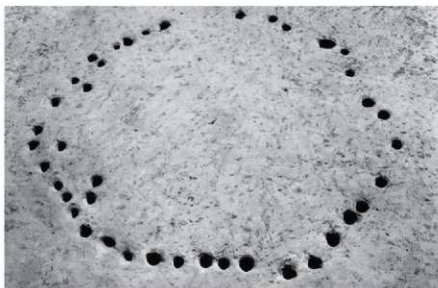


第 50 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 51 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第52号住居跡
完掘狀況



第53号住居跡
完掘狀況



第54号住居跡
遺物出土狀況





B 区 住 居 跡
完 掘 状 況

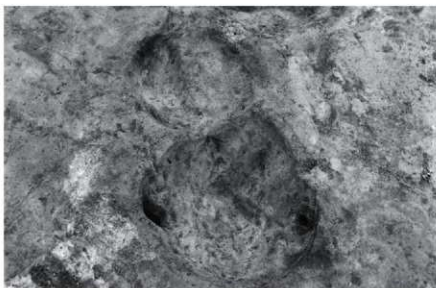


第 374 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

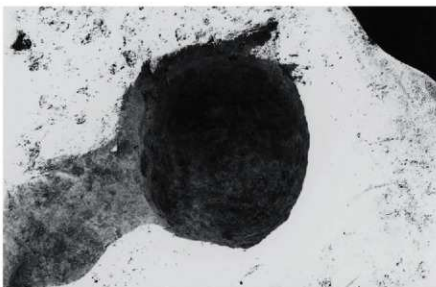


第 1 号 ビ ッ ト
完 掘 状 況

第2号ピット
完掘状況



第3号ピット
完掘状況



第4号ピット
完掘状況

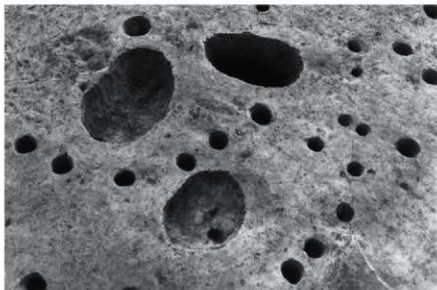




第 5 号 ビット
完 掘 状 況



第 6 号 ビット
遺 物 出 土 状 況



第 8 号 ビット
完 掘 状 況

第9号ピット
完掘状況



第10号ピット
完掘状況



第12号ピット
完掘状況





第 13 号 ビット
完 掘 状 況



第 14 号 ビット
完 掘 状 況

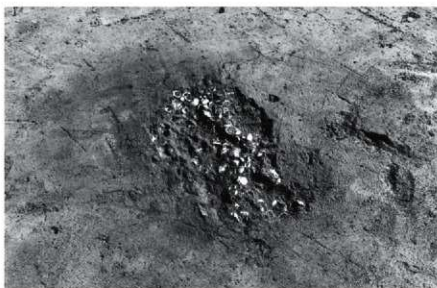


第 1 号 地点 貝 塚
遺 物 出 土 状 況

第1号地点貝塚
遺物出土狀況



第2号地点貝塚
確認狀況



第2号地点貝塚
土層断面





第2号遺物包含層
遺物出土狀況



第2号遺物包含層
遺物出土狀況



第2号遺物包含層
遺物出土狀況

第3号遺物包含層
全 景



第3号遺物包含層
遺物出土狀況



第3号遺物包含層
遺物出土狀況





第3号遺物包含層
遺物出土狀況



第3号遺物包含層
遺物出土狀況



第15号住居跡
完掘狀況

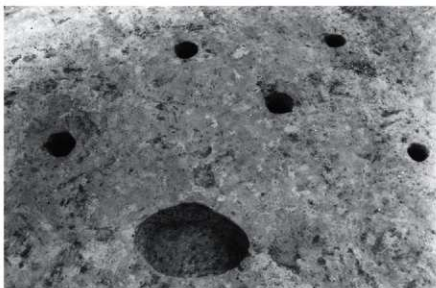
第15号住居跡
完掘状況



第2号溝跡
完掘状況



第1号ビット群
完掘状況





第2号ピット群
完掘状況



第3号ピット群
完掘状況

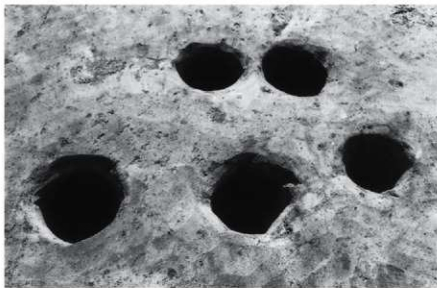


第5号ピット群
完掘状況

第7号ビット群
完掘状況



第12号ビット群
完掘状況



土隔出土状況











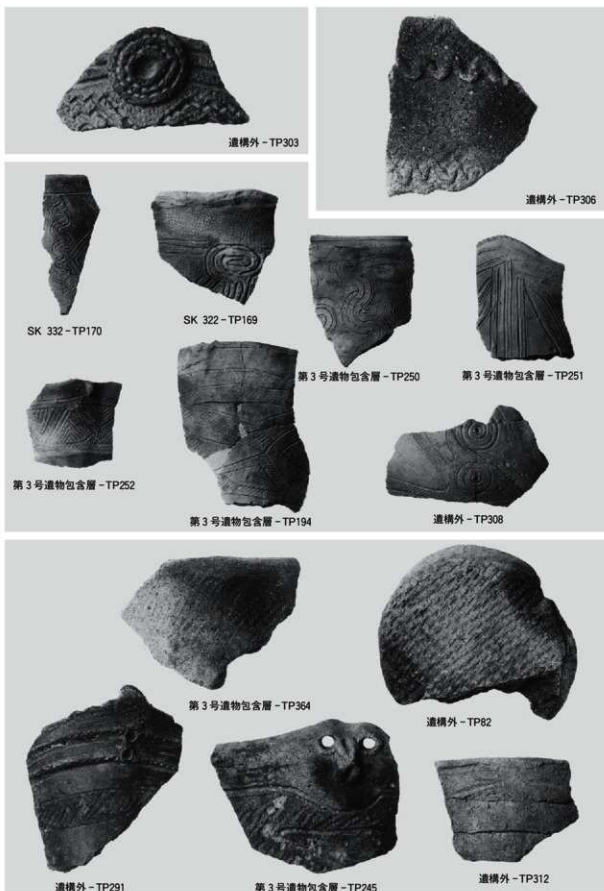




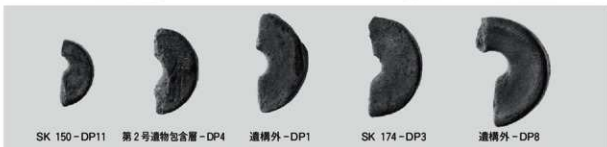
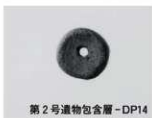
出土縄文土器 (6)

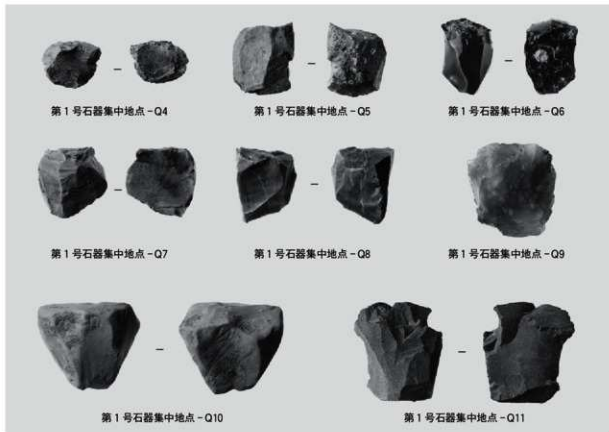
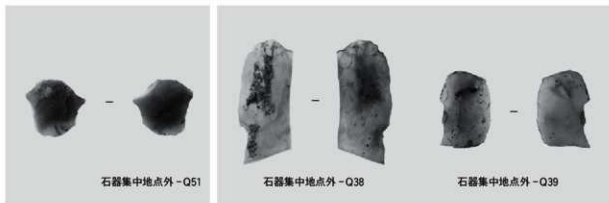
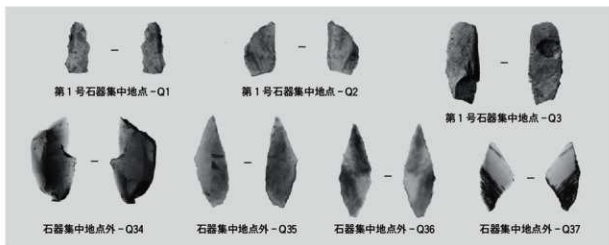


出土縄文土器 (7)

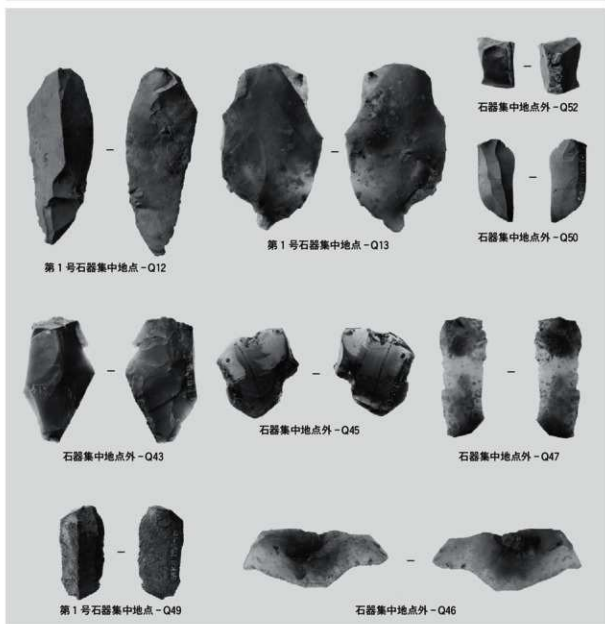
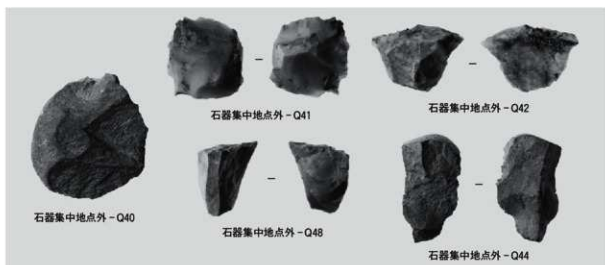


出土縄文土器 (8)

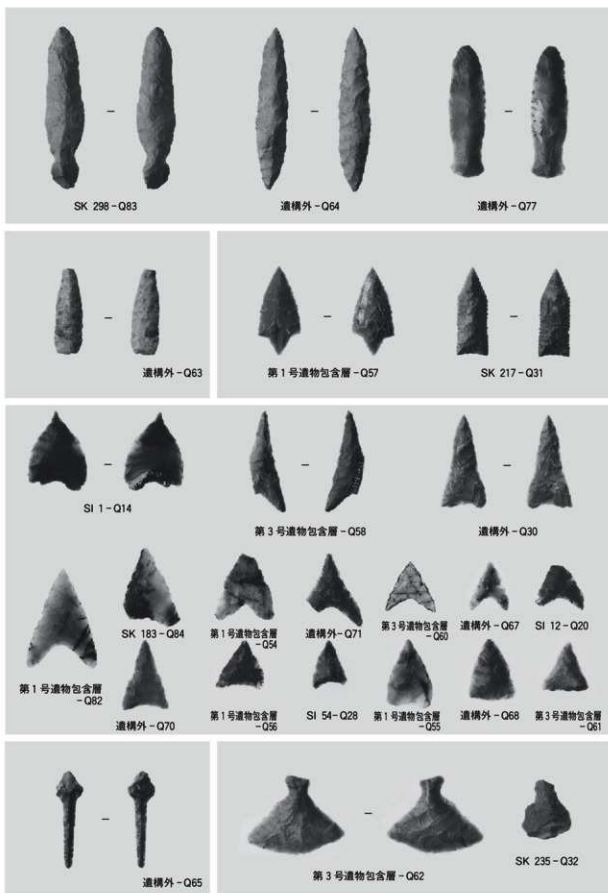




石器集中地点・石器集中地点外出土遺物 (1)



石器集中地点・石器集中地点外出土遺物 (2)



出土石器





全 景 (南西方向から)



全 景



C 区 全 景



第 1 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 1 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况

第1号住居跡
遺物出土状況



第2号住居跡
完掘状況



第2号住居跡
遺物出土状況





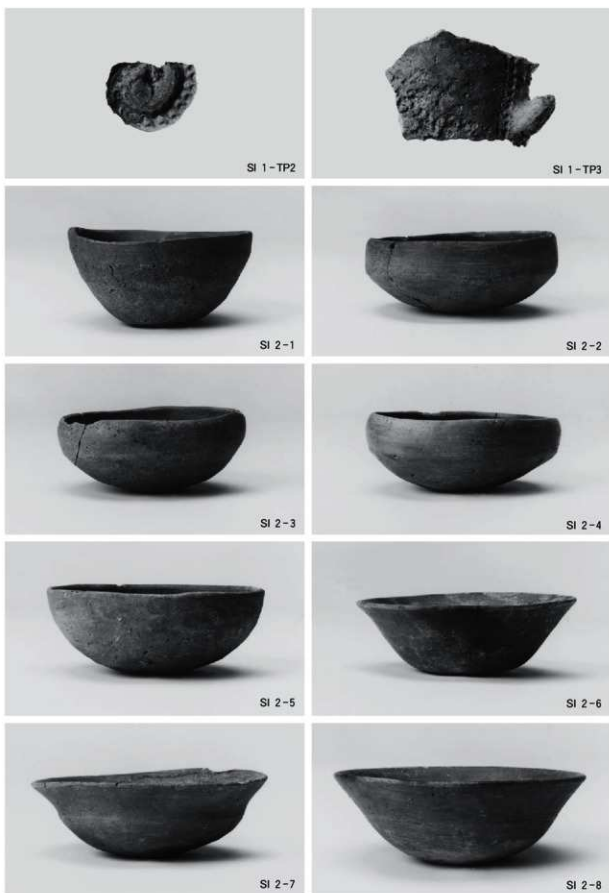
第1号住居跡
竈完掘状況



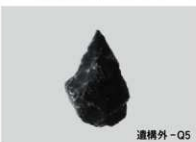
第2号住居跡
竈遺物出土状況



第1号ビット群
完掘状況



第1・2号住居跡出土遺物



第2号住居跡出土遺物，出土土製品，遺構外出土石器

茨城県教育財団文化財調査報告第289集

土塔貝塚
瀬沼遺跡

一般国道468号首都圏中央道路連結自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成20(2008)年3月19日 印刷

平成20(2008)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

印刷 ワタヒキ印刷株式会社

〒310-0012 水戸市城東1-5-21

TEL 029-221-4381

